明治三十三年十二月廿五日第三種郵便物認可
明治四十三年十二月十八日印刷納本
（毎月一回十八日印刷納本）

一月一日發行

女學世界

新年號

第十一巻
第一號



博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭しく新年を賀しこゝに

金千五百圓の賞金を提供す

本年四月の大賣出しに用ゆべき廣告畫の圖案を懸賞募集す。

圖案の樣式は隨意とし、日本畫と油繪と水彩畫とを問はず、直に印刷に付し得る樣充分なる彩色を施したるものにして美人を主題とし、其構圖、色彩、意匠すべて人目を惹き易きものを歡迎す。

懸賞圖案の締切は二月廿日迄とし　當店に於て之を審査し、一等金千圓、二等以下五百圓(合計金千五百圓)の賞金を呈す。　尚詳細は當店圖案部に問合されたし。

東京駿河町

三越呉服店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界 第拾壹卷第壹號 目次

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新年附錄 現代流行双六――平福百穗畫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

春の光



田中製版所三色版

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

兼て豫告の造花界空前の大著述

本圖は多年の實驗と考案に基き瓣、葉、蕚等の切形并に其の着色、組立等を親切叮嚀に圖示したるものにして造花教師及び造花材料店、造花製造家の爲めには好參考書たり初學者の爲めには好教師たり貴婦人、令孃の爲めには好侶伴たり又女學校の參考書として缺くべからざる好著なり決して徒らに羊頭を懸けて狗肉を賣るの類に非ず先づ内容見本を請求し其眞價を知らるべし。

實用造花圖譜

正價金壹圓
郵税金六錢

四六判二倍形
大和綴頗る美本
掲載種類七十一種……愈々發行

東京九段坂
發行所　造花原料商
吉住商店

特長電話番町二〇五六番
振替……東京六六七九番

◎内容見本御入用の方は實費として郵券五錢御送付の事
◎造花原料營業目錄御入用の方は郵券貳錢御送付の事
◎右何れも下の切り取りを添へ東京九段坂吉住商店宛御申込みの事

切取り線
女學世界　壹月號

女(いの一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬりもの

美術蒔絵物

趣陳列縦覧御随意

東京日本橋通室町

木屋漆器店

電話本局 九百九拾七番

長 千七百拾番

優（すぐ）れたる頭髪用香油に



原料ハ純椿實油

芳香ハ菫を主とし他に四種の芳香を調和せり

定價一瓶

金八拾錢

金四拾五錢

金貳拾五錢

此の他大小各種

女（いの二）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

嘉悦孝子女史述
惣菜料理のおけいこ
定價廿八錢　郵稅四錢

メエリーエムウエルソン女子　大町松波合著
洋食のおけいこ
定價廿八錢　郵稅四錢

井上秋江女史編
漬物のおけいこ
定價廿八錢　郵稅四錢

菊池專吉編
豆腐のお料理
定價廿八錢　郵稅四錢

屋中定吉編
さつま芋お料理
定價廿八錢　郵稅四錢

梅田竹次郎述
和洋菓子製造のおけいこ
定價廿八錢　郵稅四錢

野村福藏述
足袋裁ち縫いのおけいこ
定價廿八錢　郵稅四錢

專門大家七氏著述
裁縫のおけいこ
定價廿八錢　郵稅四錢

女（いの三）

發行所　東京市日本橋區數寄屋町九番地　六合館書店　振替貯金口座東京二三七一



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



新味萬香

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉婦人の幸福は如斯して得らるべし

結婚前に至つて健康なりし婦人の一旦他に嫁し未だ幾もなくて血の道癥に苦しむ者の非常に多きは事實婦人の生殖器が天然的受身に構造せられ即ち人類の田畑なれば病菌の繁殖するは當然にして結婚の機會に病毒侵入し其田畑を荒す故實際惡き土地の田畑に滿足なる農産なき道理にて政治實業上外交繁き人の夫人及日常多くの客に接する婦人等は殊更其生殖器を害する機會多きを以て子宮血の道に苦しむ事の夥しきは此理由なれば一生の損害とならぬやう可要球を用ゆべし、方今婦人科學の泰斗として臨床上實地の錬達一世を壓する獨逸伯林のフロインド博士の研究と其實驗に成る處方に依る藥液をして直接に婦人の局處に作用せしむべく可要球（座藥にして內用藥にあらず）を調劑し幾多婦人科醫の實驗に供したる處殊に子宮內膜炎帶下白帶下赤帶下下腹筋張胸先差込子宮糜爛子宮出血及惡臭搔痒月經時疼痛痳毒性子宮病等の諸症に外用すれば驚くべく効力神速顯著なりとの稱賛を受けたり故に速に可要球を外用して病毒を根治せらるべし

可要球定價　三球入廿錢八球入五拾錢拾八球入壹圓、四拾球入貳圓特製百拾個入五圓

發行所　東京本鄉湯島天神前（振替東京千五百番）　藥劑師　中西莊吉

專賣特許

エンゼル香油

田原藥學博士の實驗
清浦子爵 高山 三兩博士の御實驗有効御證明東京美術學校千頭教授の實驗有効御賞賛狀其他大家より多大の高評を以て迎へられたる特許エンゼル香油は毛髮を黑化漆の如き光艶を出し且毛根を養ふ偉大の特效ある最新發見の高等香油にて殊に本品には目下歐米にて最も流行せる『ヘリオトロープ』『バイオレット』『ホワイトリリー』等の高雅なる芳香を有し御使用後は馥郁として長時間保ちます故別に他の香水等御用の必要は有ません又くせ毛の方はB號エンゼル香油御使用有れば如何なる天性の縮れ毛にても自然に矯正する不思議の特許品で有升

紳士 貴婦人 高等專用香油



見よ!!

◉實價は小罎六十錢中罎壹圓大罎壹圓八十錢と天性縮毛用特製三圓五十錢の四種で送料は市內は何れも七錢內地は小中罎迄は十一錢大罎及び特製十五錢です▲代金引替は一切謝絶す▼

電話 下谷二五六九番
振替東京二〇七四三番
東京市本鄉區東片町十五番地
エンゼル商會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮中御歌所寄人
中郁秋香先生著

文鑑 千草の錦

増訂八版

菊判和裝美本
定價金七十錢
郵税十錢

本書は男女學生の模範となるべき美文、記事、紀行、論説、消息、物語體等總、數百篇を選出せられ之に加ふるに當代諸名流の文を以てせられ、特に上欄には要語數萬を載せ作習の模範と應用とに供せられしは他に其比を見ざる最良の文鑑也

帝國大學文科敎授 佐々木信綱先生著
宮中御歌所寄人 大口鯛二先生書

女子消息文のゆきかひ

鏑木清方意匠木版
上半紙摺
定價六十錢
郵税六錢

本書は現代歌學の大家佐々木信綱先生が多年苦心の末に成りたる消息文を優雅なる書體の師として鳴る大口鯛二先生が習字用にと特に大字に書かれたるものなり、先生が獨得の艶麗なる文章は簡單にして明瞭に而も文例尠く振假名付となし直ちに採りて實用に適す高尚優美なる製本は文と書と相待ちて錦上更に花を添たるが如し、世の令孃淑女方必ず一本を机上に備へざるべからざる絶好の女子消息文範なり。

女子大學校敎授 鹽井雨江先生著
學習院女學部敎授 小野鵞堂先生書
女子大學校敎授 中村春堂先生書

新體女子用文

大倉耕壽意匠木版
上半紙摺
定價七拾五錢
郵税八錢

本書は作者鹽井雨江先生が在來の書翰文の陳腐、冗長、輕薄、無趣味なる弊を打破せんとの苦心に成るもの、詞藻の清新、眞情の流露、趣味の津々、眞に書翰文の好模範たり、上欄には諸種の手紙の作方をも示さる、書は斯道の大家小野鵞堂、中村春堂兩先生が靈妙の手腕を以て大字小字に書き分けられ特に振がな付にせられたる者にして其艶麗優美の筆は習字の龜鑑たり、斬新なる文筆と相待つて明治新時代を飾るの花たるべし、乞ふ江湖の令孃淑女方疾く机上の好伴侶として朝々愛讀の榮をたまはらむ事を。

宮中御歌所寄人 中郁秋香先生作
學習院女學部敎授 小野鵞堂先生書

新編手紙

男子用 木版半紙摺無類の美本

女子消息文のてほどき

男女各一冊
定價四拾五錢
郵税六錢

本書は中郁秋香先生の新作にして書簡文獨習者の爲に通俗平易なる實用の文類百餘種を總振かな付にせられたるは他に其比を見ざる處、特に小野鵞堂先生が大字に書かれたれば習字の手本として此上もなき良書なり。

新編書簡文例

男子用 木版半紙摺頗高尚優美

新編女子書簡文例

男女各一冊
定價六拾錢
郵税八錢

本書の文例は現代の文豪中郁秋香先生の腦漿より迸出せしものなれば、一言一句津々たる趣味あり、繁に流れず簡に失せず、擬古に陷らず流俗に同ぜずして眞に今日書簡文の好模範たり、加ふるに書は筆硯界の巨擘小野鵞堂先生の手腕に成りしものなれば又習字の龜鑑として上乘の書なり、特に上欄語數千句を掲げ書簡文を作習せんと欲る人をして自由自在に意を達せしむるの便に供せられたるものなれば、新編書簡文法式と相待て斯道の完璧と稱すべきなり。

發兌元 東京市京橋區中橋廣小路六番 振替貯金口座四千百〇九番 前川文榮閣

女(その二)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

渡邊ヨヘイ氏畫

ヨヘイ画集

（ケント畫學紙表裝頗美麗　木版手刷口繪中繪色刷）

價七拾五錢　送料八錢

菊判美本

最新刊

小説は小説の流行に依て墮落し畫集は畫集の流行に依て墮落す此時に當り一味警拔の想と淸新の趣味と鮮明の筆とを以て畫界の革新を圖り所謂漫畫を藝術の至境に臻らしめたる者は本書也若夫れ氏の描く所筆々生動詩趣俳味に饒めるは既に江湖の耳目に熟したる所、新春机上の伴侶之に如くもの他にあらんや。

水野葉舟新著

新樣式日記文範

四六判美本

●渡邊與平氏裝畫●紙數三百三十頁●價六十錢送料八錢

年改りて心また新なり希くは本年より面目を一新して新生涯の歷史を記せよ

國民新聞評

物の眞を描くといふ流風藝術界及歷史界に尊ばれて日記は千金の重味を加へ來れり本書は文界の新人たる著者が斯る見地より日記の趣味と作法とを說き自家及各名家の範を示す作意樣式の斬新にして獨得なる當に舊文章界に一レコードを闢くものと云ふべし。

發兌元　東京市京橋區中橋廣小路　文榮閣書店（振替東匹一〇九）

東京市神田區表神保町　春秋社書店（振替東二〇七八九）

大町桂月先生譯評（原文對照譯文總かな附　批評解題汁釋を附す）

新譯文章軌範

●五版●

定價金七十五錢　送料六錢

●ポケット布綴金ぶち箱入バッチング製本●

（萬朝報評）支那の文集中日本にて最もよく讀まれ、且つ文章を學ぶ者の手本とせられたるは、謝枋得が選せる文章軌範に若くは無く、是が評釋、註譯の書汗牛充棟も啻ならざるも、多くは訓詁の末に走り、之を譯出して初學者の誦讀に便ならしめ、讀書百遍義自ら通ぜしむるもの無かりし、今譯者が精苦して之を譯出せるは、故きを溫ねて新しきを知る風潮の盛なる折柄時宜に適したるものと云ふべし、本書は十分讀みこなせる譯文を本文とし、返點附きの原文を鼇頭に置き彼此對照して、讀過の際意義と漢文の表出法とを覺るに便ならしめ、一文毎に記者及日本支那の各家の評語を附したり。

水野葉舟新著

新樣式愛の書簡文範

價六十錢　送料八錢

●渡邊與平氏裝畫四六判頗美本三百卅頁●

親子夫婦親友間の情愛を主としたる手紙の作法、作例及蘆花、鷗外、藤村、花袋、樗牛、獨歩等の名作を加へたるもの（萬朝報は評して曰く、稀なる者の最上也（國民新聞は曰、流石に著者獨得の新意と着想を見る、河北は曰、文範となすは勿論情愛訓となすにも十分、大阪毎日は曰く、說明趣味に滿ち有益なる資材を供す云々。

參版

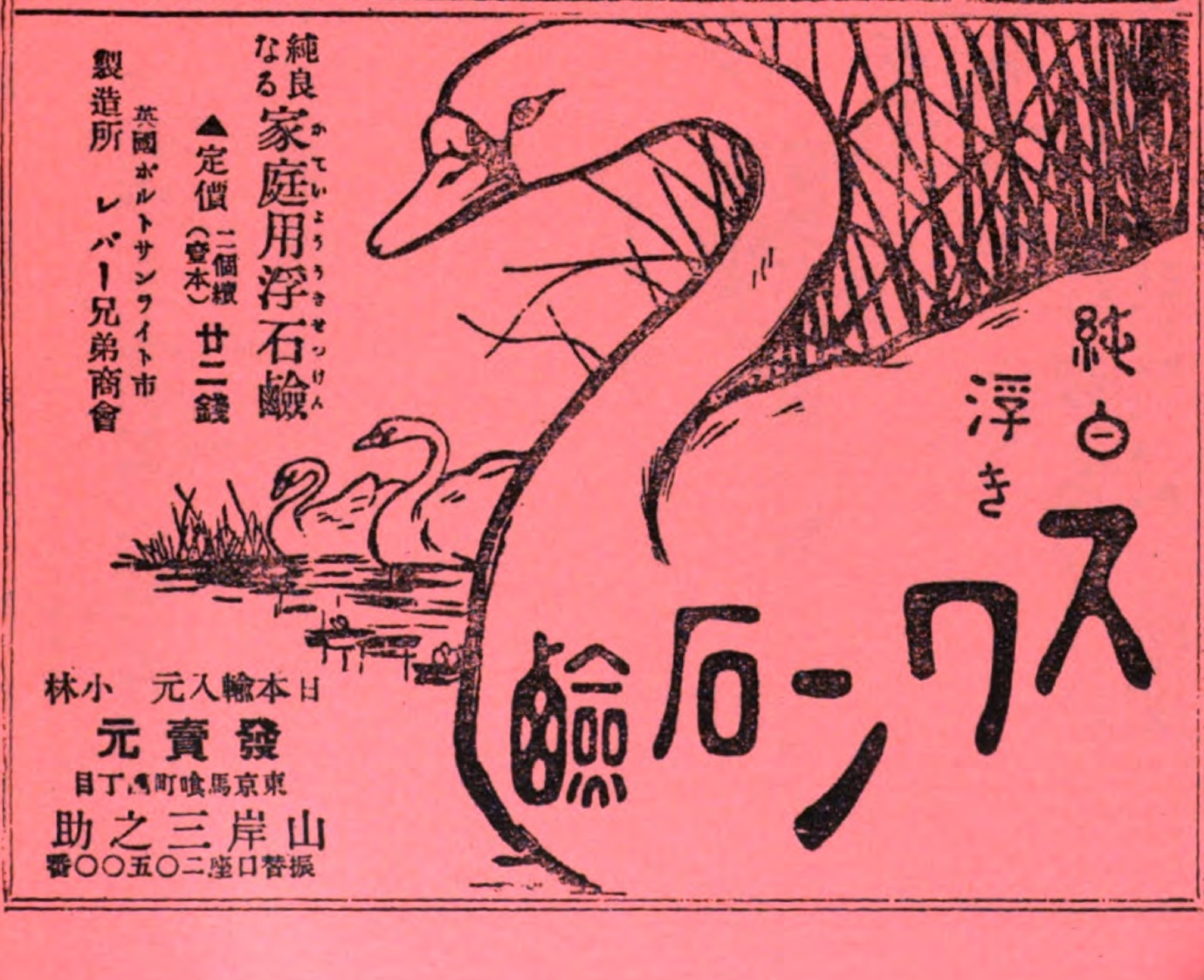
發兌元　東京市神田區表神保町　春秋社書店（振替東二〇七八九）

東京京橋區中橋廣小路　文榮閣書店（振替東四一〇九）

女（ろの三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN





女(ろの四)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

今年の春



上村松園筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

肺病新藥

私儀明治廿一年の十一月以來慢性肺病に罹り各地の醫藥は勿論妙藥なりと聞く毎に諸種の賣藥を服し東京市内有名大家諸先生の診斷服藥し猶ほ横濱獨逸病院長(ドクトル)の藥劑も其効なし豆州熱海相州箱根上州草津溫泉何れも兩三年入浴するも異狀なく其外鍼灸限なく療養したるも効驗更になく漸次重症となり廿八年四月頃には時々咯血して皮膚青白く身體非常に衰弱し日々發熱し咳痰甚しく骸骨同樣に成最早此の上は致方無之只死を待の外なし然るに私は病中臥褥の内と雖ども常に書見するの癖あり一日家藏の古書を點見する中文政の頃大阪の名醫長崎に遊學し蘭人より授りたる肺病必治の奇法聞書と云ふを發見し試みに數包を調劑して服せしに不思議に爽快を覺え尚續て服するに益々快方に趣き四週間餘りにて全く根治したり既に死期に臨みたる大患を斯くも容易く根治し實に蘇生したる思ひにて此の嬉さの餘り爾來肺病患者と聞く毎に其法を告げ試藥せしもの五十四人皆共に全治せざるものなし眞に驚く可き世界唯一の肺病奇藥なるを以て寧ろ之を世に公にして數萬の肺病患者を救護せよとの勸めを受るに至り遂に肺治散と名づけ内務省の御檢査を蒙り弘く世の肺患者に發賣する事となれり然る處本劑の効驗非凡なるを以て發賣以來日尚ほ淺きにも不拘内地は勿論既に**米國紐育市タイヤーガ商會**及び**印度バタビアヒイアエーテス社**等へ續々輸出す專ら高評を博し服用諸君よりは全治の禮狀實に四千六百餘に達せり然るに此奇藥を知らず種々に迷ひ病苦に惱める人士なきにもあらじ天壽を完ふせんと欲せば速に本劑を服して難病根治の一大幸福を得よ

藥價 七日分貳圓●十四日分四圓●廿一日分五圓●廿五日分七圓五十錢●五十日分十圓●七十日分十四圓▲郵送料十二錢●爲替局名は大森局宛

主治効能●肺結核●肺炎●氣管支加答兒●肋膜炎●肺炎加答兒●たん咳等肺病一切より起る諸病を根治する偉功あり

用法及び詳細は本能書にあり但し本舗へ直接御注文の時は病狀の模樣を詳細に記入申込を乞ふ

東京府下荏原郡入新井村字不入斗二百十四番地

調劑本舖 川名助次郎 電話大森六十九番

東京神田區鍋町大通 大木合名會社
横濱吉田町二丁目都橋際 永井永進堂
大阪堺筋伏見町 谷回春堂
大阪平野町堺筋北入 丹平商會

肺治散特約店

東京神田區花房町二番地 山崎帝國堂
東京神田區橋本町二丁目 福井甚藏
東京京橋區銀座一丁目 佐々木玄兵衛
東京日本橋區瀬戸物町 王置合名會社

東京日本橋通二丁目 中田清兵衛
東京日本橋區本石町 守谷萬次郎
東京兩國米澤町 大木口哲本店
長野市大門町 小林傳兵衛
佐賀市白山町 荒木榮盛堂

東京京橋銀座二丁目 岸田吟香
東京日本橋本町三、 大橋博愛堂
東京芝區神明前 岩本藥舗
宇都宮市馬場町 木村作次郎

東京京橋銀座三、 松澤八右衛門
東京日本橋通一丁目 大野傳兵衛
東京日本橋箱崎町二 川名又之輔
仙臺市新傳馬町 櫻井伊之助

東京日本橋上槇町 安川晃榮堂
東京兩國米澤町角 吉田安五郎
相模橫須賀汐入町 茱木支店
青森市米町 伊藤末次

(全國到る所の有名なる藥舗にて販賣せり萬一無之地は本舗へ申越次第特約す)

女(はの一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見よ◉月經なき女子◉病める婦人

▲勿驚……藥力最精實…効能確保…有効無害…

●本劑は専門博士が學理と實驗より發見せられたる物



博士賞賛良藥

改良 **女月丸**

其主藥は最新唯一の通經藥にて**帝國大學**病院及各病院にて専用する最良藥なり二三月の**月經**閉止月經**滯**り月經不順は一二劑にて必ず流下し四五ヶ月又は血塊にても特製或は別製分服用せば安心に忽ち流經す女子十七八歳になり月經なき人は二劑又毎月月經困難は三日分にて通經す

藥價一劑六十錢二劑一圓十錢特製二圓廿錢別製分三圓卅錢送料各四錢宛

◉肥滿病新藥（米國新輸入）

諸嬢姉の福音



子供の折**美愛**と賞せられし人も年頃になりてよりぶと〳〵肉太りたる爲め上圖の如く**醜婦**となる人少なしとせず本劑は獨乙ベンツォルト氏の發見藥にて脂肪多き人◉ぶと〳〵ふとり◉血太り◉肉太り◉酒太り◉水太り◉顔赤◉にきび◉ふき出物多き等輕症一二劑如何程の惡性も四劑分連服せば色は**美顔**窈窕たる色白となり誓て美人となる事を保證す乞肥滿性の人は試みよ

藥價	
一劑一圓五十錢	三劑四圓卅錢
二劑二圓九十錢	四劑五圓半
送料	十錢

發賣元 東京々橋中橋和泉町 振替第壹〇六七七七番 **小宮愛生堂**



は歐米各國にて造化の妙工を奪ふの奇効ありとの賞賛好評を博したる秘密藥を當館主が醫科大學醫院在職中深奥なる學理と老練なる技術とを以て専門的に多年苦心研究の後其有効成分を檢明し生毛に關する諸説を參考し有力藥を配合したる世界無比の學理的最良藥なれば其効能の非凡確實なる事世間に有觸れたる技術と學理に暗き藪が山師的に無責任の廣告を爲して販賣する贗造品の比に非らず、左れば普通に醫師の處方する莞齊丁幾、レゾルチン、サリシール酸、昇汞等の在來の生毛劑や粗惡の賣藥にて効なきとて落膽せず是非本劑を試みよ頭髮、はへぎは、まゆげ、ひげ其他の薄きを濃くしあろべき所に毛なきを生じ禿頭病其他の病氣にて脱毛するを防止し抜毛の再生を早めヤヶド、デキモノ、ハッホー、キリキズ跡の禿に生毛せしむる事請合 藥價送料共一劑八十錢二劑一圓三十錢 郵券代用二割增の事

●●●取次所ハ毎月ノ廣告ニアリ

・・・取次所ナキ地方ハ直接本舖へ注文アレ・・・

三河國碧海郡刈谷町

振替口座東京貳三壹壹 電話刈谷三拾貳番

本舖 醫科大學卒業藥劑士 從七位勳六等 **中島龜之丞鑑製**

●●大取次左ノ通リ●●大取次附近ノ各藥店ニアリ●●

東京市

- 本郷六丁目赤門前 瓜生藥局
- 麹町區紀尾井町三 齋藤藥局
- 日本橋檜物町十八 龜田藥局
- 京橋區八官町八 野田藥局
- 神田淡路町二の四 森田藥局
- 芝田町四の一二 加藤藥局
- 芝愛宕下町一ノ二 岩本支店
- 赤坂田町四の一 竹内藥局
- 同青山北町五 西井藥局
- 本所吉岡町廿五 小島藥局
- 四ッ谷大傳馬町二 永野藥局
- 神田旅籠町一ノ一 瓜生支店
- 堺市大寺南門東入 一色藥局
- 京都市上京區寺町通り石藥師角
- 京都市下京區五條通り富小路行當り
- 大阪市平野町二 丹平商會
- 丸龜市本町 櫻井藥局
- 名古屋京町三丁目 飯田藤七
- 同 同 同 荒川長太郎
- 高松市片原町 新明藥局
- 神戸元町一丁目 四村開東局
- 廣島市橋本町 萬代藥堂
- 神奈川青木七軒町 水崎藥店
- 仙臺市新傳馬町 櫻井藥局
- 岡山市橋本町 加藤藥店
- 弘前市下土手町角 菊地藥店
- 大津市菱屋町 磯崎藥局
- 福知 藥局
- 安江洋反物店

女（はの二）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●好評無限●重版書類●

綱島梁川著　**病間録**　定價一圓廿錢　郵税十二錢

綱島梁川著　**回光録**　定價一圓廿錢　郵税十二錢

中村春雨著　**新約物語**　定價金壹圓　郵税十錢

清澤滿之著　**懺悔録**　定價七十錢　郵税八錢

安部磯雄著　**理想の人**　定價七十錢　郵税八錢

大倉桃郎氏著

小説 琵琶歌

全二冊　前編金六十錢　後編金七十錢　郵税各八錢

好評嘖々として前編は十三版を重ね後編は發賣旬日ならず第二版を盡さんとす敢て江湖に一讀を薦む

伊藤銀月著　五十三次 **草鞋日記**　定價五十錢　郵税六錢

伊藤銀月著　豆相名勝 **草鞋日記**　定價五十錢　郵税六錢

伊藤銀月著　山陽道 **草鞋日記**　定價五十錢　郵税六錢

伊藤銀月著　奥羽北海 **草鞋日記**　定價五十錢　郵税六錢

富塚鹿樵著　**唐詩選講話** 二冊　定價壹圓卅錢　郵税各八錢

薄田泣菫著　**名家書翰集**　定價六十五錢　郵税八錢

薮野椋十著　**東京見物**　定價五十錢　郵税六錢

上田敏著　**文藝講話**　定價壹圓　郵税八錢

瀧精一著　**藝術雜話**　定價壹圓　郵税八錢

瀬沼夏葉譯　**チエホフ傑作集**　定價九十錢　郵税八錢

大倉桃郎著　小説 **舊山河**　定價六十錢　郵税八錢

小山内薫氏著

小説 決闘

全一冊　定價金壹圓　郵税金八錢

是れアントンチエホフが代表的傑作を小山内氏が四年を費して譯したるもの面白き事此上なき小説なり乞ふ一讀あれ

碧瑠璃園著　小説 **乳人政岡** 三冊　定價各七十五錢　郵税各八錢

須藤南翠著　小説 **ゆるさぬ關**　定價壹圓　郵税八錢

小笠原白也著　小説 **嫁が淵** 二冊　定價各六十五錢　郵税各八錢

尾崎紅葉著　小説 **戀の山賤**　定價五十錢　郵税八錢

中村春雨著　小説 **無花果**　定價七十錢　郵税八錢

菊地幽芳著　小説 **妙な男**　定價一圓廿錢　郵税十二錢

文（三〇二）

東京々橋中橋廣小路　大阪東區北渡邊町　振替東京一〇五〇　振替東京二八二三　**梁江堂發行**

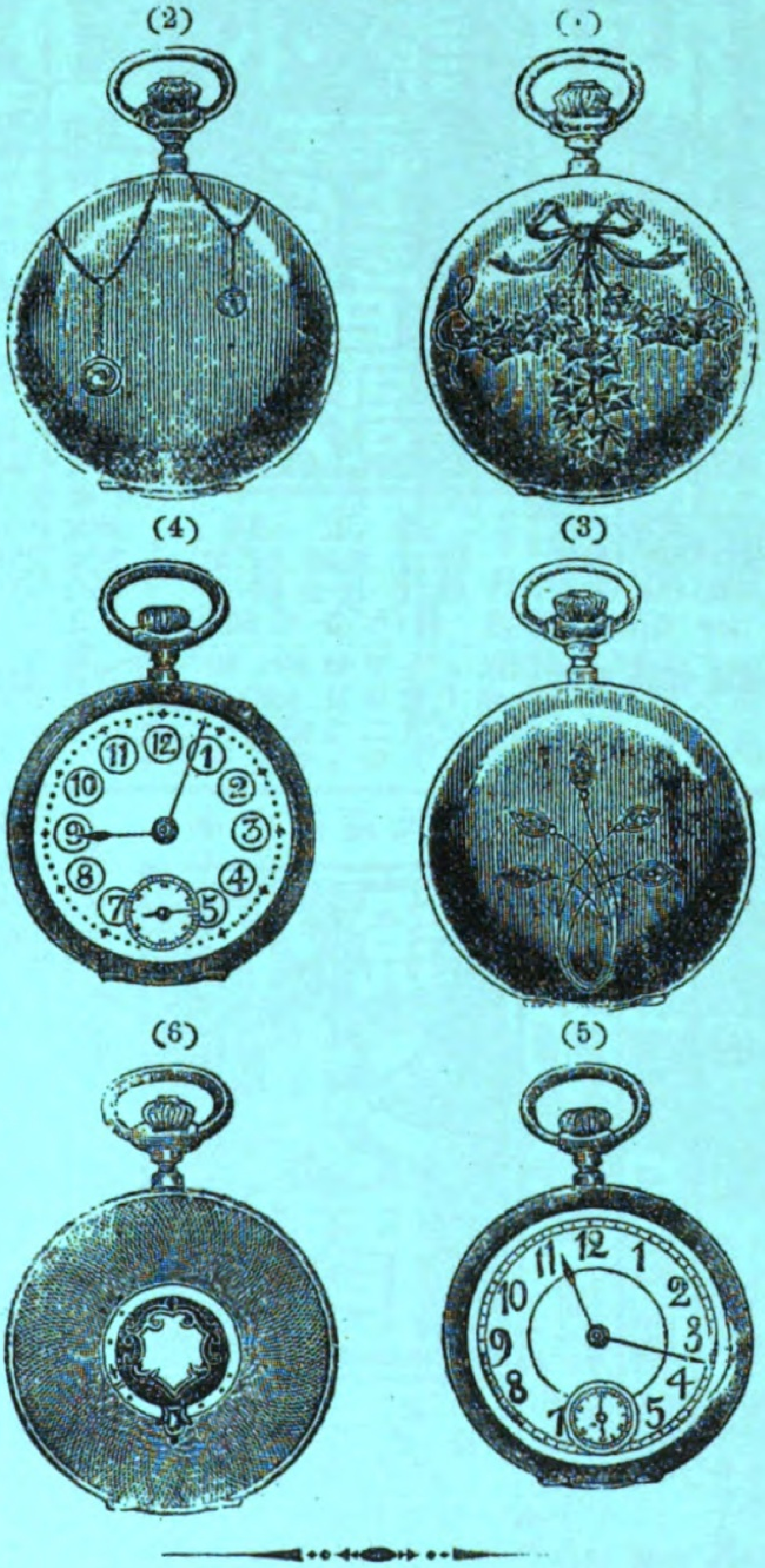
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御婦人持金側時計

恭賀新年

東京京橋
南傳馬町

大西白牡丹



(1)十八金梨子地無双側、七寶花模様
○サイズ　金六十八圓

(2)十八金梨子地無双側、金剛石二個入
○サイズ　金九十圓

(3)十八金梨子地無双側、金剛石及ルビー五個入　○サイズ　金九十貳圓

(4)十八金無地片硝子
○サイズ　金四十貳圓

(5)九金無地片硝子
○サイズ　金拾參圓五十錢

(6)十八金七々子無双側
○サイズ　金四拾八圓

此時計は器械の堅牢と形狀の優美なるにて
世界に著名の瑞西タバン(犬印)時計會社の製造に成り
弊店にて精選の上特に發賣の良品に御座候

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

朝の島松



大下藤次郎筆

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



女(にの一)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一月一日發行 第六卷一號

婦人世界

一冊 拾五錢 郵稅壹錢五厘
△半年（增刊共七冊）前金郵稅共壹圓五錢
△一年分同十四冊 貳圓五錢

面目一新せ

◎人情論……村井弦齋

▲婦人に多大の同情を以てる同氏が、苦心の結果になりし一大雄篇なり▼

◎女學校卒業生は實際役に立たぬか……下田歌子

▲下田女史また每號本誌のために執筆せらるゝ事となれり▼

▽未婚の男女は如何なる配偶を選ぶか……女子商業學監 嘉悅孝子

▽おかめとお多福の先祖は誰れか……早田大學講師 武田豐四郎

◎嫁入り當時に一番困つた事……（丸山代議士夫人 天野博士夫人 金子貞子夫人）

▽米國から日本へ新婚旅行……代議士令息 森久保喜太郎

▽五十年前の私の花嫁姿……判事夫人 池田松子

東京京橋南紺屋町十二 實業之

女（にの二）

る新年號を見よ

◎常磐御前論

浮田博士　三輪田元道
鳩山春子　鈴木光愛
箕作博士　小林盈
吉田博士　杉浦重剛
安部磯雄　宮田脩
矢島揖子　西田敬止
その他

―貞操を捨て、源氏を興せし常磐御前は、貞女か、賢婦か、烈婦か、凡婦か、見よ、十三名家の痛快なる常磐御前論を―

◎身に沁みて忘れ難き母の一言……（矢島揖子、三輪田眞佐子、棚橋絢子、跡見花蹊、山脇房子、各女史）

▽正月の子供の遊びと食物の注意……醫學博士　加藤照麿

▽空中飛行機の發明を助けた妻の苦心……海軍中技士夫人　奈良原龜尾子

◎お餅の料理……弦齋夫人

◎手紙の書き方……渡邊講師

◎女學校門外觀……千里眼

◎歴史實話松尾多勢子……渡邊默禪

日本社　（振替貯金口座三二六番）　賣捌全國書店

新年大附錄　日本名所家族旅行すご六

考案奇抜印刷精巧艶麗無比

女（にの三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

實用 文字速成通信 教授

○惡筆は一生一代の耻です○

本會獨特の特許速成の方法に依れば如何なる惡筆の方にても直に上達すること不思議のやうです、ゆえに先づ見本說明書を御請求なさい、直に送呈致します

○女子會員募集――特許水書草紙無代進呈 詳細は會則あり○



專賣特許第九五五九號
專賣特許第一七九一〇號
實用新案特許第四八七三號

▲本會書者兼講師

小野鵞堂先生
玉木愛石先生
稻川雲谿先生

▲外講師大家數拾名

▲見本詳細會則無代進呈

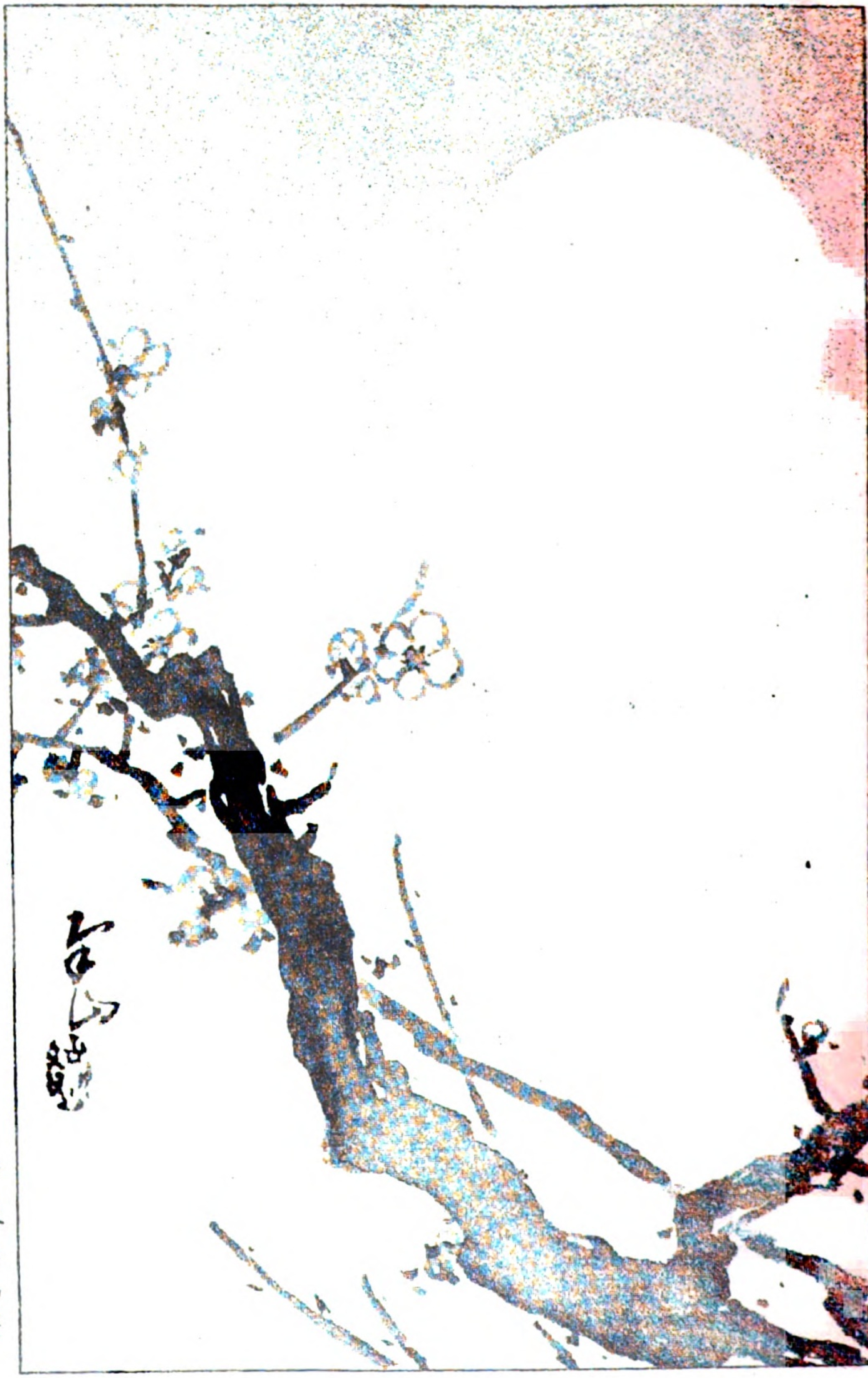
東京本郷區大學正門前
電話下谷三〇壹壹番
電話下谷三貳壹〇番

帝國習字速成學會

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

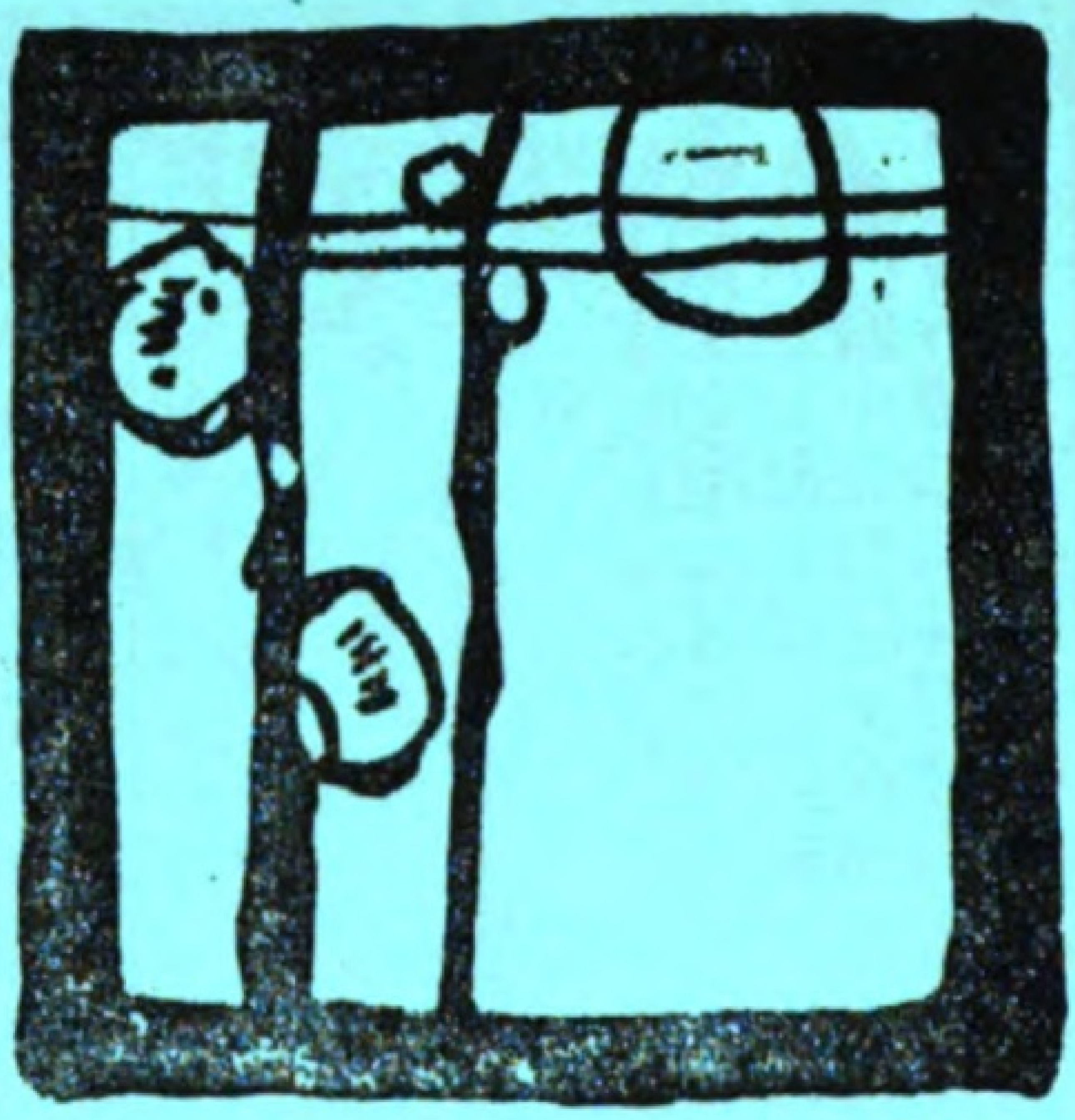
寒月照梅花



加藤南山筆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN





勅題に因み梅の造花
をものせられ候も一興
と存じ候

造花材料商
東京市日本橋區横山町壹丁目拾六番地
合資會社 天野卯兵衛商店
特長電話浪花（一六四三番）
電信略號（アマウ）
振替口座（東京）（四九七〇）

六（ほの一）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

梅どく りん病 ぢ疾 わきが 生殖器諸病 神經衰弱症 婦人科
東京淺草瓦町廿八淺草橋通瓦町電車停留場横●朝八時より夜九時迄
中央醫院

子宮諸病 子なき人 月やくとまりたる病 ヒステリー 血の道
梅どく諸病 りん病消渇 わきが ぢ にきび た蟲等
生殖器病 神經衰弱記憶力減衰萎縮遺精早漏夢精發育不充分症等
▲病狀を記し郵券六錢を送れば其病を速治する專門醫中央醫院々長處方の特効新藥説明書を送る
東京淺草區瓦町廿八番地淺草橋通り瓦町電車停留場横
中央藥院

◎産婦人科
◎小兒科
宅診 午前
往診 午後
病室並ニ産室ノ設備アリ隨時入院ノ需ニ應ズ
院長 女醫 鷲山彌生
東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地 電話番町(二二五七)
東京至誠病院

糸左近先生著
女ばかりの衛生
好評忽ち三版
三六判總クロース紙數三百八十頁新裝幀美本
定價六十錢送料六錢

▼内容のあらまし
一章 標準女 東西婦人を比較して頭の先から足の爪先まで解剖的に其の優劣を説く
二章 月經に關する事 月經前後の心得及び其の攝生法
三章 子宮病に關する事 子宮病の種類を擧げ一々其の原因病狀攝生療法を懇切に面白く説く
四章 婦人科雜病 生殖器諸病等悉く收む
五章 子の無き原因及姙娠法 如何なる人にもハ、ア成程と合點が出來る
六章 産科 概要附嬰兒の保護法 これをドンドン讀まれたら産婆は飯の食上げ
七章 ヒステリ病
八章 美容法 美髪法白法色法ニキビソバカス其他一切の療法
附錄 花嫁の失敗 未婚の女を教訓す
▼發兌元 東京市京橋弓町四番地 振替東京九五五六番 三立社

女(その二)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

史料編纂官 和田英松先生
女子高等師範學校教授 佐藤球先生 著

新刊 修訂 **增鏡詳解**

定價金貳圓五拾錢　小包料拾貳錢

クロス製 美本全一冊

▲內容見本進呈▼

增鏡は世に三鏡の一と稱せられたる鎌倉時代の國文歷史にして、同時代の史實、殊に承久の御企、元弘の御恢復、皇室兩統の起伏、北條氏の專橫等を忌憚なく細敍せるもの也。本書はこれが唯一の註釋書として好評嘖々たる『增鏡詳解』に更に修訂增補を加へ、全部改版したるもの。解釋詳密、考證確實、年表、系圖、人名索引、註釋索引を附する等頗る懇切を極む。國文家、歷史家、各種受驗者は勿論、波瀾多き鎌倉時代を知らんとする一般讀書家の精讀を乞ふ。

簡野道明先生校訂

新刊 **新編讀書作文用字訣**

定價金八拾五錢　小包料八錢

クロス製 美本全一冊

▼內容見本進呈▲

本書は普通行はるゝ漢字にして誤用し易き『見・視・覩・觀・覽・看・瞻』、『恨・怨・憾』『而・然・爾』、『又・復・亦・還』、『與・共・偕・俱』等の同訓異義の虛字、助字を辯明し、更に天文・地理・宮室・器物・動植等に關する實字　例へば『山・嶺・峰・巒・岡・丘・陵・嶽』、『亭・宅・家・屋・邸・第』等の字義用法を懇切に細說し、又駢字分箋抄譯に於て、社稷・宗廟・庖厨・朋友・樞機等兩々相對比せる熟話の意義を丁寧に解釋し、『故事成語大辭典』の著者として名聲高き簡野道明先生の嚴密なる校訂を經たるもの。文士、學生、教育家は勿論、苟も操觚に從事せらるゝ人士の机上缺く可からざる寶典也

發行所 東京神田錦町一丁目 **明治書院**
振替東京四九九一 (長)電本局二四三八

(三の三)女



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

梨本宮妃伊都子殿下



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

名流婦人



上圖，本派本願寺裏方大谷籌子

下圖　東京市長尾崎行雄氏夫人英子

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

毛髪の艶を美しくする

椿製ランラン香油

ランラン香油は髪をさらりとして常に御使用被下候はゞ決して臭氣を發しませぬ



東京市内……到る所油店小間物店有……

價（大瓶 金廿五錢 小瓶 金十八錢）

發賣元

大阪市新町

福田源次郎商店

電話西千六百〇一番 振替大阪一四八五番

東京日本橋區馬喰町三の廿二

福田號支店

女（への一）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

萬人の師友

東京帝國大學教授 文學博士 芳賀矢一先生
東京女子高等師範學校教授 文學士 下田次郎先生 編纂

日本家庭百科事彙

圖書出版目錄進呈
往復葉書申込

裝釘極美紙數千五百餘頁大小項目約三萬 ▲精巧木版挿圖約千個 ▲石版廿度刷彩色寫生圖畵本文二頁大十七枚 ▲石版八度刷精巧鮮明詳細地圖十四枚 ◉(正價金拾圓)
特別割引 價金七圓五拾錢
▲遞送料市內四錢市外卅二錢(臺灣、樺太各五拾五錢 清國、朝鮮各七拾錢)

家庭の寶典

東西の文明は混和して、社會の狀態は日新やむ時無し。人事學術各方面の智識を網羅せる百科辭典は現代文明諸國の必需品にして、學校以外の社會教育者たる地位に在り。本書は歐米各國百科辭典の精粹を萃めて東洋固有の事實を添補し、本邦百科辭典の翹楚たる自信を有するもの也、百般の疑問を立どころに解釋し得べき一大參考書として各戶あらゆる必備品中の首位を占むると同時に、全國大中小學校の必須常備品たり。即ち文明的家庭の經營、進步的婦人生活に必要なる學術、技藝等一切を網羅し、國民教育に必要なる智識、技能、注意等を最も豐富に供給し、其他農工商に關する事項は物產の產地製法販賣高等に至る迄詳記して剩す所なし。要之、本書は家庭に取りては最も博識親切なる顧問となり、小學校及小學敎員に取りては國定敎科書の說明解釋者となり高等女學校、中學校、師範學校、實業學校、高等學校、各種專門學校に取りては百科の解答者として絕好なる參考書たるべし。其他銀行會社、商店、役場、倶樂部、旅店等場合と事柄との何たるを問はず、博識聰明なる友人、教師、顧問、技師として常に十分なる忠告と技能とを捧ぐべきは素より言ふ迄もなし。家庭の中心として、賢母良妻の實を擧ぐべき新日本の女子は夫人と云はず、令孃と云はず、必一本を備へ給ふべきなり。

東京 神田 冨山房
電本一〇三六
振替五〇一番

女(への二)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新春と共に内容を改め更に紙數を增加す

婦人画報

一月一日發行 正月の巻 一冊廿五錢 郵税二錢 六冊税共壹圓五拾錢 十二冊税共二圓八拾八錢

畫

▼伏見宮妃殿下三女王殿下……
▼松方侯爵金婚式當日の光景……
▼鳩山氏二夫婦のかるたと百合さん
▼小兒の遊び▼和歌子の日遊び……
▼岩倉公爵の三令孃▼日向高橋夫人……
▼令孃の樂しき三ケ日……
▼毛利公爵邸に於ける令女會大會……
▼御前の講演十三名家令孃
▼婦人慰問會紀念會……
▼山階宮女王殿下

讀

虛偽の進歩と眞正の發展……井上博士
思ひ出づる古山の春……ましら子
正月の衞生……加藤博士
樣々な正月の風俗……坪井博士
國土の膨脹家庭の進歩……尾崎行雄
笑ひ顏の研究……源學士
名婦鑑、勇婦りや……遠山稲子
古歌に表たる梅花と寒月……水穂
醬油、鹽、砂糖等の用ひ方 西村學士
我家の新年 加納子爵、目賀田 北里、加藤三夫人

新春號二大附錄

滿谷書伯筆二頁大三色版美人書 水仙 榊原蕉園筆 新装

報

▼久邇宮三女王殿下
▼名家の庭園いろ〳〵……
▼閑院宮御邸島津鍋島諸邸の門松
▼岡部司法大臣官邸に於る婦人談話會
▼新装の梨本宮三殿下……
▼正月の笑ひ初め……
▼乘馬の江木博士夫人欣々女史……
▼井上侯爵の家庭と銅像除幕式……
▼姬宮殿下と御歌留多

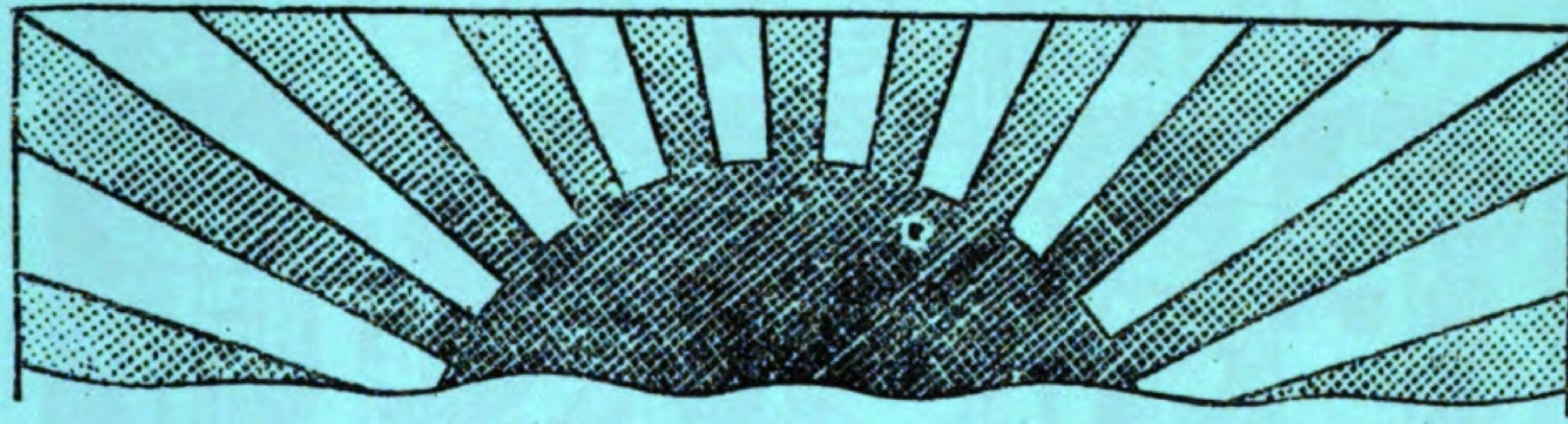
物

女學生の文章と家庭の正月
正月のお惣菜は何がよいか……里子
皇后陛下の御歌
家庭正月の遊び……巖谷小波
新年と婦人……六大名家
心理上より見たかるた……大槻學士
亥の歳物語瀬川學士▼年の始と女▲
呉服物の買ひ方▼假名……岡山高陸
家庭十二ケ月▼家の仕事……宮川すみ子
新版の書籍……澤柳政太郎

東京麹町區飯田町四丁目四番地 東京社 電話番町二三三九番 振替口座一一八一八番

女(への三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



東京

朝日新聞

◎獨立せる朝日新聞を見よ！

權勢に屈せず時俗に阿らず故に終始公平無私

◎權威ある朝日新聞を見よ！

百の新聞を併せ讀むも最終の謬らざる判斷は之を「朝日」より得ざるべからず

◎信用ある朝日新聞を見よ！

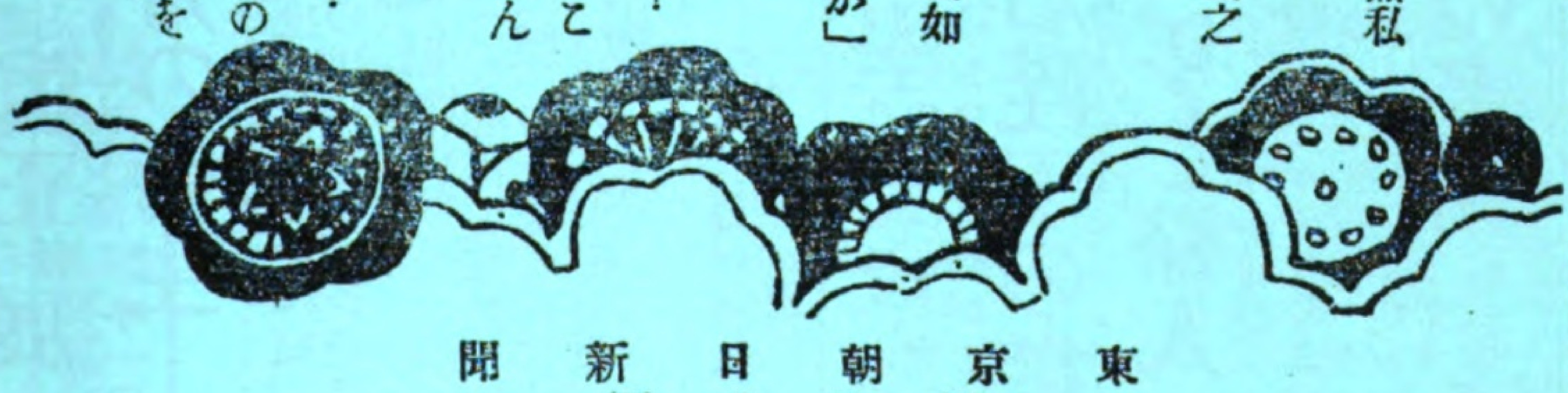
何事の起り來るも世人は問て曰く「朝日は如何に報導せるか」「朝日は如何に觀察せるか」と二「朝日曰く……」は萬鈞の力あり

◎報導の敏確なる朝日新聞を見よ！

内外通信機關の組織完備して報導の敏確なること響の聲に應ずるが如し、常に一歩を先んぜんとするものは「朝日」を讀まざるべからず

◎趣味横溢せる朝日新聞を見よ！

小說隨筆と云はず繪畵寫眞と云はず歌舞演劇の記事に至る迄趣味清新卑猥に流れず「朝日」を讀まば家庭の樂事之に過ぎざるべし



女(への四)

東京朝日新聞

（毎號八頁）

定價一ヶ月三十七錢（郵送ハ郵税ヲ要ス）

發行所

東京市京橋區瀧山町

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英京倫敦に於ける德川公爵の宴會



昨年歐米を漫遊されし德川公爵は倫敦滯在中一夕在留の日本諸名士幷に夫人を集めて宴會を催ふされたるが本圖は即ちその記念の撮影なり前面の婦人團は在留日本諸名士の夫人二列左より五、加藤大使六、德川公爵七　公爵夫人八、大浦農相九、和田日英博覽會事務總長十一、尾崎東京市長

前辦理公使宮岡恒次郎氏夫人と令孃





Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會員募集

■最も貴重なる智識を最も單純に意得し得るは本會の特色なり

女子手藝講義錄

壹ケ年修了

少額の費を以て家庭に最も有効なる手藝の最新智識を完全に修得せしむるは本會の講義録なり講師は斯道の大家なり世界の技術と斬新の考案を最新式の説明を以て講述す

共立女子職業學校
櫻友會内
普及會編

會費		圖解入	無料進呈
普通科	高等科	石版彩色及木版圖入	入會規定 内容見本
壹ケ月 金参拾錢	壹ケ月 金参拾五錢		
半ケ年 金壹圓七拾錢	半ケ年 金壹圓九拾九錢		
壹ケ年 金参圓廿四錢	壹ケ年 金参圓七十八錢		

■社交上精神上家政上の成効を希望する婦女子は速に入會せよ■

入會申込所
東京 大倉書店 日本橋
電本四一四番
電本二四〇四番
振替口座 東京二三八番

女(その一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

眞に美容を希ひ
美髪を望む者は
……先づ……

衛生化粧 **最新美髪法**（さいしん かみをよくするほう）を讀め

本書の内容は
◎しらが、赤毛染の話◎毛のなき所に毛の生える話
◎ちゞれ毛くせ直しの話◎毛髪の洗ひやうの話
◎抜毛どめふけとりの話　其他毛髪化粧に關する秘法
……次ぎに……
にて郵券貳錢封入御申込なれば直ちに無代贈呈

理想的 **ちゞれ毛くせ直し ベント** を用ひよ
最新製劑
本劑は一度之れを使用すれば如何なるちゞれ毛くせ毛も立處に直伸し永く使用すれば殆んど根本的に全治す
定價十二個入九十錢六個入四十七錢　送料東京市内四錢　地方八錢
……また……

最新輸入 **白髪染赤毛染 ヘーヤダイ** を求めよ
高等染髪料
本劑は常に之れを使用すれば自然に艶よき黒き髪になることは勿論生え際をよくし毛髪の營養となる良劑也
定價大壜二圓五十錢小壜一圓　送料東京市内四錢　地方八錢
發賣元　東京本所區外手町八七　**深澤國華堂**
（振替東京二〇八二五）



日本輸入品に限り包裝紙に斜に「**アイボリー石鹸**」と記入し一見模造悪質石鹸と判別に容易ならしむ御購求の節「**アイボリー石鹸**」に御注意を乞ふ

にマイ家傳の妙藥
經通丸
月やく藥

調劑元
東京市丸の内
本劑は代々家傳の妙藥にて如何なる難澁の月經滯りも胃腸子宮等を痛めず安々と通じ輕症なるは其夜にあること請合也他藥を用ひて効能なき時は本劑を服用し以て其價値を認めよ
定價廿五錢五十錢一圓
特製二圓但小包送を望まるゝ方は八錢を要す
有樂町二ノ一
江戸屋

女（その二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年



ライラック水（一瓶 五十錢）

マッサージ石鹸（一瓶 六十錢）

理容白粉（一瓶 五十錢）

コールドクリーム（一個 四拾錢）（送料 八 錢）

東京市京橋區竹川町十二番地

理容館本部

電話新橋 三八〇四

振替口座東京 一四一〇〇

衛生美顔術

優美

シモンクレーム



Crème Simon

美！美！

美容たらんとせば目下世界到る所の貴婦人令孃に愛用せらるゝ「シモンクレーム」を

横濱 エー、ハイム商會

優美 優美 優美

女(その三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女(との四)

謹賀新年

◉於内外諸博覧會名誉賞牌各種受領

専賣特許 **連動蓄音器**

新案 **重函蓄音器**

各種

獨逸國ライロホーン、ウエルケ會社東洋一手販賣

舶來ライロホーン両面音譜多數着荷

ライロホーン新曲譜 正續合本 實費金参拾五錢 送料金四錢

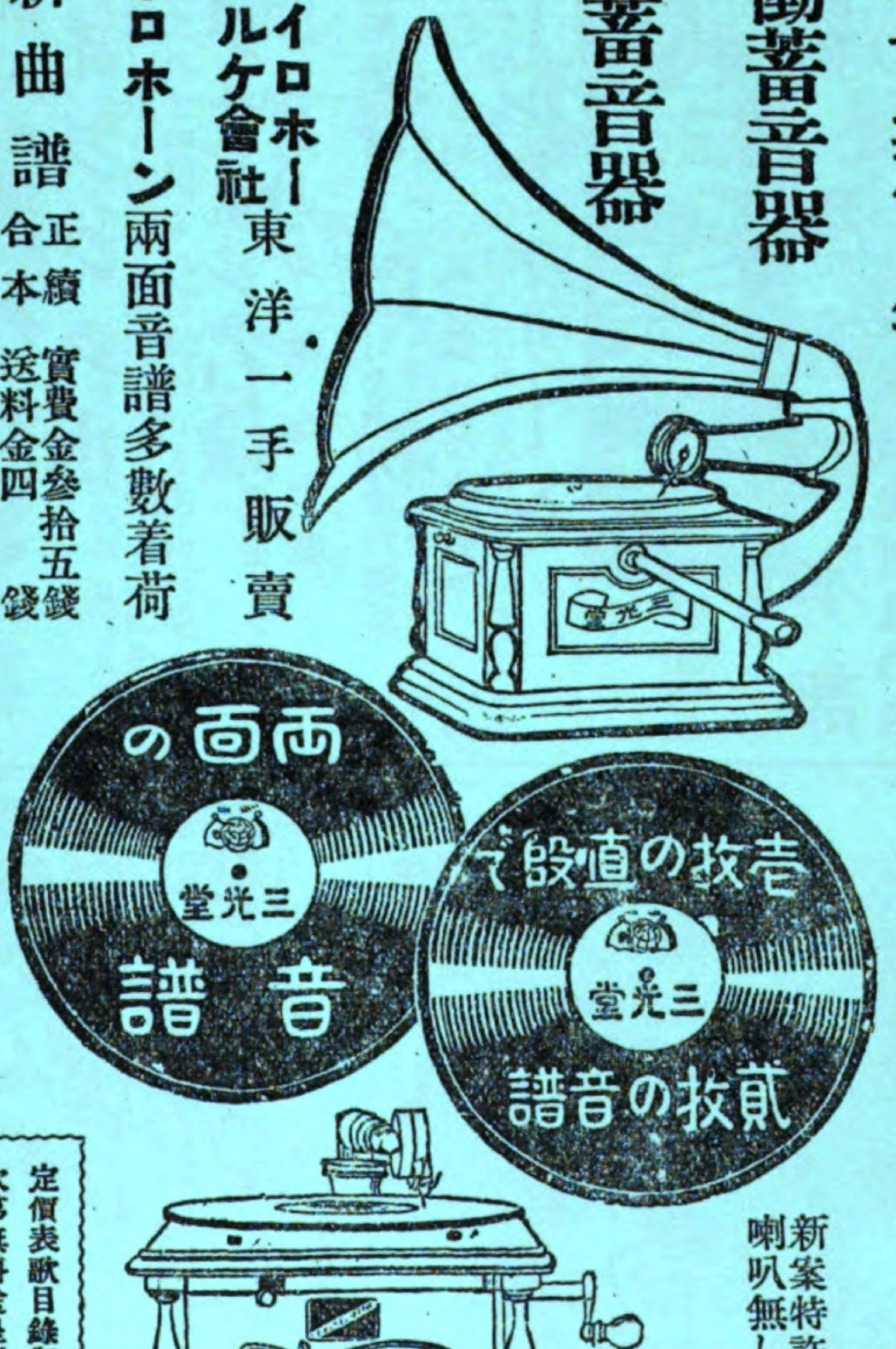
○御不用の蠟管有之候へば便宜御引取可申候

東京市銀座一丁目 長電話新橋九七九 四二〇四 振替口座東京六四二五

東京市浅草區並木町 長電話下谷九八八 振替口座一九八八四

大阪、博多、小樽

三光堂



定價表歌目錄御一報次第無料送呈可仕候

新案特許 喇叭無し重函蓄音器

TYPE MN

YEN85.

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

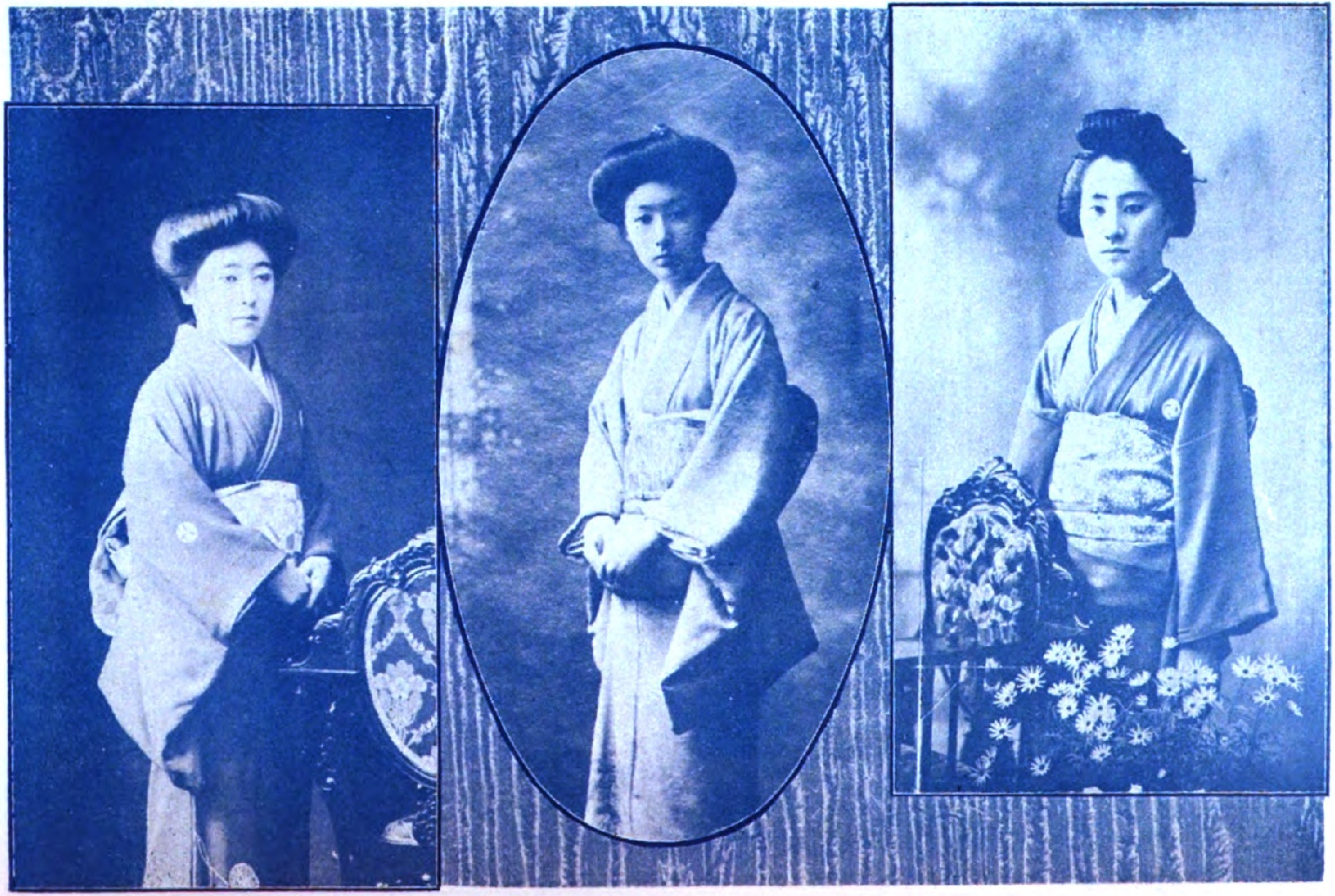
令嬢かゞみ



右、松方侯爵令孫竹子
中、島津公爵令嬢薫子
左、德川公爵令嬢綾子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

名流婦人



右圖　大木伯爵夫人幸子（伊達宗敦男令孃）
中圖　寺島伯爵夫人きやう子（三井源右衛門氏令孃）
左圖　柳原伯爵夫人はな子（川村鐵太郎伯令妹）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

プラチナ 化粧香水

八方美人の香水！



世に香水の數は山々あれど悉く一品一効で人の鼻を衝くだけの効能さい持つて居ないが此のプラチナ香水は

◎ハンカチーフに一二滴たらして持てば終日香氣を保ち

◎微温湯に滴らせば乳白の化粧水と變じ

◎顔を洗へばニキビ、ソバカス、吹出物を全治し

◎頭髮に塗抹すれば毛髮を養ひ香氣馥郁香油の代用をするのみならず髮のくせを直し赤毛白髮を防ぎます

故に人は本品を「八方美人香水」と云ふは尤なる次第である

定價壹瓶三十錢▼郵券代用一割増遞送無料

東京日本橋横山町一丁目

發賣元 近江屋 天野源七

電話浪花八六三番 振替口座五九三三番

恭賀新年

貴婦人用洋小間物及舶來毛絲商

東京銀座

三枝小賣部

電話新橋三九二七番

女（ちの一）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



除毛劑

デピラ

效能

一罐定價金三十錢

ハ剃刀ヲ用ユルヨリモ綺麗ニ毛ヲ除クト共ニ皮膚ヲ害セザルノミカ同時ニ皮膚ニ浸潤スル垢ヲ除キ去ルヲ以テデピラヲ用ヒテ髯ヲ除キタル後ハ俄ニ色ヲ白クシ、潤澤玉ノ如クナラシム。而シテ皮膚ヲ刺戟セザルハ本劑ノ特徵ナリ

全國知名藥店ニ有リ
送料二種共各四錢

本舗 東京神田區旅籠町貳丁目
資芳堂藥舖
電話下谷三一〇番
振替東京一九八七五番

生毛液

ピローゲン

效能

一壜定價金六十錢

ハ身體中毛ヲ生スベキ部分ニ毛ノナキモノニ塗抹シテ效驗ヲ顯ハスハ論ヲ俟タズ髯ヘバ鬚髯、腋毛、陰毛等ノ缺陷シタル者頭髮其他ノ生エ際ノ薄キ者ヲ治シ鬼舐病及ビ惡疾ヨリ生ズル髮毛ノ禿脫、火傷、刀傷、發泡等苟クモ毛ノ生ズベキ所ナラバ生毛セザル事ナシ

恭賀

新年





初春の御櫛笄

初春の御召料にもと調製せし櫛笄の形は半京形、都形、京丸形等へ模様は黑甲生地へ夜光貝、純金を以て若松を芝山象眼せし者或は金地へ草花を面白く圖案化し蒔繪したる品多様に出來たれば伏して弊店へ御用命あらんことを

一、一組の價

(黑甲臺)	大形	拾圓より卅圓
	中形	五圓より廿圓
	小形	二圓より拾圓
(甲張臺)	大形	三圓より十圓
	中形	二圓より八圓
	小形	一圓より五圓

營業目錄
送費四錢

東京市神田區鍛冶町
白牡丹中西
電話本局二〇〇〇番
振替口座一五三二一番

女(ちの三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

誰でも直ぐに應用の出來る

新式記憶術 速成通信教授

本術は心理應用精妙無限の新案にして何人にても容易に習得し得ること及び直ちに各自の學問及實務に應用し得るの二點を以て特色とす●故に本術を應用する學生及び實務家は何程困難なる暗記事項にても一讀一過直ちに且つ永久に記憶するを得べし

●記憶術應用 歌かるた必勝法

右當分の內附錄として添附す

●會費金壹圓貳拾錢、詳細說明書は往復はがきにて申込次第無料進呈す

大阪市北區天滿橋筋西三丁目八十六番地 大阪記憶學會

婦人へ相談

月やく滯又は不順等を人知れず秘密に治療せんとするのが女の性癖である、夫故往々有觸れた無効の藥などに迷ふて後日の大病を引起す人が多い、此等の婦女に斯道大醫の方劑を仰ぐと同樣最も安心に快通流下する靈藥をお知らせするから、郵券三錢を添へて申込みあれ密封にて詳報す

東京市京橋區金六町三番地 笹山むめの

禿、脫毛、薄毛、生際惡き人試みよ……

東京皮膚病院發明山崎製

毛生液

○藥價三十錢、五十錢●特製一圓、二圓●送料六錢

本舖 東京市日本橋區馬喰町二丁目 山崎愛國堂



本劑は第一毛をはやし、ぬけ毛を止め、髮の毛はへぎは眉毛髮等の薄きをこく生じ皮膚病でき物ヤケド跡はげ其他あるべき所に毛なきに用て毛はへる事請合

生田流 井上胡蝶著

箏曲新譜

卷之一定價送料共壹圓七十錢海外は外に送料貳十錢增し

本書購求者は歌曲中不詳あらば質義自由なり曲譜は鶴の聲黑髮六段亂夕顏八段越後獅子千鳥新高砂茶音頭新雪月花巖上の松春の曲小督の曲其他名曲六種各調子の合せ方より彈琴に必用なる事項は悉く詳細に說明し樂譜は西洋音樂に通せざる人にても容易に彈奏し得らるべき最も見易き新譜を用ひたり苟も琴を習はんと欲する人一度習ひて忘れたる人は六段一曲を師に就きて習はるべき費用にて貳十の名曲を集めたる美麗なる文明的箏曲の譜本琴の良師を求め得玉ふべし

發行所 福岡市外馬出一、一〇三 箏曲通信教授所

女(ちの四)

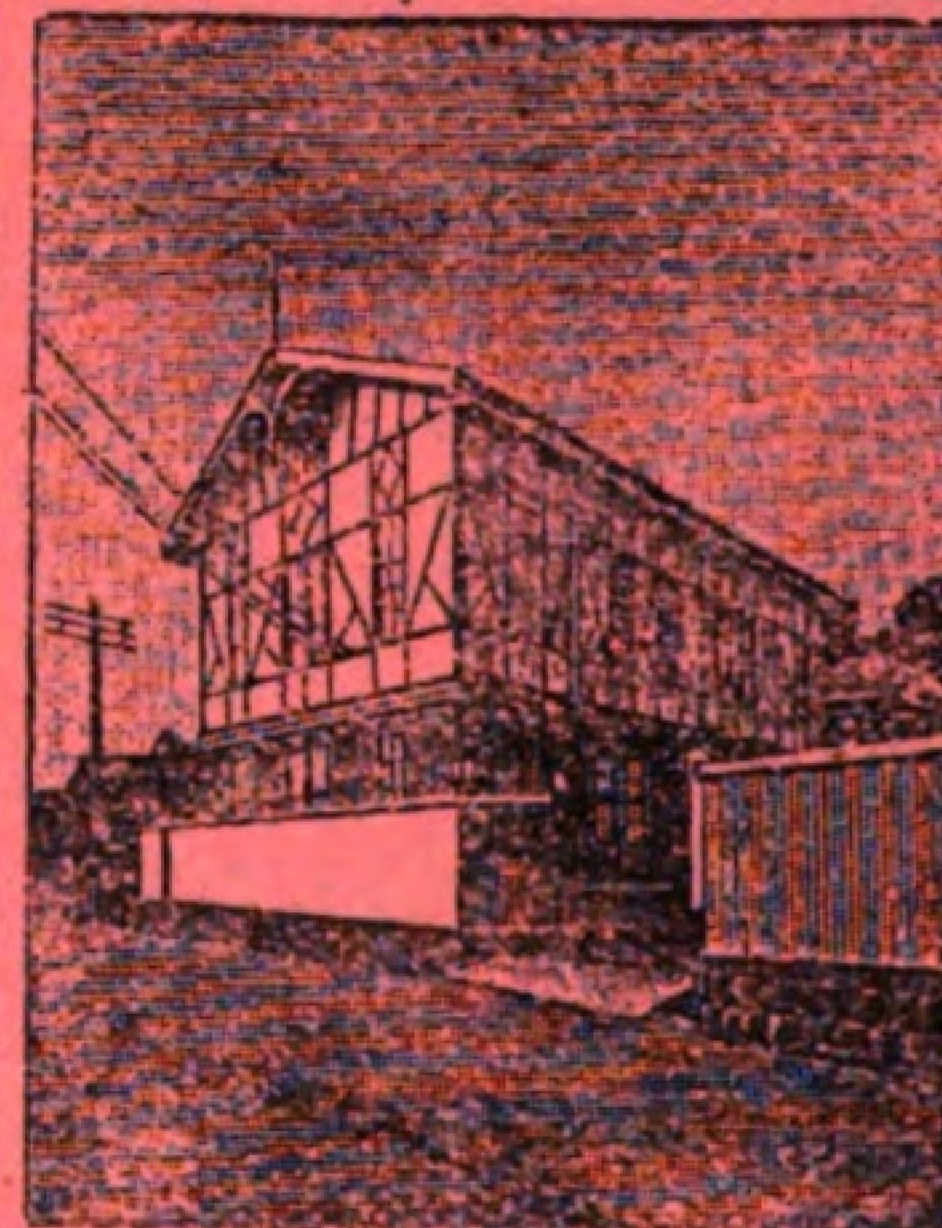
Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市九段下 神田今川小路二丁目十一番地

隆鼻術（はなたかくするほう）

午後 夜間

和田耳鼻咽喉醫院



東京神田裏猿樂町

東洋音樂學校

電話本局三八五四番

男女生徒募集

來八日始業、本科、特別科、本校及東京音樂學校入學豫科

東京音樂學校教師ユンケル氏ヲ顧問ニ同ウエルクマイステル氏及本邦教師增聘各科共懇切ニ教授ス

右入學志望者ハ至急申込ミアレ

男ちゞれ 女くせ 毛 赤毛は何程の難毛も直に根本的矯正黒化良き艶の出る最新發見奇液を郵劵封入申込の方に教授し誓て美髪に治して差上升

東京麻布區材木町 岩阪澄子

恭賀新禧

謝平素之疎遠 祈將來之愛顧

併而博文館在勤中之御厚意を奉感謝候

辛亥一月元旦

福岡市博多下新川端町 古賀豊策

婦人科 明治療院

殊に月經障害、内膜炎、妊娠、膀胱病、ヒステリ

生殖器病専門治療從前通り

東京淺草七軒町二 院長 平田章之丞

薄利多賣は弊店の大主義であります

何れの出版にても書籍雜誌圖畫は總て取次販賣致します

日本堂書店

東京市本郷區元富士町貳番地

振替貯金口座東京七九〇八番

分類書籍雜誌總目錄御入用の方は郵劵六錢御送附になれば進呈致し升

女（ちの五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界無比

最新發明藥

あざ

入墨は廿日 ほくろ そばかす、なまず いぼは拾日 目に必ず美麗に除去すること保險附

新發明藥にして患部の大小輕重を問はず容易に根治し假令顏面たりとも毫も痕跡を殘さず無痛にて除去し得らるゝこと確證す故に之を用ゆべき患ひある人は速に用ひて天然の美質を完うせよ來館者へは山の如き全治者の感謝狀及び除去したるあざ、ほくろ、そばかす、いぼ等の實物を示すべし實に世界唯一の新藥也但し本劑は其製劑を二種に區別し一はあざ、入墨、ほくろを除去し又一はそばかす、なまず、いぼを除去するものとす故に注文者は各自除去せんと望む所の病名及患部の模樣を詳細明記して申込あれ左すれば其症に適應する藥を送附すべし價は各一劑分壹圓拾錢參劑半分參圓拾錢六劑分五圓拾錢拾貳劑分拾圓拾錢づゝにて郵券代用貳割增し(患部の面積大なる人は大劑を求むるを適用とす)料金即刻小包郵送す

らい病根治新劑

癩病は不治の病にあらず又血統病にあらず一種の癩病桿狀菌の媒介による傳染症たることを發見せり、本劑は此確乎不拔の最新發見學理を基礎とし幾多研究を重ね數千患者の實驗に徵し苦辛經營の末今回始て完成發明したる最新藥にして其効力の峻烈顯著百發百中悉く全治すること到底他類似藥の比にあらず、患者よ彼の十九世紀的遺物たる推量的不合理に調合せし粗雜極まる無効舊式賣藥に誤らるゝことなく又古來より傳へられたる血統病或は不治症等の惡說に迷ふことなく速に本劑を試み其病菌を撲滅して病根を斷絕し生涯永久の榮華を完ふせよ、輕症は壹貳劑重症は特別製分以上にて治癒の目的を達す。

藥價送料共壹劑 五圓拾錢特別製 拾圓拾錢

毛の必ず生る確證藥

本劑は米國醫學博士の發明に依り學理實驗に徵したる世界無比の毛髮速生藥なり、即ち男女共腫物の痕、はつぼうはげの痕、やけどの痕、頭髮及はゑぎわの薄き人、其他に毛なき人、まゆげ口ひげの薄き人、其他總て毛のあるべき所に毛のなき人等本劑特別製分を用ゆれば忽ち毛髮若若と發生する特効あること確證す本劑は從來ありふれたる種々雜多の毛はゑ藥とは其効勿論同日に語るべきものにあらず眞に天地月鼈の大差あるに付幸に玉瓦混同視すること勿れ

藥價特別製分 五圓卅錢▲中瓶貳圓卅錢▲小瓶壹圓廿錢

奏効確證 美容新劑 やせる藥

本劑(藥名ヨードチリン錠)は學理實驗に徵したる現世紀唯一の發明劑にて血ぶとり。酒ぶとり、あぶらぶとり。顏赤くほてり。のぼせ症。卒中症等總て肥滿質多血質脂肪過多質の人用ゆれば無害にして著しく體量を減じ脂肪を適度に脫し美容健康を保ち程よくやせる特効藥なり故に彼の見苦しくふとりたるを苦にする諸君は速に本劑を用ひ其驚くべき偉大なる奇効を知られよ

壹劑分價送料共參圓廿錢 貳劑分六圓廿錢特別製分 九圓拾錢前金即刻送藥す

美き聲の出る新藥

▲藥名……ウエーヌス

▲聲美くしくして…淑女は窈窕たり ▲音聲しくして…男子は威嚴あり ▲聲は人格を高尙ならしむる要素なり…謠曲家、演說家、音樂家、藝人は聲音即ち其人の生命なり。發聲藥は古來甚だ多し然れども其の確効あるものは恐らくは疑はし。獨り此「ウエーヌス」の發明者は十有餘年間發聲生理の原理を研究し初めて確實に美聲を發する方法を自得せり。「ウエーヌス」は實に無上の發聲藥として千古未曾有世界唯一の靈劑なり。特別製分を服すれ直ぐに充分なる美聲を發すること確證す。

價送料共壹劑分壹圓拾五錢特別製參圓廿五錢

腦病必治 記憶增進丸

腦病を根治し記憶力を增進する靈劑

本劑は獨逸ノ醫スクリーボロト氏の新處方に基き醫學的の元理に徵し多年實驗の上其奏効確實なるを認め今回發賣するに至りし前代未發の新藥なり故に本劑を服すれば腦病、神經病を根本的に根治し精神爽快智力活潑となり記憶力大に增進し人世百般の見聞更に忘るゝことなきに至る驚くべき峻烈なる特効ありて如何程の健忘者記憶力缺乏者にても一たび本劑を用ゆれば忽ち記憶力大に增進すること嘗て確證する所なり論より證據實試一番速に其卓絕顯著なる奇効を知れ

(藥價)七週分四圓五拾錢五週分三圓六拾錢參週分二圓三拾錢壹週分八拾錢(送料)各拾錢宛

以上六藥專賣元 東京市神田五軒町拾九番地 日新館藥房

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

營業目錄

袋物、造花、刺繍
摘み細工、果實、瓶細工
編物、器具並に材料

婦人技藝材料

東京市本郷區弓町二丁目
倉持商店
電話下谷三五一三、振替貯金口座壹七壹壹壹

此切取を添へ御申越しの方へは美術技藝の栞並に定價表無代進呈す
（○女學世界一月號）

恭賀新年

▲我博文館十八大雜誌愛讀各位の御引立と、當社の着實至便なる營業方針と相待て、業務の日一日と發展しつゝあるを奉感謝候

内外通信販賣

東京本町一丁目
博通社

▲東京の流行品を始め其他有ゆる品を、凡ての場合に安心して御買求め爲さるには、信用豊富、薄利多賣、萬事に親切な當社へ註文遊ばすに限り升

懐姙避姙自由自在

全壹册 拾五錢 送料貳錢

子なき人は本書を讀みて懐姙の法を知るべく又子が出來て困る人は避姙の法を知るべく實に本書は懐姙避姙を望むが儘に自由ならしむる秘訣書なり郵券代用必一割增

大阪市北區
和泉屋

平山蘆江先生著 ▲優美高尚頗美本全一册▼

新刊發賣

家庭寶鑑 ものしり博士

正價廿五錢郵券代用廿七錢郵税共

世の中のあらゆる▲おまじない▲御傳授事▲云ひ傳へ▲仕きたり▲等三百五十以上皆各人必讀の金文字家庭必備の珍書也

◎發行所 東京神田錦町三の九 立志堂書店

女（ちの七）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女(ちの八)

冬の讀物

無代進呈

婦人の身體は男子に比し優柔にして器能も軟弱複雜なれば全身の機關に影響を及すこと著く隨て病魔に罹り易し然に我國婦人は個人衛生に甚冷淡で殊に子宮の治病は兎角醫師の診察を厭ひ秘密にする癖があるので遂には治療の時機を失し亦救ふ可からざる大患に陥り生涯の苦を殘す人の多いのは殊に痛嘆の極である本書は是等の人の爲に著者が多年の實驗と學説を基礎とし丁寧懇切に説明せしものなれば病婦は勿論何人も速に本書を讀め當分無代。

産科婦人科專門 醫學士 北畠孝夫先生閲

最近婦人病心得

子宮病自宅療法

申込所 東京築地新榮町四ノ一 笹岡省三



身を切る様な寒むい冬季
婦人は冷るのが一番悪い
冷込は子宮病血の道の基
子供の出來ぬも大概冷え

今が最も危險

平素冷性の方は用心肝要
本品は絹製繭綿入頗高尚
懐爐より心地よく暖まる
用て少も嵩張らぬが特長
價(特)二圓(並)一圓 送料八錢

衛生防寒兼備の快温帯は發賣以來貴婦人令孃方の需要盛なり!

發賣元 東京京橋金六町一 振替東京一八八五 藥野商會

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新夫人の面影



日韓瓦斯株式會社支配人芳川寛治氏（芳川顯正伯養嗣子）と夫人鎌子



東京市長秘書役中村俊輔氏と同夫人（千葉縣姉ヶ崎紳商宍倉健太郎氏令妹）

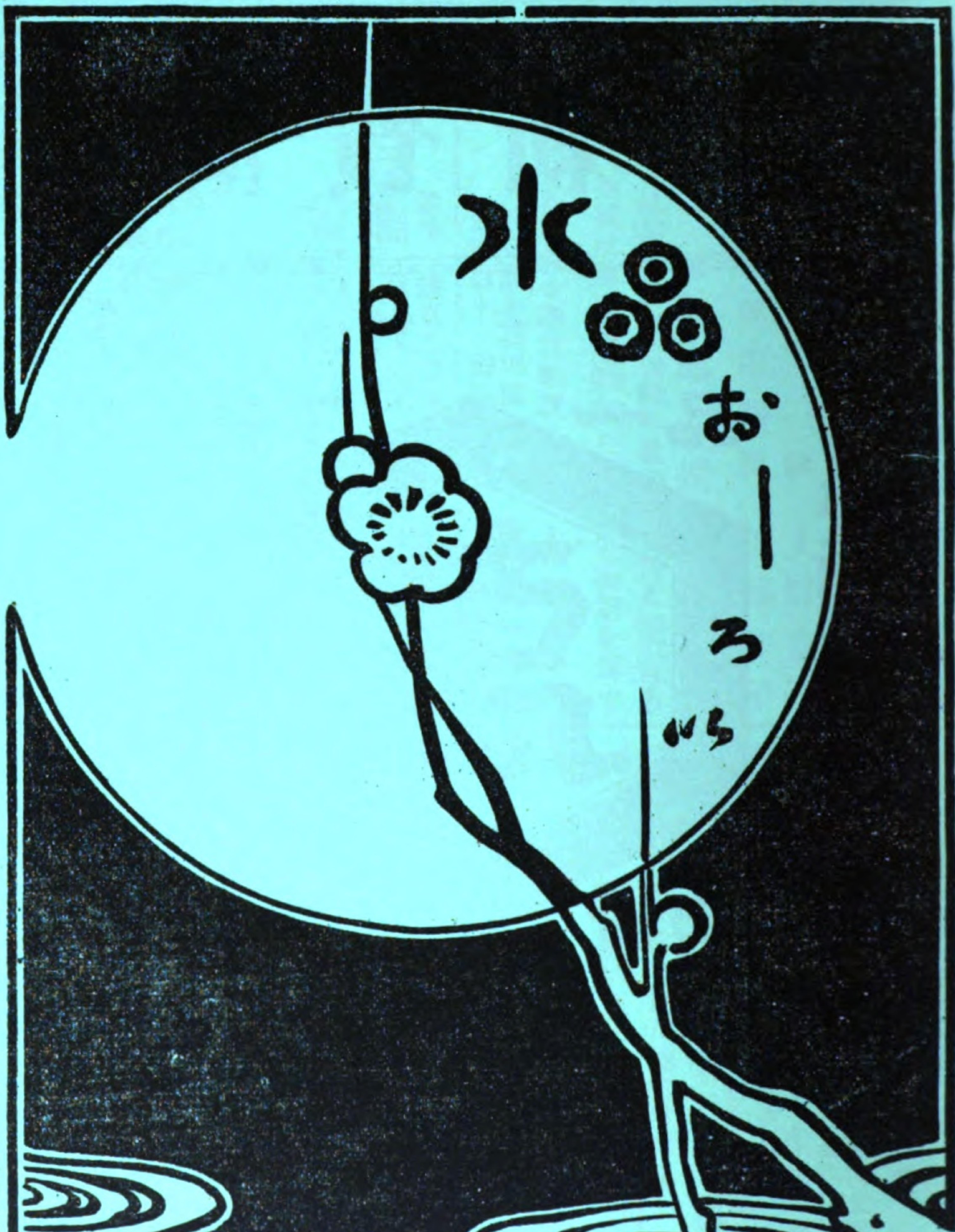
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新婚の春



本圖は侍從武官長男爵中村覺氏の令息謙一氏の結婚當日の記念撮影でございます、新夫人は前辨理公使宮岡恒次郎氏令孃玉枝子、媒妁人は陸軍中將長岡外史氏同夫人芳子樣でございます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年

宮内省御用達

天下一品

萬

最上醤油

賣捌所は各地とも有名なる酒醤油店に有之候

釀造元

千葉縣野田町

茂木佐平治

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄宿通學生徒募集

割烹　學習院女學部講師　井上善兵衛
生花　家元古流　松榮齋理育　尾崎恒子
裁縫　學習院女學部講師　武田太郎吉
英語　講師　上野安子
茶湯　講師　石州流　近藤芳子

右は一人毎に丁寧に教授す。又希望によりては寄宿して他校へ通學爲し得る便宜あり。生徒は總て家庭的に親切に世話を爲す

塾長前華族女學校教授　從七位　木村貞子

東京市小石川區原町百十一番地　梅香女塾

書籍

（大勉強一割引）

當店今般業務を擴張し東京博文館發行の新刊圖書を初め東京市内各書林に於て發行する書籍類は凡て定價の一割引（外に送料を要す）を以て迅速御取次仕るべく候間多少に拘はらず御註文の程願上候但し郵券代用は定價通り申受く（外に送料を要す）

（大勉強一割引）

靜壽堂書店　古賀豐策
福岡市博多下新川端町電車通
振替口座福岡四〇八番

書籍

第十一回

通信教授會員募集

會長　陸軍二等軍醫正　正六位勳四等　ドクトル　渡邊鼎

產婆學講義錄

規則要郵券二錢

東京市四谷區內藤町一ほの部
東京產婆看護婦講習會

產婆科六ヶ月卒業
看護科四ヶ月卒業

美術造花材料

三國屋　關口商店

▼半製品、鏝、打拔類

東京淺草區駒形町十四番地
振替貯金……一一六四三番
電話下谷四〇五一番
（御一報次第定價表進呈）

女（りの三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子大學講義

日本女子大學校內
櫻楓會編輯

入會の絶好機

▲新學期開講▲

▽月刊雜誌「家庭」と共に毎號雲上高貴に奉獻の光榮を有す△

最低の費用を以て最も短期間に秩序的に女子處世上切要なる一般の學藝を修得せんとする婦女は本講義に據れ

會費一ヶ月金五拾錢
二ヶ年修了

會則附內容見本申越次第送呈

科目及講師

△實踐倫理 女子大學校長 成瀬仁藏
△敎育學 慶應義塾幹事 石田新太郎
△心理學 文學博士 福來友吉
△兒童研究 東洋大學講師 高島平三郎
△家庭物理 高等師範敎授 後藤牧太
△生物學 理學博士 渡瀨庄三郎
△衞生學 醫學博士 三宅秀
△生理學 醫學博士 大澤謙二

△法制經濟 宮中顧問官 奥田義人
△社會學 法學博士 浮田和民
△文學研究 文學士 鹽井雨江
△童話傳說 文學博士 芳賀矢一
△和歌作法 三宅龍子
△其他家事、料理、裁縫、農藝自然現象研究、英文學等科外として諸名家の有益なる講演隨時掲載す

何時入會しても講義初號より配本す

▽會員には清新にして趣味豐富なる月刊雜誌「家庭」無代配本△

發行所 東京小石川區久堅町一〇八 精美堂 電話番町九三二 振替口座東京二八三八

女(りの四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大和田建樹先生閲 田中常憲先生著

源實朝 金槐和歌集註釋

●全一冊●定價金參拾五錢●郵稅四錢

實朝公は一大雄偉なる歌風を樹立せる日本有數の歌人にして金槐集は即ち公が一代十四年間の詠歌を集めたるもの也歌集凡て六百九十三首に達し悉く興味深甚なる公獨得の歌調を具ふ本書は此の歌集の註釋にして著者の熱誠なる解釋は歌道研究者の爲めに資する所大なるは論を俟たず加ふるに本書の序言にけ偉大なる公の歌學經歷を詳細に叙するがに故に本集と對照して益々公の眞價を知るを得べし

●東京市京橋區北紺屋町城邊河岸五

發行所（振替口座八六八九）龜井商店

中村不折君筆

水彩繪手本

花卉　山水　人物

第一輯

1 鳥歌花舞
2 龍神養素
3 菊朶香雲
4 空濛幼清
5 富貴安樂
6 閑居[illegible]志

第二輯

1 殘花の渡
2 机上の讃
3 薄ぐもりの湖畔
4 おだまきの花輪
5 綾瀬川の夕ぐれ
6 枇杷と林檎

第三輯

1 秋光玉露
2 烟霞淡白
3 清陰獨笑
4 江山清趣
5 春光漸深
6 女兒

三輯迄出來
正價各五十五錢
郵稅各四錢

東京本町 博文館

美術 造花原料

○三年鳴カズ蜚バズ將ニ鳴キ且飛バントス……◉誠實勉強薄利主義◉

東京九段坂下狙橋際

精華堂

杉山正毅

此廣告ヲ添ヘ御注文ノ方ニハ特ニ割引シマス

●定價表ハ二錢郵券御送附ヲ乞フ●

美術



造花



果實

通信教授

二ケ月卒業遠國の自宅に在て誰でも造花花簪六十種の果實標本等は美麗に出來ること保證す販路は擴大にして年中相當收益あり●案内書附製品見本は造花でも果實でも一種郵券十二錢兩種廿四錢郵券送れば直に送呈す

東京四谷區麴町十二ノ九

美術造花傳習所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

博文館主 大橋新太郎

副館主 大橋進一

編輯部

主幹 坪谷善四郎

嚴谷季雄　石橋助三郎　石坂橋樹　石井民司　伊尾準　伊東祐穀　井澤弘　生田調介　長谷川誠也　濱田德太郎　西村惠次郎　本田貞介　本多昌明　沼田藤次　押川方存　岡村久壽治　大竹昌春

女屋秀彥　荻原一羊　川本忠太郎　海賀篤磨　鹿野直司　河岡英男　金子馬治　金子範二　武內鉦平　田山錄彌　竹貫登代多　竹貫直人　武信由太郎　武田櫻桃四郎　鷹野勇雄　高村眞夫　長井氏晸

中原司馬雄　中村四郎　浮田和民　內山正如　久留島武彥　松原岩五郎　前田長太　前田晁　小柳覺　淺田彥一　齋木寬直　木村定次郎　木川專介　南木性　三間保治　鈴木德太郎

（いろは順）

營業部

支配人 羽田福太郎

大野金太郎　山田靜三郎　杉山常次郎

田中六藏　上村恭三　宮川大壽　堀野賢龍　里見謙吉　佐藤憲斌　關謹平　遠藤好夫　金子督太郎　細野佐藏　松原濟之助　谷俊三　玉井喜重郎　小峰正一　兒玉幡太郎　有田利雄　番場宗八　權藤文雄　横田地巴

繁田都藏　今井玉三郎　福澤市太郎　今井淳　永井泰　林彥之助　中村長　塚脇十三　內藤憲輔　富所三郎　磯岡鷲郎　石平彝夫　矢澤潤三　松木玉之助　廣瀨貞一　小林久四郎　中村慶次郎　菅五太郎　木村照治

堀龜七　岡本學　高橋常次　佐藤誠　神崎新四郎　渡部吉二　早川[illegible]輔　山本順治　浦島政雄　松澤義一　中田國治　牧武　原田貞助　松本勇次　渡邊明義　柳川松次郎　藤井留芳　行方從藏　小野寺一郎　海方利三郎　鈴木鈴一郎　新島貫一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博文館特別割引券

迎春の祝意を表し例年の如く圖書雜誌特別割引券を呈上し愛讀諸君平素の御眷顧に酬いんとす

圖書御注文の方は下段切取線内の甲種券

雜誌御注文の方は乙種券を添へ期限内に御申込被下度候

●本券は各種とも一人一枚限り有効とし數枚御送付あるも割引の歩合を増すものに無之候

（切取線）

（甲種）

博文館發行

圖書特別割引券
（女學世界新年號）

●圖書御注文は此券を切取り御添附の事

●有効期限は明治四十四年二月十日限り

●期限中は定價の一割引を以て特賣仕候

●豫約募集中の圖書は豫約價の三分引とす

●館友は館友規定引の外尚圖書五分引豫約品二分引の事●總て前金の外無効とす

（切取線）

（乙種）

博文館發行

雜誌特別割引券
（女學世界新年號）

●雜誌御注文は此券を切取り御添附の事

●有効期限は明治四十四年二月十日限り

期限中一册實は定價の五分引●册數に依り割引ある前金拂込は其金額の三分引とす

●館友は館友規定引の外割引せず

●本券は前金御注文の外は効用なし

●御申込の節は博文館小賣係宛のこと

女（りの七）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女(りの八)

◎勅題に因みて考案致し候御年玉用帛紗半衿其他手拭地に至る迄種々陳列致し置候間何卒御來店御買上の程奉懇願候

恭賀新年

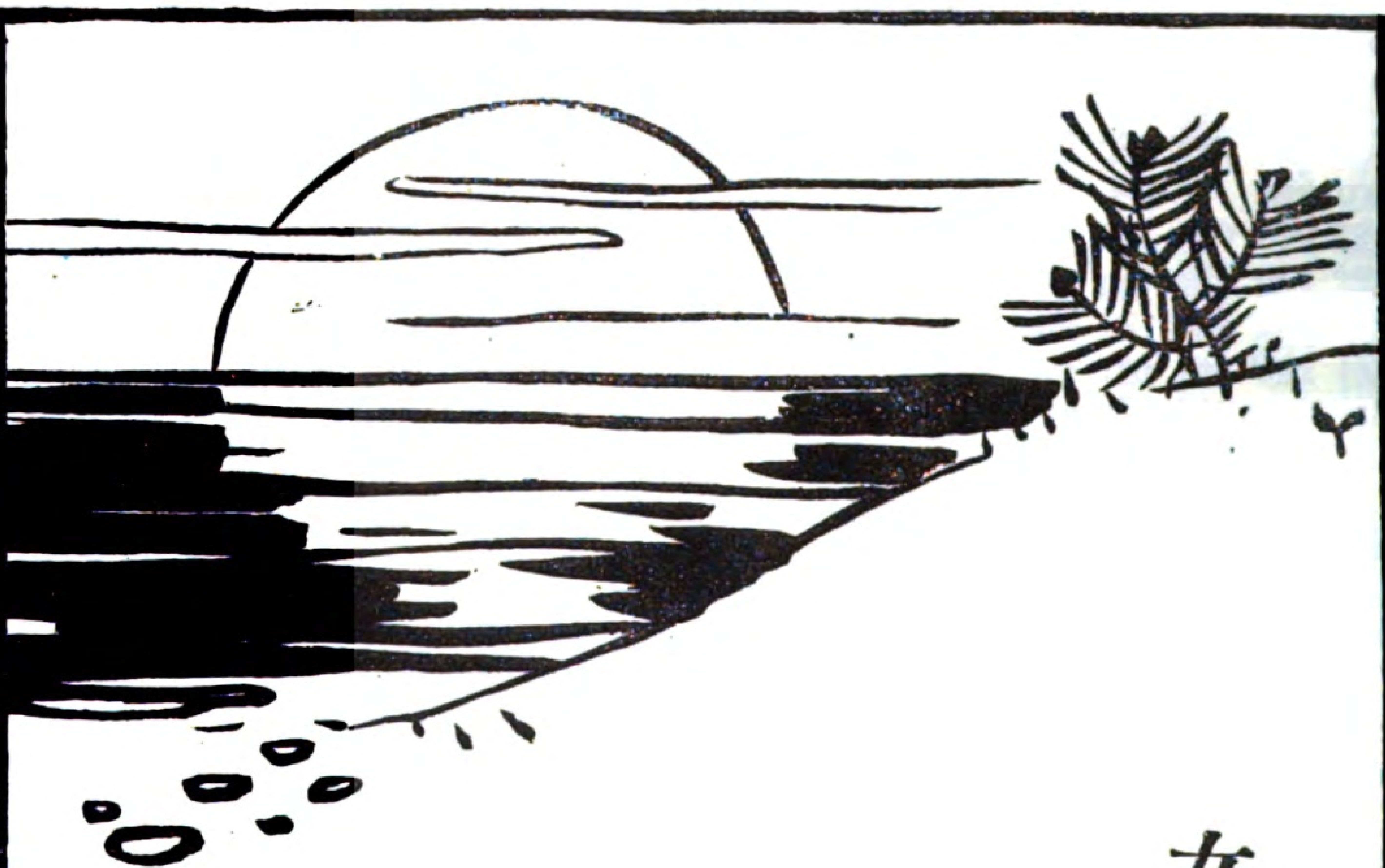
○遠隔の御方は通信販賣課宛御手紙にて御用命被下候へば即時小包便を以て御送附可申上候

振替口座東京九八

一月元旦

東京日本橋
白木屋呉服店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女學世界

第拾壹巻 第壹號

新年號

新年の歌

佐佐木信綱

久方の天馳せ使喜びを
四方にもたらし新年は來ぬ

現つ神大き帝のしろしめす
大やまとの國に年立にけり

神富士の雪の冠にあかねさし
初日にほへり春立つらしも

日の御旗にほへるもとに君が代を
歌ひそかはす高麗の童も

枕邊によき衣を置き羽子を置き
寢し子の夢ゆ春は立つらし

新玉の年の初日のいさぎよく
美はしくして我世經てしが

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歐米の交際社會で苦心した私の實驗

前辨理公使
宮岡恒次郎氏夫人　宮岡慶子

宮岡慶子様は御良人に伴つて長い間文明國の交際社會に勤められた方でございますが、豐艶な御容姿と溢るゝ眞情とを以て海外貴婦人の感情を温められたのでございます。御歸朝後は東伏見宮妃殿下の御用掛を命ぜられ、尙朝香宮御成婚御奉告祭の砌は妃殿下の臨時御用掛を拜命されて伊勢京都へ御伴遊ばされました。記者は一日夫人にお願ひ致して社交の經驗談を伺ひました。

▲渡米の初旅

良人が米國へ赴任いたしましたのは明治二十五年でございましたが、二十七年に私も彼地へ參ることになり兩人の幼兒を私の兩親に托して出立いたしました。生憎知己の御連れが一人もありませんし、その頃は男女とも彼地へお出になる御方が少なうございましたから私の乘込ました船中にも日本人は私獨り限りでございました。而して未だ郵船會社の米國航路が開けて居りませず外國船でございましたから右を向ひても左を向ても毛色の變つた方々ばかりそれに言葉も英和女學校時代に怠けて居つた罰で實際の役に立ませず實に心細ふございました。尤も出帆の際に船まで見送りに來て下さつた米國領事の方が同乘の米國富豪ガンサー老夫妻に私の保護を依賴して下さいましたので萬事この夫妻が親切に世話をいたし。私が室内にばかり閉籠つて居ますと夫妻はドアを敲いて呼出し運動を勸めてくれると云ふ風で私も餘程力強く成たのでございます。

▲薄氷を履む思ひ

唯今は布哇へ寄りましても二週間ばかりで桑港へ着しますが、私の參つた頃は直航で二十日間を費しました。私が着の際は良人が桑港まで迎いに參つてくれる約束でございましたが、丁度日清戰爭が始つたので公務多端のため迎いに參られぬことになり一先私

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は時の領事珍田様方へ御厄介になりました。處が其際は米國勞働者の大ストライキが起つた眞最中で鐵道は盡く破壞され國内の交通は全く杜絶して居りましたので上陸はいたしても良人の許へ參ることが出來ません。無據珍田様に滯留して亂の靜まるのを待て居りました。二週間程經て少し騷ぎが鎭まり、鐵道も略復舊しましたので、矢張此地に滯在して居たガンサー氏が郷里シカゴまで私に同行することを勸めました。珍田様御夫婦は一週間もかゝる旅路であるから今少し見合せてはと頻りに止められましたけれども一日も早く良人の許へ參りたくもあり、且確乎したお連れのある方が氣丈夫と存じて出立いたしましたが、この汽車は危險地の試運轉でしたから兵士が一個小隊ほど乘込み暴行者が出れば唯一撃と銃を揃へて居る位で未だ獰猛な顏付の勞働者もちらほら目に入りロッキー山路にはダイナマイトを仕掛てあるなどと殺氣を帶た噂がとり〲でございましたから、汽車は晝行き夜休み日が沒しますと山中でも立往生して居りました。私は唯其日其日の運命を天に任せ薄氷を踏む心地で七日の旅を了へ無事にワシントンへ着きました時はホッと一息つきました。かやうな旅を共にいたした所爲かガ

貴婦人界の三元老



鍋島　千家　毛利　三貴婦人

ンサー氏夫妻は私を娘のやうに愛し今日にいたるまで親子のやうな交際をいたして居ります。

▲心細かりし獨逸行

米國で僅か半年經つか經ぬ内良人は獨逸へ轉任することになりましたが、漸く少し土地に馴れイエス、ノー位分つてまゐつたところへ今度は返事の仕方さへ分らぬ獨逸へ參ることが辛くいつそ日本へ歸らうかと存じましたが、獨逸だつて心配するには及ばないヤー／＼と返事さへ爲て居れば良いのだと良人に勵まされ參つて見ますと、往來の勞働者なぞがヤー／＼、ナインと云風に咽喉から絞り出すヤーナ聲でがや／＼と相話すのが喧嘩でも爲て居るやうに思はれました。土地不案内の上に故國を去ること米の幾倍と思へば親や子供を懷ふ念も彌增し唯今から考へますと可笑しふございますが其當時は實際ホームシックに囚はれたのでございます。



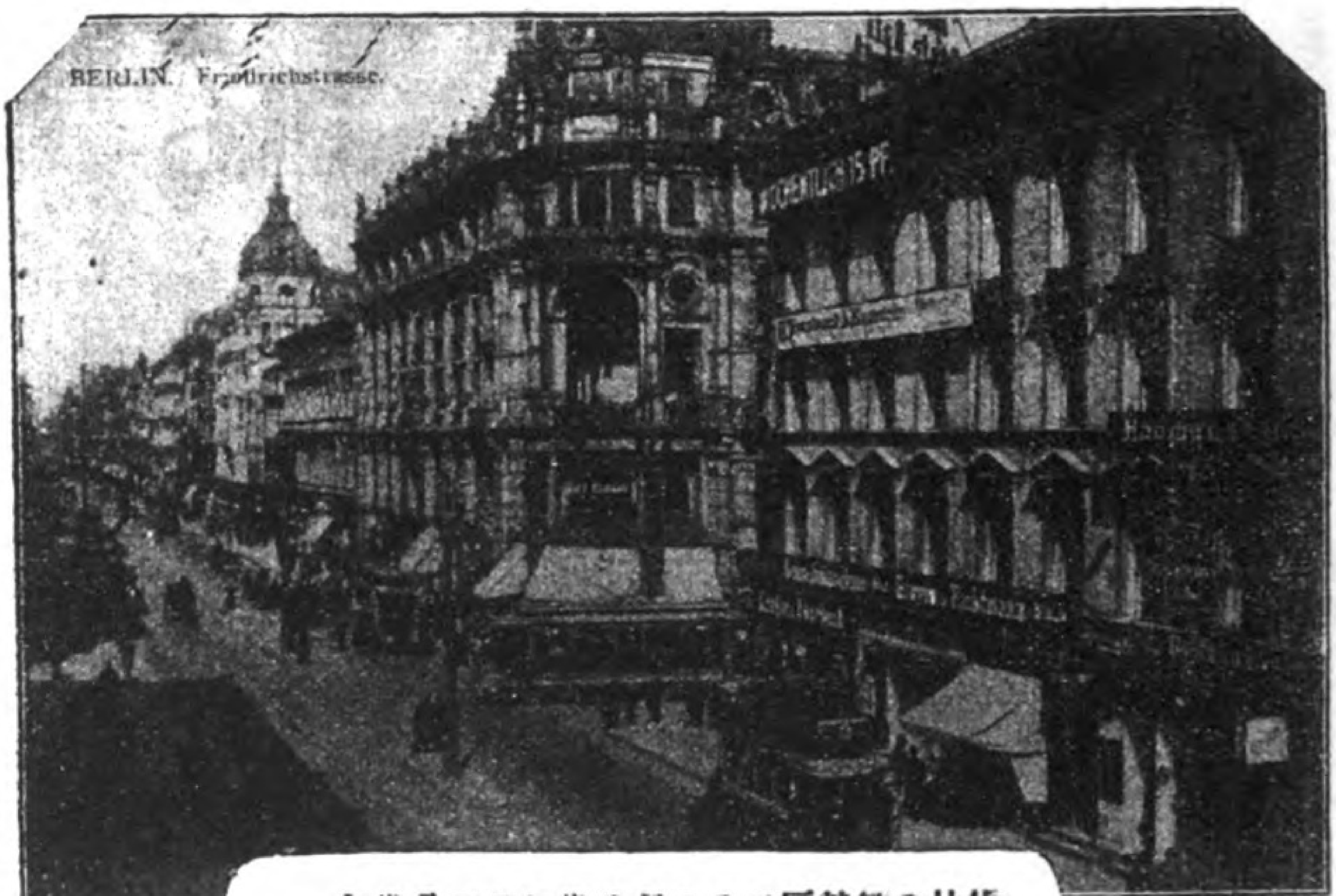
倫敦一の繁榮區ヴィクトリア女王街

▲會話の稽古

私共へ聘しました語學の敎師はミスピユツトナーと申す婦人で極親切に導いてくれましたが、少しも日本語を解せぬ人でしたから端緒の開くまではお互に困難でございました。併し籬のぞきいたした英語を媒にして覺束ないながら敎師と談話が出來ましたのは單に親や師のお陰と今更のやうに感謝いたしたのでございま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。左樣でございますネ、先づ始には茶碗と云ふ言葉を一つ覺えますと敎師がこの一名詞を土臺にして茶碗を持て來てくれとか貸てくれとか上げやうとか、或は茶碗が壞れたとか申すやうな種々の動詞を敎へました。この敎師は彼地で却々の流行兒で方々の家庭敎師に頼まれて居ましたが日本人は私が始めてださうでした。後私が緣になつて日本人を澤山敎へましたので唯今日本で知名の學士方の中にこの婦人を師とされた方が澤山ございます。この敎師は大層日本びいきになり三年前遂に來航して鹿兒島の高等學校に獨逸語の敎鞭を執り昨年の夏歸國いたしました。



伯林の繁榮區フリードリツヒスマラツセ

△三年間の蟄居

書物の上ではどうにか分る事柄でも千變萬化の談話となりますと實に間誤つくものでございまして殊に上流婦人の多方面の趣味談にパッを合せやうといたすには稽古に際限がないのでございます。併し何時までも人中へ出ずに居ては修練の機會もありませんから三年目に交際場裏へ出ることにいたしました。尤もこの間に分娩もいたしましたがどうしても三年間位稽古しませんと自信が起りません。彼地に居て三年ですから此地で學びましたら六年位は確かにかゝりませう。

▲始めてカイゼル陛下に謁見の際

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

始めてカイゼル陛下に謁見の際には陛下が『御前は何語が一番得意か』とフランス語で御尋ねになりましたので私は『獨逸語を一番よく存じて居ります』と申上ましたところ、陛下には『僅かの間によく覺えられた』と仰せられて大層御機嫌美はしく種々御下問遊ばされました。その頃參内いたす日本婦人は私一人でございましたから御憐も深く難有い仰せを被むつたのでございます。

▲言葉と感情

未だ交際上の言葉に慣れぬ間は小さくなつて除物にされて居れば安全のやうなものですが、實際に臨みますとそれでは先方の感情を害する場合がございます。宮廷の御宴會の折なぞは外國使臣等のために特別に宮廷の役人を添へられるのでございますが、その宮吏から『御疲れでございませうから別室で御休憩あるやうに用意いたしてございます』なぞと慇懃に申されました際その言葉が聞取れずポカンとした顔で間の拔た態度をいたして居りますと不體裁は扨置き感情を害ふに違ひありません宮廷の御宴會の際は雲集せる貴婦人達が互に新舊の別なく親しみ談話されますが如何に如才なき彼國の貴婦人でも言葉の通せぬ者を度外視するのは當然ですから木から落ちた猿で隅に屈み情けない寂しい感じばかりいたさなければなりません。交際社會に出ました以上は除物にばかりされるのも殘念で立列んで少しでも談話したい意



花嫁すがた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地が起るのでございまして却々氣骨の折れるものでございます。

▲代表者となる心配

私のやうな者でも外國に居れば日本婦人の代表者となり些細の點まで、『日本の御婦人は皆貴女のやうでせうネ』と云ふ觀念で一々注視されるのでございます。『貴女は本當にしほらしくいらつしやいますこと、日本の御婦人は皆貴女のやうにしほらしいのでせうネ』と云はれる時は御世辭と知り乍ら悪い心地もいたしませんが、その裏には『彼の婦人は無作法だ日本の婦人は皆あんなものか』と云ふ恐い評があらうと考へますと實に寒心に堪へぬのでございます。こんな不束者が代表者となつて日本全體の御婦人に御迷惑をかけはせぬかと始終こればかり心配して居りました。



おめでとう（初春の令孃）

▲受太刀ばかりでは堪りませぬ

會話が少し慣れて參りますと交際の興味を覺える代りに追々込入つた質問を持掛られて返事に困ることがございます。何事に依らず研究好きな彼貴婦人達から佛教や神道のいはれ歴史美術は申すに及ばず有ゆる方面の事細かに質問される場合には自分の國の事を知らぬ〳〵でも通されませず返答に窮する折は脊に汗して熟々平生の迂濶を悔ひました。で致方がありませんから宜加減のところで身を代して先方へ質問の鋒先を向けて了ひます。始終受太刀ばか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りでは私のやうな無識者は迚も堪へられませんから。

▲顔に視線が集まる

他にお仲間の御婦人がなかつた所爲でございませうが、一寸表へ出ますと往かふ人に顔を見られ、中には立止つて覗き込む婦人もあるのでしたから一足踏み出すにも頭髪から服裝を注意いたさなければなりません馬車でばかり出ましては運動不足にもなりますから折折の買物位には歩いて參りますと何處で見て居つたのか懇意の婦人から「貴女は先週の何曜日に何町の何屋で買物をしてお出でゝしたネ、その時は茶色の帽に茶色の御召でしたのネ」なぞと申されることが度々でございますのでうつかりした姿で出ましては御國の恥になると存じて非常に注意いたしました。日本へ歸つた當座は外へ出ても顔を見られる心配がないので何ですか顔が滑らかになつたやうな心地がいたしました。

▲交際上から受ける樣々な印象

明治三十三年に獨逸から歸り明治三十九年に再び米國へ參りました時には戰捷國の名譽で肩身が廣ふございました。御承知の通り米國の婦人は天眞爛漫でございますが歐洲婦人は交際振が餘程儀式を重んじて居りまして、日本に似て居ると存じました。併し米國でも貴顯富豪となりますと邸宅は宮殿の如く召使の服裝も禮式もこれに準じて古風なところがございます。交際の振合は國々に依り身分職業に依つて千種萬樣の差を生じ従つて此方の印象も盡く異るのでございますから十把一からげに外國婦人の批評も出來ないかと存じます。

▲住めば都

交際期は御承知の通り各國共大抵十一月から三月までゞございますが唯英だけは冬分濃霧あるため五六七に定つて居ります。交際期のワシントンは實に賑やかなもので各地方から富豪家が結婚期の娘さん達を引連れて入り込み數多の紳士に交際を結んで花婿を見付出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふ風ですからその華美やかな事言葉に盡されません。併し平常はしんみりとして高雅な空氣が充ちて居る土地柄で丁度日本の京都のやうでございます。ワシントンに住慣れた者は紐育のやうな自働車の行列に眼を射られ地下や屋上の轍の音に鼓膜を刺戟される土地に如何して住まれるかと思ふやうでございます。併し紐育に住慣れたらワシントンは寂しくて嫌だと云ふ日本婦人も現にありましたので成程住ば都、習慣の力は豪いものと存じました。

▲富裕より生ずる研究趣味

私は在米中紐育から汽車程三時間程の田舍にある紐育の金満家の開墾地へ一夏遊びに參りました。開墾地は三里四方の面積で野菜果物を培養し牛羊鶏鳩を飼養して居りましたが、一息に澤山な仕事の出來る耕耘收穫の器械、毎日全家族が食べても餘る程の鳩、其他の需要品が一切完備して居る上に市の用事は自働車で二里の山坂を昇降し、行樂用として二頭馬車を具へ日曜にはこれを四頭にしてシーマル氏が得意の四つ手綱を試み興に入つて居りました倘本宅には日本風の建物を作り日本の翻譯書を堆く積み私なぞ未だ見聞したことのない日本書類を澤山見せられて驚いたことがございました。富の餘力より生ずる研究熱は微細の點に往渡り茶と云ふ書物なぞを見ますと私共は唯茶畑から摘で飲用するだけのことに考へて居た茶でも由來から種別特性茶器のことから茶道に



令孃の初姿

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

入り引いて斯道に堪能な日本古名士の傳記に及ぶと云ふ風にいくらでも範圍が擴めてございますから厚い一部の書となつて光彩を放つて居りますが。かやうな社會に羽振を利せて居る貴婦人達に肩を並べることは出來ずともせめて御國の恥にならぬだけの應答がいたしたいなぞと考へますと平常修養を怠つたことを悔ゆるばかりでございました。

▲令孃方に老婆心を一言

外交官の妻を表面から觀ますと、いつも華美やかに若々しく粧ひ晴の場所に貴婦人と談笑し珍味佳肴に飽き出るに馬車あり入ては多勢の婢僕を使ひ流し元の面倒も知らず婦人の幸福



仲よき姉妹

を一身に集めて居るやうに思はれますが、扨その局に當りますと任重く道遠くで氣苦勞は却々なものでございます。勝れた腦力手腕のあられる御方は格別私共のやうなものは矢張質素な故國の同胞と手を取り交はし心置なく語らいたいといつも忍ばれるのは日本の婦人方でございました。釋迦に説法ではございますが外交官夫人を理想となさる令孃方は十分この邊のお覺悟も肝要でせうし尚準備としては趣味を多方面に及ぼし研究は如何程深くなさつてもお過ぎになることはなからうと存じます。(完)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本人の妻として二十五年間の經驗

醫學博士高橋順太郎氏夫人　ルイゼ、ハインリツヒ

醫學博士高橋順太郎氏は三宅博士、宇野博士と共に醫學界の三元勳として世に知られ、帝大在職二十五年間、目下有名の博士中に氏の教を受けられたる方が多いのでございますが、先般諸博士相諜つて謝恩會と共に夫人ルイゼハインリツヒ樣との銀婚式祝賀會を開かれました。夫人は獨逸の御方で賢淑の聞え高く一男二女を擧げて琴瑟相和し二十五年の目出度記憶日に千代萬代を祝がれたのでございます。記者は夫人に乞ふて日本主婦としての御經驗談を伺ひましたから左に御紹介申上ます。

▲實子のやうに私を愛した舅姑

私は明治十八年に獨逸で結婚式を擧げ直に日本へ參つて舅姑や良人の同胞と一緒に住ゐましたが、何にいたせ言葉の通せぬ同志ですから當分は舅姑と顏を見合つて微笑むばかりで此方で思ふ萬分の一も通ずることが出來ぬやうな心地がいたして本當に困りました。それで一日も早く言葉を覺えたいと存じ舅姑や同胞の言葉が私の耳に響いた通りを書き留め良人に尋ねて譯を附け、尚片假名と平假名も良人から敎はつて其譯の下へ書いて置くと云ふ風にいたしましたので普通談話は割合に早く覺えました。かやうに書留た帳面は次第にたまつて厚い積重ねとなつたのでございます。舅姑や同胞は至つて親切な人達で遙々嫁つた私を殊の外憐れみいたわつてくれましたが、特に舅は老人に似合ぬ進歩的の頭腦でありましたから尚更私を愛し私も眞實の父の如く慕ひました。私は毎日廊下傳ひに舅姑の部屋へ訪れて語り盡し晩餐には私の手料理を賞翫される舅の笑顏を見るのを樂しんで居りましたが、舅は私が嫁てから三年目に歿しましたので私は實に力が落て了ひました。併し姑は唯今以て健かで居りますから幸福でございます。

▲字書を探しても無い言葉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私は早く言葉を覺えるために買物なども始から獨りで參りましたので跡分滑稽がございました。或呉服屋へ參つて番頭が赤、黄、青等樣々の切を並べて見せました時、私の望む色がありませんでしたので番頭が御座んせんと答へたのが何の事か一向分らず、歸宅後いくら字書を探してもありませんので良人に尋ねましたら、御座せんは字書の中のありませんと同じ意味だが、御座んせんと云ふ言葉はどんな字書にも在るまいと申して大笑ひしたことがございます。單獨で實際に當りますと難儀はいたしても思ひがけぬ多くの發明が出來ました。私の嫁つた頃は未だ西洋婦人の奧樣が少うございまして御交際する方は日本の奧樣方ばかりでしたからこれも餘程私の語學を益したやうでございます。何でも半年ばかりの内に左程不自由を感じなくなりました。


高橋博士夫人イルセ子

▲御刺身は大好物

私は始から日本料理に趣味を持て居た所爲か餘り困りませんで何でも頂きました。お刺身にはお困りになる方もあるさうですが、私はこれが大好でございます宅の食事は朝は普通の御飯に味噌汁で晝も日本料理、晩は洋食と定てございまして私も一緒に頂きますが唯朝の御飯は唯今以て頂かれませんでお茶を用ゐて居ります、私の違つて居るところはこれだけでございます　晩食は大學から歸る良人のために一番料理に心を用ゐますが昔からコックを使はず一切自身で料理いたします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲刺繍まで下婢に敎ゆ

下婢は御飯焚一人と仲働二人使つて居りますが下婢には料理から裁縫刺繍なぞまで一切私が敎へます。或百姓の娘で十五歳から二十一歳まで居つた下婢がありまして餘り悧發でもなかつたのですが丹精して色々なことを敎へ遂に刺繍まで上手にいたすやうになりました。この女は百姓の家へ嫁りましたところ、三ヶ月ばかり經つと私方へ逃て參り舊通り使つてくれと申しました。私は奉公と嫁に往くのとは違ふから如何に辛くとも一旦嫁して戻るものでないことを懇々申し聞せ返してやつたことがございました。

▲氣候と初産

私の初産は明治十九年の秋でございましたが鄕國とは暑さが少し違ひます上に丁度コレラが大層流行した年で、宅の前を今日は釣臺がいくつ通つた昨日は葬式がいくつ〳〵いたと云ふ風に毎日々々厭なことを見ましたから、姙娠中過敏になつて居る神經を尙更刺戟いたし隨分閉口したのでございます。其後追々氣候に慣れて少しも困らなくなりましが。

▲私が子供に敎ゆる科目

私は一男二女を擧げましたが、皆普通日本の學校へ通はせ歸宅後私が獨佛語と音樂を敎へることに定めてあります。（英語は學校で習ひますから）他へ稽古に出しますと往復と待合せるのに時間が費えますから宅で敎へますと二時間で三科目の稽古が十分に出來ます。長女は已に嫁して三人の子を設け、息子は宅で修業中、三女は唯今津田英學塾へ通ふ傍ら繪畫を蕉園さんに習ふて居ります。宅の子供は學校と宅との稽古で學科が多過るかも知れませんが、他家のお子さんも學校で外國のことを習ふてお宅ではお母さんが日本の學科を敎へてお上げになるのですからつまり道理は同じであらうと存じます。女の子は後來どんな低い暮向の主婦とならうも知れず、假令女中をつかふにしても奥樣が何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にも知らないで女中に命令するのは一番不都合な次第と存じますから炊事洗濯等凡ての事を手傳はせて家事の練習をさせて置きます。

▲子供の衣服

此家は板張の室が多いので立働きの都合上私は洋服を用ゐ娘も常はこれでございます。併し日本風の用事をいたすには和服が適當でございますから子供の内から和服を着る習慣もつけて置ます。長女の婚禮も和裝でいたさせました。



高橋博士令孃春子

▲私の日課

良人が早起ですから私は夏冬通して五時に起き、朝の用事をすませ良人の出勤後は午まで裁縫をいたします。朝が早いので裁縫の時間がたつぷりありますので家族の衣類を他へ頼んだことはありません、午後少しの間讀書をいたし、子供が學校から歸りますと二時間程敎へそれから晩食の支度にかゝりまして晩食後は一同が夫々自分の好な復習をいたすのでございます。私なども復習をいたしませんと子供を敎ゆるのに不都合を生じますからこれを怠ることは出來ません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲私は一番家庭が好き

暑中轉地なぞいたしても却つて窮屈な思ひをいたしますから休暇中は良人と共に宅に居つて自由な讀書や談話なぞいたし靜かに夏を過します、而して春秋に暇ある時は旅行をいたしますが最早北海道から九州へかけて大抵の土地は見て參りました。私は日本の風光を非常に愛して居ります。ハイ獨逸へは末女を連れてたつた一度往て參りました。それも良人が參る序に連れて往てもらひました位で却々參るのに臆劫でございましたが此家へ嫁つて後に兩親とも歿しましたので墓參かた／＼同胞に遇ひに往きました。遠き海路を隔てゝ嫁る身は再び兩親の達者な顔を見られない覺悟で實家を出たのですから郷國へ度々參りたいなぞとは思ひません。一體私は外に出て華やかに交際するより家庭に在つて用務を執る方が好きなのでございます。

▲日本の歴史を知ぬは勿體なし

私は歴史と文學と算術が大好で特に日本の歴史には非常に趣味を持て居りますが直接に讀んで味ふ力がないのは殘念でございます。日本學は讀本の四まで習ひました時子持となり用務多端のためつひ中絶しましたので平假名と片假名で帳面をつけるのと手間取つて新聞を讀む位の力しかありません。併し日本の文字に暗いのは不都合な次第で第一日本の歴史に通せぬと云ふのは實に勿體なく、尚日本の御婦人方が外國語を勵まれてあるのに耻しいことゝ熟々感じて居りますから爾後奮發して日本の學問を致したいと存じて居ります。

▲芝居や義太夫の興味

日本の芝居は實に面白うございます。特に忠臣藏とか千代萩とか云ふ歴史物は狂言の筋と云ひ衣裳と云ひ誠に高尚優雅で一度見ますと何時までも目にちらついて忘れることが出來ません。但壯士芝居はよく分らぬ所爲か餘り感興が起らず直に忘れて了ひます。義太夫も有樂座で呂昇のをよく聽ましたが段々分るに從つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

頗ぶる興味を感じて參りました。あれは悲哀なところがあるとは申し乍ら悲哀の内に大和魂が含まれて居ましてよく聽人を感動させると思ひます。又薩摩琵琶、講談等もよく分つて面白うございます。ハイ大抵有樂座で聽ました。その他能狂言、手踊なぞ私の嗜好は多方面でございますが、琴は少しも分りません。寧ろ三味線の方が容易で耳に判然と止るやうに思はれます。

夫人の語らるゝ側に本年十六歳の令孃が花の顏せに笑をたたへ不絶母君のお話を助けて居られましたが記者の乞ふがまゝに銀婚式に召されし母君の上衣と花の冠とを見せられ、夫人はこの冠について左のお話を爲さいました。



初わらひ

▲ミルテ

この冠は新婚、銀婚、金婚の三式とも同じ形でございますが冠の花は新婚の時が青、銀婚が銀、金婚には金とかはるのでございます。この花の實物はミルテと申し獨逸の婚禮に用ゐますので都會を離れた土地では結婚期の娘さん達が手づから庭に培養し結婚式の折この生花を冠に附けるのですが、都會では培養が思ふやうに出來ませんから造花を用ゆるのでございます。一體ミルテは多く暖國に生ずるもので西班牙あたりでは大きく育つさうですが獨逸のは極小さうございます。

夫人は令孃にすゝめられて花冠を被り記者に模型を示されました。記者はこのやさしく床しき金髮の奧樣が相生の松の契り年と共にいや深く冠りの花の銀が黃金にかはるまで幸多かれと祈りました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



南満洲貴婦人の餘香

麗子夫人

大連からの終列車が今旅順に着いてよろ〳〵と自分はプラットホームによろめきながら出た。

私は何となく心細さが身にしみる様に感じた。手提カバンを持つて長マントの衿をたてゝ毛皮の中に顔をうづめてションボリと側の時計を見ると十二時過ぎて電燈の光りも何だか今にも消えさうに思はれる。

恐ろしく丈の高い薄ぎたない支那人夫がまはりを取りまいて何かわからぬ事をガヤ〳〵としやべりながら足下に置いてある荷物を持ちかける、今思へば彼等は皆馬車追だつた。が其時には言葉は分らず氣心は知れず、全く氣味が惡くて恐ろしかつた、ナニ之等は皆ダンコツ一ツでどうでもなる人間だ、日本の勞働者などはまるで牛が馬の樣な取扱ひをする。

荷物の數も調べられて、漸く待合室らしい處から外に出ると、アラビヤ産の大きな逞しい馬にキラ〳〵と夜目にも光る馬具つけたほろ馬車が待つて居る。

荷物を頼んだぞと云ひながら、主人が乘るので私もこは〴〵其あとにつゞいて乘る、風がヒユー〳〵とうなつて何かなしに物騒がしい、暗いのと、寒いのとで自分の頭はぼんやりとして無意識に腰をかける。

何處かでヨロシイと云ふ聲がしたかと思ふと、馬車は威勢よく走り出した。

電氣燈の光りが眠さうに照らして居る、あたりをすかして見ると右側は海らしく。左手は高い山になつて居る樣に見えた、あとで聞くと左手の山は白玉山と云ふので、其山の頂きに戰死者の靈をまつり、其横に立派な記念碑が立つて居る。右側の海は旅順港の灣內で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

有つた。

橋一つ渡つて左にまがると乃木町と云ふ瓦斯燈が見える、中にはなまめかしき假名字で御料理など〻書いたのもある、低い日本風の檐が三四十つゞいて、夫れから道は次第に坂になつて暗くさびしい處を通つてやがて石の門のある家の前で止まつた。之れが今から住むべき家かと思ふと何となく嬉しかつた。

石段五ッ六ッ上つて、二重の扉を開くと、電氣燈の光りがパッと輝いてまばゆく、一寸小ぎれいな若い支那人と、小使らしいものが二人出て迎へる。

右手のドーアをあけて這入るとストーブが盛にたいてある、俄に暑くなつて羽織迄ぬいでしまふ、此處はもと敵が善美を盡して住ゐし處とかで、大方運び去られたあとでさへも、まだ〳〵我々の目には餘程結構なものばかり。

神田の東明館で、こんな立派な机にかゝつて勉强する樣な身分になつたら、どんなに嬉しからうと人しれず思つた、四百五十圓のデスクと、まア寸分も異ひない美しい大きなデスクが隅の方に置いてある、窓かけの夜目にも美事な花紋、重げな房、清かなレース、燃ゆるが如き緋のフラスチンを以て覆はれたソーフワーなど皆自分を待ち顔に塵も止めず並んで居る。

俄にクヰンにでもなつた氣がして、私は胸ををどらしつゝボーイがさし出した溫いミルクと、チヨコレートとに疲れも忘れて何事も明日にと云はるゝまゝに導かれて其奥の寢室に這入つた。

寢臺には雪の樣な毛布が、三枚ほどかけてある、其中にもぐり込むと丁度ふは〳〵と綿にでも包まれる樣な氣がして、疲れた身はいつか夢路に入つてしまふ。

翌朝眼が覺めた頃には、もうとつくに太陽が上つて居た。

○

ステーションに着いた事、馬車に乘つて此處に來た事などがまるで夢の樣な氣がする、室から外に出るのが何だか恐ろしい樣な氣がして、折角まだ寢て入らつしやる我夫を起すのも心なき業と、ソッとぬけ出して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

側の長椅子に身を倚せて、部屋の中見まはすと、床は一面に上等のペンキを塗つた上に美しい絨壇が敷きつめてあつて、上草履でふむでもふは〳〵と音もしない。誠に好い心持、東の方は壁で、北に窓二ツ、窓と窓との間に華奢なテーブルで支へられた見事な姿見がある、姿見の下の處々小さな引出が幾つもある、化粧道具でも這入つて居さう。

北の隅に白く塗つた高さ一間ばかり、徑は三四尺も有る丸いストーブがある外から燃す様になつて居るのか、立つて觸つて見ると溫い。

其側に大理石の洗面器が有る、正面のネヂをひねると勢よく水が出た、之れで顔を洗つて髪などとき付けて、昨夜勝手知つた應接間に行つて見ると。



前白耳義公使ダヌタン氏夫人

今しも掃除が終つた處で、苦力が一禮して出て行つた、朝日が窓からキラ〳〵とさし込んで私の心も初めて明瞭になつて來た、昨夜見たより猶美しい部屋の中の有樣に見とれるばかり。

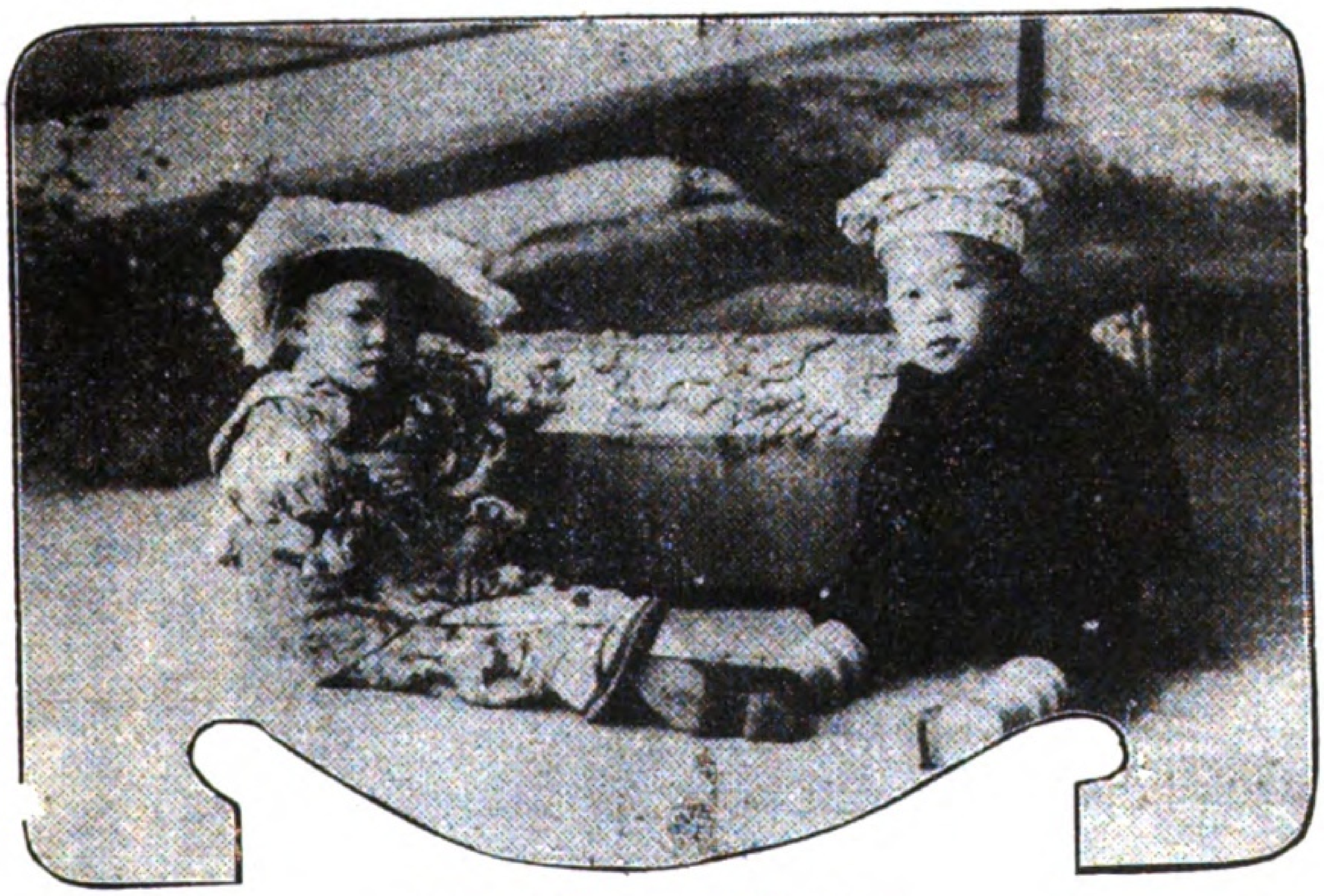
主人も起きて來られたので玄關から突きあたりの食室に行くと、中央に大きなテーブルが有つて朝飯の用意がチヤンと出來て居る、ボーイが味噌汁を盛つて呉れる、玉子燒がついて居た。

自分がまだ學校に通つて居る時分に、重いものは箸より外に持たぬ連中を、何より好まなかつた、こんなものは國家の穀つぶしと痛罵した事も有つたが、今思つて見れば之れも矢張り負惜みのやせ我慢で有つたのか、丁度今自分が其境遇になつて見れば悪い氣持

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はせぬでは無いが、ナゼ之れを罵倒し、目の前に輝ける榮華なる境遇から逃れ樣とはしないのか、夫れだけの勇氣は今はもう無いのだらうか、思へば人の心は弱いものである、アヽ自分は仕合者だと獨りホヽ笑んで居ると、何處かで昔の社會主義者然たる自分が、其さもしい心を笑つて居る樣にも思はれる、昔の心と、今の心とか心の中で喧嘩をして居る、何となく自分は、何ともなしに煩悶した。

が此方に來よと主人が食堂の隣の部屋に連れて行かれた時には、そんな煩悶も何も忽に消えてしまつて、自分はマアきれいな事と云つたなりしばらくは何も云はれなかつた、見よ見よ此華かに可愛らしい裝飾よ、まるで西洋のお噺にでも有りさうな樣子、胸をどらせて中に進み入れば、イチ早く眼に入るピアノの蓋まであけてある。



これから何をして遊ばうかね

○

あゝ自分は初めて後悔した、學科のひまにピアノを習ふ人を見ては一時の出來心よ、好奇心よ無用の事に時間は費さぬと、密に人を笑つた身は、今ピアノの主となつた、夫が六段は彈けるかいと笑ひながら手をおかけなさる、忽に妙なる音色節面白き六段の調、私は恥しさに言葉もなく顏赤めて後に立つて居た

一段を彈き終つた君は靜に立つて後の方の立派な姿見を指しながら、あれはもと露國の名高い將軍コンドラテンコ中將の家に有つたのを、此處に運んだのなりと、將軍の夫人が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

用ゐしものか、女持らには最適當らしい丸い形の鏡がはめてある。

其抽出しをあけて御らんと云はるゝまゝに、鏡臺に近いて、恐る／＼左側のをあけて見ると、何とも云へぬいゝ匂がプーンと鼻をうつ夫れも道理入れ物だけ見ても好ましい樣な香水の瓶が一パイにつまつて居る。大きいのは六七寸もある、小さいのは一寸位のもある、どれでもいゝのを付けなと一ツづつ臺の上に並べられた處はまるで唐物屋の店の樣小さいの程割合に高く大きいのは髪に塗るのだと注意せられる、こんなものが何で髪などに塗られるものか勿體ないと心の中で思ふ、夫れも其筈僅一圓や二圓の香水でもやつと買ふ位の自分だつたゆゑ　他の抽出しにはいろ／＼の美しい紙に包んだシャボンが澤山に這入つて居る。

見るもの毎に驚かるゝ贅澤さで小さい胸は頻りに波をうつ。

やがて夫は所用の爲に外出せられる。

○

旅の疲れも、心細さも來るべき萬般の所置も凡て忘れて部屋から、部屋と結構なる器具、美しい装飾に或は驚き　或はよろこびつゝ調べてはつたが、少しく疲れて來たので、食堂に歸つて腰をかけた、敎へられたまゝに天井から下つて居るベルのボタンを押すと、ボーイが這入つて來た、昨夜から見るともうおなじみになつたので、湯でも茶でも、一杯ほしいと云へば、心得て側の



奥平伯の令息令嬢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戸棚をわける、見ればコヽアと書いた大きなブリキ鑵がある、コンデンスミルクの鑵、コーヒーの鑵などが並べてある、どれなりとお好みのもの拵へて來ますとまるで喫茶店にでも行つた調子、なほ奥の方を見ると鑵が幾つも並んで居る、夫れは何かと開くと、お菓子なりと、そちらの方もあけて見よと云ひつゝ立つて行つて見ると、名も知らぬ洋酒の瓶が一パイに並んで居る、酒には何の用も無けれど、葡萄酒、いちご酒などの、眞紅の色した事は何となく好ましい、其内に注文したココアが來たので漸くかわきがとまる。

○

日中は大方自分一人なので、何の用事もない美しく飾つた部屋の主となつて、定められたる机に向つて腰かけて、取りとめもなき空想に耽つたり、六枚折の絹のした屏風の、目もさめる樣な花鳥の繪をわけもなく見入つたり、ピアノに向つては輕からぬ我指を怨みつゝ、君が代やマーチを彈いて見ても氣のきいた音も出ぬのにガッカりして、鏡の前に立つては、かゝる部屋に相應しからぬ和服の衣紋つくらうて見るなど、年迄四ッ五ッ若くなつた樣な氣がして華かに何の苦もなく三月、四月は夢と暮した。



姉と妹

近づきになつた人々は皆善い人で、自分に親切であつた召使は皆忠實なものに思はれた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

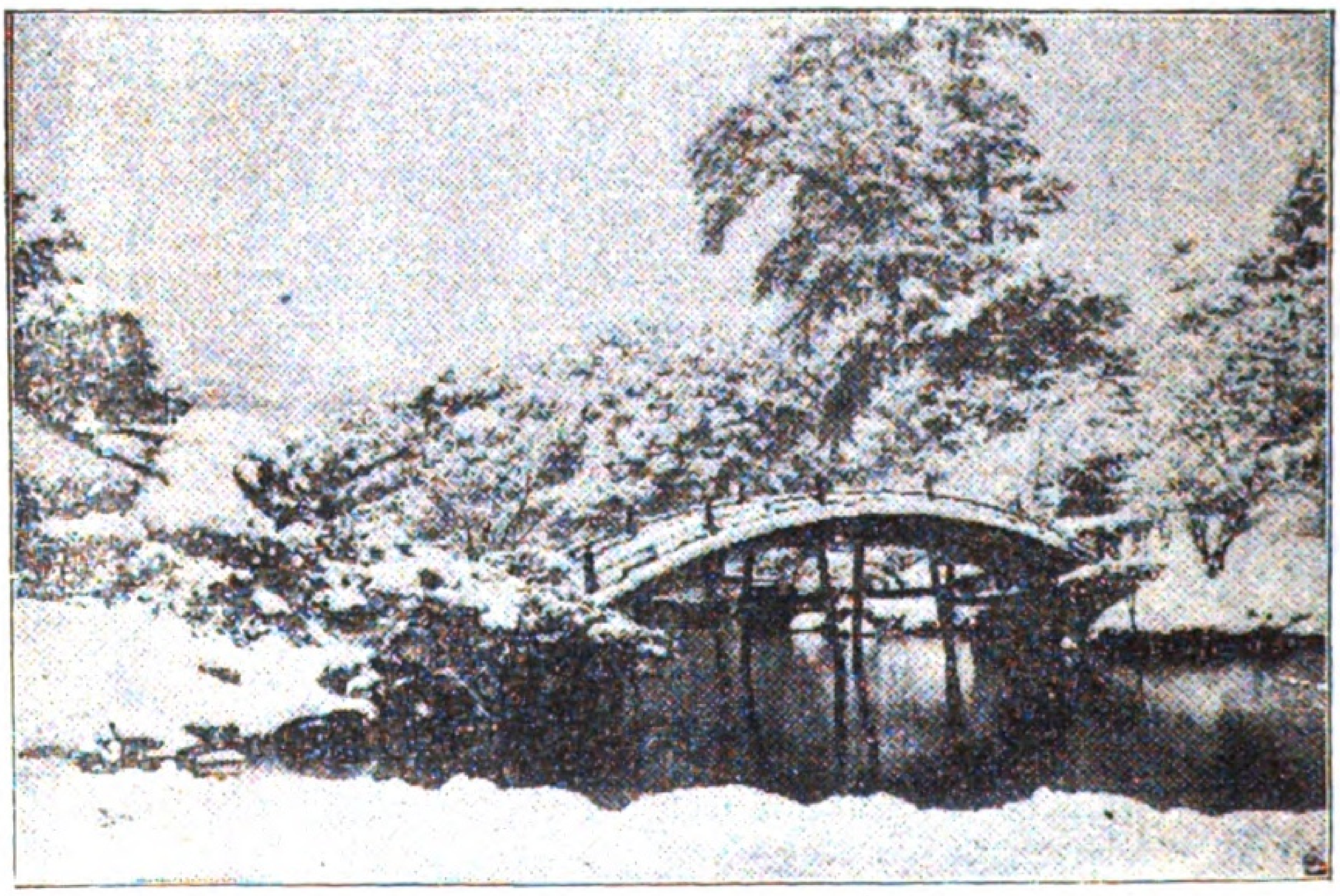
○

コサック嵐雪を卷いて黄金山見る〳〵吹雪の内に埋まるとも、馬や人の呼吸忽に氷と化する寒さをも只我身は暖かき窓の内から眺めて性來嫌いな足袋もはかずにすむ、羽織ゃ大方着ない。

裏の石炭の山少し低くなつた樣だと思つて居る内にゴロ〳〵と遠雷の如き音をさせて兎馬に引かせた支那馬車の數だい、裏門から這入つたと思ふと、石炭をあけに來たのだ、こんな風で石炭は夜も晝もたき通しにたいても盡きると云ふ事が無い。

炊事場に行つて見ると、學校の割烹室にあるストーブよりモットモット立派なのが拵へてあつて、火がいつでも燃えて居るので、何でもすぐに料理が出來る、ボーイが巧者なので、學校で習つたカステーラや、パンの仕方をはなすと、大抵自分で工夫しては拵へて呉れる、玉子が安いので十や二十失敗つても平氣なもの、何度でも燒きなほして見る。

新年の雪



自分が心覺えに書き付けて置いた和洋の料理の筆記が、誠に役に立つて、毎日珍らしい御馳走が出來た、バタでも胡椒でも使ひ切れぬ程にあるので、誠に便利だ、ソース迄時々もらうので買はずにすむ。

○

滿れば缺くるは世の習だ、お誂へ向だと嬉しがつて居た内が花、此頃ではそろ〳〵と不足が、出て來た、ハイカラ式の生活にもあきて、また、もとの日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本風がして見たくなる、疊の上に坐りたいものですねえと、とう〳〵こらへ切れなくなつて私が云ひ出すと夫も同感で有つたと見えて、早速に今迄ツャ〳〵と拭き込んだ床の上に、一尺許り高く床を張つて疊を敷いた、久しぶりで靑疊の上に坐つた心持は又格別。

いくら段通を敷いても繻珍の椅子を置いて有つても、日本人は矢張り日本人である、昔からの習慣を全く改めて、廢してしまふ事は出來ない。

疊の座敷に洋風の衣裳戸棚も似合はない、却つて見苦しいので、又疊一疊あげて急造の押入を拵へさせる狹さうに見えた我部屋も、十二疊敷かれてまだまはりに一尺巾位の板敷が出來た、何だか見苦しい。



生蕃の新郞新婦

ボーイに云ひ付けて茶簞笥、長火鉢など買ひ集めさせる、少しは之れで日本風らしくなる、夫れでも電燈だけは行燈にも、ランプにも代へる氣になれぬ何と云つても人間は勝手な者。

斯うなつて見れば今迄理想など〻嬉しがつて居た腰掛式が、急に嫌になつて、食事も坐つてしたくなる、夫れに付ては膳もどうかして求めたいと思へど、氣のきいたのは無し、との報告に、止を得ず大工に間に合せのものを拵へさせる。

其内に自分が日本風を好むと云ふ事がいつの間にか人に知れて、出入の人が氣をきかして鐵瓶を持つて來た、茶道具も安物で漸く揃つた。

お客樣も今迄は應接間に通して、コーヒー　チヨコ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

レート、カステーラなどの凡て洋風のもてなしで有つたが、もう此頃は止して、玉露に羊羹で皆を驚かしては得意がつて居た。

ハイカラ風は止しても、ピアノを捨てる氣にはなれぬ、之れだけの樂器を持ちながら、寶の持ち腐れもいまいましく、軍樂隊の人に賴んで敎へてもらふ。

夫れからは毎日ピアノの稽古にしばらくの間は夢中になつて居た、おかげで少しは譜も讀める樣になつた、厚い譜の本が三冊も置いてある、此ピアノの主の置土產にちがひない。中には面白い曲が書いてあるので有うが、一向明き盲で口惜しい、一人でわからなくなると、お隣の奥さんの處へ聞きに行く、ハルビンに行つた人に賴んで買つて來てもらつた白狐の皮の衿卷に顔を埋めて、裏から走つて行く、此處も相變らずピアノで夢中になつて入らつしやる、一緒に練習しかけたががや〱して却つて分らなくなるので止してまあお茶でも飲みませうと食堂に行く、此處はまだコーヒー式だ、下女がカステーラにパインアプルの鑵を開けて持つて來る又食ひ道樂が初まつたのねと笑ひ出す。夫れでもうちで一人で食べるより斯うして話をしながら食べると大變においしい樣に思ふ。

贅澤な羽子板

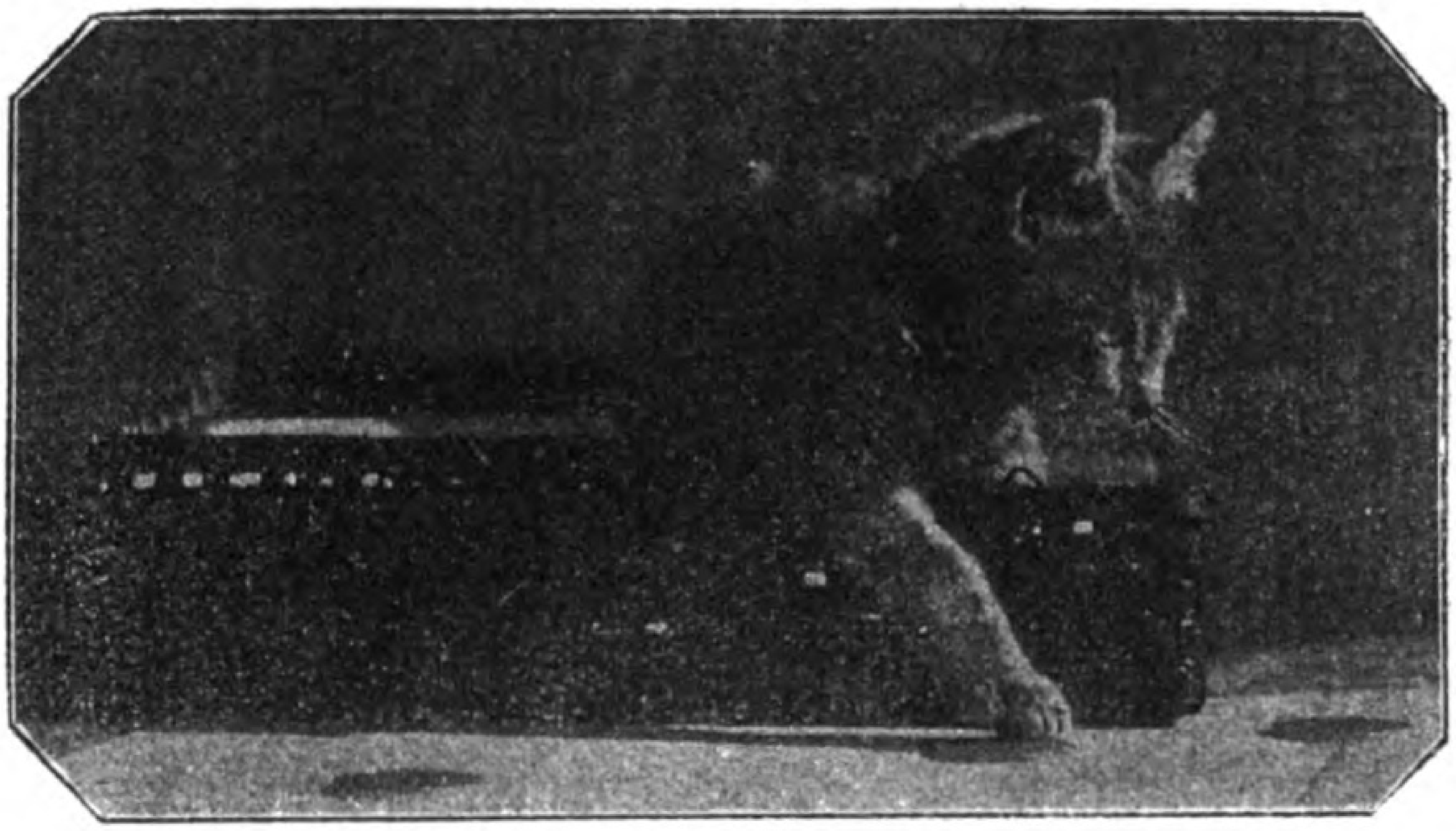


日本風のお菓子屋が出來たと云ふ事だから、行つて見やうぢやありませんかと云はれるので、スグに電話で馬車の用意をさせる、足下から鳥の立つ樣にして出て行く。

馬車で行けばツイ一走りで菓子屋につく、這入つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見ればナニ内地と餘り變らない、いろ〳〵のお菓子が並んで居る、今迄はボーイにばかり頼んで自分の氣に入つたものも食べられなかつたが、ほんとに馬鹿な事をした、甘納豆、羊羹、煎餅など珍らしい、さて慾張つていろ〳〵買ひ込む、此隣に唐物店らしいのが有つたので、ついでに寄つて鰹の罐詰、おたふく豆の罐詰も買ふ、奥さんは之れから市場に行くと云はれるので又一緒に行く、すぐ橋の向ふで大きな倉庫の樣な家だ、入口に支那人が三四人居て、奥樣入らつしやいと口口に云ふ、中に這入ると兩側に八百屋もの、乾物ものかヅッと並んで居る、奥さん林檎、梨子買ふ宜しい、栗上等買ふ宜しい、玉子安いと兩方の店から勸める、却々うるさい、栗と梨子を買ふ、一々新聞に包んで、糸でしばつて呉れる、奥の方には魚屋もある、魚屋と云つても、なまこに牡蠣のむいた毎日おきまりのもので、ほしくない、漸くきり上げて歸る、あちらにあるき、こちらに寄つて半日位つぶして來る。



動物の態度

○

夕方主人がお歸りになると早速例の食ひ道樂が初まる、矢張り自分に行つて買ふに限る、こんないゝ梨子のある事今迄知らなかつた、日本のより餘程きめが細かくて丁度林檎と梨子と一緒にした樣で水が垂れる程である。

手のかゝる子供は無し、遠慮すべき人もなし、買ひ集めた品々机の上に並べて、あれも、之れも食べて見るのも一ツの樂しみだつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あゝ夫れも之れも夢、醒めて果ない昔の夢、ソーお晝も、晩も牛肉や豚や、鳥ばかりでは一日や、二日はいゝが、十日もつゞいてはとてもたまらないとボーイに小言を云つた罰があたつて、今日で何日牛肉を食べないだらう、やつと食べた處が一人前五十目もあたらない。

石油一罐が二月無いと情けない愚痴が自然に出る。

あすこの羊羹は煉りが足りぬ、此處のカステーラはうどん粉が多いと、小言ばかり云つて食べもせずに押入にほり込んで置いて、かびがはえて來ては捨てたが今思へばほんに惜しい事をした。

月の清き夜は園内の小高い處にある亭に、安樂椅子を持ち出させて、東鷄冠山、黄金山、白玉山と一目に見渡して三伏の暑さも忘れ、心ゆくばかり語りあかした時も有つた。

都督府で大將閣下が開かせ給ひし園遊會に、高島屋に誂へて拵へた綺羅を飾つて行つた時の如何に得意なりしよ。

夫がハルピンに出張の歸途、彼地の金の割合に安しとて、持て歸り給ひし金鎖の如何に人の目を引きしよ

仲間で拵へた玉突場に行つては四十の球も漸く突く怪げな手つきして夜の更けるのも知らず夫と勝負を爭ひしのんきさは今の身にはとても望まれぬ。

あゝ思ひ起す五年前の夢!!!

戀しきは昔の夢。



贅澤な羽子板

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

維新の元勳 後藤象次郎伯 老夫人の懷舊談

婦人記者

木枯し颯と響く初冬の朝、錦繍なす山王臺を隔てゝ紺碧の品海を望める後藤伯 未亡人雪子刀自の邸に罷りて刀自の懷舊談を伺ひました。刀自は六十路の坂を越えられしに似ず艶やかな豊頬の紅、美しい遠山眉のなびき、さすがに昔の俤を忍ばれるので、唯おつむりに霜置初しを認め得るのみでございます。刀自は轗々極りなき伯の生涯に伴ふて幾層の嶮坂を越え、細事を顧りみぬ英雄の妻として人知れぬ辛酸を嘗られながら常に犠牲を感謝して今日に至られましたのは誠に得難い御婦人と申すべきでせう。

▲嚴格なりし良人

私は若い時、可なり物覺えが良い方で象次郎が四十日位日記を附なかつた折でも私の頭腦の日記は大抵間違ひませんでしたので、御前は記憶が良いと申されたのですが、近年輕い中風を患ひましてから悉皆腦を惡くいたし御尋ねの懷舊談も秩序立つて申上られませんが、あちこちがいつまんで少しお話いたしませう。象次郎は御承知の通り磊落肌でございましたが、年若の内に却々嚴格な人で十八歳の時一郡の主となり、赴任の際は迎へに出た郡民達が、今度の郡主は未だお若衆だと申して目を欹てたとよく姑が話しました。私が參つた頃も未だ胡座をかくと引くり返へるゝ云ふ風でございましたがこれは幼い内から君側附（後藤伯の藩主土佐藩主山内容堂公）で行儀正しく育つた所爲でございましたらう。

▲むづかしい姑と氣が合ふ

姑は土佐で評判のむづかしい人でございましたが、何う云ふわけか私と氣が合ました。私は最初姑に、「御互の眞情が分らぬのは一家不和の基ですからお母さんの御思召は漏さず私に仰つて頂きたく、私も思つたゞけのことは明白に申上ます」と斷りましたところ、これが姑の氣に入つたものと見え非常に私を信用してくれました。象次郎は食物の方も急進家で特に長崎に居つた時代に悉皆洋化したのですが、姑へすゝめ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る料理は私が注意して口に合ふやうに拵へましたので、コックの拵へるやうに油臭くなくて良いと悦んで居りました。又少しじれ氣味の時でも私が淺草へでも往て入しやいと申せばヒヨッと氣がかはつて私に着物をきせてもらつて出掛ると云ふ風でしたから一切の世話は私が持切りで丁度子供を持つたやうでございましたが、その代りこの姑は私の爲に强い後立になつてくれました。何にいたせ先妻の子が十二歳を頭に五人居りますし、側室も在つたのでございますから、世間で知つて居り通りな境遇で、後藤の家へまゐつた年若の私が、これらの上に立つて多勢の家來を御するのは容易でなかつたのですが、姑が子供達には何でもお母樣の眞似をせいと申し聞かせ、家來達には奥樣の命を守れと云ふ風に萬事私の位置を引上るやうに助けてくれましたお蔭で、どうかかうか奥樣らしくなつたのでございます。世間でむづかし屋と噂される位の人は又それだけ理解が良いところがありますから　此方の心に曲りさへなければ却つて使へよいと存じました。

▲維新時代の青年氣質

維新前後の武士の家庭は貴女方が御想像の出來ぬ心配もあり快感もあつたらうと存じます。第一生活狀態が只今と丸で違つて自己の生命財產を保護しやうと云ふ永遠的の欲望はございません。よし在つたところで昨日の淵は今日の瀬と變る時代に及ばぬ望みですし、唯モウ君のため義のために勇んで生命や金錢は毫も惜まぬと云ふ風でした。つまり女子などはこれが一の虛榮であつたのかも知れませんが兎に角すつきりとしたものでございました。又青年なぞも實に腹の綺麗なもので利己主義の今日の青年達に比べましたら馬鹿氣て居る位のものでしたらう。私方へ出入した人達なぞは偶々私方へ金子を借に參つても慷慨憂國の談に時を移し借りた金子を忘れて歸ると云ふ風でございました。

▲坂本龍馬氏との交際

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

維新前京都に居ました頃、坂本龍馬（有名なる維新の後傑）さんも商人の二階を借りて京都に住ゐ私方とは一家族のやうな交際をいたして居りました。坂本さんは同志の人々と國事を談ずる際なぞは大言壯語磊落な調子でございますが平常は極嚴格で長上に對する行儀が正しく、又容貌に何んとなく沈鬱のところも見え家康はあんな人ではなからうかと私はよく思ひました。坂本さんは私よりずつと年上ではあり窮屈にも思ひましたが、それでも懇意の間柄ですから坂本さんが『奥さんそれではならん斯うでは可けない』と八釜しいことを云ひますと『そんなに八釜しいことばかり仰るとこれから御飯も上ませんよ』なぞと戯談にやり合ふたこともございました。坂本さんはいつも木綿袴のひだもよれ〳〵に髪は櫛目も分らず體裁に構はぬことは實にひどいものでございました。



只今の後藤伯未亡人

▲私の覺悟を見て安心した龍馬氏

政權返上を幕府に勸むる志士の面々は何れも一命を擲つて居つたのは申すまでもありませんが、特に象次郎なぞは主領株でしたから私は先づ今日も無事に良人が歸つたと思ふ位でその日暮の心地で居りました。その頃慶喜公の居られた二條城へ出ますのはいつも夕の四時からで歸りは曉でしたが、登城の際は必ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

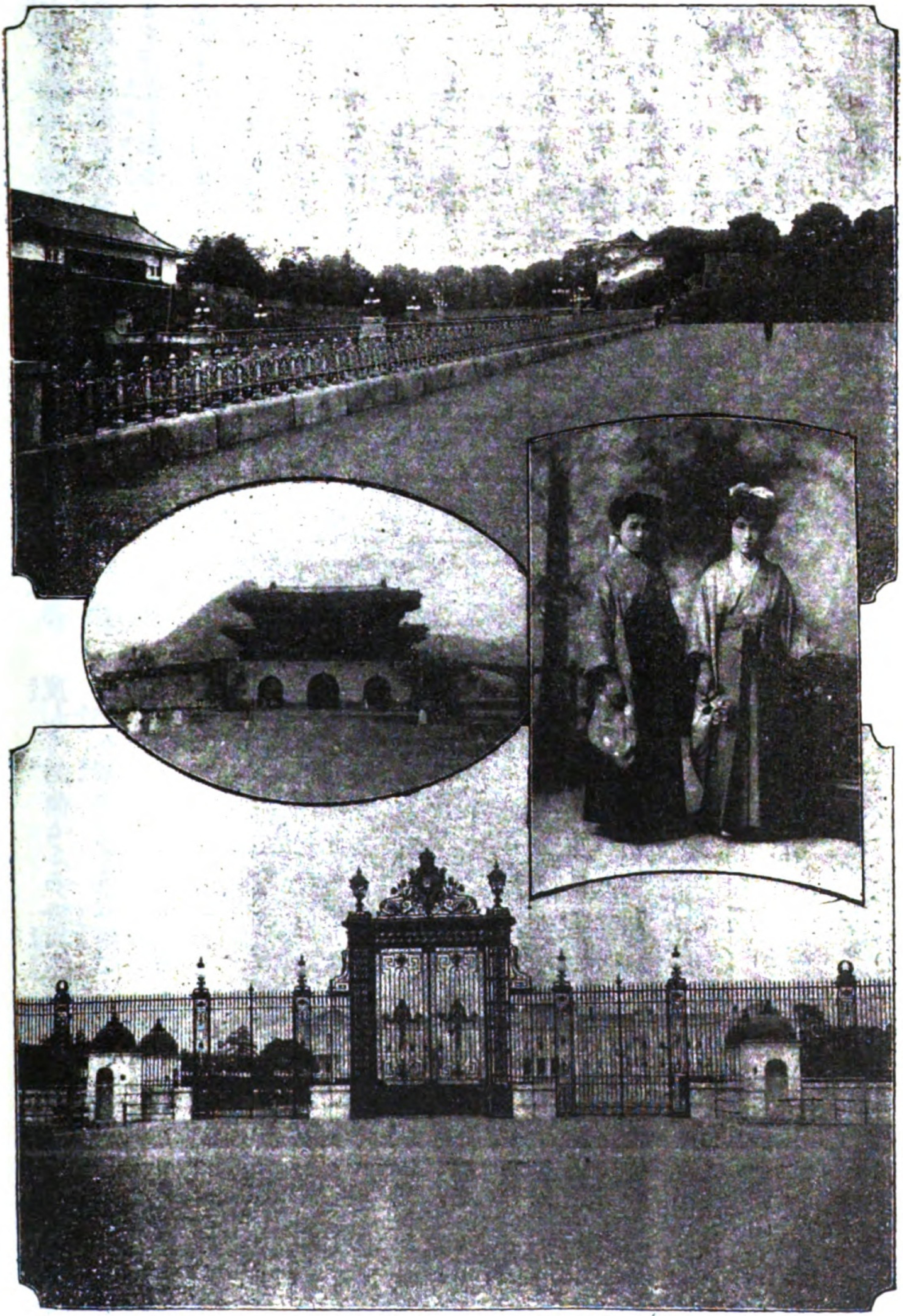
ず大議の御用でございましたから、何時何處で誤解の方面から狙撃されるかも知れず誠に危い境遇であつたのです。尤も家來は其頃三十人程もございましたけれども象次郎は警護の件を連れるのが大嫌ひで二三人位しか連れて參りません。據ろなく私が見え隱れに家來をつけてやりますとそれが知れた場合には眼玉の飛出るほど叱られました。二條城(慶喜公の居所)へ大政返上の最後の決議に出ます際象次郎が迚も再び歸宅は出來まい、この儘何れへかお預けになるだらうと申置て出ましたので私はすつかり覺悟いたし、少し歸宅が手間取ますから切腹の折、見苦しからぬやうに衣類を取揃へ家來に持せて遣はさうと仕度して居るところへ坂本さんも象次郎の動靜を氣遣ふて宅へ參り、どんな時でも主人不在の節は決して奥へ通らぬ人もこの折は心配の餘りづか／＼と奥へ參り私の用意して居るのを見まして、『嗚呼難有い、奥さんにそれだけの御覺悟があれば僕は毫も心配することはありません。併し一寸お待なさい僕が今一度聞て來る處がありますから』と云つて立出でましたが引違ひ位に象次郎は無事に歸つて參りその内坂本さんも見えて互ひに愁眉をひらいたのでございます。

明治初年の伯夫人



▲坂本氏の最期

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

● 最新式 最新形 本箱!!! ●

組合セ本箱(セクショナル、ブツククース)



一組

總高サ	三尺九寸五分
奥行	九寸四分
間口	三尺
櫻製	金參拾圓
欅製	金貳拾八圓
檜樫製	金貳拾六圓也
段函壹個代 櫻製	八圓也
段函壹個代 欅製	七圓五十錢
段函壹個代 檜樫製	七圓也
荷送費壹組壹圓五拾錢	
荷送費段函壹個五十錢	
地方運賃御自辨	

▲歐米諸國に大流行のセクショナル、ブツクケースよりも數等進歩したるものにして其特徴を上ぐれば

▲材料に櫻、欅、檜等を精選し堅牢此上なし

▲形狀優雅にして色彩美麗なり

▲在來の本函と異り硝子戸は上部へ隱沒する仕掛なれば書冊及帳簿の出入に便なり

▲壹組の組合せ本箱は積み重ねたる三ケの段函と、ツプ(屋根)ベース(脚底)の組合せより成る

▲藏書の增加に從ひ段函の數を增加し之を上部に積み重ね四段五段の本箱と爲す事を得

◎說明書無代進呈

東京市銀座 大通新橋際 新橋堂書店 發賣

(電話新橋三六七七番、振替貯金二〇〇番)

● 村井弦齋著 ●

增補註釋 食道樂

●春夏秋冬●合本●定價金貳圓●郵稅十八錢

◎本書には米料理百種、パン料理五拾種、病人料理百五十種、日用食品分析表、食器食品價格表、料理心得の歌百種等の附錄あり

增補註釋 食道樂 續篇

●春夏秋冬●分本●價各壹册八拾錢●郵稅各册拾貳錢

◎春の巻には野菜料理百種 夏の巻には果物料理百種、秋の巻には魚料理百種冬の巻には肉料理百種の附錄あり

增補訂正 台所重宝記

●全一册和裝●定價金壹圓●郵稅拾貳錢

著者の自序に曰く此書の記事は盡く我が家庭の實驗する所にして余は飽く迄も世人に親切ならん事を期すと

△發行所 東京市麴町區有樂町 報知社出版部(振替東京七三八番)

△發賣所 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店(振替東京二〇〇番)

● 家庭改良の最良指針!! ●

女(ゐの一)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夢二畫集



春の巻　再版と三版の時に、訂正をして新しい木版を入れた。繪の間に散文が入れてある。　七版　定價五拾錢　送料八錢

花の巻　たゞもう美しければ好い、直、僞、善、惡、汚、疲それ等のすべてさへ美しくあり得る。　四版　定價四拾錢　送料四錢

夏の巻　これには新しい試みとして短詩が挿さむである、印象を表白するにあたり著者は、いかなる形式によるかを豫め考へてゐない、氣の向いたまゝに繪になり詩になるのだ。　六版　定價五拾錢　送料八錢

旅の巻　あの白い路は一體どこまで往くのだらう、まあ歩いて往つて見やう。ゆけども〳〵果てしはない……私はまだ、今日も白い路を歩いてゆく。　四版　定價七拾錢　送料六錢

秋の巻　語るに堪へない、歌はふ、歌はふ、小鳥のやうに歌はふではないか、若人よ、聲をあはせて歌はふ。　再版　定價五拾錢　送料八錢

冬の巻　私は「完全」を好まぬ如くに「結論」をも好まない、何故なれば結論に到達するや、公衆は必ず拍手喝采す、然らずんば必ず冷笑罵倒す。私は其いづれをも好まない、願くは我をして、我が淋しき旅路を獨り靜かに歩みゆかしめよ。墓標こそ、そのすべてを語るであらう。　初版　定價五拾錢　送料八錢

繪物語 サヨナラ

竹久夢二著（定價七拾錢●送料六錢●三五版裝幀美●挿畫三色版寫眞版數拾葉）新刊

私にも曾ては暖かい家庭があつた。それから十數年、私の旅は辛かつた。花散る暮、雪の朝、少年の頃に謳ひなれた歌や、聽きなれた物語がしきりに思出される。その頃の思出をかいたのが、この繪物語です。若き母君よ。御身の兒はいかなる歌をや語へる。少年少女よ。御身はいかなる物語をや知りたまへる。

發行所　東京麴町二丁目二　洛陽堂　（振替東京二〇九一四番）　賣捌全國各地書店

女（ねの二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

希望に輝く青春女子の理想雜誌生る

女學生

◁初號▷

一月元旦發行

◎淀君物語……塚原澁柿園

◎同情すべき若い婦人の重荷……矢島揖子

◎我が折々の記……與謝野晶子

◎勾當内侍……水野葉舟

■審美心の修養と園藝趣味……横井博士

■女は天地が狹いから……笹川臨風

■忘れがたき犧牲……うつせみ女

●蘆花氏を訪ふて心の悶を訴ふるの記

■名流婦人月旦 毀譽褒貶の山脇房子女史……

■都下女學校印象記……

■若き婦人の警戒すべき都會生活の危險……

◎小説 運命……ふじ雄

▼他國で見られぬ英國の女子……遠藤穗子

▽結婚一年後の女より……白木糸子

▼會津地方の女……阿部長咲

▽ポンチの飛行機……記者

▼海外留學當時の追憶……三谷たれ子

▽縱横記……筑峰生

▼頭腦さへ出來たら能いと思ふ　嘉悅孝子

○表紙 迎年　太田三郎

○口繪 樂遊（原色寫眞）　ある日の午　太田三郎

後初……よへい

書其他風俗寫眞數葉本文挿畫夢二、春仙宗方等

一册 金十五錢　郵稅壹錢五厘

六册金九十三錢

懸賞文藝

秘密文、告白文、和歌、俳句、書文、笑話、習字、繪畫等の募集、詳細なる規定誌上に有

東京神田區旅籠町壹　文光堂　振替口座一九五五番

女(ぬの三)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本一の婦人雑誌

新　出

こんな有益な婦人雑誌が他にありますか

こんな廉價な婦人雑誌が他にありますか

毎月一回　一日發行

婦人乃鑑

新年號

寒月照梅花（表紙畫）お正月（口繪）

東宮妃殿下 御肖像

小松原文相 題字

前田大山青木三宮諸家 模範的貴夫人

桂岡部日向江木等 代表的夫人

後藤男爵家庭

歸朝せる尾崎夫妻　朝鮮貴夫人　井上侯銅像と興津の風色

操の色 松方侯爵夫妻

令孃鑑 桂二郎坂本則美氏令孃

名家筆蹟 跡見女史題畫　阿部夫人觀歌井書

花嫁鑑 佐竹森久保新田別府諸家新夫婦

歌留多會 琴のおさらひ羽根突き

米國の女學校◎女學校寄宿舎生活◎花の會◎婦人の手工

愛の天使

一月一日發行

一冊十五錢 郵税二錢

半年税共九十七錢　一年税共一圓七十九錢

お正月羽根突の起原……大槻文彦　婦人時事問題……紅珊瑚

伊東元帥後藤男爵田所書記官森村山科成瀬宮田跡見諸氏卓說

◎後藤青木三宮松方鳩山諸夫人家庭實驗談

新進博士關上杉兩氏大氣焔

コーツ女史並與謝野女史の「我折々」

某外國に某外國夫人家庭談

東宮妃殿下御平生

◎日本人と結婚せる私の感想……渡邊谷子◎朝鮮婦人雜感……多田通譯官◎故大塚女史の俤

前田大山青木三宮諸家の模範家庭

◎家庭に於ける能樂 江木夫人◎古脚本の女主人公 藤田學士◎◎琴曲と精神修養……今井慶松◎

遞信省女子判任官◎女學校寄宿舎生活◎宮中新年の献立

お正月の重詰

◎東池坊大會◎婦人便り◎現今のお嫁入仕度は幾許

要するや其他有益多趣味なる記事數十件……

東京市京橋區竹川町十二番地　東京社　電話新橋三五二三　振替口座二二二〇

（乃の四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

肥滿病の人◉やせる藥

多血症●脂肪過多●中氣●酒ぶとり●便秘凡てふとりすぎて美容となる奇御困りの方やせて中肉藥二錢切手送れば詳報す

東京市小石川區第六天町十七番
池田製藥部

●本法は
女髮結師安部歌子女史

ちゞれ毛くせ毛
毛はへうけあい
二大奇方劑

多年の實驗を經たる證明秘法劑にして是迄の使用者をして悉く滿足せしめたる奇劑なり往復端書紹介詳報す

●東京市麴町區三番町六十七
濟世園

蹄鐵印 シャトーリヨン 白赤葡萄酒

は藥用飲料並に食卓用として御進物に最も妙なり
●至る處に取次店あり
本品は從來赤葡萄酒のみ發賣の處今回更に品質を精撰し最も純粹にして善良なる白葡萄酒をも輸入發賣仕り候に付御愛飲の上御稱贊あらんことを乞ふ

東京市本町三丁目
電本局長一四三五
鈴木洋酒店



男女方必ず御讀下さい

金五千圓を左の方法に依り差出すとせり御用濟の瓶にある商標を剝ぎ取り慈善事業へ御寄附あれば一ヶ五厘宛で本舗にて何枚にても引換ます



宮内省御買上の光榮を賜はりたる純良髮油は日本國中唯みやけ油あるのみ。みやけ油を常に用ゆれば髮の拔ることなし、産後病後髮を長くし、のぼせをしづめフケはなくなる、頭の病にかゝることなし、外に墨拔洗粉。スキ油ビンツケ冬しらず等好評嘖々近頃類似椿と稱へ色々混合物ある品澤山あり、みやけ油御望の方に對し粗惡品を賣り付る奸商四方にあれば必ず東京人形町のみやけ油と御名指りの上御求めなさい販賣所全國信用ある店にあ

女(つの五)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新輸入 美容料 肉體色白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして如何程色黒き男女にても平素之を用ゆれば漸次肉體**純白色**に**變化**し肌を滑にし皺を伸しあれ及吹出物を治し艶美の容貌となる驚くべき効果を有す 世上種々雑多の色白藥を用ひて奏効なき人は速に本劑を試よ眼前に峻烈なる特効を覺ゆ眞に奇効顯著の美容新劑價並製壹圓廿錢特別製壹圓八拾錢

飲んで色白くなる世界唯一輸入新藥

飲んで色白くなる特効服劑 サーサパリラ

價壹劑貳圓七拾錢參劑七圓五拾錢五劑拾貳圓貳拾錢也

英國ロンドン「バーゴイン」製の「サーサパリラ」は峻烈なる**清血劑**にして頑強なる皮膚病、猛惡なる慢性梅毒、痳毒リウマチス等の病毒及び男女體内の**惡血毒血**惡液を體外に排泄し血液を清淨にし且つ精神を爽快にし根本的に肉色を**純白艶美**ならしむる奇効顯著の内服水劑なり(注意)從來種々の外用塗布的化粧水及誇大廣告の洗粉白粉等を用ひ其無効に歎じつゝある各位は速に此「サーサパリラ」を試みよ奏効頗る迅速確實なり(今回英國より輸入し當館にて一手専賣致候) 色白新劑と「サーサパリラ」と内外双方併用せば奏効頗る迅速確實なり

色白特効 ペーアス石鹸

壹個代價送料共入拾五錢▲三個函入同上貳圓參拾錢

此石鹸は**世界第一等**の貝品にして化粧品の大王たることは苟も泰西の事情に通ずる者の熟知する所なれば今更喋々贅辯を要せず曾だ單に其主眼たる特効の一二を掲げん **皮膚を潤澤軟密にし色を白く**し、**粗糙質**を治するは此石鹸獨特の靈効なり且つ此石鹸は香氣頗る佳良にして使用後五時間は芳香馥郁として身體に附着し薰るは館主の實驗保證する所なり乞ふ 昨今世上に續々顯出し誇大の廣告を以て世人を瞞着する内國製の粗惡品と玉石混同視すること勿れ(昨年輸入の五萬個は夙に賣切れ久しく品切中の處今回拾萬個着荷せり速に御註文を望む)

血塊流下 通經劑

本劑は胃腸を痛めず子宮を害せず如何程長き月經閉止も迅速安全に**快通流下**する特効あり本劑參劑分を用ゆれば二三ヶ月間滞りたる月經にてもキレーに流下す又特別製分を連用せば半年以上の月經閉止及び**血塊**にても必ず完全に流經す且つ月經不通月經不順より起る子宮病血の道を全治し多年滞りの古血及**惡血毒血**を一掃することを確證す但し本劑は其奏効極めて**確實顯著**なるも毫も衛生無害なり婦人諸君安心して試藥あれ價は壹劑分七拾錢貳劑分壹圓廿錢參劑分壹圓七拾錢特別製分貳圓參拾錢(注意)本劑及び以上各藥の**大盛**を羨み近時續々怪しき**類似僞藥**顯はる販藥者は深く注意ありて「專賣元日新館藥房」の名義に注目し購求あらんことを乞ふ



わきが 腋臭 全治確證新發見藥

從來醫療賣藥百方手を盡し全治せざる腋臭患者は速に最近發見の本劑を施し「生きながら地獄」の苦惱を永遠に去れ如何程劇烈の難重症も特別製を用ひよ忽ち**病菌を全滅**し惡臭毒素を驅逐し他病に變ずる憂なし是れ他にありふれたる賣藥と異なる所の本劑一種獨特の**靈効**なり速に試み**病苦**を脱せよ實に不思議の新發見奇劑なり▲全治的謝狀山の如し來り見よ示す▲(藥價)輕症全治分藥價送料共六拾錢▲重症全治分同上壹圓貳拾錢▲頑固慢性症全治分同上貳圓參拾錢▲切手代用は必ず二割増しの事▲着金即刻送藥す

以上五藥 **專賣元** 東京市神田五軒町十九番地 **日新館藥房**

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●大懸賞俳句募集●

一人三句●用紙は葉書●〆切は一月三十一日限

賞品懷中時計……以下五百名へ贈呈

和歌山縣有田水尻六一 文榮館懸賞係

らい病

此らい病藥は有名なる癩病治療藥を化學的の方法にて分拆し當館主が醫科大學奉職中研究したる成績に考へ配劑したる有力藥なれば一度其効驗の確實なることを實驗せらるべし古來癩病は不治の病と稱し今日と雖も之を根治せしむるは難事なれども其病勢の甚しからざる中に本劑を四ヶ月間服用するか或は病勢甚しく進みたる人にても繼續服用すれば病原菌を脫力死滅せしめ漸次輕快に赴き一生醜貌を免れ得る事は確實なり本劑は安價に不幸なる病者を救護せんとする主趣に基き發賣する者にして無効なる藥品に非常なる高價を貪り大言を吐て其効能の著大なるらしく見せかけ不幸なる病者を陷れんとする商著主義の賣藥に非ず

●醫師は癩病者を診察せば届出る規則なれど藥劑師には其規則無ければ決して他へ知れることなし安心服用あれ

ナノサール 一ヶ月分 貳圓

複方ナノサール 一ヶ月分 參圓

本舖 三河國碧海郡刈谷町

醫科大學卒業藥劑士 從七位勳六等 中島龜之丞鑑製

振替口座東京貳參壹壹 電話刈谷參拾貳番

醫科大學藥學專攻 藥學得業士金澤巖著

肺病患者の福音

著者肺病全快の經驗と最近の學說に基き親切叮嚀に根治の法を詳述せし物也●郵券二錢封入申込者に無代施本

●東京市下谷區上根岸町 衞生書院

色白く艶よくなるタオル

化粧タオル

天下到る處に販賣す

製造發賣元 ㊂山崎商會 大阪順慶町

郷友、學友、戰友、諸君の應援を祈る

商會主 山崎壽雄

御正月の御化粧は

「化粧タオル」にて美顔法を行ひ素顔の艶麗を發揮するに限り升

⊙御入用の御方は全國至る處の化粧品、藥店、小間物店へ御注文有たし

定價

壹號	（美顔料二百日分付）	送料共金五拾四錢
貳號	（美顔料百日分付）	送料共金三拾七錢
	（美顔料ノミ）	送料共金四拾貳錢

如何なる化粧料、藥品を用ひても功なき人はこの「化粧タオル」を以つて美顔術を行ふべし、奇功壯烈色を白くし艶を好くし「ニキビ」を治し「シワ」を延し忽にして神女の如き艶麗美顔となる

⊙販賣御希望の御店は各地取引の問屋へ御申込有たし

大阪順慶町

タオル問屋 ㊂山崎商會

電話南二二七二 振替阪一〇八九八

女(いの七)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最も氣の利いた新年の贈答品

ノートの蕾

■『ノートの蕾』は最も有益で且つ教育的の歴史手帳、動物手帳の二種を、いと美麗な函入としたもので、新年の御贈答品としては、この上なき高尚で、そして氣の利いたものである、歴史手帳は古今名將英傑の傳記を知り其風貌に接するやうな趣味豐富の手帳で、動物手帳は諸動物の形態、性質、行動がよく分る手帳で、双方共繪が澤山あつて、傍ら記憶に存すべき事項を記帳すべき餘白があつて重寶この上なき手帳であります。

極彩色美麗函入
體裁高尚優麗

歴史手帳十二册入 正價五拾五錢 小包料十二錢
動物手帳六册入 正價貳拾八錢 小包料八錢

◎分本一册は 定價金六錢（郵税二錢）

歴史手帳

日本武尊	菅原道眞	鎮西八郎	楠正成	加藤清正	西郷隆盛
神功皇后	八幡太郎	源義經	豐臣秀吉	二宮尊德	伊藤博文

動物手帳

猛獸の卷	鳥類の卷	爬蟲類の卷
家畜の卷	魚類の卷	海獸の卷

發賣元 東京神田 文運堂 東京 博文館 東京駿河町 三越呉服店

女（ねの入）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

通信販賣
博通社特賣品

●新年を祝ひ空前の特價を以て提供!!!

直輸入毛布

品と價段とくらべて他店より安くなければ取換は勿論代金も戻します、故に安心して御求め遊ばせ

●純白毛布（二枚續き）

	市價	特價
一號	一五、〇〇	十三圓
二號	一四、〇〇	十二圓
三號	一二、〇〇	九圓
四號	一〇、〇〇	八圓
五號	九、〇〇	七圓
六號	六、〇〇	四圓五十錢
七號	五、〇〇	三圓五十錢

●赤毛布（二枚一組）

	市價	特價
一號	七、〇〇	五圓八十錢
二號	五、〇〇	三圓五十錢

●霜降と鼠毛布（二枚續）

	市價	特價
一號霜	一四、〇〇	十二圓
二號霜	一〇、〇〇	十圓
三號鼠	九、〇〇	八圓
四號鼠	五、五〇	三圓七十錢
五號鼠	四、〇〇	二圓四十錢

▲送料 市內無料 內地廿錢 臺樺四十錢 滿朝五十錢

●大倚實用二日持 兩鈴目覺

時間の正確は言ふ迄もなく、優美最新形で機械精巧を極め響く二日間以上を保つ目覺と裝飾とを兼備するものに至つては本品の右に出るものなし



市價三圓五十錢 特價二圓五十錢

▲送料 內地廿四錢 臺樺滿朝五十錢 外に荷造箱（一尺四方）料十八錢

●千代田袋

常に家庭又は旅行用として行李及び鞄より便利重寶なるは言ふ迄もなく、殊に本品は當社工藝部の特製品中へ御値同樣の最薄利を以て御求めに應じます

一號特製尺五寸疊込 市價三、五〇 特價三圓

二號最上尺五寸疊込 市價二、五〇 特價二圓

三號上製尺五寸疊込 市價二、〇〇 特價一圓五十錢

四號尺五寸疊込 市價一、五〇 特價一圓二十錢

▲送料 市內無料 內地十八錢 臺樺卅錢 滿朝卅五錢

無代進呈

斬新なる洋裝見本 需要者 製造家共に便利有益な弊社 營業案內!!!

女（わの九）

大橋メール、オーダー、ビジネス

博通社

東京日本橋區本町一丁目

振替口座東京五十番
電話本局六百四十番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭整理の指導

當代第一流の女子教育家編著

家庭百科全書

全部五十册＝每月一回發行

和裝美本◉紙數各三百以
石版彩色口繪一葉
挿畫十數個
正價一册金四拾五錢
郵稅一册金八錢

近時婦人教育の普及するや、女流の才學は一般に著しく進みたりと雖も、尙ほ之を日常家庭の上に施こすに臨み、輙もすれば實際に適せざるを憾むこと多し。是れ學校に在るの日には概れ理想の學修に止まるが故に、實際の應用に臨み、或ひは學ぶ所高尙に過ぐるか、然らざれば未だ十分ならざるの憾ある所以なり。若しも家庭に教師ありて一々實際の問題に就て指導せんには、世の良妻賢母は言ふも更なり、未だ在學中の女流學生逹の爲にも如何に裨益の多かるべきかは、敢て多言を須ゐざることながら、人ごとに家庭に教師を聘するが如きは、得て望むべからず。是に於て本書は最良なる家庭教師たる目的を以て編述發行し、敢て婦人教育の缺點を補はんと欲するなり。

第一編 新家庭訓 三輪田高等女學校長 三輪田眞佐子女史著
第二編 四季料理 宮中臣民兩流料理師範 大日本割烹學會々長 石井泰次郎君著
第三編 裁縫指南 女子高等師範學校教授 喜多見佐喜子女史著
第四編 和洋菓子製法 東京治庖會講師 龜井まき子女史著
第五編 茶道と香道 水原翠香女史著
第六編 諸流生花指南 琴松園文雅君 松幸齋理常君 共著
第七編 育兒の務 醫學士 田村貞策君 朝夷孤舟君 共著
第八編 簡易治療法 新潟縣高田高等女學校教諭 藤井靜子女史著

第十四編 女德の養成 前田長太君著
第十五編 家屋と庭園 內山正如君著
第十六編 魚鳥家畜の飼養 農業世界記者 鹿野化骨君著
第十七編 女子作文法 遠藤ふみ子女史 松崎ふく子女史 共著
第十八編 子女の教養 私立高等女學校長 棚橋絢子女史著
第十九編 家庭の趣味 文學士 大森兜山君著
第二十編 家庭遊戲法 高橋忠次郎君 松浦政泰君 共著
第二十一編 書道手引 歌道書道專攻大和會々長 井田秀生君著

販賣用電話 本局二六二〇

發行所

東京日本橋

女 ぬの十)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦女必讀の大全書

第九編 **禮式と作法** 女子高等師範學校教授 佐方鎮子女史著

第十編 **惣菜料理** 赤堀吉松君 赤堀峰吉君 赤堀菊子女史 共著

第十一編 **編物指南** 女子技藝實習學校編物科主任 三木とみ子女史著

第十二編 **婦人の生理と衞生** 青山學院教授 牧野濟子女史著

第十三編 **教育お伽噺** 少年世界記者 木村小舟君著

第廿二編 **歌の手引** 大和田建樹君著

第廿三編 **刺繡術指南** 刺繡術専門 磯村大次郎君著

第廿四編 **摘み細工指南** 山田興松君著

第廿編 **新式化粧法** 藤波芙蓉君著

第廿六編 **室内装飾法** 近藤正一君著

第十七編 **衣服の調整** 石崎篁園君著

第十八編 **洋樂手引** 東京高等音樂學校助教授 前田久八君著

●總說 音樂とは何ぞ○音樂の起原○音樂の發達○音響大要○音樂と家庭●樂典篇 樂譜○拍子○拍數計算法○鍵板○變化記號○音階○音程○諸記號及樂語●聲樂篇 唱歌○聲樂の種類●器樂篇 樂器總論○樂器の種類○オルガル○ヴアイオリン○ピアノ○器樂の種類○著名音樂家小傳

第十九編 **母の智識** 兒童訓話 少年世界記者 木村小舟君著

本書は子女の敎養に資せんが爲に、四季日常の科學問題を、最も趣味ある筆致を以て記述し、之に加ふるに適切なる寓話、及び唱歌をも挿入したれば、讀詒の裡知らず識らずに、一般の常識を涵養せしむべく編纂したり、世の母姉諸君は必ず一本を備へざるべからず。

本町三丁目 **博文館** 振替貯金口座東京二四〇番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊の家庭讀物

少女向お伽噺 お伽七草

巖谷小波君著　山村耕花君畫

春の七艸は殖に香りても、それは春ばかりの事であります。秋の七艸は野を飾つても、それは秋の事であります。玆にお伽七艸と云ふのは、春も香り、秋も溢り、夏も匂はしく、冬も麗はしく、四季を通じ、八面に渉て、正に家庭を飾り、文壇を彩る、眞に空前の良書であります。唐土の鳥の渡らぬ先に、はやく來て摘みたまへ、野邊の嵐の吹かぬ間に、はやく來て眺めたまへ。

四六判紙數約三百頁更紗表紙
特製美裝木版二色挿圖二十枚
正價七十五錢　郵稅八錢

家庭小說 樂天小屋

Alice Hegan Rice 著　松居駿河町人譯
杉浦非水畵伯裝禎及挿畫

四六判洋裝美本紙數約二百頁　正價四十錢　郵稅六錢

小說 牡丹族

江見水蔭君著　織田東禹君畫

四六判洋裝美本紙數五百頁　正價五十五錢　郵稅八錢

少女小說 捨兒

福田琴月君著
石版口繪及密畫數葉

四六判洋裝美本紙數百七十頁　正價二十八錢　郵稅六錢

小說 探檢女王

江見水蔭君著　織田東禹君畫

菊半截判洋裝美本紙數四百五十頁　正價四十五錢　郵稅四錢

東京日本橋區本町三丁目　博文館　振替貯金口座東京二四〇番

女の十二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毛利公爵母堂、岩倉公爵夫人、鍋島侯爵夫人
大隈伯爵夫人各序、牧野伸顯男書簡
◎鳩山春子夫人著

婦人の修養

（クロース製全一册）

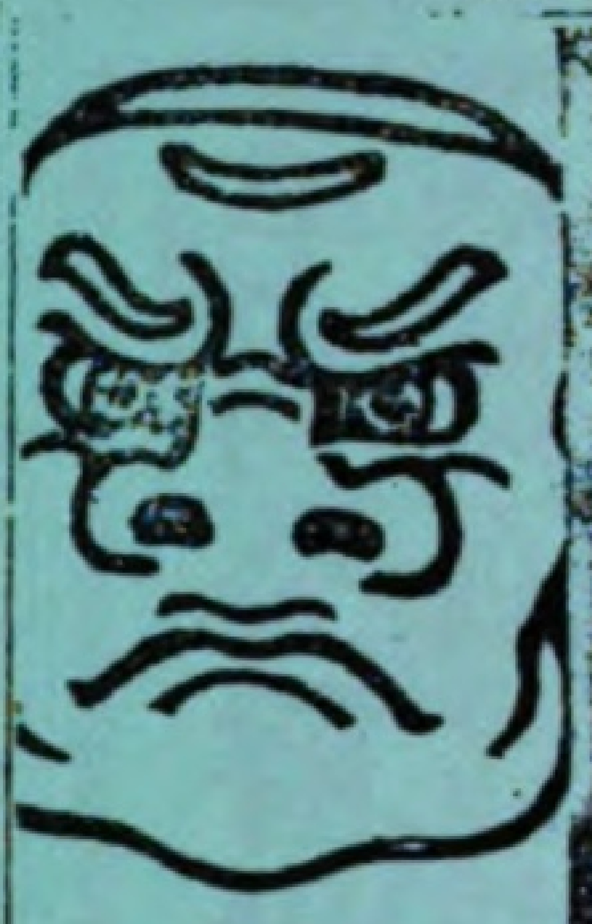
定價 金壹圓貳拾錢

郵稅 金拾錢

本書は鳩山春子夫人が內外の務め繁き中に深き素養と、廣き見聞と、富める經驗とを以てものし敢て新奇に走らず舊きを套はず能く其中庸を得たる眞に好著と謂ふべし之を讀たらんには母たる人は育兒の敎へを聞くべく、社交の婦人は交際の術を學ぶべく、一般夫人は常識修養の指鍼とすべし各女學校は最好の參考書として如何に偉大なる感化を受くべきか。

東京 博文館 本町

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN





講談文庫

洋装四六判総布特製‥‥紙数各四百五十頁

頗美本　正價（一冊）五十五錢　郵税一冊八錢

最新刊

出世譚

目次

●豊公故郷の錦 ●又藏初陣 ●藤堂高虎 ●天人の松 ●目出鯛 ●別所民部 ●澤村才八郎 ●文七元結 ●黄金の蛇 ●龜甲縞 ●桂昌院 ●松前鐵之助 ●菅源助 ●杉田大内藏 ●百萬兩 ●三河屋甚兵衛 ●槍持甚兵衛 ●出世の大盃 ●婿引出



武勇傳　全二冊

前編目次

●武藏坊辨慶 ●濱松瞽の太鼓 ●伊達政宗阿武隈川の勇戦 ●天王山乗切 ●荒大名 ●關ヶ原の勇士 ●出世の大盃 ●明智左馬介 ●隅田川乗切 ●鬼兒島彌太郎 ●盲人米市 ●明智三羽烏 ●鬼上官清正 ●坂上田村麿 ●後藤又兵衛 ●越前の赤鬼 ●柳川庄八

後編目次

△朝比奈三郎 △天正三勇士 △佐屋川の一番乗 △朝鮮の虎狩 △眞田の入城 △大久保彦左衛門 △清正公の祖父 △安田作兵衛 △吉野落 △味方ヶ原の偵察 △醍醐の花見 △關ヶ原前記小山評定 △旗艦三笠の奮闘 △熱血の勇士栗本特務曹長 △山田長政の遠征 △日露戦争帝國海陸軍の譽 △豪膽の兵士 △廣原兵曹の奮戦 △摩天嶺の十勇士

俠客傳　全一冊

目次

▲幡随院長兵衛 ▲花川戸助六 ▲金看板甚九郎 ▲奴お初 ▲飯岡助五郎 ▲新門辰五郎 ▲清水の次郎長 ▲江戸の相政 ▲小喧嘩五郎吉

大岡裁判　全一冊

目次

◉小間物屋四郎兵衛 ◉夢の浮橋 ◉戀娘昔八丈 ◉雲霧高嶺白浪 ◉藥種屋政談 ◉噓吐彌次郎 ◉迷子札精神極印 ◉村井長庵

東京　博文館　本町

女（ぬの十四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年

圖書雜誌 薄利勉強

東京神田區表神保町

東京堂書店

電話本局 二五五二番
一二三番二四八番
振替 東京口座
二七〇番

發送神速 取扱誠實

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

巖谷小波先生著

再版

お伽十八番

もくじ

魔法の楠
白髯物語
黄金の卵
善玉悪玉
川の少女

五色の羊
蘇生鶏
針の功名
母の行方
賣卜の名人

剃髪城
禍の門
金の生る木
月盜人
羊の角

裸の小人
コケコー王
姫の一言
以上

太田三郎君杉浦非水君
山中古洞君密畫並装幀
四六判洋装頗ぶる優美
極彩色挿畫數葉入

定價金六拾五錢
送料金八錢

新刊

ヲヂサンお伽噺

もくじ

拳骨太郎
牛の鈴
黄金の鳥
地上の天使

極樂園
三郎鶯
法螺旅行
由良太郎

七羽鳥
お伽芝居 牛若丸

太田三郎君杉浦非水君
極彩色鉛附密畫數葉入
並著者最新家庭寫眞入
四六判洋装頗ぶる優美

定價金六拾五錢
送料金八錢

東京市京橋弓町四番地
三立社出版部
振替東京九五五六番
賣捌所…全國書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

この事あつて後十日許り經ちましてから坂本さんは難に遇はれたのでございます。丁度象次郎は土佐へ君公を迎へに參つた留守中でしたが、私は未明に凶報に接しまして直に家來を同氏の寄宿へ走らせました。何んでも坂本さんは短刀を半ば拔しまゝ同志の士と共に最期を遂げ、敵を抱とめた十六歳の僕は眞二つになつて居つた相でございます。この僕は町家の息子で武士になりたいと申して坂本さんの僕となり忠實に仕へて居りましたが誠に立派な最期を遂げました。坂本さんを失ふて象次郎は申すに及ばず私共まで兩手をもがれたやうに思ふたのでございます。併し私はかやうなことに出遇ても餘り恐怖いたしませんでしたのは、年のゆかぬ内から劒の光を見なれ刃に倒れた人も澤山見た所爲でございませう。

▲良人の顏を見る日は稀れ

國事に奔走するものが家を顧りみないのは常の習ひで象次郎なども始終家を外にいたして居ましたから良人の顏を見る日は稀な位でございました。流石の姑も「私は今日で十日も象次郎の顏を見ない」なぞと老の繰言を申しますので、私が「生の母御につれない方は妻にもつれないのでございます。貴女が御不足に思召すだけ、私にも不足があるのです。これも浮世の習ひと諦らめて貴女も私も辛抱いたさうぢやございませんか」と申しますと姑はハヽヽハと打笑つて話を他に轉じたりなぞいたしました。

▲主婦の權は十分に與へられました

一夫一婦論の盛んな今日から考へますと奇異な現象でございませうが、革命時代に指を屈せられる人々はこの規則なぞ問題外と云ふ風でありました。尤もその頃志士が大事を議するのには料理店或は遊廓に會して獻酬の間に相談を纏めなければならぬのでしたから自然かやうな傾になつたのでございませう。私なぞも愛にはもれぬ世の習ひでこの渦卷の中に居りましたけれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ども婦人の心持が唯今とは丸で違つて居りましたから、格別惡感情も起さず、席の暖まる暇もない良人の慰藉として寧ろ歡迎の氣味もあり、又一方には妹の如く憐れんでやらうと云ふ抱負もございましたから多少快感も伴ふて居りました。それに象次郎は家庭の全權を私に與へ、何事があつても直に「奧さんを呼べ――」と申して私に切盛させましたので、時には金の無心を斷る局にも當つて惡者となるだけは困りましたが家の内では天下様でございましたから、少々の事に角目立てられた義理でもなかつたのでございます。

▲世の中に敵はなし

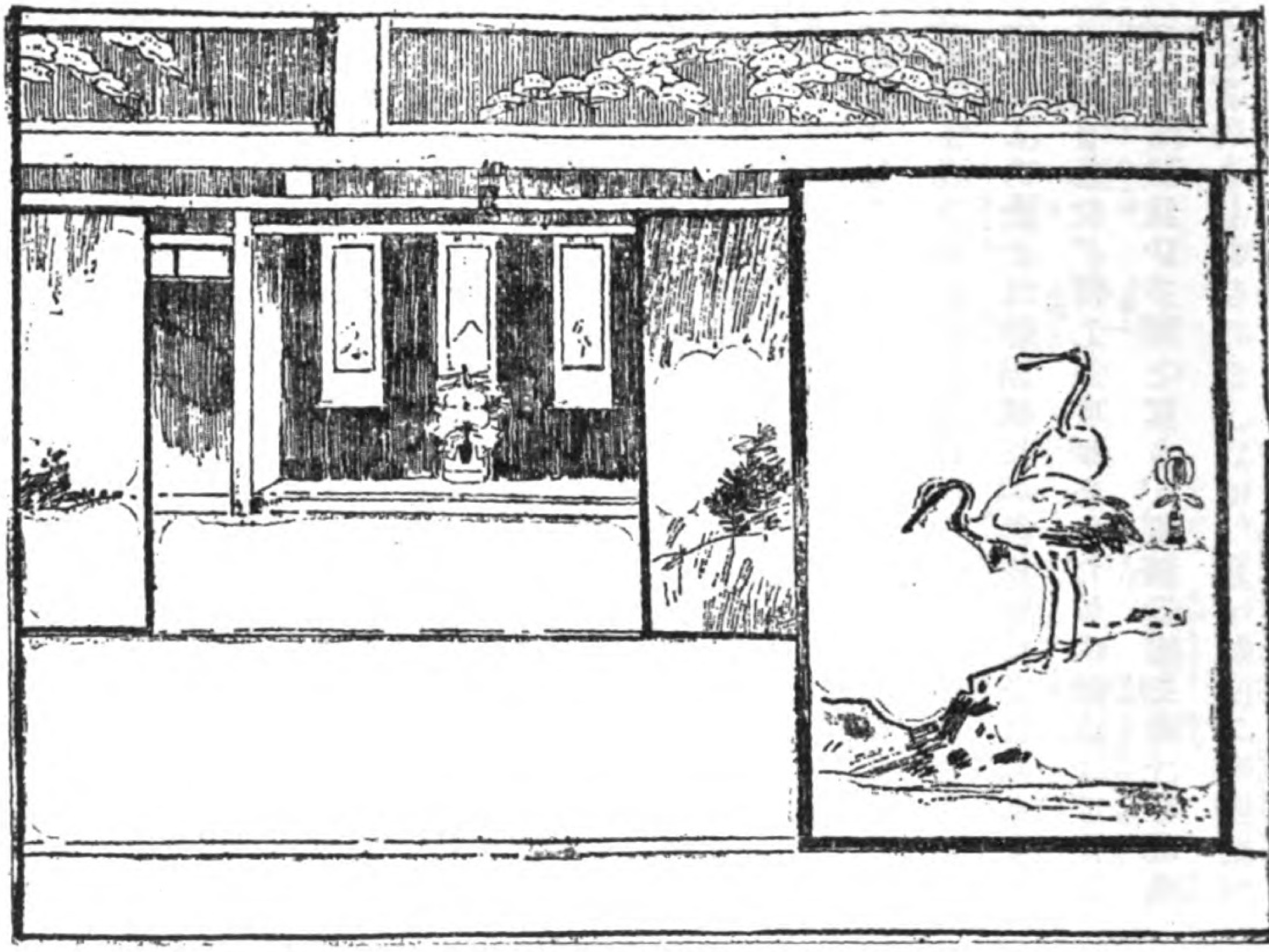
私は實家が不幸に陷つた爲に少女時代に一通りならぬ辛酸を嘗ましたのが藥になつて後藤の家へ參つてからも苦勞を苦勞と感じませんでした。一體私は極子供好で先妻の子は勿論妾腹の子も樂しく育てました。但し一家の内で實母の在る子と無い子が一緒に育ちますとその間に必らず紛紜の起る實例は昔から澤山ございますので一度子を舉げた側室は他へ緣付け子供を私が育てることに定ましたから誠に波風なくまゐりました。而して子供が一人前になりました時、初めてその身の上を明かし實母の嫁せし先も教へ、萬一實母が不幸に陷つた場合には出來るだけ扶助すべき旨をみつしり申しきかせたのでございます。これらの子供達もその實母も今日にいたるまで私方を實家のやうにして出入いたしますが、時には象次郎のありし世を語り合ふのも言はれぬ樂しみでございます。心の持やうで世の中に敵はないものと存じます。

▲病夫の一言は千萬無量

象次郎は一代を幸福に過した人だと存じます。勿論大きい心配も仕盡しましたらうが何でも思ふたことはやり通し、一家の心配と云ふものは少しも知らず、道樂も大抵遺憾なくいたしました。あれで御酒を頂ける口でしたら申分なかつたのでございませう。高輪に居つた時代には「サンザ堅苦しい事にたづさはつたから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新年の床飾



少し氣保養に藝人を呼ばう。落語でも義太夫でも何でも彼でも一藝に秀でた者は必らず一見識を具へて居るから面白い』と申して名ある諸藝人を交る〲邸へ呼び寄せ、それに連れて藝妓も澤山出入いたしましたので、毎日々々それは〱賑やかなものでございました。私は女のことですからお勝手元お構ひなしで澄しても居られず、隨分うるさいこともありましたけれども、獨りでくよ〱いたしても追付ませんから、賑やかなだけも結構と諦らめて、一緒になつて笑ふて暮しました。象次郎が病重りました時、『今死では殘念だ』と申しましたから私は『何が殘念でございます。事業も道樂も仕盡して死ぬのは結構ではございませんか』と申したのでございます。併し象次郎は病中人に向つて、『三十年間に本當の夫婦らしく暮したのは私が病氣づいてから位のもので永い間、彼にも心配をかけて氣の毒だつた』と申したさうですが、私はこの一言が千萬無量の寶を得たより滿足で、三十餘年の苦勞も泡と消る心地がいたしました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△夫妻の情は別

女權の擴張につれて一頃婦人の獨身主義が流行りましたが、私はこの主義の婦人達に會ふ度に、「貴女方は夫婦の情を解しないで獨身主義を主張なさるのは可笑しいではありませんか。獨りで暮せば五月蠅なくつて自分の主義を通せませうが、夫婦の情には一種不思議なところがあり、私のやうな境遇にあつても獨身の方方が知らぬ慰藉もあるものです」と申したのですがマアそんなものでございませう。彼女流演說家で名高かつた故湘煙女史が未だ中島へ嫁かれぬ頃、私の處へまま遊びに參つて、「貴女も奥樣を辭職して私と一緒に社會にお働きなさいませんか」なぞと私に同情半分に言つたこともありましたが私は例の論法で釘をさして置きましたところ女史は結婚後に、「奥樣業に恐れ入りました」と謝しました。併しさすがあれだけの婦人ですから家庭に入ては良い主婦となり、經濟など却々上手なものでございました。

△學藝で人間の階段を設けるのは嫌ひ

湘煙女史は却々如才ない人で貴紳の夫人に交を結ぶことを望んで居ましたが、何家へ往ても御主人が應接して夫人方は大抵學藝ある女史を窮屈に思召して遇はれなかつた相で女史はいつも、「私と交際して下さるのは奥樣ばかりです」と私に愚痴を云ひましたから、「學藝でばかり標準を立てたら私のやうな者は貴女と一言のお話もできぬはづでせうが、實地學の方では少しも貴女に負けぬつもりですから平氣で貴女と御交際して居るのです。一體學藝で人間の階級をつけるのはつまらぬことで憚るにも及ばず誇るにも足らぬと思ひます」と私はよく申したのでございます。實際こんな階段を立てたら交際が窮屈になりませう。

△曲折多き追想は老後の樂しみ

私は昔から貴女のやうに愚痴を云はぬ婦人は珍らし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いとよく人から申されましたが、私が特別に辛抱強いと申す次第ではなく、つまり人間は境遇に應じて自然に忍耐力が起るものでございます。その證據には私なぞも轉々して居つた頃より平らな生活になつてからの方が物事を苦にするやうになつたのでも分ります。先づ人間は一代に様々な目に遇ふのも幸福の一でございませう。私のやうに山坂を越えてまゐつた者が老後の今日これを追想いたしますのは、平坦の道を歩んで來られた方々より樂しみが多いであらうと思はれます。

婦人記者の三分間

私どもでは家庭の事は大體日本流にやつて居りますが、規則立つた事はすべて西洋風を採つて居ります。小兒の衣類なども西洋風にいたし、清潔を旨として、成る丈け經濟になるものを用ゐます。小兒だからと申して無暗に派手な柄のものを用ゐる樣な事は致しません。

小兒の體育に就ては、日に二回づゝ必ず門内の庭園を散歩させ、天氣の好い時には門外に出して、成る丈け脊を伸して歩かせる樣に致します。間食は堅く禁じて居ります。入浴は毎日六時頃に缺かさず致させ、夕食後は睡氣の催すと共に寢させます。

日本の上流社會では、十五六の頃から娘さんを社交界へつれて出る樣な風になつて居りますが、十八九迄は教育を受ける肝腎な時期ですから、斯る時に社交界に出しては、心が派手やかになる上に、何となく落ち着かぬ質になりはしないかと思ひます。

又日本の娘さんはお召物が餘り贅澤ではありますまいか。よくお見受けする當國大使の娘さんなどは、唐縮緬か羅紗の安いのを折角の時の晴れ着にいたして居られますが、日本の少い娘さん方は、縮緬などの花やかな大變高價な御召物を着られます。お嫁入前にも相當に飾る必要はありませうが、英國などでは寧ろ嫁入り後に着飾る風になつて居ります。其方がよくはないかと思ひます。

尚ほ日本の娘さん方に望みたいのは、瑕があつたり、如何はしい藝者などに戯れる樣な方の所へは、先方から何程懇望して來ても堅く拒絶されたいことです。娘さんの方で其れ丈けの氣構さへあれば、男子側の品性は自然と向上して來て、男も幸福なれば、お嫁入りする娘さんも幸福となりませう。（尾崎市長夫人）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人の借金生活

現代生活の眞相と婦人の矛盾

農學博士　横井時敬

△理想と金の衝突

花は欲しいが、枝が高くて手が屆かぬ、理想はあつても踏臺にする金がないといふのが現代の有樣であらう。髪の薄い女がタボで大庇を掛出しに飾へる體の矛盾がある。此れは準備される筈の富の整理、若くは金融の準備がまだ整はぬうちに、西歐文明を大體吸收して了つたために起つた事で、一國文明の進歩及び其れに附隨する生活の發展上、必然の現象である。要するに生活難が現代生活の全部である。

△生活難と女子

男子の交際費が澤山に係る樣になつた處へ、又女子の活動費が一家の負擔に加はつて來た。而も其の活動に要する服裝などの點を見ると、男子よりも女子の方が比較的澤山に費えるのである。男子の金縁眼鏡はダイヤ入の指輪のやうに千圓も二千圓もする物ではない。そこで、此の增加した費用は何に由つて償はれるかといふ問題が起つて來る。

元來交際のために、巨額の財産を棒に振るのは西歐にも珍らしからぬ現象で、交際道樂の女房を持つた爲に、亭主の財産が泡になつたなどいふことはよく聞く話である。已に富と文明とが平均されてゐる國に於て然うであるから、況して此の兩者の一致しない我國で如何にして此の困難に打勝つべきかは、甚だ不安な問題である。

△良人の瀆職と妻の責任

斯ういふと社交界に働いてゐる婦人だけを指す樣に聞えるが、決して然うではない。軍人は軍人同士、學者は學者同士、やれ料理の研究會だの、慈善演藝會だのと其れ相應な所に引張り出される。昔の樣に良人の友

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

達の妻君を一生涯知らずに通すなどといふ事は出來なくなつた。そして出歩くとなると、婦人は男子の二倍費用が係る。又交際以外の方面を見ても一體に一家の經費に婦人の費用が多くなつたのは爭はれぬ事實である。

斯うして生活難、亦生活難で追はれてゐても、妻は依然妻で、活動したからと言つて一文の收入をも得る譯ではないから夫の金融は知らず識ず極端な處に退込まれ、遂に道德の埒外に迄も外れて、公職を瀆し、自己を賣る樣になる例は此れ迄も幾つもあつた。而してこうなるに就いては妻の責任が甚だ重い譯で、謂はゞ妻も同罪である。

生活難のために例へ此れ丈のボロを出さないまでも苦しい餘りに現在の收入を超えて蓄財に手を掛ける。そして自分の一生は好い程に切上げ得るか知れないが殘された子供は今より一層難しかるべき時代に立つて無資產で生活せねばならぬ。少くとも親達程の玄關は張れなくなつて來る。

△世帶になれぬ女學生

扨て將來一家の經濟を預つて行く女學生の頭腦はどうであるかと言ふに、近頃實際的敎育案が騷がれて、家政手藝等と實行されてゐるが、兎角理窟が勝つた敎室の家政、講堂の手藝で、所帶でも持たせると、中流以上の家庭から出た女學生の奥樣は、差當り風呂敷を提げて、八百屋の店に立つのが恥かしく、三十五圓の良人の給料で、女中を獨り置いて貰はねば勤まらぬのが多い。三十五圓の金の中で口のついた給料のついた女中を置く家政學は先づ餘り實用向でない。

要するに今の女學生の多くは、決して世話女房の資格はない。それでは一生お絹物纏で何にもせずお妾然として暮してゐられるかと言ふに、今の學士其他高等の學校出身者の給料は其れを許さない。又其れが出來ねば一生獨身で暮されるかと言ふと、今の世路辛い世に一生お絹物纏みで育殺しにするほどの親や兄弟は少ない。あつたにしても女子が獨身を健全に貫く事は絕

松島霧楽島の日の出



對に難しい。斯うなると厭應なく嫁入せねばならぬが行つて見ると、理想と良人の收入とが衝突する。其れを押して通さうとすれば、破廉恥な行爲をさせる羽目になるであらう。

現在我國の男子は生活難が激しいため、妻を迎へ得る年齢が次第に遲くなつて來る。而も女子の方には此れに對する修養として學校を出て嫁入する迄の二三年間、嫁入の看板にする茶の湯や、琴や、生花に丹精するだけのが多い樣である。此等のもの〻女子の嗜みとして必要であるのは勿論だが、當面の問題は其れよりも下女を置かぬ工夫でもして貰ふ方が、娶る男子の爲には餘程嬉しいだらうと思ふ。無論誰も金のある相手を求めて居のであらうが、世の中はさうは行かない。

△汽車に一等客の多い日本

然るに此生活難と關係の深い金錢が、漸次其の價値を削がれて行きつ〻あるのに私は驚く。明治十年頃だと、一萬圓の財産があれば身代と言ひ得たのが、三十

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年頃になつては少くとも二三萬なくては身代と言へぬやうになり、今では十萬なくては些と財産家とは言ひかねる程になつて來た。此勢で進むと、十年の後には、四五十萬圓の金がなくては、假にも身代と言へぬ樣になるであらう。

而も此の傾向に對する現代の人の態度は、心づいてゐながら、寧ろ反抗的に出て、財布の底は空でも、可成あるやうに力めて見せてゐる。獨逸では汽車の一等客は極めて稀で、「一等客は馬鹿と貴族と亞米利加人」と言ひ、英國人は「亞米利加の馬鹿がよく一等に乘る」と言つてゐる。それで我國の一等客を見ると、此人がと思ふ程で、恥かしげもなく得意になつて敷布に儼然と構へてゐるのが多い。

△柄にもない亞米利加の眞似

そこで我國の西洋風はすべて歐羅巴から來てゐるかと言ふと、私は寧ろ交通の尤も繁い、亞米利加から輸入されたものであると思ふ。服裝に於て殊に然うであるやうだ。

處が米國は新開國で、どちらかと言へば歐洲諸國に比べて一般に趣味が低い。氣品がない、矢鱈に金目な物を好いとし、且つ財源が豐かで、金を得るのに容易であるから、相場師風な馬鹿贅澤をする傾向があつて金を取る方法も隨分卑劣な態度迄やつてゐると言ふ風である。此等を思ひ合はせると、我國現時の服裝などは、何れかと言へば、社交上必要以上に高襟で、金もない國の癖に、柄にもない猿眞似をしてゐるのである。

△新夫婦の別居

次に現代生活を精神的方面から覗いて見ると、其の中心をなすものは新舊思想の衝突である。此の事に就いて、近頃或る人々は新夫婦は別居するがよいと言ひ又或る夫人などは「私は子供の新しい頭に對して舊思想で拘束を加へるのを怖れて、室を別々にしてゐるが非常に平和に面白く行く」と言ふ事を話してゐた。然しこれは要するに我國在來の家族制の破壞であつて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

引いては其の家族制の賜物である親孝行など言ふ道念も搔消されて了ふことになる。息子に娶つた嫁が、結婚匆々別居したのでは、嫁と兩親はいつ迄立つても、冷たい他人で喧嘩もしない代り、愛の影を結ぶ事は出來ぬ。而も世間の嫁の良人に對する感化の反應は非常なもので、次第に良人の方でも同化されて來ると、もう引いた血筋は爭はれぬなど言ふ語の効力は無くなつてしまふ。

△家庭の喧嘩は愛の泉

一緒に居れば、時々衝突するのは當然で、其の衝突の間に互に深い理解に到達し、遂に親しみと愛を得るのである。此の意味で私は親子喧嘩兄弟喧嘩を避け樣とするのは人生の大なる誤解であると思ふ。子供の部屋を別にしてゐて、飯時にだけ顔を見てゐれば、喧嘩はないかも知れぬ。併しこれは他人が時々顔を見合つてゐる位ゐで喧嘩せぬのと同じである。昔の殿樣生活は廣い屋敷内に別居してゐて、時々顔を見合せる位ゐであつたから、至極平和ではあつたが、沒交渉でゐるため眞の愛は起らない。兄弟だと言はれたから兄弟であると思ふてゐるのであつた。隨て、スワ戰とか世嗣問題とかが起ると、愛がないから隨分擾動が起つた。是れ即ち別居制の餘り感心出來ぬ一例である。

それに親の叱言に堪へ得ぬ樣な子供が、此れから先冷酷な社會に出でゝ其の迫害――謂はゞ叱言に堪へ得る筈はない。親子喧嘩をし、叱言も言ふ間に教育が出來、從つて世に出て奮鬪する力も養はれるのである。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

修身談

女學生の光榮と收穫

京都高等女學校長　磯江潤

△收穫の時期

都會にありては四季の變化もさ程目立たぬが足一たび郊外に踏み出せば、朝まだきより少女が三々五々稲を踏みて工場に通ふもあれば、山姫の錦を織り出せる隙間より、山樵が柴を負ふて下り來るもあり、農夫が黄金色に熟せる稻を刈り束ぬるもありて、何れも絶好の詩の材料である、けれども若しも自分が其の位置に立代つて見たならば、隨分と骨の折れる仕事であらうではあるものゝ山樵や農夫はこの收穫の時期を過ごしては、年内に再び其の機會は無いのである、それゆゑに苦しいなどゝいつては居られない、只一心不亂に働くのみである、それでもこれが大衆働きて東京は愚か全國の人の日常需要する薪炭や飯米が獲られるのである。

△道理に外れた收入は禍の基

農夫が粒々辛苦するのは收穫が目的であるが、それでも偶には凶年といふものがあつて、骨折り損の草臥儲けとなり終ることもある、其外他の商賣等に於ても猶更見込違ひで意外な損耗をすることがある、畢竟安全といふことは豫期されぬものである、況して人の寵遇を望み、僥倖を目的にするなどは實に危險の至りである。

昔、支那の鄭の國に列子といふ人があッた、その性質が剛直であッた爲めに、王樣の御氣には召さなかッた、侍臣の中にも又賢き人があッて列子を譽め湛へたから、王樣も成程と合點せられて、更に高祿を與へようと仰せられた、列子の妻は大喜びで、早く御受をなさいと云ッた、處が、列子は頭を掉ッて、今王樣が侍臣の薦めによつて私に高祿を賜はるども、後に其人が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雪の宮居



去り、讒人が出來れば、祿を奪はれて耻を掻くかも知れぬから、受けないといッた。流石に賢人の言であるこれと似たる噺が日本にもある、或時北條時頼が、靑砥藤綱に向ッて今日夢を見たから汝に祿を增して遣るといはれた、藤綱は忝くは存じますが、後日夢によつてまた滅されぬとも限りませぬから、御免を蒙りますといッたさうである。其他當今でも斯樣な人がある某會社の重役で內閣の役人に爲れといふ內命があッても、受け無かッた人もあッた。以上の人達は先見の明があるから辭退したのであるが、大抵の人はこの香餌に罹かりて、後悔するのだ、啻に增給仕官のみではない、無暗みに手紙や物品の遣取やら味さうな人の言葉には決して乘ッてはならぬ、氣を附けないと後に至りて非常な禍に罹ることが世間に澤山ある。

△智識の收入

其處へゆくと有益にして無害なるは智識の收入である、併し似て非なる人の入れ智慧を信じて、事を過つ

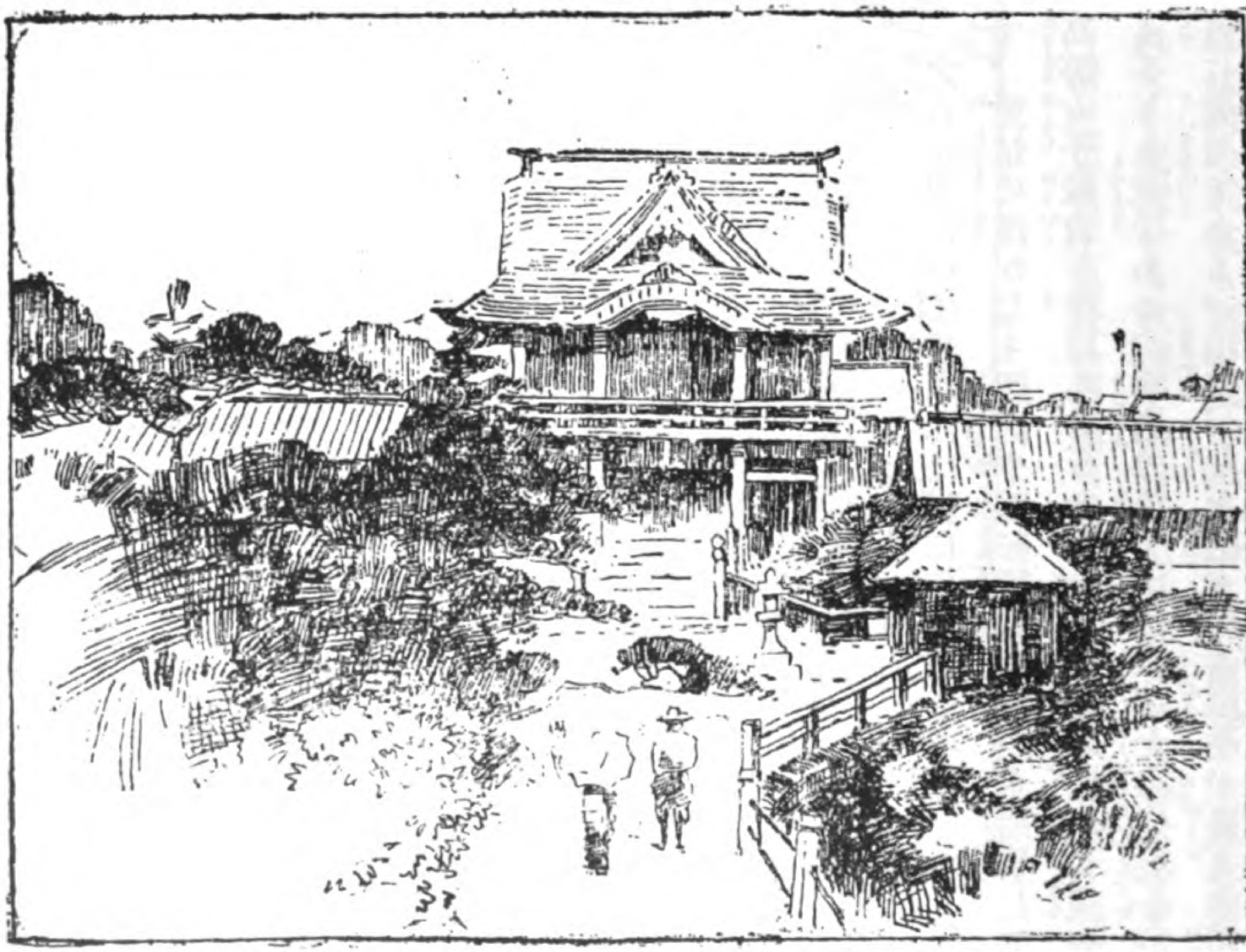
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

例は偶にはあらうが、學術上の智識を吸收するのは一番安全で且つ有益である、そして授ける人も尊敬を受けて幸である、西洋の讀本にも智識は井水の如く、汲めば汲むほどよくなる、汲まざれば却て腐れてしまうといッてある。

△如何にせばよく智識を吸收し得るか

二物は同時に同所を占有することを得ずとは物理學の原則である、蓋し精神も此の作用を免れぬものであらう、試に兩手を働かして、同時に四角の形と圓き形とを書ふと思ふても、到底書き得られない如く、他の事を考へつゝ講義を聽いても決して記憶することは出來ぬ、瞬間に腦力を轉々して使用するから、精神は非常に疲勞して、一も取らず二も取らず、詮する處は只精神の疲勞を覺るまでゝある、故に智識を受くるときは虛心平氣でなければならぬ換言すれば思無邪が一番大切である。

次に大切なるは時間を有効に使用することである、



龜井戶天神社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

學校の授業は九時に始まるから、以前よりも一時間位朝寢しても宜しいなどゝ、氣を弛めてはならぬ、家庭に於ては母親より命せられた用事の他に、毎日三時間位の豫修、復習の時間は十分ある筈だ、それは無駄断を止せばよろしい。この無駄断は多くは人の噂や影口やらで、誰でも話した後で考て見れば實に無益のことが多い、其癖時間はサッサと立去つて仕舞ふのだ。毎日三時間宛餘分に勉強すれば四十年には十年の壽命を延ばす事になる。といッたドッドリッヂの如き人もありますが、成程毎日九時間宛四十年の間働くのと毎日十二時間宛三十年の間働くのと等しい譯である。

△工女の働く時間と憐れなる境遇

皆さんは學校で五時間の授業を受け豫習復習に三時間、往復の路で一時間費やせば、九時間になるから、家庭の手傳は出來ぬと思ふが、工女の働く時間は官邊の工場では十二時間を至當としてあるが、製絲工場では十七時間も働かして居る、しかも惡い空氣の充滿して居る機械の震動の劇しき室内で働くのである、斯樣にいふと、それは最も不仕合なる女子で、世間にさう澤山はあるまいと思ふだろうが、どうして十四歳以下の女子でさへ全國の工場には五萬人から居る、實に我國の輸出貿易額總計二億數千萬圓中の六七割はこの纎弱なる女工の手によッて造らるゝといふことだ、それで一人がどの位給料を貰ふかといへば、先づ食費を差引けば一ケ月に四五圓の金が手に入る勘定だけれども芝居を見るとか買喰をするとか、他愛もなく費つて仕舞ふ、であるからつまり工女の收穫は健康を害し、品格を墜し、苦痛を續けて働いて居るのであるさうだ。

△女學生の光榮と收穫

之れに引かへて皆さんは實に仕合なる身分であります、愛情の温かなる親許や親類縁者の許から通學して高等女子教育を受けらるゝのだから、他の人から羨やまるゝも尤である、卒業の後といはず、女學生現在が既に光榮である、山樵の柴を擔ぎたる風や、農夫の稻

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

刈する姿が美しき活畫に見ゆるならば、女學生は實に天女の如くに、工女の目に映ずるのでありませう、併し光景のみがよくても、肝腎の收穫が無くては、自分



には何の利益も無い譯であるから、前述の主意を御忘れなく充實せる收穫を得られんことを呉々も望みます。

（右は京華高等女學校長磯江潤氏の講堂修身談の概要なり）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人を翫ぶ機關

文學博士　建部遯吾

△翫弄されてゐる今の婦人

近來我國では婦人を飜弄する傾向が甚だしくなつて來て、それが世界の何の國よりも一層激しいやうに思ふ。現今婦人に關する問題であると言へば、無暗に擔ぎ上げ馬鹿騷ぎをする。聞く處に由ると近來「婦人と何々」と題した書物の賣行の好い事は驚くべき程であると言ふが、斯の如きは何に出るか。之は大體二樣の場合があると私は思ふ。即ち第一婦人問題が社會問題として重く見られ、隨て一般に廣く研究される場合と第二は單に男子の「婦人」に對する一種の好奇心――眞面目を缺ぐ興味中心から來る場合である。現今多くの人々が頻に婦人問題に就いて、色々と討議してゐるが、眞個に一の見識を持ち、同情を持つて、根本的に研究してゐると思はれるのは稀で、寧ろ興味中心……から來てゐる。即ち一種の興行物でも擔ぎ込む積りでゐるらしいのが多い。隨て其等の人々に由つて發表される意見は、眞のお座成りで、演說でも賴まれると、迷惑ながら、唯常識を一夜漬にした、當り障りのない處でお茶を濁して置く。それで御馳走にでも預つて、面白い世間話でも聞いて歩けば、此れ程おもしろい遊山は無い譯で、而も其れを眞面目に謹聽してゐる婦人こそ好い面の皮、醒めた眼で見ると氣の毒に堪へぬ譯である。そしてこれに雷同しないだけの自信ある婦人が何れ丈あらう。

△婦人に格好なお茶受

新聞紙の傳へる處に據ると、先程女子大學で開かれた女子教育の講話會に、西園寺侯、大隈伯、三輪田元道等の諸氏が集まつて、席上「女子の結婚期は幾歲が最も適當なりや」と言ふ問題が提案されたが、其結果は此等の名士や具眼者を待つ迄もなく、其處らの誰でもが言ひさうな意見が發表されたに過ぎない、何等研

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

究的な處のない平凡な茶話會に終つたと言ふ。

私は日本女子大學の基礎は、今更社會に信用篤い西園寺や大隈の諸氏を招待して茶話會を開き、其れで社會に對する威信を維持せねばならぬ程に薄弱なものではなからうと思ふ。斯う考へて來ると、我國女子の最高學府で開かれた講話會が、何等充實した研究を見ぬ一種の茶話會に終つた責任の大部分は、招待された諸氏に歸し、殊に直裁に言へば其主賓である西園寺侯、大隈伯等の責任に歸する譯であるとも言へる。

偖て西園寺さんなり大隈さんなり、いづれも我國凡ての社會問題に對して、最も有力な意見を持つてゐる世界的代表的人物である。然るに其等の代表的人物の集會が他愛のない茶話會に終つたと言ふ現象は、一面からいへば、婦人が格好なお茶受にされてゐるとも言ひ得られる。

これは女子大學の講話會ばかりでなく、今の社會一體が然うである。かの東京パック、サンデーを讀む紳士、降つてはまだ國許の母親の臍繰金を強請つて贅澤してゐる青年學生までが、爭ふて此種の印刷物を買ふ其心根を探つて見たら、隨分戰慄すべき物が潜んでゐるかも知れぬ。近頃須田町や上野や、電車の乘換場で或種の雜誌を賣つてゐる呼聲に、「エ、此は貴婦人社會の暗黒面を赤裸々に書立てましたる照魔鏡、讀んで興味の深い面白い〇〇が一部幾錢」とやつて居る。是が現社會の婦人問題に對する眞底の聲であると思へば、大した間違はあるまい。

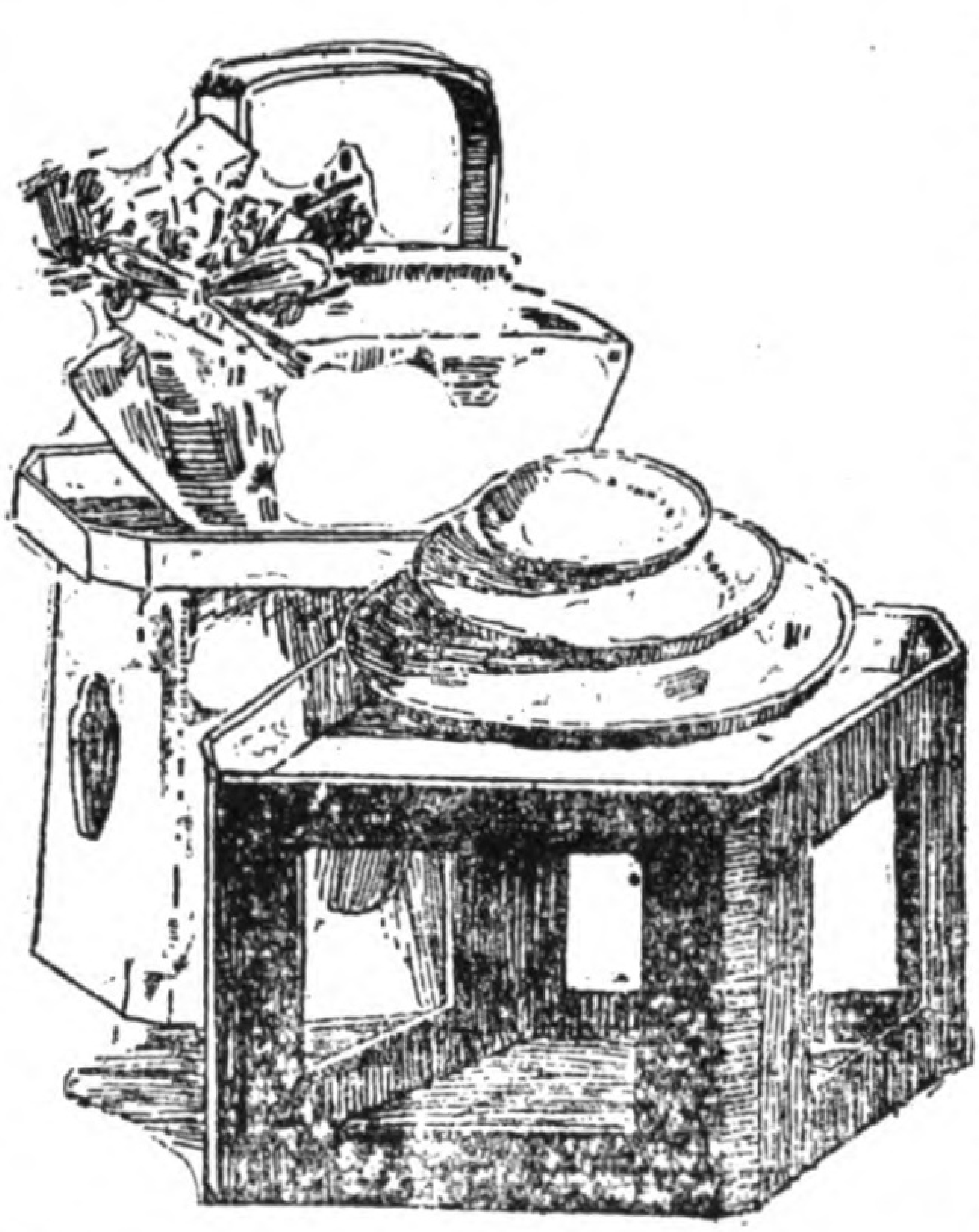
△舞踏會の規程

然し婦人に對する此の現象は、我國ばかりではなく世界一體が斯うした惡弊を免れないので、歐米諸國では、婦人に取つては最も華かな晴の場である夜會、舞踏會の如きも、會の規程は隨分婦人を馬鹿にしたもので、如何なる場合でも女子から舞踏の相手を挑む事は出來ないから、若し集つた男子の中で、自分を相手にして呉れぬ婦人は、此上ない屈辱を感じながら、徹宵無聊で通して、曉に及んで漸と歸つて行かねばなら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ない。婦人を主として開いた會合に、引張出して置きながら、斯の如き侮辱を與ふのは隨分ひどい話である此れは極端な一例であるが、倘ほ他に短艇競漕の會で某々夫人等が其の賞品授與者になつた事なども、忌憚なく言へば形式上奉つてゐるやうに見えて、而かも一面婦人の虛榮心を巧に利用して、巧に社會の好奇心に投じた一種の侮辱であると考へる。芳町藝妓が歌舞伎座の總見に、改名披露をした役者に緞帳を贈つて、役者の人氣を高める道具になつたのと然して差はないのである。

斯く藝妓風情のする役廻りを僅に上品にさせふ貰つて、婦人の社會的地位が高められたとする、今の婦人の盲目的な自負心の傾向は、實に慨かはしい事である



而も此現象は幾らか新教育を受け、新思想を持つた婦人に多いので、新代の婦人は特に之に對する自己の醒めた覺悟が必要であると思ふ。

△唯自尊自重する外はない

斯の如き狂亂の中に在る婦人の危機に際して現代の婦人は如何なる態度を取つて好いかと言ふに、唯醒めた目で自分の周圍を見ながら自重するより外はない。是を形式から言へば、必要のない事には決して出しやばるなと言つて置きたい。即ち地味な自重をするのである。（談話筆記）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帶を解きて眠らざりし私の勉學時代

東京女醫學校長　鷲山彌生

△十七歳にして意を決す

私は酒屋へ三里豆腐屋へ二里と云ふ遠州掛川在肱方村の醫師の家に生れ、村の小學校へ通ふたのでございますが、其頃理科の教科書は物理楷梯の人身窮理なぞで實驗教授はありませんが割合に程度が高い方でした十四歳の時小學全科が卒業いたして後は漢籍を少しづつ學ぶのと裁縫機織なぞが日課でございました。私は八人の同胞がありまして、兄兩人は東京に遊學いたし姉は緣付き家には妹が五人居りましたので私は母の片腕となつて幼妹達の世話をいたして居りました。こんな風で普通のお嫁さんになれば宜い身の上であつたのですが、丁度女子教育論が勃興した時で片田舍までこの熱がはびこりましたから元來生意氣な私の頭腦は非常に興奮いたし遊學の野心勃勃として禁じ難く日夜空想に耽つて居りましたが、十七歳の時遂に決心の臍を堅めました。かう申すと大層豪かつたやうですがつまり調子に乘つたのでございませう。

△燈を掩ふて讀書

私は最始師範學校へ入らうかと考へましたが、平生父の許へ來る患者に同情を寄せて居れました爲か醫學に趣味を持やうになり專らこの方の豫備を心掛け、父母にも志を打明けましたところ、父母は大反對で一言の許に刎付られて了いました。加之鬼も十七でおちこちから緣談を持込むと云ふ難局に當りましたから、私の望は益々危くなつたのでございます。父母は私の意志を飜へさせるために書見を嚴禁しましたので私は毎夜父母の寢鎮まるを待ち行燈へ衣服を掛て家に有合せの理化生理なぞの書物を手當り次第忍び讀して居りました、かくして十九歳まで結婚問題に反抗して不孝を

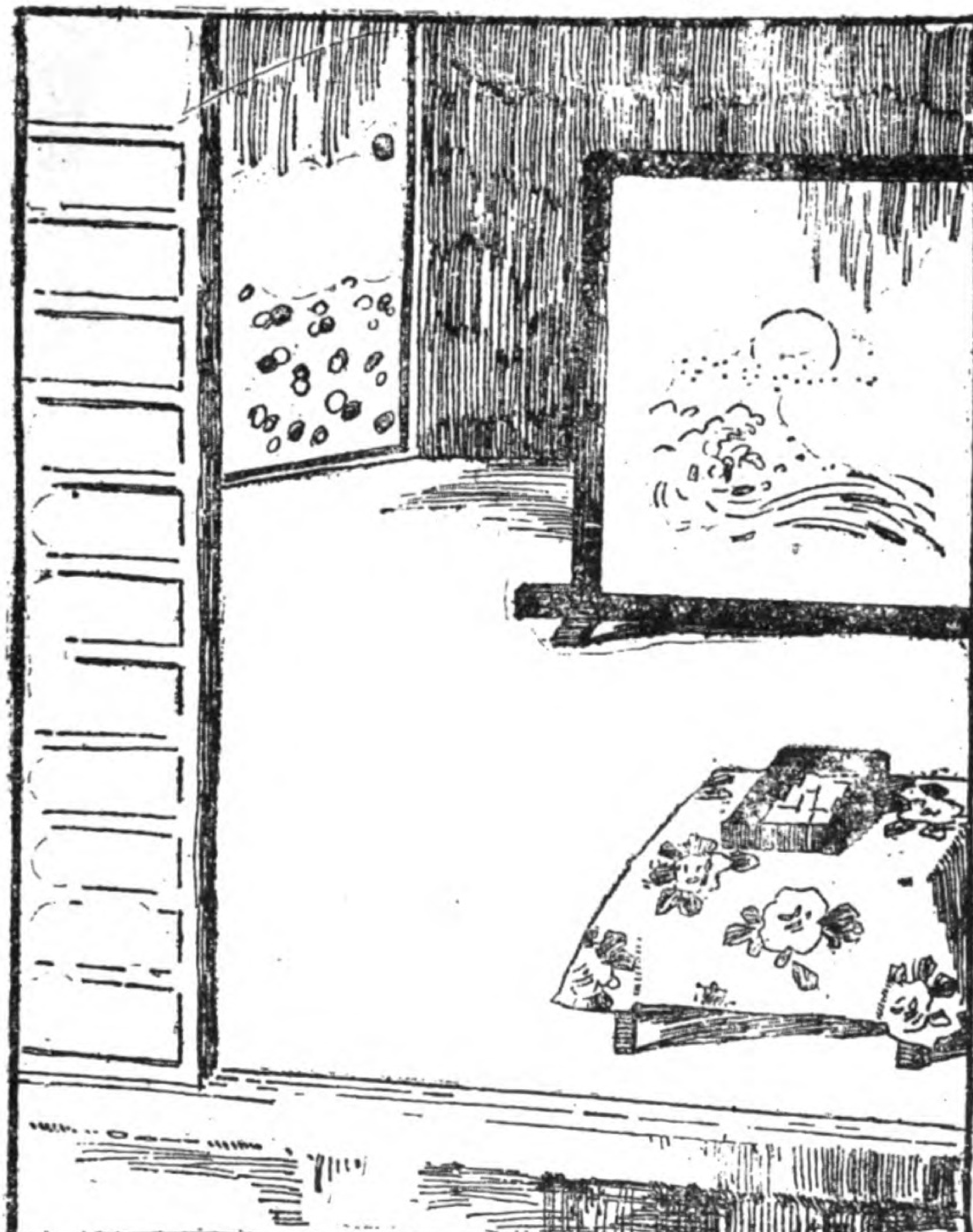
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

、たしつゝけましたが兩親は遂にあきらめをつけて東京へ遊學させることに定めましたのは明治二十二年の春でございました出立の際は親戚知己が涙を以て見送りましたのを私はこの目出度門出に何を悲しむのであらうと可笑しく思ひました。

▲小錦と聲がかかる

私は兄と共に本鄕元富士町の素人下宿へ寄寓いたして濟生學舍へ通學することになりましたが、其頃は女子師範學校、明治女學校その他、一二の女學校位のもので女學生珍らしい時代でありました上にポンチ繪じみた風采で通學する私は尙更人の目を引き、ソラ又彼の女學生が通ると云ふ噂きは毎日通ひ路の軒端から漏れました。當時醫學の研究所は大學の他は濟生學舍だけでしたから生徒は前期が五百人後期が三百人位その內婦人は十五人位參りました。別に入學の規則なぞも無いので學力の不平

名刺受



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

均は實に甚しく年齢も十四から四十位凡てが不秩序の寄合でしたから講堂は喧噪極まるものでした。而して一講堂へ數百人の生徒が犇々と詰込むので机は密接して通路を餘さず、前側へ出やうとするには土足で他生の机を踏越えなければならぬと云ふ始末でございますかやうな場所へ十五人の少女が入込むのですから所謂叢中の紅一點で千兩役者が花道へ出たやうに聲が掛り栗蟲の如く肥つて居つた私なぞはヨー小錦と囃されました。素より倫理上の取締があるではなし危險なものでございましたけれどもその時分から男學生に抱負の大きい人間が多いので女學生の毛色が變つて居つたのみで面倒な問題は少しも起らず誠に安全でございました。

床飾



▲帯を解て眠りしことなし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兄と私とは同じ時に前期の修業をいたしたのですが普通學を修めた兄と違つて私の骨の折れること一通りでありませんでした。濟生學舍の講義は午前六時乃至七時に始まり冬は度々巡査に誰何されましたがこの早出と復習の夜更しで殆ど帯を解いて眠つたことは無く兄に無茶な勉强を笑われた位で隨分不攝生な眞似をいたしましたけれども血氣の一心で無事に前期試驗に及第いたしました。

▲實地講習の困難

前期の間は難かしいと申したところで眞面目に勉强さへいたせば宜しいのですが、後期の實地講習になりますと多數の男生に立交るために餘程困難を感じました。解剖室へ入ります際なぞは勇氣を鼓して男生の中に入込みませんと研究が出來ませんし、繃帶卷の稽古なぞも下肢部の方を男生と實習いたし合のが頗ぶる難儀なものでありました。

▲實物に接して興味を感ず

後期試驗は兄に一年後れて及第いたしました。其頃郷里の父は三ヶ所に出張所を持て居りましたので私はその中の一ヶ所へ呼ばれ直に實物を取扱ひましたが患者に接しますと初めに心配したのに引かへ却つて活氣を生じ案外好結果を奏しました且田舍醫者の習ひで種々な科を一手に引受くるために多方面の經驗を得られました。

▲女醫學校の創立當時の苦心

女醫學校は自分が學位を得て後に起したい考へでありまして東京の開業當時は宅の女子藥局生を濟生學舍へ通はして置きましたところ、其頃同學舍の風儀が著しく亂れ女生をねらふ不良學生が多く宅の藥局生なぞも度々追跡されましたので據ろなく宅で敎育することにいたしましたが、其内追々聞傳へて生徒が寄りいつしか小さい學校樣のものになつたのでございます。併

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し創立當時は或競爭者が陰に陽に迫害を試み、生徒が三十人位になりますと種々誘惑の手段を廻らして、半員位連てゆくと云ふ風でしたから今日に至るまでには却の々苦心をいたしました。

▲職業ある婦人は育兒に便あり

主婦となつて一の職業に從事するのは容易ならぬことでせうが、人間は必要に應ずるだけの力が出るものと見えまして職業ある主婦が却つて家庭をよく治むる實例は度々見るところでございます。私なぞもかやうな繁務を執る間に良人や子に對する務を餘り膽却に感じません。一槪には申されませんが職業ある主婦は子を育つるに餘程便宜があらうと存じます。徹頭徹尾良人の腕に縋つて衣食する母親でも勿論母親たる無形の權はありませうが有形の權なき母親は稍もすれば卑屈な感化を子に與へるもので、私は他家へ參つてお父樣に内緒でと子供に囁く母親を見る度に切にこの感を深くいたすのでございます。倘遺憾に存することは折角専門の學藝を修めそれを活用し得る人に嫁せし婦人が往々良人の地位あるに安じてこの寶を放擲して了ふことでございます。假令良人の意嚮その他の事情に依り活用の機會を得られぬにしても學び得たことを忘失せぬだけの修養は心掛次第で出來さうなものと存じますこの心掛もなく良人の地位に寄掛つて居る者が一朝良人に死別するとか其他の不幸に遭遇した場合に遽かに昔取つた杵柄を振はうといたしても却々力の出ないものでございます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



初春の令孃

玉椿

東天紅告ぐる初鷄の聲に初日はほの〴〵と明けはなれて、こゝに私は光輝ある十九の新春を迎へた。

軒端の雀のこゑ〴〵さへ、君が太平の新春を壽ぎ祝ふかのやう思ひなされて、嬉しく、若水汲める手桶にはつたしめ繩も、こゝちよく、嬉しきものゝ一つ。

やはらかいお湯に、顔洗ひ、化粧して、新衣にかへて、晴れのお膳にむかふ。

こゝ十疊の座敷寶來の軸かゝる床の間には、勢よき松竹梅、姉樣の御手ぎわの偲ばれて、お鏡餅にならぶ、のしの上の龜の子の置物さへ、新らしく見える。

上座に父樣、それから母樣、姉樣、私といふ順に、遠く海外に居ます、兄樣には、お陰膳がすゑてある。

伯林で、新年を迎へるとかの御便りであつたから、今頃は、例の日本婆さんの家か、日本俱樂部で、日本食でも遊ばしていらしやるだらう、など、樂しく語らひながら、和氣あい〳〵たる内におとそ祝ひおさめれば、早々との年賀狀十八通、内六通は私の處へ、美しい繪葉書で、嬉しき友の初だより、多代さんから、四日にかるた會しますからとて、お招き下さる。

玄關に出てみれば、盃栽の福壽草かざりし側の名刺受には、早くも知名の士、數葉の名札さへ、入れてあつた。

走せゆく車のわだちの響、晴れ着きかざりて、にこやかに、語らひながらゆく、少女子の下駄の鈴の音、追羽子の音ものどかに、遠く獅子の太鼓の音もきこえる。

女が早々からゆくのもと、妙な處で遠慮して、初ずりの新聞や雜誌をみる。みな、どれも、これも豐かなる新年の記事ばかりでうれしい。

午後から、門を入る車の音も繁くなつたが、お友達は、どなたもお見えにならなかつた。

こうして太平の元旦は靜かにくらした。

二日

朝早く、目黒會社から出た、エビスビールの初荷の車だしのはやしをきく。

うららかな暖かい日である。朝の内にお書きぞめして、友々へお年始

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

狀三十五通かく。殘りは明日に、のこして。私は年賀狀を、暮の內にかくのは、大きらひ、新年を祝ひ納めてから、新年の新筆とりて、かくのが大好きなので、書初めの後にかいた。

午後から、藤岡の叔母樣のお家へ、御祝詞にゆく。

藤納戶地、紋羽二重に唐織丸帶しめて。

ゴム輪の車、自動車、馬車ゆきかふ都大路、羽根追ふ少女、毬遊しの後につきゆく子供達、新衣かざり、ゆく人々の面ざし、皆嬉しさうに種々思ひめぐらす內、車はいつしかお玄關に止まつた。ハツト胸をどらして訪づれて通されたのは、

幽谷の幀ある、カーペツト敷きつめたる和洋折衷の應接間、椅子にまつまも暫し、絹ずれのお音さやかにして、襖の內より出られし御樣は、

今年けふは江戶紫に、雪中の椿のぬひある、おふり袖、もえる樣な緋のお帶、立矢の字にして、めづらしいおちごわ、しばらく見ない間にする分大きくおなり遊ばして、色も香も高き其花の姿は、一春まだ淺き十四とは見えない位、叔母樣によう似たものごし。跡取りのたゞ一人の姬君として、未來の伯爵家の夫人として、恥づる事なく、自然に備はる其品格。ほんとに嬉しいことゝ思ふ。

おはなしする內に、黑紋付に、白無垢のうつりよく、こげ茶色おみ帶、一しほ床しき叔母樣もお見えになる。

お正月の飾おごそかなお座敷で、天盃でおとそ頂き、公卿風のお雛宴祝つて後、御樣のお居間、人形や造花、御秘藏の品々美々しく飾つた六疊と八疊の間で、おつきの妹と、めかくしや、かるたのお相手する。

風がないから羽根をとの御樣のお望み、三人だちの重い羽子板手にして、芝生に下りたつて、暫し幼ない昔にかへつてつく。ふり袖姿優にやさしき姬樣姿の御樣が、羽子板もつて、形面白う、しもよけした松の木の下、芝生の上に立たれた樣は、ほんとに美しい繪卷ものでも見るかのやうな心もちがした。

短き日あしの早くもかたむきて、何處の間も電燈輝くやうになつては、表の家扶はじめ、召使の人々、お相手で、百人一首する。なりは大きくも、まだ無邪氣な御樣は、キヤツ〳〵笑つて、大よろこび、大得意。かるたはお世辭ならねどよくとられる。しかし、私なんか、下の句の、讀みはじめでは、なんだか間がぬけたやうで、ちつとも取れない。

引とめらるゝを辭して、送りの車に門を出づれば、夜風サツト吹き渡り、門の松竹にあたる音ざわ〳〵と、心地よく、常なら靜かな、屋敷町の家々にさへ、かすかにもるゝかるたの聲、笑ひの聲、夜の正月は心地よいものだ。

三日

門松たてゝ屠蘇くみかはし、祝つてけふで三日、早いものだ。お友達からの年始狀けふは十二通。

十時ごろ、かみ結ひのお朝が來る。

花恥しき姉樣が、明けて廿二の春まだあさき、來ん七草の華燭の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

奥に、先方よりの望みにて結はれる丸まげの、其下結ひ、ほゝ、櫻色にそめて、はづかしげに、うつむかれし姉樣の面ざし、お胸の中には、どんな希望の光がもえて居るであらうか。

赤い手柄大きいおまげ。

「まあ姉樣、ほんとによくお似合ひ遊ばしてよ。」

「オホヽヽヽなんだか重くつて。」

「お孃樣一層おうつくしくおなり遊ばしました。」とお朝はながめる。

其内に、母樣もおいでになつて、

「ほんとによく似あふ、」とて、前から後から、嬉しさうに見入つていらつしやる。

私は高まげに結つてもらふ。

午後、おもひ掛ない多賀さんのお來賀。

藤色縮緬に思ひきり大きい竹を白であらはしたお模樣クリームのお帯がよくはえて、ふりの長袖をつゝましやかにそろへられた樣、ほんとにいゝ事。ルイザ卷がまたなくよくにつく。

お互に一寸まじめな御あいさつをして、それもまたすぐ、親しい間柄へだてなき物語りに、時を移す。

御用があつて、私をさがしていらした姉樣が、此部屋へお入りになると、たかさんは優しい聲で、新年の辭をのべて、すぐ姉樣のおぐしに氣がついて。

「あら、お姉樣、おまげで……ほんとにいゝ事、いよ〱もうぢきね。なんだかお名殘をしいわ」と云はれる。

それから、友のたれかれの噂に花をさかせる。

家でもかるたをしたいが、取込んで居て今年は出來ないから、まづお見合せとして、多代樣の、あすの會を約して、夕かた多賀さんはおかへり。

白いボアーした美しい友の後姿、我級の花を載せた車はゴム輪の音もなく、緑ふかい、門松の間をぬふて、やがて姿は見えなくなつた。

夜誠樣がいらしつた。チックの香高くはないが、紅そめたそのおかほ。

「まあすゐ分いゝおかほ色よ、よほどめし上つたやうね。」

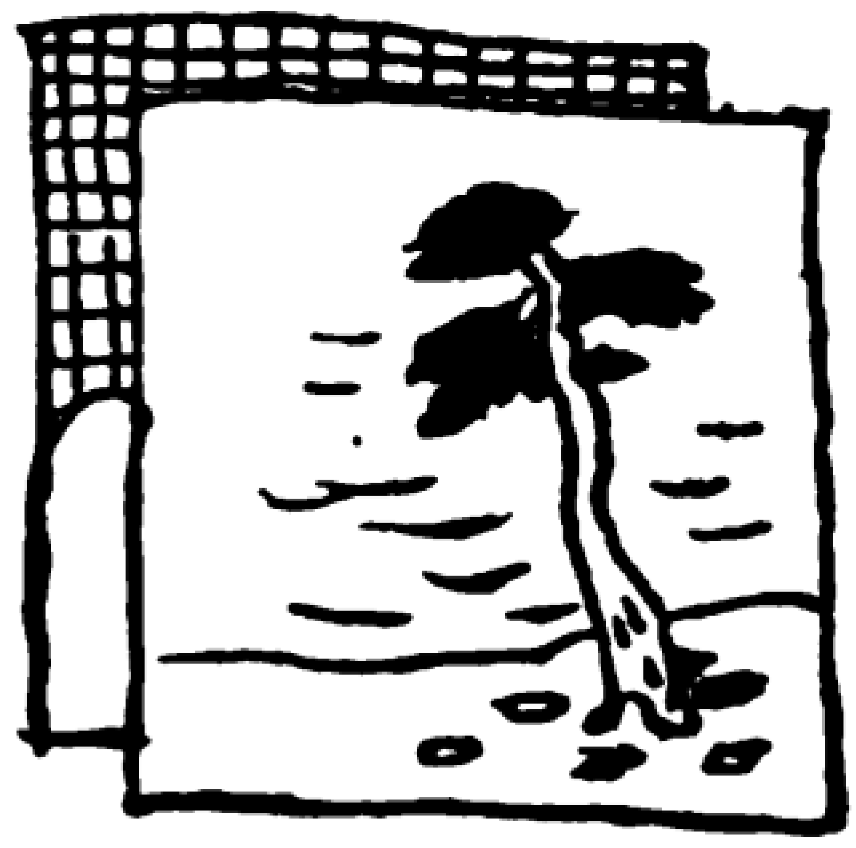
「えゝ、けふはお正月ですからね、女さへ猩々になるんですもの、僕なんか猶さらですよ。」

「あら、だつて、私なんかおとそ一口もやつと、我まんに我まんして頂くのですのに、猩々とはあんまりですわ。」

「さうですかね、ぢあ僕が代りして頂いて居るのかも知れませんね」と、云つて、なみ〱とつぐお屠蘇をぐつと呑み干してをしまひになる。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



和歌

佐々木信綱先生選

一等

年の神召してを渡る白駒に銀の燭とる曉の星　阿波　大久保八千代

評　うつくしうよそへ歌はれたり。以て新春のわが女學世界の歌壇を飾るに足る歌。

二等

柿の葉のかつ散る門に山の日の暮るゝを見ればいと淋しき　佐賀　八島富代

評　山ずみの人の心おもはれて、くれゆく山の夕日を讀者と共に眺むる心地せらるゝ歌。

二等

美しう灯はともりけり少女らの丸うかこめる双六の上　北千住　萩野露子

評　燈にてらされたる少女らのやうにうつくしき歌。

三等

われそなほ昔のまゝのわれと見て貝殼おくるやさしき妹　神戸　森本みどり

評　憂世の波にしほじめる姉と、無邪氣なる妹との對照、短き文字の中に溶顯せり。

三等

温海山樹の下がくり行く水に世にさち薄き髮梳るかも　山形　齋藤たけ子

評　温海山は名きこえぬ山なれど、作者の住めるわたりの山なるべし。都に遠き山里少女の可憐なる情をよく歌へり。

三等

たそがれの身にしみ〴〵と蟲ぞ鳴く千里のそちのはらから思へば　米國　大池龜志子

評　日の本なる君のはらから亦、秋風の聲に君の上を忍ぶべし。

秀逸

松の街を小きざみに行く櫛卷のうしろ手寒き年の暮かな　本郷　佐久間千代

評　歳晩市中の光景見るやうなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○　津山　富山頴野

赤う燃ゆる終りの秋の山の色川の瀨にさへ悲しみの湧く

○　奈良　増井とし子

下京やしぐれの後の月さえて遠音のつゞみ聞くによろしき

○　攝津　和久かつ子

ほの〴〵とあかねさす朝山裾を香なうめぐる春の水かな

評　うつくしき歌。

○　本郷　金剌春子

白雨のはしれるあとの泥濘に蝶のむくろの浮ぶ夕ぐれ

○　宮城　鈴木ちとせ

大船のけもの丶横に横はる港の夜のこがらしの風

評　下句原作港の夜は眠れる如し。

○　牛込　高橋牧子

そことなく寂しき影のたゞよへる裏路ゆきぬ秋のたそがれ

○　島根　あや子

落葉たく黒き煙のうづまきの中に小さう冬の日を見る

○　千葉　白鳥ぬい子

をだやかに月はつかれて夜は明けぬいざまた入らん今日と云ふ日に

○　出雲　長崎春子

冬の日は木立を透きて葺ぶきの廂の雪の雫に照りぬ

佳作

○　布哇　淺海蘆の人

霜月に雲雀囀づる丘ありき椰子の青葉のさゆらぎをきく

○　小倉　岡田まさ子

新月の光うすなり古城の楠の枝にふくろふのなく

○　京都　東島さき子

靜かなる小川のふちに下り立らし少女子笑みぬ水すがた見て

○　下總　月沖百合枝

この戀ひ人こそ知らぬ氷雨する夜はいれやらず雁多くきく

○　大阪　高山米子

何となく只何となく淚しぬ木枯し荒む獨り居の夜を

○　熊本　須磨子

若き日に心にもなく詠みし歌の今は我身の運命となりぬ

○　渡島　小川白藍

藤咲けばわがなつかしき鄕より客人來たる山陰の家

○　陸前　浮草子

くらき世の冷たき床に安くれて心のまゝの世を思ひ見る

○　伊豫　有田百々代

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

都より遠く伊豫路に追はれ来て田舎教師と我なりにけり

○ 京都 志田すま子

やすらかにねむれる乳児をきづかひてまたも針もつ風さむき夜半

○ 福岡 千代子

思ふ事のそれともいへぬ孤児の身は人をし見れば涙こぼるゝ

○ 横濱 鶴松まち子

末枯の野を行く僧のすけ傘に凍りてしろき冬の夜の月

○ 同 吉川美泉

たゞ一人月の渚をうらぶれてしづかによする濤の音きく

○ 日向 野井ゑつ

一すぢの髪のみだれも見ゆめるをなとか心のうつらざるらん

○ 河内 綠若御野子

紅梅や一つの傘に雪うけて君と詣でしゝのゝめの寺

○ 伊豆 島崎みち

つゞましき妻と呼ばれて厨より楽隊を聞く音の寂しみ

○ 名古屋 ますみ

日影杵に来くる鷄母の古ひさし鷄なきて午靜なり

○ 門司 栗吉にろみ

つく羽根の羽子うつくしき春は来ぬ老いほゝけたる我に泣けとや

○ 愛知 三浦しの子

水かれし里の小川に鮒の子の遊びて死せる様のかなしさ

○ 伊豆 森山はなわ

髪梳くたゞうれしと思ふこゝろこさ忘れて物を縫ふが悲しき

○ 横濱 吉川白絲花

雲晴れし夜更の空に月出でぬ庭の木立に風吹き出でぬ

○ 神戸 井口久我女

ひんがしはやゝくれなゐにほの白み尊く靈き沈默の朝

○ 秋田 波奈子

春淺く夜風身にしむ都路を淋しきふえの遠くひゞきぬ

○ 横濱 藤森町子

夕日さす西の小窓にたゝずみて同じ日のさす故郷思ひぬ

○ 越後 五十嵐須賀子

叔父・の實戦談は始りぬ年ほぐうたげたけなはにして

○ 同 五十嵐富美子

み旗高く松を飾りてとそ酌みて君の御稜威を仰ぐ海かな

○ 島根 千代廷子

冬の月すくせつたなきいもうとのいまはの床を寒く照しぬ

○ 深川 さつき

生き残る秋の蚊ひとつ血に飢ゑて淋しくとぶよ燈火の前

○ 大阪 杉山花枝

思ふ事なかばも書かで筆捨てゝ伏しては泣きぬ弱き子よ我

○ 伯耆 新田文子

靜かなる秋の日和に谷川の水音のみは高く聞えぬ

○ 長崎 太田れき子

美しう彩雲燃ゆる沼のはて羽ゆるやかに鳥の渡れる

○ 京都 宮路すゑ子

かくて君かなたの夕陽眺めては君があたりを想ひやるかな

○ 大阪 中島麻子

新しき年の始めに若き子は甘きうれひをおぼえそめにき

○ 野田 栄香子

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

露の上にむしろをしきて〱かざりつくる人こそ春をまつらめ
○　新潟　五十嵐　みつ子

さしいづる朝日の影をなつかしみ筆とる窓に梅が香清き
○　兵庫　古和[illegible]子

くれなゐの夕日のもとにたゝずみて洩れくる歌の聲を聞くが嬉し
○　横濱　原　瑠璃子

人形にきせなばよしと妹と小切など見る春まつ夕
○　群馬　佐藤英子

もくせいに小鳥なくきゝ幼兒は小實しき籬めぐらしてけり
○　千葉　北川きよ子

春を待つわが山里は和けき冬の光に煙立つ哉
○　東京　まさ子

いつしかも夢となりぬ羽子板の美きをほしとてなきし昔は
○　福岡　原田つる子

かくまでに母に代りてかなしくもわれを育てしミルクの罎よ
○　岐阜　蝶子

花かげに春の女神のまどろむが嬉し美くし盲の少女
○　本郷　横田さくへ

ふけし夜を水や流れる軒つたふ筧の水の細り行く音
○　備後　松下歌子

にこやかに晴着まとひて同窓に出でゆくあ子の黒髪ながし
○　三河　横野芳枝

門松にかゝりし羽子を幾度か頭かたむけてまねく少女よ
○　深川　大島きよ子

病む君が御髪亂るゝそれのごと夕風に靡く枯柳かな
○　熊本　矢野八百香

妹と琴などひきて安らけく年の初めを樂しく遊ぶ
○　山形　奥山野菊

さゝがにのかけたる露の玉すだれ心して吹け秋の初風
○　埼玉　關口貞子

落葉分きて墓訪へばそのかみの母の御聲のなつかしき哉
○　越後　荒井かつ

沖つべを通ふ汽船のふえの音に[illegible]夜かゆめを結びかへつゝ
○　福岡　富壽子

胸に入る日心の叫び身の痛み聞えに泣きぬあはれ罪の子
○　牛込　平塚白百合

おごそかに天の岩戸のひらかれしさまも思ほゆ初日のぼれば
○　伊豫　高屋民子

南天の赤く熟れたる實をかんでひよ鳴く日なり冬晴の空
○　德島　江崎のぶ

冬枯れの野邊に淋しく咲く花を哀れ男の子はむしり取りける
○　伊豫　[illegible]　文子

夕暮や汀の波の黒めきて霧のさゆらぎ音かすかなり
○　水戸　中根瀧子

うぐひすは紅友禪の産衣縫ふ窓に白梅ちらして去りぬ
○　日本橋　津田千代子

いさゝかの事にもおぢて涙する我が幼きを人は笑へり
○　和歌山　小濱田　富美子

昔はたゞ花と君とに親しみぬ戀も知らぬ十八少女
○　豐前　[illegible]子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年立ちて手馴れの筆のほゝ笑めば眺むる主人またほゝ笑みぬ
○　大阪　西村とみゑ

着る度に思ひ出しぬなき母のま心こめし此手織縞
○　遠江　石黒豊子

日向りのよき窓の邊に兄君とうぐひすめでし春の懐しき
○　愛知　早川麻子

新しき年は訪れり廊下を走る童の赤き面に
○　東京　春子

しめやかに香のけむりのたゞよひて淋しさせまる晩秋の空
○　茨城　貞子

夕陽の光りたゞよふうな原の上をよこぎるかりの一つら
○　奈良　米田喜久子

泊るべき宿はそれとも見えなくにみじかき秋の日は暮れむとす
○　福岡　川口喜久子

振袖にかなり移りて夢の戸のおぼろに霞む春月夜かな
○　米国　村越光子

こがらしの又ひら／＼とさそひくる落葉見てなくたそがれのまど
○　大阪　村田静

なげだせし病のからだやるせなし九月の宵のうすらさびしき
○　下谷　伊東百合子

奥津城のつめたき石の傍に静に笑める小さき山茶花
○　京都　川島花枝

美しき瞼を伏せて白き手に畳の目など數ふる女
○　山形　奥山雪子

朝つゆにいとゞぬれたる秋草をしづかにふみて故郷を思ふ
○　美作　田・鶴子

運命てふ事をわすれて又しばし綻びぬ針の手やめて
○　遠江　石野豊子

小止みして散る山茶花に百舌鳥鳴きぬ君病みませる秋雨の暮
○　本郷　松井時子

やがてまた母となるべき女の子見ればかなしも人形を抱く
○　出雲　紫愛

妹のかたみの硯筆取りて老いたる母に文長う書く
○　栃木　波多野嘉子

白けたる冬枯小道行く母のしろき髪見て一人悲しむ
○　羽後　三浦ふみえ

世に一人とり残されし心地して秋の海ゆく汽船みる哉
○　大分　そよ子

夢のごと潮の遠鳴りかぞへつゝ十九となれる春のたのしき
○　千葉　松田かつ子

やはらかうみつる潮にも耳たてゝ母にふみよみまゐらす夜かな
○　神戸　中村伏女

いくつれば春になるぞととひし身のとはるゝ年となりにけるかな
○　愛知　松永静子

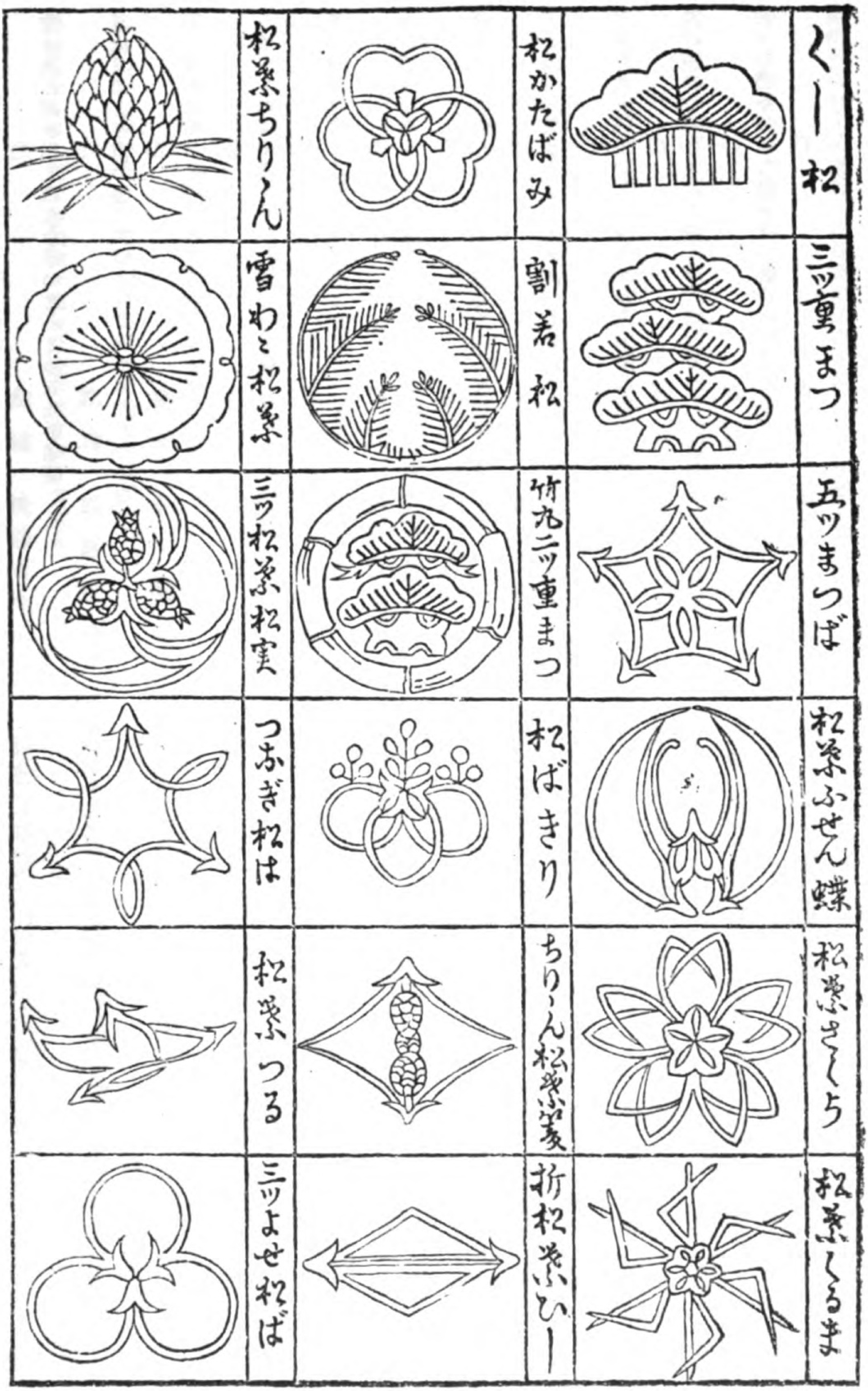
夜はふけぬ風やみて其處此處に積りし落葉月のてらせる
○　横濱　村瀬濱子

羊飼ふ童が唄にしら／＼とふる野み牧は草より明けぬ
○　豊後　熊谷ゆき子

春されば枯木林に芽ふく如空洞の胸にふと咲く花よ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

松竹梅の紋づくしの中松の葉を圖案にしたるもの十八種を集めて見ました。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新年のマダム



金子百合子

△元旦

紫雲靉靆眞紅洋々として、豊榮のぼる初日影。あまねき瑞氣六合に、治まるみ代の今朝の空、銀雪高し芙蓉峰、向上の道きはみもあらず、希望よ愛よ、青春よ、若き光りは輝けり。

若水沸かしたお湯使つて、鏡臺の前による間もなうお雑煮のお加減もみねばならず…お座敷には家例の祝膳、羽織だけ着替して、篤樣に御挨拶申し、ついでつゝましくお屠蘇を祝ふ。清き理想の初光り、我等行途の抱負を見よや。

玄關には名刺受出して取次がない事にする。私は藤鼠縮緬の白襲ねに、帯は鶸紅色糸錦、高蒔繪の櫛さして、まだ白粉が薄かつたと思ふ、襟にかけた銀ぐさりは義姉樣からの贈り物。さや／＼さやと、重い裾さばきの心地よさ。

奥村さん、森川さん、田中さん、中野さんなどがお揃ひで、一番駈けの御年始に入被た。

「やあお見外れ申しました、奥さん。」

なんて頭から。ずゐ分失敬な方達だわ、ホ、、、、。

お吸物をはこばせ、五重の塔みたいなお組重開いて、鶴龜のお銚子をとる、まだお盃もまはらぬうちから中野さんなぞ、もう美しう頬をそめてかたくなつてゐらつしやる。

障子にあたゝかう日が照り付けて、室内には櫻炭の匂ひ床しう、しばらくは談笑沸くが如くであつた。

皆さんおかへりの時に、奥さん、明日もお邪魔してもいゝですか、隨分さわぎますが、つて有仰る、えゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見ゝどうぞ被入て頂戴、床ふみぬいてお負傷さへなさらなければ、どんなにおあばれなすつてもようございますよ。ハ、、、、大きにつて、大笑ひしながら。

例の堀もね、やつて來るでせうよ。オ、大變？　ホ

ホ、、、ほんとに堀さんのびは歌ときたら、名高いものなのでございますのよ。あてられざらんと欲するもあに得べけんや、糠味噌の味どころか御飯もお菓子も腐つちやいさうな、と誰樣やらが御評もあんまりですけれど、少々恐縮せずには居られませんね。

午後、杉原樣のお女中が、先刻東京からお孃樣がお歸りになりましたから、是非お遊びにお出下さいますやうにと環さんの名刺もつて迎へに來た、篤樣に伺つて直ぐ出かける。近いからわざとコートは着ず、マッフ手に、肩掛は華美な少女緊、薔薇の縫ひあるケップ形。我家からは一筋道の、石門いかめしき一かまへ、大きな門松に〆飾が百よろこびの戰き、淸らかな敷砂を音もなくふんで、内玄關からおとなへば、環さんが驅け足で出てゐらつしやる。これはまた目の覺めるやうな晴やかなは藤色紋羽二重に白菊模樣の中振袖、金とプラチナ極細の小豆鎖を襟から帶へくゞらせて、大前髮にきゆつと結んだ純白リボン、可愛い眼元にあふれるばかりの笑を浮べながら握手の禮・直ぐお部屋へと通されて、新年の御ほきごともぬきにして、膝すりよせてにつこりして了ふ、素封家の一人娘、お父樣は貴族院議員、お姫樣とよばれてもけしうない程の御身ながら、ほんとにお優しい方。學校は去年第〇お出身になつた、音樂に御熱心で、それにお名が環と有仰るので、未來の藤井女史だの、柴田女史第二世なんてよく兄樣から冷かされて被居る。

いろ〳〵お話しながら、金蒔繪花やかな盆にすゝめられた蜜柑、お屠蘇にかわいた口をうるほす、そして環さんをすゝめ立てゝ、やつとピアノの前におかけになつた時、ぶらりとお兄樣がはいつてゐらした。

「令夫人、」と浴びせられてドキマギしたが。

「どうぞ、相變りませず」と頭を下げると。

「御兩君の幸福を祈ります」だつて。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大島紬の綿入に包んだ脊高い身體を窓に凭せ給ふて、含笑みながら葉巻をふかして居られる。

「百合子さんも何かおうたひ遊ばせよ、ね、何でもお好きなもの、ね、何か一つ。」

「百合子さんの好きなものならきまつて居るさ、緑もぞこき柏葉の、影も今宵の宿りにて：：か。」

「まあ、」環さんは私の顔をみながら

「ほんとに、ね、寮歌でも何でもお好きなもの、ほんとにみどりもぞ濃きがお好き？」



「うそですよ、〳〵環さん。」

「オホヽヽヽいゝぢやございませんか、うそならうそとして、ね、さ、御一緒にうたひませうよ、ねえ。」と早、

「夕べ敷寝の花の床、旅人若く月細し。」

「默示きけとて星屑は、梢こぼれてまたたきぬ。」

キイ打つ手の冴、きらめく指環、

「いま旅人とみし夢の、あとなく覺めて彌生や、十三

年の春風に、梅花こそかをれ向陵の、五寮いま春自治燈に、宵をひともす記念祭……」

につこり笑つて、立ち上りさま、私の肩に手をかけて

「貴女の寮歌が伺ひたいのよ、ねえ、向が岡の健男兒つてそのお聲が?」

どうせ私の柏葉宗に歸依しかたは、知れ渡つて居るので、これで篤樣が一高の御出身であつたら、私は氣狂になつて了つたかも知れないつて? まさかねえ……でも私、ほんとに寮歌は好き、みどりもぞ濃き……なつかしい歌ね、私は涙のこぼれる程好き。この作譜者の楠本さんとやら、いくらこり過ぎてフォールしたからつて、放校するとは餘りだわ、なんて云つてよく笑はれたものだ。

「おいやならお琴きかして頂戴。兄も六段ぐらゐなら合せられますよ。さう〳〵、篤樣は尺八ストでゐらしたわねえ。」

强硬に肉薄される、ぐづ〳〵してるとまたいつかの樣に「ホーム、スヰートホーム」なんか彈き出されてはたまらないから

「環さんのヴァイオリンきかせて下されば……」とにげると。

「まあ老猾ねえ。」

ぽんと脊中を一つたゝいて、笑ひながら弓をおとりになつた。

仇浪さわぐにごり世の
汚れを永久に宿さじと
春や昔の花の香に……

樂器を肩に、すらりとした君が立ち姿、白うらの振袖長う、洗朱の厚板をきつちりしめた胸つきのよさ、震ひつきたい樣なウヰンナのお髮のお首筋。

み空に星の冴ゆる夜は
靜かに更くる夢と夢、
一つに結ぶ露の玉

雲紫の朝には
高き希望の胸と胸
同じ調べにたどるかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うきつ、沈みつ、流れつ、やみつ。

なほもう一曲、と私の願ふのを打けして、さあ百合樣の番よ、番よつて困つて了つたけれどまさか何ば何だつて、丸髷結つて。

「我が寮生は男子の粋」も始められないぢやありませんか、仕方なしに坐るお琴の前、環さんのヴアイオリンと根曳の松を合奏せる。

御心づくしのおもてなしにあづかつて、面白く遊んで、惜しいお暇つげる、女中に送らせると有仰るのを無理に辭退て門を出づれは、燦々とオレンヂの



夕日影、道で平林の隆子樣に行き逢つた。

「あら、何處へ。」

「貴女は?」

と同じやうな事云つて立どまる。例のハイカラなエレナ巻とやらに、無地お召を二枚、細腰に恰好よく、ボアをふはりと、五分の透もないマダム振り、まあこの方がどうして良人樣のお氣に入らないんでせう。私お上手に束髪にしてらつしやる方を見ると、時々羨しくなつて、こんな十九世紀のデコデコ丸髷なんぞ取つて打捨りたくなる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「旦那樣は？」つて有仰るから

「エ、おとなしくお留守番して居りますよ、ホヽヽヽホ。」

お袖口をもるゝ長襦袢は、どうやら白地の友禪らしい、小形のウオッチをパッチと音させて帶の間へはさみながら。

「私ねえ、松本樣へ上りましたのよ、若奥樣もお淋しくつて被居やるのでねえ、近い中御近所の奥樣方をお招きしてお茶でも上げたいと云つてらつしやいますの、いづれお願ひに出ますけれど、ぜひ入らして頂だいなね。」

「えゝ有がたう。」

美しい夕雲の彩は、次第に消えて薄れて、思はず襟を合した。

夕飯後、僕は東屋（奥村樣達の居る旅館）へ行くが、百合さんも一緒に來ないかつて、まあ、のん氣な方まさかに元日から家をあけて二人で出歩くわけにも行きません、御免かうむりますわ。

あたゝかいお炬燵にはいつて、年賀狀しらべする、あら、何と思つたか、益田さんがよこしてる、しかも、……殊に御目出度きまへ……あはれ新聞雜誌に一對のポートかゝげて、青春の若き血汐の湧くにまかせ、理想にあこがるゝ世の人の涎下三千丈はそもいつの日にや……ひとりほゝ笑まれる。

十一時頃お歸りになつた、今夜はカルタをして來た、みんな上手だよつて有仰る、ホヽヽ、篤樣より下手な人あるもんですか。

篤樣、本統に篤樣のお友達はお口の惡い御連中ばつかりねえ、まさか篤樣はよその奥樣なんぞ、あんなにお冷かし遊ばしはしないでせう、と云つたら、どうだかつて笑つてゐらつしやる、家では受大刀の篤樣も外へ出てはあんまりお人の好い方ぢやないとみえる。

明日のお獻立など紙に書きつけて。

△二日

うらゝかな朝日の輝きに、たるやうな門松の深翠り。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

晴れ渡つた青空には一點の雲もなく、氣高い雪の富士が浮き出しさう。お隣家のお庭ではもう追羽子が始まつて、カチン、カチンと生垣ごしに振りの袂や白のリボンがチラ〳〵する。

篤樣昨日は四つ、今日は三つでお雜煮のお箸おゝきになるから、まあうちのお餅は少さいから二十ぐらゐ召し上つて頂くつもりでしたのに、と云つたら、馬鹿にするなと苦笑ひされた。

雪ちやんを呼びにやつて、手傳つてもらつて、お午前はいろ〳〵して、十一時頃一緒に松の湯へ行く。



われからの奥樣が朝風呂ではないけれど、これも我まゝな贅澤の一つ、私は人と共に入浴を厭ふて、錢湯を嫌ふが、いくら下女だからつて、あのきよの高島田に對しても、お正月早々風呂たきなんぞせられませんから。

美しい島田髷と思ひ切つた大廂とが向ふむきになつて湯につかつてる、あれは大通りの八百屋の娘だ〇〇の娘‥‥。向ふが澄ましてるから私もだまつてゝやる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

チラ〳〵とつひ目に入るつや〳〵しい高髷が、妙に昔なつかしくて。

「雪ちやん、貴女ね、島田に結つて御らんなさいな、丁度私のかもじやみのもあるから……」

　襟を洗つて上げながら云ふと。

「あら、いまつから。」

「もう十七ぢやありませんか、何が今つから……直き丸髷になつて了ふわ。」

「あら、奥樣とはちがひますよ。」

「まあ、憎らしい事云ふのね。」

　眉をふき〳〵、あの金子の細君の眼の大きいのと白粉の濃いのと、よく笑ふのとでは一驚をきつする、と誰樣やらが有仰つたさうなと思ひ出してひとりでほゝ笑んだ。春のふだん着にそめ直した黒縮緬の羽織に、緋綸子の裏なまめかしく、鏡にうつゝた人の、自分ではないやうな氣がする。

　火鉢にお火を入れたり、お座布團をならべたりしてると、がら〳〵と格子の開く音。

「昨日は失敬」つて奥村さん達が御遠慮なく上つてゐらつしやる。私はふと田中さんの顔みて、「あら」と云ふと

「可笑しいですか、」つてお鼻の下へ手を當てゝ笑つてらつしやる。まあ、昨日までの美はしい八字髭はきれいにすり落されて、あと靑々と、紅燃ゆる一文字の脣、急に三つばかりもお若くなつたやうにみえる。どう遊ばしたんですときけば。

「だつて來年落第した時に風がわるいですからね。」

きまりがわるい、つてこと、風がわるいつて……お髭と云へばいつか篤樣に、「篤樣はお髭お嫌ひ？」つて伺つたら、「否、卒業の一月前になつたらおかう、」つて眞顔で有仰るんですもの、ホヽヽヽ。でも學生のうちはお髭なんかない方が初々しくつていゝ。

　森川樣はひそかに「ポンチ繪のダルマ樣」て尊稱を捧げ奉つてある方、中野さんは皆さんから「中野文士中野文士、」つて云はれてゐらつしやる、まことに文科にふさはしい風采で、髮の毛の黒く眼の美しい多感的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のお顔立、なか〳〵文學の方もお好きらしく、これでよく無趣味な法科なンぞしてゐらつしやると思ふ。篤様は昨日風邪氣だつたとこへ夜なんぞお出かけになつたものだからそのばちで、頭痛がするつてつまらなさゝうなお顏して、敷島をふかしちや、こんこんこん〳〵とせき入つてばかり居られる。『堀はどうしたの』つて有仰ると『あゝ今日は失敬するさうだ、その代り醫專坊が來るよ、奥さん、あれも誘つて來ました、いゝでせう?』つい私が口すべらしてから、皆様が醫專坊々々つてわるいわ。でもあの方ね、私大嫌で、なんぼ未來の御醫者様だつて、あの氣取りやうは何でせう、髪をチックでピカ〳〵わけて、金ボタンばかり光らせたがつて、何、たかゞ千葉の醫專なんぞ……。それでこの方の奥様孝行ときたらそれはそれは、ね、ホホ、、、あんなハス此方から願ひ下げにするわ。



菊池別莊へお迎ひ上げたら、丁度お令妹さん逹も來てゐらしたつて御一緒に見えた。秀子様て有仰るのはお十八ばかりの可愛い方、紫紺の袴の纖い胴をバンドでぐつしとめて、お髮は思ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

がけない桃われ、桃子樣は牡丹色の凜々しい洋服召して、紅いリボンが鳥の羽をひろげたやうにかけられてある。

「學校は」と伺ふと

「お茶の水の附屬の五年生。」

「さう、お年は。」

「十二になりましたの。」

それにしては大きいこと、細面の鼻の高い立派なお孃さん。御兄妹四人が、お兄樣は桃子樣と、芳雄樣は秀子樣と、可笑しい程よく似たお顏立。あゝ私も妹が一人あつたらば？と痛切に感じる。

どうかと思つたが、環さんもお越しになつた、今日は目だゝぬ更紗縮緬のお被布、女同士は一つの火鉢を占領してかたまり合つて了ふ。奥村樣は流石外交官御志望だけあつて、お如才のない御應對ぶり、此方へもいろ〳〵話しかけられる。

トランプを二三度してるところへ、番專坊…の町山樣が被居た。環さんが「新派俳優みたいな方ねえ」とそつとさゝやいた。

加留多がならべられる、私は讀み役、と桐胴の火鉢擁して上座に避けると、オヤ奥樣はどうしてゞす、と口々におつしやる。

「昔の選手、今は讀み手、」と澄ましてやつたら。

「何です、急に世帶ぶつて…ぶるのもいゝが程度問題ですよ、それが過ぎると嫌味噌くさくなる。」だつて、ずゐ分な。

「天津風…」

「はい、ありました少女の姿。」

「歎きつゝ獨りぬる夜の明くる間は。」

「ありました、〳〵いかに久しきいもとからじる。」

「嵐ふく三室の山の…」

「はつ、御免遊ばせッ。」

「ホイ、またか、醜態だなア。」

「八重むぐら…」で「おそい！」なんて「人こそ知らね」をはね飛ばしたり、「和田の原…」と云ひもおはらぬに二方で、「ありましたッ」とさけぶ。雲井の方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

でせう、否つり舟の方でせう、つて』さわぎ。ドタンバタンと疊をたゝいて、敵陣へ突貫する。一枚ぬくにめちや〳〵に備へを亂しておこりつけられてる。紅の袖口ハラ〳〵と、婦人軍のはたらき、透つたかけ聲、流れるやうにうごく白魚の指先。

マッチにきたへられた芳雄樣の腕も、オールとつては敵なしの田中樣も、もう形なしの零敗、大しよげの頭かき〳〵中休みとなる。若い面を輝かせて、得意の微笑さんじ得ぬ、雪枝、環、秀子の諸將軍、熱した頬をおさへながらそろそろと大氣焔。



折よしとこゝで手製のちらし五目を食卓へならべる、打とけて樂しく、銀燭のもと、匂ひこぼるゝ笑まひ顔、何と云ふ良夜ぞ、浪の鼓も打ちそへて、まどひうれしきこの一間かな。

お迎へが來て、環樣、秀子樣、桃子樣は殘り惜しげにお歸りあそばす。ピーアに醉ふた人達は、なほ若々しい物語りがつゞいた。篤樣が、今年の試驗に成績がよかつたら、みんなにおごるよ、その代り六十點以下だつたら慰勞會をひらいてくれ、なんて云つてらつしやる、中野さんは藤村詩集の、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

くろかみながく
やはらかき
をんなごゝろを
たれかしる

とあれがお好きでおうたひなさる、

をとこのこひの
たはぶれは
たびにすてゆく
なさけのみ

ゆるく身體をお搖りあそばす。

花より花に蜜を吸ふ
蜂のいそしみ我勵み
不斷の渇きとめがたき
智識の泉汲み取らん
湧き立つ血潮青春の
…………………

めづらしい篤樣が二高の校歌なんか出る。

散會は九時半、この夜の星のまたゝき、提灯の灯かげは松並木の間をチラ〳〵と遠ざかつて行く。

△三　日

ふと寢返れば雨戸の透からはもう幾筋か眼を射る金色の征矢、昨夜泊つた雪ちやんは心地よささうにスヤスヤと、まつ白い頰を黒びらうどの襟にうづめて、思ひなしか小鼻のあたりにはかすかな笑も浮んで居るやう。あゝ羨しき少女十七、そも何の影かその初夢に入れる。

今朝はお餅やきながら新聞を讀み入つて、ついまつくろこげにして了つた。久しぶりで髮を束髪に直す、大きなしん入れてルイザに結つて、あつさりと銀の横ざし。紫矢飛白にはうつるやうに思ふけれどまさか緋のリボンもかけられない。姿見の前に紋羽二重の袖を通しながら、この地模樣は少し華美過ぎたと思ふ。

「お早う」つて昨夜の敗軍の將逐田中樣、中野樣、奥村樣らやつていらした。「失敬、あ、奥樣。」

「やあこれは、何處の御令孃かと思つたら‥‥」

「奥樣、何だか更けましたね。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なんて云ひ出す人もある。つまり私は丸髷の方が若く見えるんですつて。から前髪出すと、二十二ぐらゐだつて、まあ！

奥樣、追羽子しませう、しませうつて雪ちやんに引張出された。力一杯打返す羽子が、青空高く舞上つて、まるで天の花でも落ちて來るやう、あまり駈けまはつて額がぽーつと汗ばむ。皆樣達も興がつて、不器用な手つきに羽子板お持ちになつたが、つくと云ふより拾ふと云ふ方が適當、霜どけを大きな薩摩下駄でふみにじつて、ぐちや／＼にして了ふ。雪ちやんが可笑しがつて、落したものには白粉ぬりつこにしませうか、と云ふと、むきになつて、失敬な、いやしくも大學生の品格にかゝはる、ホヽヽヽいやに皆樣はいやしくも大學生、／＼、つて、自尊心はけつこうですけれど……。



お晝餐には急に淋しくなつて物悲しいやう、篤樣はお書齋へ。私は母樣への手紙書いて了うと、きよが郵便をもつて來た、見おぼえのある美津樣の手跡、あらと思つて目を通す。

『百合さん、従兄は逝きました……』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「従兄の勝彦は永く眠つて了ひました。かりそめの病氣がもとで、病床に呻吟すること二十日あまり、つひに年の逝く日、午前九時…」

　まあ！　勝彦さんが…流石冷たい泪がまぶたにあふれる。縁なかりし君よ、美髯の陸軍中尉？!!!

「孃さん、學校は何方です」なんて一言二言きかれたが、それがお見合であつたとやらで、先方ぢや大變な御悃望。

　けれど赤門熱に浮かされて居た私は軍人なんて念頭になかつたし…あゝもしあの時、私が勝彦さんの妻になつて居たら、今頃は未亡人…？

　お火を見に行きながら篤様にお目にかけると、

「エ、死んだつて。勝彦さんて誰かい。」

「私が姉さん〳〵と云つてた方のお從兄なんですの、陸軍の方で。」

「軍人かい、この人は。」

「先達て御結婚なすつたのださうですけれど、お可哀想ですわねえ、奥さんが…」つい心にもない事を云つて了つた。

「僕だつていつ死ぬかわからないよ。」

　よくこの頃こんな事をおつしやる、口惜しくなつて、

「さうしたら私、生きては居ないわ、私の方が先に死ぬかも知れないわ。」

「何に、女は長命なものだよ。」

「無神經だからと有仰るんでせう。」

「ところが百合さんは鋭敏過ぎる…」

笑を含んでゐらつしやるのが、私のいつも氣をまはし過ぎて、嫉妬でもするやうにみられるのぢやないかしらと我知らず顔の紅らむのをおぼえながら、手當り次第の手すさびに、その葉書を取り上げて、こまかくこまかくむしつて了ふ。

「僕もお母様に手紙上げやう」つて洋紙を出しなさるから。

「あ、篤様、母様へお上げなさるなら駄目よ、筆でお書きあそばせ。」

「何故。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「だつてね、篤様の字は横文字と草書と一しよにしたやうなもので、ちつとも讀めやしないとこぼしてゐらつしやいましたよ。」

「恐れ入るな。」つて大きないがぐり頭かゝへてにつこり、そのお顔の、無邪氣な清さ、美しさ。

夕暮の寂寥に得堪へで手なれの琴の袋はらへば、どうした事か、巾の糸がパチーと切れた、チーンと鳴る琴胴の響……。

爪を外して投り出して、つと縁に出る。



隣家には福引の興やあるらし、どつと起る笑ひ聲、窓にくつきり影法師が。

大空にまたゝき初めし星いくつ!!!　思ひは都の友のうへ…。

今日初春の新衣、
袂ゆかしき
梅が香に
思ひ出多き夕
まぐれ
ほゝ笑む月を
仰ぎては
母校の春を偲
ぶかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

クラスメートの春遊び

さみどり

新年の遊戯と言ふと此頃では直ぐ歌加留多を思ひ出しますが、歌加留多も永くなれば隨分疲れますし、それに折角のお廂を臺なしにしてライオンがお酒に醉つた樣な顏をしてゐるのも餘り見好い物でもありませぬから、偶には他の遊を混へるのも面白うございませう

斯うなれば今迄敗け續けて居た連中は大贊成何時も片隅に二枚か三枚上の句を敎へてもらつたのを一生懸命に守つてゐた人等の元氣附くのは必定です。別に其人達の肩を持つ理でもありませぬが、斯んな折にすべき面白相な遊戯を五ッ六ッ。

○椅子とり

是は御存じの方も多い事でせう。疊敷の所では不可いので可成廣い西洋間——其眞中へ、これから遊戯に加はらうといふ人數より一脚減して椅子を圓く並べるのです。偖片隅で一人がピアノか、オルガン（バヰオリンでも宜しい）で進行曲を奏くと、それにつれて餘の者は椅子の周圍を廻り、樂器の音がして居る間は決して立留つてはなりませぬ。處が折を見て奏者が急に奏く手を止めるとそれを合圖に皆手近な椅子に腰を下す……すると何處かに一人坐り損ねる理で、今度は其人を除け椅子を一脚減し又同じ事を繰返すのです、斯くして最後迄殘つた人が勝となるのですが、誰も〳〵もう樂器が止るか〳〵と思ひながら歩いてゐるするとハタと止つて一同中の大尻女史が休職になる等は又とない可笑味でございませう。

○シルウエット、ギャレッリー

横顏を映した影の事をシルウエットと申すのですが、是は多人數でする夜の遊戯としては絶好のものです。先づ一座の一人〳〵を別室に連れて行き、壁際に坐らせ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

面目を一新せる新年號

婦女界

理想の花嫁花婿（夫婦論其一）羽仁もと子

▲名士の母堂たる老人會を集め（小崎千代子夫人）

▲結婚以來廿五年間の私の日記（井口工學博士夫人）

▲如何なるたか眞の淑女といふ（女子學院教授三谷民子）

▲歐米を漫遊して感じた事共（男爵夫人三井苞子）

▲年々の嘉例となれる我家の歌留多會（平井鐵道院副總裁夫人）

◎若き主婦としての感想（名取夫人）

◎新年は一家を擧て大磯（山脇夫人）

◎朝鮮女學校學監尹夫人訪問記

◎櫻山別莊に德富淇水翁を訪ふ

◎歎歎北政所とザスレリー夫人

◎簡單にして恰好よき子供前掛

◎フライを美味しく拵へる法

◎名士の書かれたる日記色々

◎お正月門松床飾り……（小笠原清務）

◎新年の文藝……（河井醉茗）

◎（英詩）クリスマスの歌（松本雲舟）

◎若き婦人のために……（下田次郎）

◎ヴァイオリンを習ふ方々へ（賴母木夫人）

▲**女** 雪嶺博士の婦人觀を見よ

新年號より每號連載す

文學博士 三宅雄二郎

▲家庭にて余の擔當せる仕事（法學博士浮田和民）

▲私はドウして千里眼となりましたか（千里眼婦人長尾郁子）

▲家を上手に持つ工夫（羽仁もと子）

▲畫家の眼に映じた東西婦人服裝（湯淺一郎）

▲愚痴をこぼさずに歌を詠め（阿部泰藏夫人優子）

新年號の口繪

▲初しらへ（石川寅治氏筆着彩色）

◎閑院宮三姫宮殿下御染筆の書畫◎三井男爵夫人と同令孃●書齋に於ける浮田博士◎德富一敬翁と新婚時代の德富蘆花氏夫妻◎名士母堂の老人會◎阿部泰藏氏の家庭◎平井鐵道院副總裁の家庭◎西本願寺兩裏方と毛利公母堂◎名士の子供……

▲寒月照梅花（岡井、大口兩氏合作石版刷）

新案**結婚双六**（新年附錄）

趣向斬新面白きことと無類繪畫は桐谷洗鱗（橫二尺六寸竪一尺八寸の彩色石版畫）

一冊金十五錢新年號に限り（郵税二錢）

東京神田 **同文館**

六冊金九十錢　十二冊金一圓七十五錢（前金）

女（その一）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

辛亥の劈頭社會の耳目

日曜畫報

第一巻第一號 一月一日發行

四六判二倍大●本文（光澤紙）廿四頁●寫眞版木版刷込●本文二色乃至六色刷▼

正價一册金十錢・・・・郵税一錢

寫眞繪畫約三百五十個 記事約一萬言 斬新にして誰にも分かる 懸賞問題三件

▼亥年生れの名流的一百人…（二色刷寫眞幷に月旦）
▽外相小村壽太郎論……（各方面の名士數人の一口月旦）
▼懸賞『人物漫畫傳』……（奇々怪々の懸賞問題）
▽四十四年政局夢想大觀……（奇警にして皮肉なる時事論評）
▼樂天居放言……（巖谷小波氏每號執筆）
▽第二十七帝國議會開院式……（二色刷二頁大の鮮麗なる寫眞）
▼漫畫一年間の印象……（五色刷一頁大、滑稽趣味横溢の新式漫畫）

新年附錄

日本全國新百美人…鮮麗なる寫眞版

▼新案相撲番附……（好角家を垂涎せしむる二色刷寫眞版、一頁大）
▽亥年名妓傳……（濃艶の寫眞、輕妙の記事）
▼元旦七福神詣……（每號掲載する東京新繁昌記の一）
▽春狂言豫評……（面白き劇壇評判記）
▼寒月照梅花……（御題に因める新趣向の濤艶なる寫眞）
▽政友會と國民黨……（大政黨の内部及び政客の生活を活躍せしむる奇抜なる寫生文）
▼現代名家十行評論●滑稽藝人百姿●日曜遊覽案内●歐米各國新年の奇習

每號●時事俳句●名士の面影●政界、學界、實業家文藝界花柳界の奇聞●新案繪探し●狂句情歌の募集等を載す

發兌元 東京日本橋本町

女（ろの二）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を聳動せしむべき創刊雜誌

實業倶樂部

毎月一回 一日發行　菊判紙數百六十頁　新年附錄　寫眞版四頁挿入　正價十五錢 郵税一錢半

第一巻第一號……一月一日發行

●實業界新進十五名士月旦…(特別附錄四十四頁)

●現今我實業界に改良の急要諸點…農商務大臣男爵 大浦兼武

●パナマ運河が我國に及ぼす必然の影響 男爵 肝付兼行

●年始狀に付て今昔の感……男爵 石黑忠悳

●今度最も感服したる獨逸の工業補習學校 東京高等工業學校長 手島精一

懸賞 帝國發展暗射圖…(解答當選者五百人 賞金、賞品合計 金三百五十圓)

●友人として見たる後藤遞信大臣……醫學博士 金杉英五郎

●成功美談宗光丸の由來(新作講談)…伊藤痴遊

●明治四十三年漫畫小史(斬新奇拔三十餘圖)……小杉未醒

●人物養成家の意見と任用者の注文(實際當局者三十餘人の意見)、

●九十二歳の若尾逸平翁の平生●東洋汽船會社の解剖●東西の各國新年奇聞●新年廣告繁昌記●大角力協會經營の内幕●活動寫眞樂屋覗き●三階總出博文館記者氣焔競べ……

振替東京二四〇　博文館

女(ろの三)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

お子供方の讀んで面

英語少年

四六二倍判・紙數四十頁・舶來上等紙
石版極彩色・亞鉛凸版六度
刷其他寫眞銅版及電氣版畫入

毎月一回……一日發行
正價金十錢郵稅一錢

世界一のやさしい面白い畫入英語雜誌

第一卷第一號……一月一日發行

▽太郎のアルバム(石版彩色畫入)繪葉書に書く英語のお稽古
▽僕はSである……やさしい英文法の面白いお話
▽お正月の朝(凸版彩色畫入)……書で稽古するやさしい會話
▽舶來讀と和製讀……英語の讀み方の面白いお話
▽猪と狐のお伽(凸版彩色畫入)……誰でも讀める新工夫の譯
▽教育勅語の讀み方……初學者に分る樣に工夫したのが特色

○亞米利加の發見(石版極彩色畫)
○一月の英語研究(凸版色畫入)
○英文皇太子殿下(寫眞銅版入)
○作文のお稽古薔薇と花瓶(凸版彩色畫入)
○英和對照ポンチ二篇(石版極彩色畫)
○誰でも出來る懸賞(凸版彩色畫入)

△學校外の英語の解釋
△ローマ字の綴り方と其應用
△新案畫入讀本學校と野原
△世界に於ける英語の分布
△一月と云ふ英語の神話
△英語の諺の畫解(石版畫入)
△面白いやさしい英語の謎
△英作文のお話「新年の事ども」
△三千年前のABC
△英文解釋南極探檢自動車

新年大附錄■新案英語カルタ(石版極彩色)

■發兌元 東京日本橋本町

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

白く爲になる創刊雜誌

幼年世界
ヨウネンセカイ

毎月一回 ◉ 菊判紙數八十頁・口繪 ◉ 正價八錢
一日發行 ◉ 石版一枚光澤寫眞版二頁 郵税一錢

第一巻第一號……一月一日發行

口繪
太閤秀吉の出陣（極彩色石版刷）
●軍艦祝砲の發射（寫眞版二度刷）
●活動寫眞 子供のつとめ

■太閤秀吉……武田櫻桃
■幼年理科……木村小舟
■子供のつとめ……菅沼笑兒園
○お正月の行事……
○鹽とお砂糖（唱歌）木村小舟
○觀兵式……
○かるた會……沼田笠峰
○保護者會の開始……
○全國幼年綴方……
○空中飛行の授業料 黑田湖山
○雪やこん／＼……
▼福壽三郎……巖谷小波
◎皇孫迪宮淳宮兩親王殿下……
▼軍艦の禮砲……黑田湖山
○椅子の輕業……こさん
○豚の先祖……あうたう
○しろありの話……一記者
○曲藝と仲よし……
○日いづる國……一記者
○あさとゆうかた 沼田夢川
○おはなしの會……
○判し繪○考へ物……其他
■お隣のお孃さま……法學士 阪本俗南
■算術かるた……竹貫直人
■學校消息……（高千穂小學と十思小學）

大附錄
幼年修身双六
巖谷小波案
名和永年畫

振替東京二四〇 博文館

女（ろの五）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

光輝ある帝國の史蹟と列强の興廢

東京帝國大學文科大學教授
東京高等師範學校教授
文學博士 萩野由之君編著
尾竹國觀畫

少年日本歴史讀本

洋裝頗美本
挿畫廿個
大判紙數毎編
百四十餘頁
正價一册拾八錢
郵税一册四錢

日露戰役の結果、一躍して世界一等國の班に入りし日本帝國は、近く韓國の併合に依り、其領土著しく擴張して、國光宇内に輝く、此際國民は益〻忠君愛國の觀念を厚くし、以て帝國の名譽を尊重せざるべからず。而して此觀念を兒童の腦裡に印せしむるにしかず。光榮ある、日本帝國の歴史を繙かしむるには本館玆に見る所あり、國史學の泰斗萩野文學博士に囑して日本歴史讀本の編纂を企て、最も趣味豐富なる筆致に依り、上は天地開闢より、下は日韓併合に至る迄、數十册の大部に収め、逐次刊行せんとす、謂ふに國民教育上に資すべき點尠少ならざるべし。少年諸君は勿論一般家庭及び學校の好參考書として、無上の珍寶ならん。切に愛看を待つ。

第一編 天の浮橋 近刊
第二編 大國主命 二月發行
第三編 天孫降臨 三月發行
第四編 橿原の宮 四月發行

第五編以下毎月一册
又は二册宛續々發行

發兌元 東京日本橋本町

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を詳述したる二大少年歴史讀本生る

文學博士 箕作元八君 巖谷小波君共著

少年世界歴史讀本

洋裝頗美本
挿畫拾數個
大判紙數毎編
百四十餘頁
正價一册拾八錢
郵稅一册四錢

一等國の國民には一等國の國民たる素養は無くてはならない。世界的國民として世界の活動舞臺に飛躍せんとするものは、先づ世界的智識に通曉する必要がある。今回箕作、巖谷兩先生に請うて、本書を刊行するに至つたのは、我第二次國民の、世界的國民としての素養を豐にする資料に供したい爲めである。

箕作博士は、世界史の學者として本邦の第一人者で、學識の宏博に加ふるに趣味の豐富を以つて知られた先生である。巖谷先生は少年文學の第一人者で、常に世界的見地に立つて、第二次國民の爲めに愉快な讀物を與へる先生である。此兩先生が最も熱心な努力に對し、何處に此の書の價値を疑ふものがあらう。

此の書は必ずしも時を逐はず一册々々に光彩ある其時代の偉人の傳記を中心とし、兼ねて其前後左右を記して歴史の大勢を説くのであるから世界歴史の書物多しと雖も、これ程愉快に又これ程興味と利益を巧に調和したものは他にあるまい。敢て江湖に吹聽する。

第一編 東西兩洋最初の大衝突 一月發行

テーベの覇業

十字軍と武士道

蘭英の海上競爭

英國海上權の確立

以下毎月一册又は二册宛續々刊行

振替東京二四〇 博文館

女（るの七）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最新の學說を述べたる少年叢書生る

現代專門諸大家執筆　博文館編

少年百科叢書

洋裝細長形頗美本
紙數每編二百八十餘頁
美麗口繪數葉挿入
定價一冊金廿八錢
郵稅一冊金四錢

少年は修學の時代也、故に其一日を怠れば、百年の悔を殘さん、殊に學海の波浪滔々として漲り、嶮山幾重に峙ちて、其前途や又決して安心すべからず、然るに學海の燈臺となり、學山の栞となすべき健全なる良參考書に乏しきは、亦昭代の一缺點にあらずや。即ち此缺陷を補ふべく玆に創刊さるもの我少年百科叢書なり。嗚呼修學の一路を求むる帝國幾萬の少年諸子は、此書によりて文明の新智識を享受し、學校の敎科と相俟つて更に偉大なる効果を收め得るや必せり。少年机上の寶典之を措て他に求むべからず。讀め天下の少年諸君！！

第一編　先哲至言 勉學訓　一月發行

第二編　讀書法　二月發行

第三編　世界名君傳　三月發行

第四編　世界名臣傳　四月發行

第五編以下每月一冊又は二冊宛續々發行

東京　博文館　本町

(その八)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文藝倶樂部増刊

第十七巻第二號

鬼も十七てふ喩へあり
文藝倶樂部も
いよいよ
十七歳の春を迎ふるに
至りぬ
しかも鬼ならぬ
この生娘が春の裝ひは
收めて娘揃ひの
一篇にあり
いかに風情よく
趣味深きかは
今こゝに諄々しくは
言はざるべし

菊判紙數三百二十頁
口繪極彩色錦繪
艶麗なる美人
寫眞版十數葉挿入

落語講談 娘揃ひ

正價二十五錢
郵税二錢五厘

一月十五日發行

《講演者》

柳家小さん
眞龍齋貞水
錦城齋典山
橘家圓藏
三遊亭小圓朝
一龍齋貞山
西尾麟慶
邑井貞吉
三遊亭圓喬
三遊亭圓右
神田伯山
蓁々齋桃葉
三遊亭圓馬

發行元 東京本町 博文館

女(ろの九)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一月十五日發行

少女世界

第六巻第貳號 増刊

菊判紙數百廿八頁

口繪 原色版一枚 石版畫一枚 光澤紙寫眞版四頁挿入

正價十錢 郵稅一錢



寒紅梅

雪中に蕾を破つて、春のさきがけをする梅の花、その色その香、ともに優れてめでたいのを、美しい少女の心にもと、新春早々にあらはれる増刊『寒紅梅』が、いかに充實して居るかを見て下さい。

表紙は新進畫家太田三郎氏の筆、口畫には鮮明美麗なる三色版と、寫眞版八ページとを入れます。また記事には

▽少女對話 誕生日……巖谷小波

▽少女訓話 身繕ひの標準……學習院女學部長 松本源太郎

▽少女雜感十題……沼田笠峰

▽少女小説 ▽少女會の開き方 ▽少女史談

▽京都の女學校 ▽先生の評判 ▽誌友だより

▽新少女日記 ▽讀者より記者に

これ等の趣味ある記事の外、讀者の和歌、文章、俳句も發表されますし、また

◉少女小説の募集があります賣り切れぬ中に御覽下さい。

東京本町 博文館

女(ろの一〇)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女(ろの一一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■冒險世界 第四巻第二號 增刊■

膽力なくして天下を取らんとするは火藥なくして發砲せんとするが如し

一年の計は新年にあり。正月は屠蘇に醉ぱらつたり、加留多を取つたり、女子供と羽根を突いたりして、魂を天外にフツ飛ばし「何て間がいゝんでせう」など、下卑た事を言ふべきにあらず。時は初春、猪の歳旦也。青年は宜しく褌を締めて大活躍の準備を爲すべしだ。本誌こゝに見る處あり、膽力養成號を出だして世に問ふ。讀者はこれにより娯樂の内に利益する處多かるべし。重要目次左の如し。

膽力養成號

◎巻頭小説 膽力倶樂部……押川春浪

◎奇怪事實 日米油膽力戰爭……河岡潮風

▼吾輩の膽力養成苦心 大隈重信

▼明治年代唯一の豪膽兒 伊藤痴遊

▼處世秘訣 膽力か、腕力か、 記者

▼棘膽 無錢旅行記 山口獨眼龍

▼成吉思汗豪膽錄 井澤衣水

▼維新志士の膽玉 老狀士談

▼學生膽力養成法 河野廣中

▼東西二十四傑 度胸くらべ 鐵血書生

▼十二名士膽力增大法實驗記

▼禪學と膽力 大石正巳

▼戰時膽力强弱譚 阿武少尉

▼寄宿奇談 膽ためし會 てうふう

大判百二十八頁 口繪大形石版畫 寫眞版數葉挿入

一月十五日發行

正價拾五錢 郵稅壹錢半

東京日本橋本町三丁目 博文館 振替口座東京二四〇番

美麗なる口繪挿繪と壯快なる記事みな青年の膽力を增大せしむ

女(ろの一二)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文章世界——第六卷第二號……一月二十日發行

青年文藻

菊判紙數二百四十頁
口繪、石版寫眞版豐富
正價廿錢郵稅二錢

定期增刊黃鳥號

新年は來れり。新文學は現はれざるべからず。黃鳥號は天下の青年文士の玉什を蒐集せるもの、即ち新文學の展覽場也。本誌を見ずして新年の新文學を語る能はず。見よ！見よ！「青年文藻」の一卷を見よ！



内容

小說、評論文、敍事文、抒情文、書簡文、小品文、はがき文、長詩、短歌、俳句、凡て是れ新時代を双肩に荷はんとする青年文士の作也。右の外附錄として左記諸氏の苦心に成る創作を掲載す。

窪田空穗、秋田、雨雀、小川未明、白石實三、前田晁、

尙ほ右の外に、**新年文學の總評**を掲載す。

東京本町　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文藝倶楽部

第十七巻第一號（一月一日發行）

菊判紙數三二〇頁　木版錦繪原色版寫眞版十數頁入

正價金二十五錢　郵稅（本國限り）三錢

本誌が明治四十四年の望みに充てる曙光を迎ふるに當り、大々的大懸賞の新案を提供したるの外記事に、繪畫に、寫眞版に大改善大發展を實行せんとして左記の雄篇名作を網羅す！

小說

●親心……（淸方畫）正宗白鳥

●姉妹……（古洞畫）神山とき子

●史外史傳 太郎定綱（春汀畫）山田美妙

脚本

●修善寺物語（義德畫）岡本綺堂

●喜劇 鼻………（香山畫）高須梅溪

新講談は、斯界の大眞打として名聲赫々たる馬琴氏が、最も得意とする…………

▼曾我物語……（春帆畫）…（寶井馬琴講演）……を載せ、活社會、演藝界、長廣舌、忙中閑其の他の諸欄、いよく粹を選び、趣味と實益とに於て、天下無雙宇内無敵の實を擧げん、幸びに倍舊の眷顧を懇祈す!!!

新年の新提供

大懸賞金壹千圓

東京本町　博文館發行

女（ろの一四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

正月號大附錄

少女遊戲雙六

巖谷小波案　榊原蕉園書

各室とも愛讀者のために開放されてあります

少女雑誌の花として、日本女子教育の光りとして、世に高評を博しつゝある少女世界は、六巻の春を迎ふるとゝもに表裝をあらため、記事を豊かにして、家庭と學校との好讀みものとなるやうに、ます〱力をつくします。先づ、正月號のいかに優れてゐるかを見て下さい。

◎羽　子（表紙）杉浦非水
◎マンドリン（口繪）三色版
◎わか　水（口繪）丸山晩霞
外に寫眞版豐富如例

第六巻第壹號

少女世界

（壹月壹日發行）

菊判紙數百二十八頁
口繪豐富如例

定價金拾錢
郵税（本誌に限り）一錢五厘



博文館

女（ろの十五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本一の上味淋

滋養豊富の調味料



▲瓶詰 年始御進物用

▲樽詰 家庭御調理用

▲元旦御屠蘇用

釀造元 千葉縣流山町

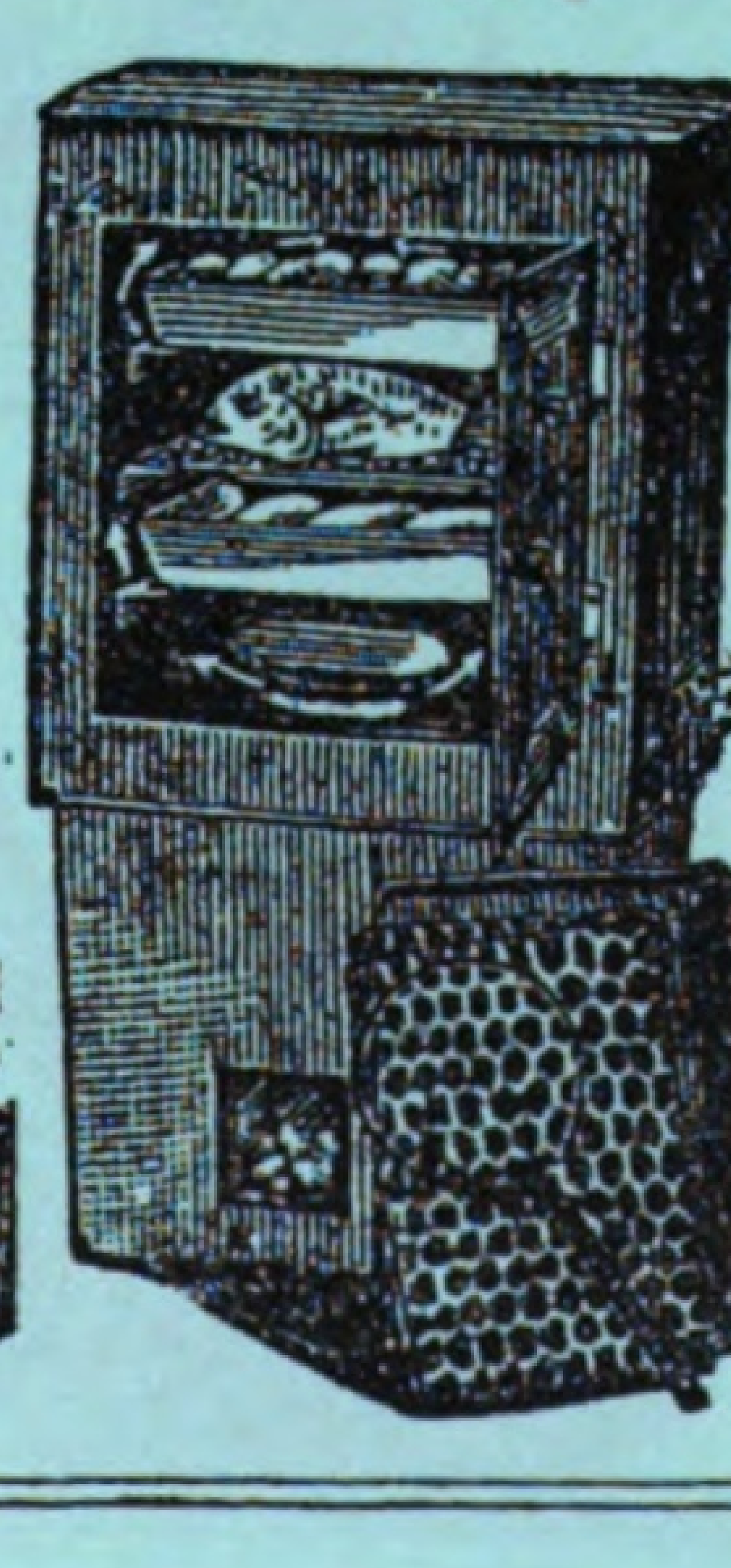
味淋元祖 堀切紋次郎

●市内有名の酒類問屋にて賣捌居候間御用命願上候●

專賣特許

臺所重寶 名和式テンピ





大三圓●中二圓五十錢●小一圓九十錢●說明書御希望の方へは無料送呈

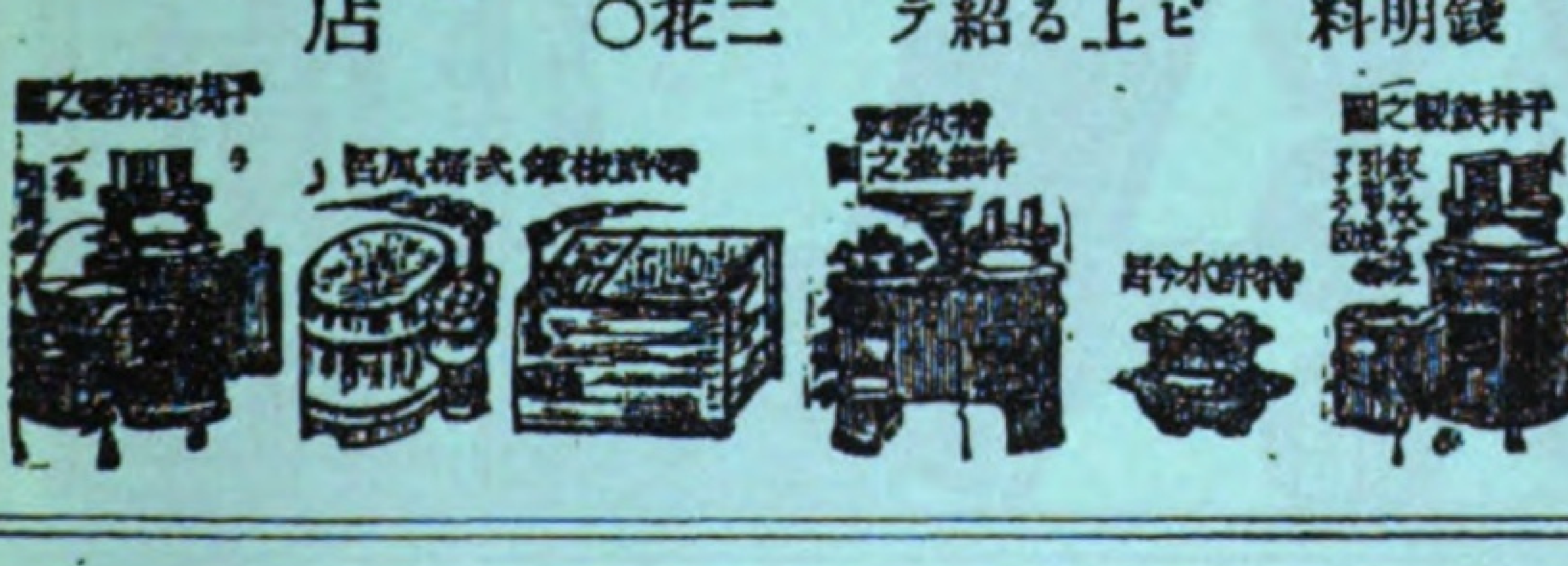
專賣特許名和式テンピは曾て實業之日本誌上に於て「改良されたる臺所重寶器」として紹介されし和洋兼用のテンピなり

東京日本橋區蠣殼町二丁目十五番地 電話浪花一一七七 振替口座一〇二五四番



特許カマド据風呂

名和商店



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

横顔の映る樣にし、其輪廓を紙の上にとるのです。そして此紙には一々番號を附け後で誰のと分る樣にして置き、偖それを廊下に張つて誰の顏か當てさせる仕組であります。勿論豫め紙と鉛筆が渡してあるので皆番號順に此人と思ふ名を記入するのです。この遊は實際違つた事の無い内は、ナーニ直分るだらう位に思ひますが、十人以上となれば、どうして／＼就中集つた人が、どれもこれも廂髪と來ては全く途方に暮れて終ひますので時には我影を間違へて「何々樣」と記したりする傑作も隨分出來ないのです。

○茶坊主

一座の一人が茶坊主と定るとまづ之を別室に連れて行くのです。暫らくすると目隱をした茶坊主はお茶臺を持つて連れられて來る――そして先づ列んで居るお客樣の一番端の人の前に坐り、「お茶上れ」と茶臺を置き、徐にお客の身體を撫で廻しつゝ、其人の名を當てるのです。勿論此時撫でられてるお客が聲を出したが最後誰と直に氣附かれますが、若し違ふ名を言ふと茶坊主は更にお隣へ行く――斯うやつて其名を言ひ宛られた人は無論次の番の坊主になるのです。尙此坊主が探るのは帶から下と限られて居るのですから、其別室へ行つてる間に出來る丈、坐り工合を變へたり羽織を脫いで膝の上に着せたりして見分のつかぬ樣にして置くのが肝要です。其他是に類した遊び、目隱しをした鬼の鼻を代る／＼輕く撮み、其撮み手を誰と當てさす方法もありますが、妾は何時かこれの鬼となり手甚く撮まれた揚句、鼻が眞赤になつてピリ／＼した事が御座いますので、此遊の事を思ひ出すとぞつと致します
それよりも目隱の遊としては

○茶碗突

先づ眼隱を施した鬼に、これは金棒ならぬ箸を持たせ、卓の前に坐らせ、卓の上には茶碗をのせる、一座の内の一人が同じく箸を持ち、輕く茶碗を叩くと、鬼は自分の箸を眞直に持ち、此處に茶碗があると思ふ處

を突くのです。是で甘く突き當てれば鬼を脱れるのですが、違り損へば又脇の者が茶碗を他の方へ移し、其處でチンと音をさすのです。

○豚の尾

何だかむさくるしい名ですが申す事にしませう。最初に手拭か手巾かを捩ぢて、豚の尾の樣にし、鬼はそれを持ちて順々に一座の人の前に行き、件の尾を相手の顏の前に振り乍ら、豚のシッポー、豚のシッポーと三度繰り返すのです。無論鬼は相手を可笑がらす樣に其尾を妙な風に打ふり、聲に高低を作へて云ふのですが、三度云つて向うが笑はずば又お隣へ行く仕組ですが、誰しも豚の尾を見た丈で噴き出して終ふので、面白相でも實際出來難い遊かも知れません。此度は稍高尚になつて。



○イソップ

イソップと言ふのは動物比喩談のあのイソップです。誰か一人がイソップとなり、他の者が獅子とか兎とか乃至は家鴨とかの役をするので、偖イソップになつた人が、「獅子さん、貴方は平生何をお食りになります」と聞く。獅子は自分の食べる物の名を擬つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

か數へあげるのです。處が其言葉の中にアイウエオの音を混へては成りませぬ。若し獅子が定の數丈安全に言へば次は兎の番「兎さん貴女は何を食べます」「菜葉に、甘藷に、カラに……」「一寸カラッて何ですか」「おからの事」「それから？」「人參に豆腐――」「豆腐を兎が食べますか」「食べますとも、僞言と思ふなら食べさせて御覽」「さあ、どうでせうか……それでは次、家鴨樣！」「私は泥鰌に雜魚に草の根、蛙……」「一寸かえるの。えが不可ません」「どうもお氣の毒樣、蛙はかえるでなくてかへるですよ……」

次には少々性質の惡い而も座興を添へる遊を申しませうならば、

○忠告書

是は可成男女多人數に集る時が良いので、一人々々紙片に、他人に見せぬ樣「忠告」を書きそれを集めてよく切り、再び皆に配るのです。そして順々に自分のもらつた忠告の札を讀み上げるのですが、先紙を開く前に「御忠告はひし〳〵と胸に答へます」とか「此忠告は大間違です」とか言ふので、時には「至極御尤」といつて、赤い襟飾を着けた人が開けた忠告書に「誰かがおめかし屋さんと言つてますよ」と出るかと思へばうら若い女に「何故御母樣に打開け遊さらないの」と意味深長に書いてある、「貴方は氣取りさへなさらねば良い方だけど……」とは、當るも當つたり、悄げ返る當人に比べて一座は益々賑はふ事でせう。

○敗けた罰の數々

遊戲に敗けた罰は、顏にお白粉を附けたり、立つて三度廻つたりするのは極々元始的の物と申す外ありません。と云つて「一寸卒業證書を受取る身振をして御覽」とか乃至は「誰々樣(女)の羽織を着て御覽」と男に云つたり、「誰樣の帽子をかぶつて御覽」とか女に言ふのはよくする事ですが、男は兎に角、女は恥しくもあり、それに憎くない人の帽子等をかぶつて後で、逢ひ見ての後の心と言ふ事になつては文部省で顰蹙なさ

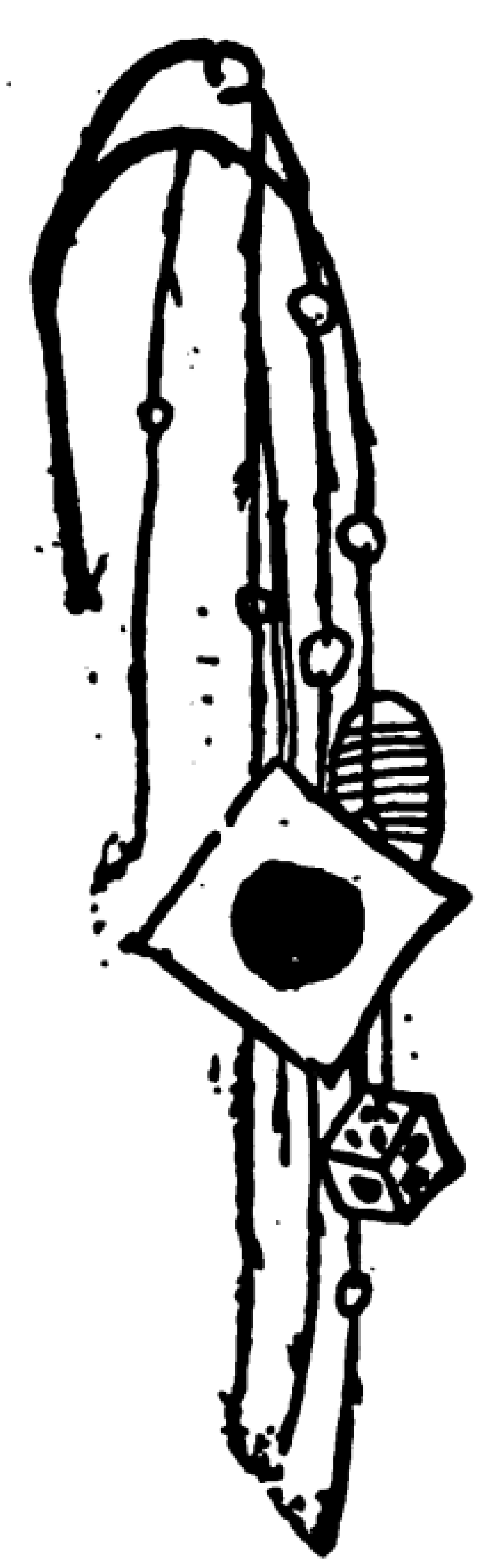
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いますから、それ等は除にして左に一つ二つ。

鸚鵡返し。敗けた人は、他の人から言はれた言葉を其儘、繰返さねばならぬので「私はお薩が大好物」といふ様な無邪氣な事を言はしてもよし又「向の細溝に、細泥鰌一寸によろり」とか「小米の生米、小米の生米、コヽン小米の小生米」とか或は「蛙ピヨコピヨコ三ピヨコピヨコ、合せてピヨコ〳〵六ピヨコ〳〵」の様な早口を云はせてもよろしい。亦鸚鵡返しに似て聾の耳と云ふのがございます。是は敗けた人が脇から種々の事を云ふ――言はれる方では「一向聞えませぬ」と答へねばならぬのです。此時脇から言ふ言葉は聾の耳を持つてる人にとつて最望ましい申出計である事は云ふ迄もありませぬ。







新つれ〴〵草

磯ちどり

つれ〴〵なるまゝに、日ぐらし硯に向ひて心にうつり行く、由なき事をそこはかとなく、書きつくれば怪しうこそ物狂ほしけれ。

早年も暮になりぬれば、空怪しう曇りて、降るともなく晴るゝともなく、頭の打押へらるゝ様覺ゆるもわろし。道行く人の小足は大跨に、町歩む人の眼ざしさへいと鋭くなりたるは我思なしにや。又物賣る店に飾夥しく吊し、さては餅つく音の聞えそめたる。早新年號の雜誌の來たるは、月足らずの子の顔見る心地して、忙しき事の限なり。晦日迄には是々の事せむと心積りてあるに、子供は只正月正月と樂しがり、ねだるが儘に買與へにし凧を早年の内に破りたる「さればよ、正月迄持ちては成らずと言ひし物を」等忙しさのまゝに叱るに、また代買へよと言ふも腹だゝし。

又若き母の年越ゆる仕度に忙しき折、寢させし孩兒の眼さまして泣き出したる。離すまじき仕事の手離し肱つきて乳含まするに子は意地汚くも飲む。又うとうとゝ眠りつれば、そと我身を引くに、はたと目覺して母親に、傍にあれと言ふもわりなし。母さへ添乳してあれば機嫌よき子の、ひたすら乳豆いぢりたるに「あなもどかしき子や、此忙しき母の乳を吸ひてかくも呑氣なる顔したるは」と思ふもをかし。

夜は年の暮にて用心惡しければとて早く戸閉めたる外には道行く人も稀に寒けく澄める廿日許の月の道白う照したるもいとゞ身に泌む心地す。

また喧しき晦日の元日に續くこそおもしろけれ。幼き頃は元日とし言へば異様の物の來る樣覺え夜は、いねでありたる。廿過ぎし今はさる事こそなけれ、若水汲むをりは心清々しく、胸怪しう躍るもしほらしや。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東まだ白まぬに雨戸繰り開け燈火の下に雜煮祝ふに、床の間に生けし室咲の水仙の、つゝましう白く、昨夜迄の苦しさの只夢の樣に覺えらるゝもをかし。かゝる折、夫は我妻の容貌一寸美しと思ひ、妻もまたさ思ふも目出度し。かゝれば萬の事皆新しき心地して、筆持たば書初、水汲まば汲初、あるは子の泣けば泣初と言ふも興あり。書初には去冬買求めし日記取出して、つけ初めたる、今年こそ十二月迄缺さでつけむと心決めてあれど暫しぬれば、つけ忘れたるも可笑し。

若き二人暮にては年賀に行くべき先も少ければ、妻は只心行く許り寢て、寢正月したるは凄まじ。あるは素、、しめといふ味よからぬものおどろ〳〵しう作り置き餅のみ食べ、食正月したるも可笑しけれ。

さる賢しら顏したるものゝ「墓なき事をする物哉、正月はげに冥途の旅の一里塚、晦日も元日も同じ日なるを目出たし〳〵と言ふは心得ね」など嘲笑ひたるはにくし。

書き初にて思ひ出しつ、なべて文の文字など昔の反古共は皆巧にかきたり。年始の文にても昔なるは新玉より初めて〳〵しに至るまで繪の樣に書きたるが、今の世は名ある女の君にても異名と假名をよく續かで、いと見苦し。「昔は習字會と申すものもなく科學的手習法といふ物もなかりしが人皆手美しう書きてき、今の女は皆鶺鴒の樣なる字書く、靜に思へば、過ぎにし方の戀しさのみぞせん方なし、と母が申し侍り。」

そはともあれ、年賀狀郵便と申す物はいと凄まじき心地す。未だ年の內の忙しき紛に、只帳面つくる樣にして書きたるが、一纏となりて郵便局にて越年し、偖家毎に配らるゝもをかし。目出度もなき折に目出度しと書き、恭しくもあらで恭しく賀二新年一と云ひたる。況して活版にて押したる等はいとあひなく覺ゆ。されど年賀夥しく書く人は止むを得ざる事にやあらむ。世には友どちとの交を年一度の年賀狀にて濟ます人もあり、かゝれば七歲より初めて六十歲迄交るとも、その交際實八十一せんなるもをかし。

古の人の傳書き、古き文の註する人には、なべて秀

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

でし人の少きは今も昔も變りなき。只其人の事とし言へば神佛の樣に思ひなし、何も何も過なき樣に記したるも片腹いたし。もし今の世の敎に違へる件あらば、こはゆゝしき大事也、論語の敎にも異れりとて、あらぬ方へと解釋つけ侍り況して源氏徒然の類に此處にはかゝる敎あり、彼處にはかゝる誡ありなどしたるはいかゞ。なべて敎育家などの見るとし見る物より敎訓與へむとするこそ淒まじき物の限なれ。

古き諺にも僞の世の中と申侍り。手



近き例を擧ぐれば、老人の早く行きたしと云ふ言葉。道きけば半道許といふ。芝居の今幕あくといふ事さては緣談の斷りに方惡しければ、といふは僞なり乳母に逢ひに來る兄の夫らしき、賣藥の廣告の萬病に効目ある樣見ゆるも可笑し。その外媒人の言葉。肴屋の鮮しき。紺屋の明後日。あやにく小さき持合なければと申す折。色白くなる藥。いづれも〳〵僞にて。疲我慢と申すこともいと可笑し。近頃は徒歩主義と定め侍りなどいふ人の車にえ乗らざる。汽車の三等

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は平民的なればといふ人の錢持たざる。小學教師などの我天職といひたる。

されば己をつゝまやかにし奢を退け財を持たざらむぞいみじきと云ひたる兼好も、はた痩我慢にや、聞かまほし、世には、賢き人の富みたるは稀なりと申侍れど、貧かりければこそ賢くもなりしなれと、さる口惡なき者は申せしか。

獨り燈火の許に文ひろげて見ぬ世の人を友とするこそ此上なう慰む業なれ。さればとて今時の物讀むもいたく興あり、さる人々の今の世の事書ける小說としあれば、いと道ならぬ物の樣に言ひなすは、醜き女の我顔鏡に寫されて怒るに似て、いとゞ可笑し。

口語詩と申す物こそ甚をかしき物なれ。何々した、何々した、とのみ申し侍り。目につく色とては灰色の外なきにや。

火事は心ときめきする物なれ。寒き夜獨り机に向ひてあるにふと警鐘の音きゝつけたる。周章て雨戸繰れば夜の氣のさと身に泌みて、月白く照りたり。見れば彼方遙かに空紅く火の手の見ゆ、頓て隣の雨戸も開く音して、何處の邊ぞなど云ふ聲聞ゆ、かゝる折隣同志に話合ふ事もあり。されば既に寢床に入りし妹等の寢衣姿にて出で來り、何處ぞ、何處ぞと言ふに、「其慄へ樣はいかゞせし、風引かぬ間に寢よ。」と打諭すもいみじう、町には幾つとなく提灯の火の走りゆくに。犬の鳴聲遠く聞ゆるもをかし。

◎婦人と薔薇

英國の詩聖ミルトンは人も知る如く、「失樂園」の著者として有名なものであるが、不幸にして氏は盲目となつた。そして妻には緣が薄かつたと見えて三度まで妻を換へた。三度目の妻も容色は非常によかつたけれども如何にも短氣で怒ッぽかッた。

或日バッキンハム卿が氏に向つて、「古來詩人は皆婦人を薔薇に比へた」と曰ふと、氏は悲しげな面地て。

「私は色を以て薔薇を判斷する事は出來ぬが、不幸にして刺を以て判斷する事が出來るといつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



新ホーム物語

秋雨

△小さき晩餐會

今朝お出がけに今日は夕方六時から○○君と△△君に飯を出すからとの仰せを畏つて、お晝がすむとすぐに先掃除にかゝる。

陞樓が道楽の紫檀の小道具に磨きをかけ、同じくお好きな盆栽に水をやりヤレ是れで安心と云ふ迄には少くも二時間は掛つた。

床に一軸暁齋の諷刺畫、落款に背いて描かれたうすばたには柳に菊をあしらつて活す、短冊も大分古くなつた。

板ばしを駒のひづめの音たえて
人まつ庵にしぐれふるなり

に更へて置く。

奥の準備を終へて甲斐々々しう臺所に立つた。何の事はない公然の政岡然と、當日の献立は‥‥あゝ何故學校に居た時分もつと勉強して置かなかつたのだらう後悔さきに立たず一番に當惑が先きに立つ。

一、茶碗むし（海老、椎茸、三つ葉、百合）
一、口取（櫛形蒲鉾、栗きんとん二色玉子）
一、鹽むし（松茸ふりゆず）
一、白和（こんにやく、人參、きくらげ）
一、キャベヂロール
一、果物（バナナ、柿、りんご）

御酒のお肴ならば又趣向もあれど、空腹充實主義にはと參酌してともかく野暮な品物を數へた。

此處までは宜かつた。これから後は失敗になつた。

六時にはキチンと一同揃つてお入り、お茶よ、お煙草

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

よとまご〳〵して居る間に臺所は全然お留守になつて仕舞つた、新參の下女は土偶然と立つて居る。

「お火が絶えるぢやないか」とたしなめれば「まだお要りなさるんですか」と答ふ。

「要るともね、茶碗むしを早くかけなきや駄目よ」

「茶碗むしつて何ですか」

チヨッ仕樣がないね（これでは居ても居なくても同じなまじあてにする丈け、さきから焦れる。と奥からは「オイ未だか〳〵」と矢繼早の御催促、遂に堪りかねて臺所迄御出陣で。

「オイ、今直きもないぢやないか、何時から掛つて居ると思ふんだ、もう食はん他外へ行つて食ふから」

「ハイ〳〵只今すぐ」

何といふ意地の惡いお方ぞや、此期に及んで他所で食はれて堪るものならず、半泣きになつて七輪の下を煽げば、あはれや白沫一條の飛烟立つよと見るまに、今日結ひたての丸髷は忽ち霜の笠、此に至つて我れしらず袖に面を包んでしまつた。

△△樣は下戸におはす、○○樣上戸なればとお國名物泡盛を出せしに何といふ因果ぞや今迄は何の事なかりし德利に蠅一疋落ちて居にけり。

萬事休矣、涙を呑でお詫すれば、今度は茶碗むしがまだ半熟、おまけにお加減が水つぱいとのお小言、爲す所一として浮ぶ瀨もないのを△△樣が時の仲裁人、「細君は料理人ぢやないからな、時間も要る丈けは要るよ、君は餘り氣が短かい」と賺めて下すつたので、果物の出た頃には皆樣大さう御機嫌がよかつた。

此時である「學校出は駄目だ、取柄がない」蓋し一座の奥に湧いた聲とは思はれなかつた。「學校出、取柄が無い」！　何といふ慘酷な聲だらう。

骨身に泌みて痛い小言は新家庭成て今日始めて聞かされた。幾年薫陶の情を垂れ玉ひし師の御耳に這入つたらどの顔さげて再びお目に懸られやう、失敗は成功の階梯ときけど、これはあまりに痛い聲であつた。

△好日和

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

番目の跡もきえぬに落葉して多忙な妻を泣かせる罪な葉片、しまひには抜れて仕舞つて俗にいふ肝癪筋がムラ〳〵と胸にこみ上げて來た。

「奥様、あのお花の先生がお出でになりました」

あゝさうさう今日は土曜日だつた。

「ぢやお通し申してお呉れ」

と命令て置いて自分は急いで縺れた鬢をかきのめす。



きく子様けふはおそいこと。

「どうもお待たせ申し上げました」

と挨拶に出る。鯛釣り損ねた恵比壽さまの如な嫣然な先生の御手には露ながらなる黄菊幾もと。今年は水害で葉が丸で無爲。

師匠が歸つたのはもう一時頃、あとにきく子さんと卓を圍んで四方山の話に移つた。毎週此日の此時が一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

繁雜しい。殆度此日のために、此時の話題を製造せんがために、毎日を經驗して居るやうな心持のすることさへある位、今日も話しはお料理から整理、經濟、世間の女、落るところは例に由て文藝談のそれである。

「ほんとに此頃は女で小說らしい小說を書く人なんかないのね、色んな違つた名前の閨秀作家が活動寫眞みたいに入れ變り立ちかはり出るけれども皆長持ちがしないぢやありませんか、して見ると女は到底一念を貫くといふ事は出來ないものなんでせうか」

「それや境遇に依りますわ、少し筆が動く人は誰れでもお書きなさるでせう、でも家庭の主婦なんかといふものになつてから筆を持つといふ事は考へものね」

「それや全くですよね、あの石川蕉玉さん、故大塚楠緒子さんの御家庭みたいにお兩人ともあゝして居らつしやる方は却てお仕合でせう、さうでなくもし同情のない方だつたらいやでも筆なんか葬つて仕舞はなきやなりませんでせう？」

「でも亂れ髮をおかきになつた方なんか餘程の努力だつたのでせうね」

「あの方だつて同じやうな柄で入らつしやるから何といつても思遣りといふものがあるのですもの」

溫容花顏梨の花々たるといつたきく子樣の唇からは柿のやうな冷いそして堅い赤い言葉を折々にきくのである話は中途で折れた。

「蕉玉さんといへばこの頃上野で展覽會があるんでせう？」

「行らつしやらなくつて？」

「今日は土曜ね、えゝ往つても宜いわ」

肝膽相照らす兩人は直ぐに繪畫の素見者になる事を約した。

隆樣に斷りなしにゆくのも氣がとがめるけれど外ぢやなし少しは世間も見なくつちやと自問自答して二時前に家を出る。小春日和の暖かさ羽織はわざと着ず、お召の半コートにネビー色のパラソルといふ兩人揃の扮裝、霞町から電車にのる。昌平橋に來た頃は誰れも志す東台の花ぢやないが繪に惹かれて行く人斗りだ

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

きく子さんは歩きませうと仰る。さうね話し乍ら行くのもまた一興とのたり〳〵會場に入つたのはもう三時過であつた暮れ易い釣瓶落しといふ秋の日は、其處此處の豆腐屋のラッパに知られ、何といふ事なしに響く都會の雜音は頻りに歸りを促がすので女同志の月の夜路も餘りほめた話しでなしとお土產の壽司を手巾に包むなりさつさと家路に急いだ。青山できく子さんと分れて我れまた一人漸々辿りついた時は夜の霞月をかすめて肌にしみる大氣は薄ら寒かつた。



「只今」

音もせず家内は肅然閑として居る。オヤ隆樣今日はお歸りが遲い筈、但しあの臆病者の千代やがおかへりと聞いたなら飛で出て來なきやならないのにと訝りながら部屋に來れば、これはまた如何な事、宵から俯伏になつて、無言の行の最中、道理でこそとあゝいやになつて仕舞ふ、神棚のお燈明が獨り寂しう明また暗。

＊　＊　＊　＊

「脊が高くて少し肥つて居らしつて年寄りのやうな若いやうな？　いやだ其んな謎々みたいな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事云つたつて分るものですか戯談ぢやないよ、頭の字位覺えて居さうなものだね」

留守の間にお客様があつたのをお名前聞き漏らして否聞忘れて千代やはニタ〳〵笑つて居る。何といふ間拔だらう、口惜しくなつて、歯がゆくなつて、もう何も頼むまいと考へた。さらずも氣の利かぬ自分に、かうした利口な召使では到底甘く行く筈がない。然し又、自分が留守にした故だとしひて胸を摩つて置いた。

旦那様お歸り遊ばしてから此一場の喜劇を聞し召され「奈良人形のお芝居だ丸で、しかし濟だ事は仕方がない是れからチャンと氣を注けるやう」にと。あゝ寛大なお心、此時ばかりは嬉しくて柔しい低氣壓さまと心の中に手を合せた。

△月の三十日

出來る限り月末拂にはするものでなしと、毎度方々で説かされしを初めは守つて米屋迄現金にして居たのが、新参の主婦と侮つてか、來る商人も〳〵頼みもせぬに勝手の柱に通帳を振下げてゆく、安きに慣るは人の性、自分も此の譬へにはもれず、とう〳〵受付けて終つた。かるが故に由て來る報酬は覿面、今日は朝から元帳との引合せで夢中になつた。

やつと濟んで〆て八冊、帳面と算盤を投げ出して鯨のやうな溜息を吐いた。

どうして此様に掛つたらう、何の必要が有てあの時この様な物を購つたゝらう、格別……處ではない少しも贅澤がましい事もしないのに何故こんなに費へたらう、昨夜拂の豫算を聞かれた時○○圓位と答へたが、却々足り相にもない。不時の場合にと別にしてあつたのを加へてもまだ足りぬ。だから月末拂を嫌いだといふのだ。凡婦の淺ましさ遂には世間並の愚痴に落ちてしまつた。

「奥様、誰何さまかお出になりました」

「どなた様かぢや判らないぢやないか」

躊躇して居る下女の顔、見るのもいやになつて自身玄關に出て見れば、羊羹色の黒紋付にあやしげな小倉の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

袴ベロンと穿たる半白の老人、天照皇大神と版押した紙を差出して何分の御助力をといふ。何だ馬鹿らしい。神様を種につかふ痴者なんか血でも吐いて死んでしまへと思つて。「まあお斷り致します」と障子ピッシャリ

「千代何故いつものやうに格子の鍵を嵌めて置かないんです？」

態と大聲で怒鳴れば半白の老人驚いて歸つてしまつた今日愚圖々々いふて來るものは皆この傳で追拂ふから其積りでお出で。座敷の長押に掛けられた布袋の額はいやにニヤ〳〵笑つて入らつしやる。

　お歸宅になる洋服も脱がず、拂は全部濟んだか？。今更ながら胸にギックリ、聞えたやうな聞えぬやうな……此ういふ時に手紙でも來て居ると甚だ逃るに都合が好いのだけれど……お召換はときけば、これもまた聞えたやうな聞えぬやうなお顔で、三笠を自暴に吸ふて居らつしやる。堪り兼ねてとう〳〵有の儘を暴露だした。暫くぢいつと見つめて居らしつた旦那様は常にない神經質な影を眉の邊りに隱見させて

「貴様なんかまだ一家の主婦で候のといふ顏をする資格がないんだ、學校出は其れだから駄目だと言んだ、二言目には辯解ばかりして、お釣錢は此體裁か、何も試しだつて緣日やの齒磨粉と同じに思はれちや堪らないからね、そんな遣方ぢや到底俺の世帶ではやり切れない、不向なんだ。然し今更それを言たつて仕方がないから、是れ限り言はん、ちつと確然せい」

是時ばかりは面を擧げ度くも擧がらなかつた辯解は無論出來ぬやうになつて居る、よしや出來たにしても其原因を探つて判斷する人は少ない、當然現はれた結果がすべての可否を告げる世間だから。

　成程難かしいものだ家庭の經濟が何のかのと噂つた小鳥は籠に這入つて始めて苦痛を知る事が出來た。野飼のまゝに送れぬ浮世ならば、矢張り籠の中から整へて掛らねばならぬのであつた。

　瞼あふれる涙をすゝつて此の失敗を來む月の成功に更へやうと決心した。

　其日の日記には何もかゝず只一句

　　枝振を氣にして葉をば散らしけり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



思ひ出草

友ちどり

花は濃の艶なのより、小柴がくれにほゝゑむ、野菫の繭なのまで、ただ美しいといふのみでなく私はきつと何事なか連想するのが癖なので。

△梅

單重の白がとりわけいゝと思ふ。家の庭には白や赤や每年咲いたものだけとも殊更これといふほどの思出の種もない。

△椿

少女椿が二三本あつた、ポテ〳〵と花のまんま落ちるのを拾つて花輪など拵へて遊んだ。田舎の方で二間位きやない小川の向ふが椿の垣になつて居て、花の澤山咲いて居るのなぞ實に靜かな景色である、川には落ちたのか浮んで居てその花は是非赤い山椿が趣深いものである。

△水仙

胸の痛を得て二年前亡くなられた晋子様の一番御好きなのはこれだつた。

きさらぎの寒空に一様に灰色した庭にほゝゑむ水仙の香りや姿や、クリスチャンで歌が御上手の晋子様に相應しい花だといつもおもうた。

△菫

連れは誰だつたか胡蝶と共に散々花野を遊び歩いた歸り、紙に包んで大事に持つて來たのは根こぎにしたゆかりの色のすみれ一本、御祖父様にいたゞいた小さな鉢に植ゑて青い實になるまで朝夕水そゝいだ、が菫といふ名知つたのはそれから二三年の後だつたらう。

△櫻

故郷の家の庭にはもう餘程古びだ櫻が一本、それが春になるとスッカリ花をつけてそれは隨分美しいものであつた。その盛りの頃の日曜日、母様の御自慢の御すもじ如何か拵へては近所の伯母様方をお招きしたそんな折、きつと姉様のお琴と母様の三線とを御合せなすつたのを覺えて居る。

やがての後風もないのにハラ〳〵と落花した景色なぞもなつかしい思出の一つだ。

△つゝじ

日比谷のよりも大久保のよりも私は故郷のしかも深山かくれに咲い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たのが好き、田舎に居た私を大變可愛がつて與れた若い伯母さん處の裏の山には澤山あつたのを覺えて居る。

△花あやめ

門入つて玄關までの長い道の兩脇にはこの花がズット植ゑてあつた。未だ五六寸位にのびたころから花を待つてその盛りの頃になると畫筆そめてはあやしな畫はがきのスケッチを御友達などへ差上たものだ。

△牡丹

戀になやむ美し女が高殿のおばしまに倚つて何所ともなく目を移した所にひら／＼と飛んで來た胡蝶一つ盛り過ぎた緋牡丹に羽休めたと見へど無殘花はハラ／＼とくづれて地に紅の點々を印した、刹那少女の瞳には露さへ宿つて……。

見たのでも聞いたのでもないけれど牡丹を見ればきつとこうした連想をする。

△紫陽花

蜜月旅行をかれて夫の任地の都にとて旅立つたは文月の末つかた車窓から見る野にも山にも新緑の花爽かな中に野の家の垣から見えたのは大輪のこの花、誰やらが死美人だと評なすつた紫陽花は私には此上ないなつかしい思出を語りて與れるので。

△百合

花盛かしかりし夕、祝の宴の終つてから私のにと定められた室に入つた時、きはだつて目についたのは床の間の白百合、純潔を意味するといふこの花は實に私の理想の花である。

△柘榴

まだ幼穉小さい時母樣と姉樣とに連れられて鬼子母神に御參りした時、拾けたのはこの花だつた、その後幾星霜を經た今日まで、ざくろ見ると少し古びた御堂を必ず思ひ浮べるのもをかしい。

△葵

つひ二三年前ふと通りかゝりに貸家札を見て何の氣なしに立寄つて見た時、二坪あまりの庭には眞赤なこの花が燃ゆるやうに咲いて居る、水道が無かつたので借りはしなかつたけとも赤い花見た刹那の快感を今も忘られぬ。

△松葉牡丹

御祖父樣の庭いぢりをいたづらしながら見て居る、細長い箱樣のものの中にそこらに散らばつた苗を植ゑて被居るのだ。

御手許見ながらこれでも花が咲くかと伺つたら「靜ちやんの學校御休みの頃になるといろんな可愛いゝのが咲く」と此の花について種々の事話して下すつたが、私は松葉牡丹といふ花の名さへ忘れかけた夏休のころ朽ちかけたこの箱には白や赤や絞りなども交つて燒くやうな日に映えて居た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△桔梗

秋立つて雲もない日、兄樣の御上京も二三日中だと言ふので一隔つた小山に連れてつていたゞいて、女郎花など摘んだ時、早く濃紫の此の花を別れ〳〵にさがした折、遠くで兄樣の御聲がするので、かけつけて見た、片かげにまだ露含んだやさしの姿「まあきれい！」と言つたきり先に折る氣もしなかつた。

△萩

秋風が身にしみてか私は風邪の氣味、熱が高いといふので學校は休むことにした、午前中床の中で好きな歌集ども讀んでたらもう頭も輕くなつたので浴衣の寢衣のまゝ日を背にして庭に立つた折、紅萩のハラ〳〵とこぼれるのないと興深う、眺め入つた。

榮子樣が見舞にとて白萩にうたそへて下すつたのもその晩だつたと思ふ。

△芙蓉

幾歳の時だつたか何でも少し曇つた日の午後、お友達の美保子樣の許へ伺ふ折、遠くから淡紅のこの花塀の上に、五つ六つ見えたのを何とはなし頂き度くて、友に話したら、あれは華族の御隣の庭のだつて聞いた時の物足りなさ、歸りもふりかへり〳〵見て過ぎた。

その折私は巾廣の肉色リボンかざしたお下げだつたと思ふ。

△菊

或る日曜日の午後、久し振り外出をゆるされた妹と二人、直ぐ近くの河原で野菊を手にあまる程摘んだ折、ふと何方から言ひ出すともなう亡母樣の奧都城を訪ふ事にした、未だ新しい墓標のもとすがれた鷄頭と取りかへて、二人同時に額いた折。私は何故か黄や白の大輪なのよりこの淡紫の野菊が好きで。

△コスモス

白いのと淡紅のと誰やらに頂いて歸つた折、茶の間の母樣に花の名伺つたら針の手とめて、「秋ざくら」だとをしへて下すつた、

その後幾年にして歌や小品やらでコスモスつて名を見た折、どんな花かしらと思つて先生に伺つて秋ざくらと同じだと聞いた折、私には何だか和名の方が床しいやうに思はれた。

ドリヤ、私が三年生位のころ、下のクラスに美子樣つてそりや無邪氣なお子が庭に澤山あるからつては、八重なのや單重なのを束にしてはよく持つて來て下すつたものだ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



私の玉手箱

一寸開けて御覧なさい

深山ふぢ子

秋の好時期に入つたので田舍から松茸狩りに來いと度々云つて來るのを幸にとう／＼今朝思ひ立つて家を出る。

行く先は伊賀の島が原と云ふ處。

道連は多賀講とやら云ふ、爺さん、婆さんの胸に白い切のしるしを付けた連中と一緒になつたので、赤切符の込み合ふ事。

後れて汽車の窓から空いた處は無いかと中な覗き込むと、皆が云ひ合した樣に怖い顔してあちらへ行けと云はぬばかりに、中にはピシャンと戸を閉めてしまふ。之れが當今の人情かと感心しながら、むりに割り込んで這入る、ナニ三時間位の處は立つて居たつて知れたもの。

汽車は此色々の人間を乘せて我役目は只走る事だと云はぬばかりにズン／＼と進む、有名な長良川の下流も渡つた、木曾川も越した、龜山から分れてづん／＼と山に向つて登り道。

黄ばんだ稻田、峨々たる山、山と山との間に落ちて居る瀧、岩にくだけてむせびながら流れて居る水、どれもこれも皆絶景と云いたい、此まはらぬ筆には何と書いたら十分に遺憾なく云ひ表はす事が出來やうか。まづ／＼拙き筆先きには書かぬ方がましで有ふ。

△田舍の御馳走

田舍の人の樂とはどんな事だらう、一番の目的とする處は何だらうとの疑問？　すぐ自分の頭に浮んで來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た、目指す親類の家についた時に。

之れは此島が原村での金満家、税金も一度に百圓餘り納める、夫れに家の人は皆冷飯草履か、繩緒の下駄をはいて居る、が、大黒柱は流石に驚くばかり太い、家の造りは頑丈一點張りだが、あはれや廣い座敷は煙でいぶして眞黒になつて居るが、此五月に名古屋の共進會で千五百圓とかで買つて來たとか云ふ佛檀だけがピカ〳〵と目立つて奥の座敷から光つて居る。

入口の土間を今一つ通り越すと、其處は又馬鹿に廣い土間で、炊事をする處、流しも有れば竈も三ッ四ッ並んで築かれて、此處からは殆ど終日絶えず煙が出て居る、家の中が燻るのも無理は無い、煙が出るのも道理で有る聞けば、朝六時頃に朝飯を食べて仕事に出る、又九時頃に食べる、十二時にも、三時頃にも、夕飯もと、一日中に食べる事五六度だつて、よくあんなに食べられたものと驚いてしまふ。

自分の着いた晩七八人村の人の宴會が有つたので、家の人は御馳走に忙殺されて居る。

竈の下は盛に燃やされて、徑三尺にも餘る大鍋の中にはグツ〳〵と何か煮へて居る、ソッと窺いて見るとお定りの芋や、大根、油揚だ、向ふの方に散しずしが大きな鉢に盛つて有る、何が這入つて居るかと意地きたなくもしらべて見ると、松茸、いり胡麻にいりこのむしつたの、紅せうがだけ、小鍋に這入つて居るのは富貴豆、今日の御馳走は之れだけですかと人の悪い事聞いて見ると、マあ田舎ではいくら、きばつたところで之れ位のものさと云ふ、割き松茸は氣がきいて居るが上にかけた鰹節はまるで木でもけづつた樣に厚いので折角だが見ただけで澤山だ、香のものはひね澤庵を二寸位の長さに細く切つて有る。

横の方に並んで居る膳は十九世紀式の小さい足高膳、テーブル計り見慣れて居る目には一寸珍しいが面倒くさゝうだ、自分も配膳の手傳をする、氣をきかしてツンと山盛に盛つたつもりでもまだそんな事ではだめだとて見事失敗する、芋は丸なり、大根でも松茸でも切り方の大きな事。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世の中は様々だ、刺身が無ければいや、鱠が無ければ、照焼が無ければと小言ばかり云つて而も山海の珍味をまづさうに酒をのむ人も有るし、芋や大根でも誠に愉快に飲み明す人もある、前者は恐らく此世に生れた罰あたりにちがひない。

歸りには風呂にまで這入つて行くのだとてお湯が盛にわかしてある。

そろ〳〵と夕方七時頃からお客様が見えた自分はソッと所謂田舎の宴會(？)の樣子を見やうと思つて居たが、あひにく自分を訪ねて來た人が有つたので殘念ながらだめだつた。奥のはなれで御馳走のおすそわけを頂だいして明日を樂しみに早くねてしまふ。



明る朝早く起きて裏の窓をあけると芋畑にきたない笠をかぶつて、裾を端折つた人が跪つて一生懸命に芋を掘つて居る、下を向いて居るので顏は見えないが大きな芋がころころと出て來る面白さ、でしばらく見取て居ると、フト其人が此方を見た、のを見ると豈はからんや此家の御主人公だ、之れが種々の税

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

金合せて五百圓近く出す豪家の大旦那樣とは何と云ふ事か。

僅かの税金を納める人でも都に住む人は中々威張つたもの、竪のもの、横にもせぬ、仕事をしたら御自分の品位が下ると位に思つて居る、田舍の人は都の人の目、否自分の目から見ても其目的は全くちがつて居る。

美衣、美食凡て虚榮的の事は目前の芥同然に心得て居るので有る、之れは今年になつてから拵へましたと倉から物々しさうに出して來るのを見ると皆蠶から飼つて糸を取つて、絹機に織つて染めさしたのだ、之れが一番の晴着で、平生はどんな人でも皆手織木綿のごつごつしたもの、あなた方はシユーシユウと音のするものを着て入らつしやると、其シユー〳〵と音をさせて居る人の懐はいつも何の貯へもなくして、すかんぴんのピー〳〵だ。

貯へと云へば裏の納屋に行つて見ると四斗樽の漬物桶が四つも五つも並んで居る、澤庵もある、味噌漬もある、澤漬もある、其わきのはまだ目張の新しい辛漬、四年五年越しになると云ふ梅干やラツキヨ迄並べられてある、其隣には大きな實に薩摩芋の掘りたてや、松茸がほうり込んである、あゝ豊なものだと急に田舍が好きになつた、けれどもまた考へて見ればいやだ〳〵、うるさい事、一寸其處迄と出るとまばらな家から顔が俄に澤山表はれてさも珍らしさうに私の姿を眺める、魚も食べだい、都風の菓子も忘れられない、こんな處に一月も居る事はいやだと勝手な事を思ふ。

先祖代々共に住み、共に傳はつた人々ばかりが多いから何處の誰は誰の家から養子に行つて、彼の人の母親は何處から來て居るとか夫れは〳〵戸籍吏も何も要らない位によく知つて居る、表で逢ふ人は皆親類の樣なものだ。

△寶の山狩り

かねての目的とて其日松茸狩りにと出かける、自分の家に居て亭主役とは異つて、のんきなもの、山行きに下駄は駄目だとあつて藁草履がチヤンと揃へてあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。

朝からの日本晴、袷一枚で澤山だ、洋傘片手に身輕ないでたち、家から共に出たもの三人と、途中に待ち合せた人々と共に凡て八人、後になり、先きになり、田の畔道を傳つて行く、實に平和なあたりの景色、野菊のやさしげに道の邊に咲き亂れたる、地楡の莖は細くひねて頭ばかり大きく、都あたりの畑に造られたる肥料のききすぎて丈も馬鹿にのびのびとしたるとは變つて、かゝる自然の山に風にもまれ、雨に洒れて面白く生



ひ育ちたるは又云ひ知れぬ趣がある、

りんどうのうらみ長く、其處此處の岩かげに色もゆかしき紫色の花開きたる、錦木の緑深き松に交りて一きわ目立ちて紅に燃ゆる樣に見ゆる、或は山の中程に谷をのぞいて居る樣な松の枝振りのいゝ事、あれを見ても、之れを見ても好ましい、片端から折つて持つて歸りたい、歸つて花屋に見せたら何と賞めるだらう。

松の落葉の二三寸も積つてごぼごぼとふみ込む樣な中に松笠は敷きつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

めた樣に落ちて、枯枝に足を取られさう、夫れこそ都の人に見せたらば、指ほどの太さの薪一本でもたゝではおけぬ、せちがらい生活をして居る人に見せたらば、何と云ふだらう、こんな處に居る人は一生薪なんて買はずにすむ、勝手な事を考へたり、しやべつたりして居る間にだん／＼と爪先上りの山にさしかゝつた、案内する人の講釋を聞けば、何でも松茸の上るのは古い赤松の根にて、餘り濕氣の多き處には出でずと、茸類などと云へば何でも濕氣のある處がいゝかと思つて居たのに大ちがいだつた。

都に居ての想像では茸狩などゝ云へばさもらくなものゝ樣に思つて居たのに、サア之れからと云ふ處に來て見れば、薄は丈程にのびて、蔦や、荊は遠慮なく足をすくう、草原押し分けていざ之れからは幾らでもお取りなさいと云はるゝまゝに、何でも一番大きいのを取つて先きがけの功名をしようと、あたりを見まはすが根から無い、氣ばかりいらつて手あたり次第に草の中をほじくつて居ると、案内の人が見かねて笑ひながら一寸玆に來て見給へと云ふて、走り寄れば、ツイ我足下に土をわけて苔の下からぬく／＼と押し上りたる、茶色の怪物、松葉をかぶつてマア美事に、眞に之れぞ生れて初めて、手でさはつて見るとかたくこつこつと音がする位。

枯葉や苔を拂ひのけて見れば、一ツならず二ツならず、三ツ四ツ五ツとつゞいて目に入る嬉しさ、取るのが惜しい樣な氣がして、暫時は眺めて居た。

丁度七本かたまつて居たのを一本づゝ拜む樣にして取つて籠に入れる、頭はまだ小さくて廣がつて居ないが、ちゆくは太くて四五寸もある、出はじめにはこんな大きいのは一本が二十錢もした、漸く上つて居る樣子も知れたので、之れを手初めに山の下から上をすかして見て、少し土が高くなつて居ると思つて、ソッと土をのけて見ると、きつと有る、一本有れば大抵は夫れと續いて少なくとも二三本は有る、誠に面白い事、枝に髮を引かけたり、裾にまつはる荊を拂ひのけて大きな笠の開いたのを見つけて取つた時の嬉しさは、實

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に千金のねうちがある。

くよ〳〵と氣鬱症なんかで薄暗い部屋に閉ぢ籠つて、人に顔合すのもいやだなどと自分から氣をくさらして居るヒステリーの人や、運動不足の爲の病人樣達には、先づ一度玆に來て一日遊んで御覧なさいと、自分は心から勸めたくなる。如何に高價な藥も之れには及ばないで有う、空氣は飽く迄清く、聞ゆるものは只もづや小鳥の折々思ひ出した樣に鳴くのと、谷の流れのさゝやきばかり。



峨々たる岩根苔なめらかな、飛沫白泡と散る、水は飽迄清かにして水勢矢よりも早く、淵となつては濃き藍色の底迄澄みて、石の數さへ讀まるゝばかりなるに、野菊の姿やさしくうつしたる、名もわからぬ赤き實の綠の葉の間から見ゆるなどは、實に畵よりも美しく、一ッとして目を悅ばさぬものは無い。名醫の力もからねばならぬ、藥も飮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まねはならぬが天然の此美しい景色は病氣をなほすには前の二者以上だと思ふ。

畫よりもいゝと云つたが都の芥の中に埋つて打連る屋根ばかりにらみつめて、徒に先輩の眞似をしたり、いゝ加減の想像でこね上げて得意がつて居る連中も、亦たまには費用を惜まず山水の美に接する事は、誠に必要であると思ふ。

他の人の茲に有りし、又其處にも有りし、この大きく笠の開きたるを見給へなど、ほこり顔に打興ずる聲聞えて、其處に有るのがあなたには見えぬにやと、人の惡き案内者に笑われて、あはてゝキヨロ／＼と見廻はすすぐ下に、ヌックと頭もたげたるを漸くの事に見づけてはヤアと大笑ひ。

之れ見給へ昨日此山に十四五人も取りに來た、心なき人のぬいたあとは此通りと、見れば、土を掘りくり返して孔があいて居る、こんな事して　來年はもう此處には上らぬと愚痴をこぼす。

山の中程の平らたい處で一ト先づと毛布を廣げて休む、籠を見ると二ツに大方一パイになつて居る、一貫目も有らうか下手だ下手だと惡口云はれながらもこんなに取れたと自慢すれば、まだ／＼私が見たら今來た處に二百目や、三百目はたしかに有りますと案内者が云ふ、夫りや山の主にはかなはない、モウ此處には無いと思つて居るあとから笑ひながらキット一本や、二本は取つて來るのだもの、山に生れて山に死ぬ山人とはとても比べものになりやしない、之れだけの山で今年になつてからモウ五十貫も大阪に送りだしたと云ふ事、併し大阪や、京都地方は惡い病氣がはやつた爲餘り松茸の食べ手が無いので、百目が四錢位迄に下つてもうけが少なかつたとの事。

よく盗みに這らないものですねえと誰かゞ云ふと、夫りや這入りますとも、去年なんか自分が見まはつて居る最中に、盗人々々と倅が麓からどなつて來るので、其方を見るとツイ自分の目の前に逃げて來る者がある。

ソレッと自分も一緒になつて山の上まで追ひ上げ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、もう何處にも行く處は無い袋の鼠だと思つて居ると、無法にも後の崖から下に飛び下りた、ト指す方を行つて見ると五六丈も險しい斷崖になつて居る、其下は官林で遂に其處で落ちた處をつかまつた、見ると近所の狂人で有つたが、可哀さうに着物はぼろぼろに裂けて、手も足も剃に引搔れて血だらけになつて居たと云ふ、又此外に盜みに這入つたものが板に釘を澤山打ッて、要所々々に



置いてあつたのを知らずにふみ拔き、足の裏に大怪我そして、八十日も寢て居た人もある、夫れでも誰にも云ふ事もならず、自分で内所にして居たが、夫れからと云ふものは何時となしに夫れが評判になつて、誰も盜みに這入るものは無くなりましたと、夫れから夫れと話の方に實が入つて來た、實に誰も云ひ出さぬが少々くたびれ氣味になつたのでお輿が坐

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つてしまつた。

もうかれこれお晝頃だと云ふのでお辨當を食べる事にした。

例の燒豆腐、油揚、高野豆腐などの煮〆に紅しやうが、胡麻を振つた握飯が黒塗の重箱から出る、こんな時にはお茶が何より御馳走だ。

朝からの運動と、山や谷の景色が第一の御馳走で、握飯が誠においしい、一ッ二ッはぢきに平げてしまふいくら食べても何の氣兼もない、夫れも其筈、他の人は自分の倍程も食べるのだもの、其つもりで自分に分けてくれるので、到底皆食べ切らない。

わざ〳〵こんな田舍に松茸とりに來たのだと云ふので、何でも自分に取らさうと、其處にもある、此處にも有ると敎へて呉れる度に、山を登つたり、下りたりして、私が一番疲れてしまつた、其處へたらふくつめ込んだので、モう動けない、他の人がまだ〳〵と取りにかゝる間自分は其處で休んで居た。

づゐ分他の松茸山とて客に取らす事を商賣にして居る處では、客の來る前に松茸を澤山他から持つて來て、ソッと植ゑて置く處も有ると云ふ、ふのりで固く植付けるので、一寸知れないとは何と云ふ事だらう、茸狩もそんなになつては何の興もない、今に東京の眞中で松茸や、初茸狩か出來るかも知れないと云つて皆大笑ひした。

彼れ是して居る間に時計を見ると四時になつて居るので、そろ〳〵と歸り支度にかゝる、往には辨當が荷物だつたが、歸りには、松茸が三貫目程も取れたので、又荷が増へた、夫れでも降りは早い。

野菊を折りながら何時か前に待ち合せた處迄歸つて來る、是非上つて休んで行けと云はれるので、一寸休んで行く。

處へ用意がして有つたと見えて例の小さなお膳が出る、御馳走は例のお定りの松茸や、芋、大根のごつた汁に此家では特別に張り込んでなまり節が一切。

日が暮れて來るので禮を云つて歸る。

御飯を食べて來たのなら之れでもと留守の間にちゃ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んとあんころ餅が拵へてある。聞けば一月に一度はキット餅をつかぬ事ば無いと云ふ、田舎は何でもうちで拵へるので、拵へる人も少しもおつくうに思つて居ないらしい。

私の處などは一年に一度の暮の餅つきなんて云つたら、朝から晩迄家中が大騒ぎをする、お湯に這入る、所謂五右衛門風呂と云ふのだらう、蓋が上に浮いて居る、其蓋の上に乗るとズーと其まま沈んで行つて底になるのだ、何の爲めにこんな風呂を建てたのかと獨りで噴き出しだ。



晝の疲れで、皆とはなしをしながら居眠りばかりしてとう／＼早くから寢てしまふ。

夢には松茸の事ばかり。

翌日も好いお天氣。

お客樣にあげて呉れとて甘酒を持つて來る。

村の祭りが近づいたので餅をつかない處は皆甘酒を拵へるのだと云ふ、普通の御飯の茶碗に一ッ這入り兼ねる樣なお萩も、自分等にとて持つて來た、之れには少し困つたが、夫れでも飾り氣の無い田舎の人が心から食べさせ樣と思

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて、持つて來る親切が誠に嬉しい。きのふ取つた松茸や、掘りたての芋、手製の茶、手織木綿に餅迄むりに押し込まれて歸りがけの土産物は大したもの、大勢の人に送られて午後二時の汽車に乘つて歸つた。

トルストイ伯の夫人

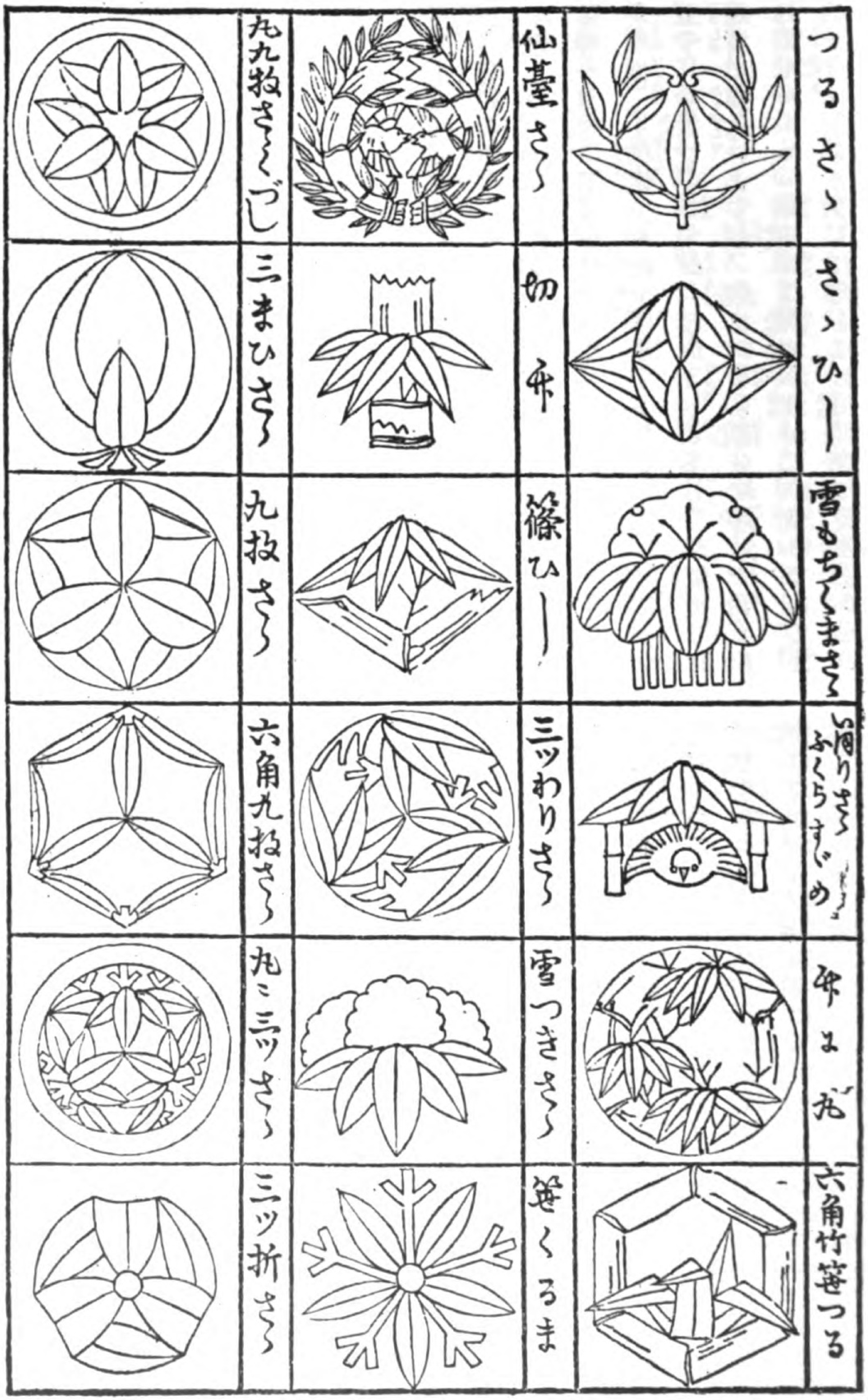
露西亞の旅行記などを見ると、トルストイを訪ふは一種の巡禮として大抵訪問記を記して居るが、伯夫人の事は餘り書いてない。メチアナといふ婆さんは餘程のお轉婆と見えて、客の前などへ來て大變エライ事を言ふやうだけれども、伯夫人は客の接待や會食には必らず出るには出ても何にも喋らないらしい。一言以て評すれば日本流の婦人、むしろ純然たる普通の日本婦人と言うてよからうと思ふ。

兎に角あの常識勝れのトルストイ伯と一緒に居て、よく其内を守つたのは、婦徳として優れて居ると言はねばならぬ。如彼いふ偉人の私生涯には得て言ふに忍びざる失態や世間には出せないヒドイ缺陷があるもので、トルストイのやうな性質では當然これがあるべくして無いのは、伯夫人がよく内に居て此れを防ぎ且つ補したからだと思ふ。トルストイは金錢に對しては全然觀念がない。道で乞食に逢へばポケツトから掴み出してやつてしまう。貰ら遣るといふのではなくて掴つた丈けやるのである。伯夫人がポケツトへ金を入れてやると皆無くし歸つて來る。誰にやつたのか何だか更に分らない。曾てトルストイは自分の財産を村の公共財産にしようと言ひ出した事がある。其の時も伯夫人は仕方がなくて皇帝へ哀願に及んで之を止めた。其が爲めにトルストイは表面上極めて上品な無治産者になつて了つた。斯んな風にして伯夫人はトルストイの財産を守つて來たトルストイは世間から持說に反して富裕だと罵倒されるが、其はトルストイの關係した事でなくて伯夫人が作つたのである。トルストイは又子供の教育には無頓着で、どの子もどの子も野放しで育てゝある。それを伯夫人は一夫人の手であれ迄育てゝ來た。

トルストイの家庭は實に平和な圓満な家庭であつて、一たび伯を訪ぬるものは先づ此家庭の空氣に驚かされて、非トルストイ派のものでも、忽ちト伯心醉者になるが、是れ又伯夫人の淑徳の致す處らしい。ト伯の村の者がト伯を神の如く崇拜するといふけれども、伯は唯だ時々說法する許で、百姓には有難さは分らないのだが、唯伯夫人が自分で出かけて行き、病人見舞つてやつたり物を惠んだりする慈愛には感泣して居る。兎に角世間のト伯崇拜熱がこれまで盛なのはその背後に伯夫人の在る事が一の原因に成て居ると見られる。（内田魯庵氏）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

松竹梅の紋づくしの中竹葉を図案にしたるもの十八種を集む。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



昔偲ばるゝ先生の噂

月の雫

◎

どんな生徒にももてるのはお年頭の裁縫の先生、流石は專科の先生だけあつて技藝にかけては何なりとお手のもの、特にお羽織と男帶とがお自慢でよく襟のお講釋や男帶の折目を見せつけられましたつけ、何校出かつて‥‥檢定でお仕上げなすつたのですわ、もうお五十にお近いのですが、なか／＼どうしてお氣丈でお達者で被入いますわ、然しいくら若くお見えになりましてもねヽ、ヽお顔には大波小波が‥‥それでゐてえび茶袴はちとどうもねえとはお花だつた美佐子さんの口癖、實際御注意申上げたい位でしたわ、でも先生一向平氣、何處へ行れるのも此お袴一貫、ひきつめたつやの多いお髪を名もなき束髪になさつて綽名にたがはぬお可愛らしいおからだを、まめにちよこ／＼お運びなさつて大得意——快活でおやさしくてお話上手で、箱根知らずの江戸子氣取りはちと振つてゐますが、方言交りの東京辯で人をそらさぬ應待振りは、龜の甲より年の功——隨分失禮な申分ですけれど流石とうなづかれましたわ。

はあお家はお母様と姪御さんとお三人暮しですの、いえお弟子の兄様は京都にお住ゐで洋行がへりの理學士とやら、先何のご不足もないお羨ましいご家庭ですわ然し先生はなせか終生獨身で被入るとか被入らねばならぬ御事情がおありだとか‥‥それではどうも羨む程のお身の上ではないと——却つてお氣の毒に思つてた方もありました位、よく午後の裁縫の時など教授に疲れたおからだを教卓にもたせ、頬づゑついて夢見る様なまなざしを遊ばしては、細い吐息を洩してうなだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れなさる時など何だか妙なことを想像して淋しい感じが自分のことの樣に胸を襲ひ眞からご同情いたして居りました、そんな時にはまた皆の針もつ手もお留守になつてゐて一時間に袖口かけ位が關の山、すると元々ご快活な先生てば「一時間にそれだけ？　離緣組になりさうねえ」なんて笑はせなさる。

さう〳〵いつか吉子さんが「裁縫の先生のお齒の根の黑いのはかねをつけなすつた後に違ひないわ」といひ出したので皆大笑ひをした時、梅子さんが「いゝえあれはなすび齒つて云ふんですわ」なんて眞面目に云ひ爭ひなすつたこともありましたつけ、するとまた誰やらが「先生の姪御と被仰るのはわすれがたみぢやないこと」なんて途方もない方まで勝手推量なさるので半信半疑の其中に卒業もして、今だにオールドミッスか未亡人か知つてゐる方はないのですつてホヽヽ

◎

なべぶたかべりの先生、ホヽ何故、黑い澤山あるお髮をどこが前か後かわからぬ程ふつくりおふくらしなさつて被入るのですもの、直徑一尺は大丈夫ありますわなべぶたも大鍋ぶたですねえ……華奢な透き通る樣なお色白で、殊にお襟元のお美しいこと、お顏ならお動作なら、ハイカラのモデルですねえ、その上お眼は千兩全くの夢路式ですわ、お宅は田舍の舊家で界隈きつての資產家なので、お持物などハイカッタものばかり、受持ちは博物、植物採取にどうらんさげて山をあさりなさる折の活潑なスタイルは何とも申されませんねえ、高師も優等で御卒業とやら、八方美人の萬能家だのと評判の高い通り、實際、習字圖畫音樂などは大得意ですもの補缺に被入して敎へて下さる度に感服いたして居りました、それから運動好きで被入るものですからテニス、クロッケー、ピンポンなどすべての選手で被入いました。しかし若手のやりてと評判高いわりに生徒の人望のないのには驚きましたね、えそれはストライキを起しかけたのでもわかりますわ、はあ感情的な方ですの、御機嫌がよいとそれはそれは快活で知らず識らず引き入れられて浮かれ出す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

といふ様でねえ、つゐホヽヽヽと翌日は食事もなさらず舍監室にたれこめて、はては早くから夜具引かけて臥りなさるといふ有様、早速お見舞として總代（お花のものを選擧し）を伺はすと「どうもしないのですよ」と鶴の一聲、ホームシツクが起つたら私の室へ被入いな、お菓子はたべたかあないのなんていつて慰めて下さるやさしいお口からいつもこれなのですもの、本當に情なくなつて自修時閒も忘れて各室を訪ひては心配いたして泣いた事も度度ありましたわ、今考へるとばか〳〵しくて仕方がありませんよホヽ、其後も度々そんなことがありましたが誰一人心配する者はありません、先生に對する信頼の度はいよ〳〵下り敬慕の念は全く去つて仕舞ひました。



といふのはかうなのです其頃同級生に廣子さんといつて校內唯一の美人がおありでした、成績もよし私博物が一番好き

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

よなんて先生の前で被仰るので、いつか先生のお氣に入り、隨分二人とも思ひきつた表情をなさいましたつけ、いつかも教卓の抽斗しに交換する寫眞がはいつてゐたとやらで大騷でしたわ、紙に書いてまはす、黑板にかき立てるやら、二人のチャレストなることは忽ち全校生の評判となつて多くの人の憎しみの的となられました、其後思ひ思はれた廣子さんは數ある中から一人高師に入學の榮を負はれました：：迄は大々的活動でしたが、滿れば缺くる世の習ひ、羨望の的となつて發入した廣子さんは、遂に先程黃泉の客となられたのですわ、お可哀想でたまりませんそれと前後して先生の兄樣が腹膜炎でおなくなりなさいました、引續きの不幸に流石氣丈の先生も人目に立つ程おふさぎでした！「それもその筈兄樣とは或意味の兄樣でお許嫁の君なりしとか御悲歎はさもあるべし」と茶化した樣なことをいつた友もありましたが。「私情にかられる如きものは敎師の資格なし」と攻擊した時子さんから「N先生最早候補者さがしに浮身をやつし給ふらん」といつてきたのですけども、昔はともあれ今の御身の上お察し申しては右の返しこと出す勇氣もない熱い〳〵同情の淚に袖を濕すばかりですもの：：

◎

當市六校中の花形先生は音樂の先生、博物の先生と何れ劣らぬ當世美人の典型ですけども、二人取りなら此先生をとは義子さんの所望、ピアノとお琴とがお得意で、慈善會などといへば乾度先生のピアノか獨唱に斯道に名高い某外國婦人のヴアキオリンがお定まりでして、それがまた當夜の呼び物でしたわ、勢ひ生徒も澤山參りますので一時新聞で批評が出ましたが、そんなことに左右されなさるやうな先生ではございません、相變らず浮いたふるひつきたいやうなお聲で獨唱もなされば、山田流の彈琴菊水の曲など美事にやつてのけなさるお手ぎは、スタイル見惚れて仕舞ひますわでも私ピアノに向つての橫姿が一番好きでしたけど：：博物の先生と同鄕でお家は辯護士とやら、近々の中におめでたい事がおありとか、法學士でお三十です

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つてお五つ違ひねえ、理想の家庭が出來るわねえ、とは異口同音に出る言葉、でもあれを御承知なのかしらお脊の高い三枚草履の鼻緒は裾を稀にもれる許り、

「そこにそこありだからだつて口善惡ない友の誰彼れの陰口ッ妬み？

◎

お花にして頂いたご恩報じにたんとお賞めなさるかと思ひの外隨分ひどいつてホヽヽヽまた〳〵あつてよ、

女學生の內幕はそんなものぢやないわ、でも云はぬが花でせう……



會食中の禁物

歐米諸國の交際社會に行はれて居る食事中の禁條で参考になる事を擧ぐ

一、食卓に就いたら決して左顧右眄してはなりません
一、食物を口中に一杯に頰張らぬこと
一、食物を咀嚼しつゝ口を開かぬこと
一、食事中には犬猫等に戯れぬこと
一、口中に指を入れて齒などをほじらぬこと
一、小刀にて食物を口に入れ又小刀舐らぬこと
一、牛酪又はソースなどにて卓子掛や指を汚さぬこと
一、食卓上に在る果物などを他へ持つて行かぬこと
一、自分から彼れか是れかと品好をせぬこと
一、指に故障ある場合の外は手袋を嵌めた儘食卓に就かぬこと
一、隣人に強く肱を衝當てぬこと
一、殘骨を舐り又は殘漿を啜らぬこと
一、他人と耳語し或は嚔をせぬこと
一、己れの好む品でも一つ物許り餘計に貪らぬこと
一、食事中興に乘じて高聲を發し或は肉刺などを揮り廻さぬこと
一、己れに進められた食物は同席の人に讓らぬこと
一、對食する人の足に觸れぬこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新年の飾物

外には門松内には屠蘇酒の香り、何處も彼處も新しい風が吹て居ます、床の間には三幅對は勿論の事、趣向を凝した種種の飾物は、年始客をして垂涎三尺、あつと云ふ目に逢せて遣りたいものですね。

第一圖

△だいだい
△ほだわら
△かや
△のし
△野老
△はぜ
△根松
△みかん
△くり
△柿
△こんぶ
△海老
△米
△裏じろ
△ゆづり葉
△田作
△梅干
△數の子
△やぶかうじ



新年の飾物のうち、極めて平易で安直で一寸引立て目立つものは飾三方です、只今では餘り世間で賞美しませんが、生花や盆景を飾るよりは仕事が早くて然も風が變つてるといふ點は、大に賛成すべき物と思ひます。

皆さん、試に歌加留多の暇を利用して遣つて御覽なさい、實に立派な飾物が出來ますよ。

是は説明するより圖を以て示した方が解り易いので、其の主なる物を二通り記載しました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本式は三方の四隅に紅白の奉書を以て甲立を作るのですが、略式は唯奉書二枚を重ねて其上に期節の物を載る丈けでよろしい。

第一圖の松は一尺二三寸より大きい物は不可ませぬ、幹は太く逞しいのがよい、のしは長のしです、三方の眞中には米を盛て、其の上に小松を立るので有ます。

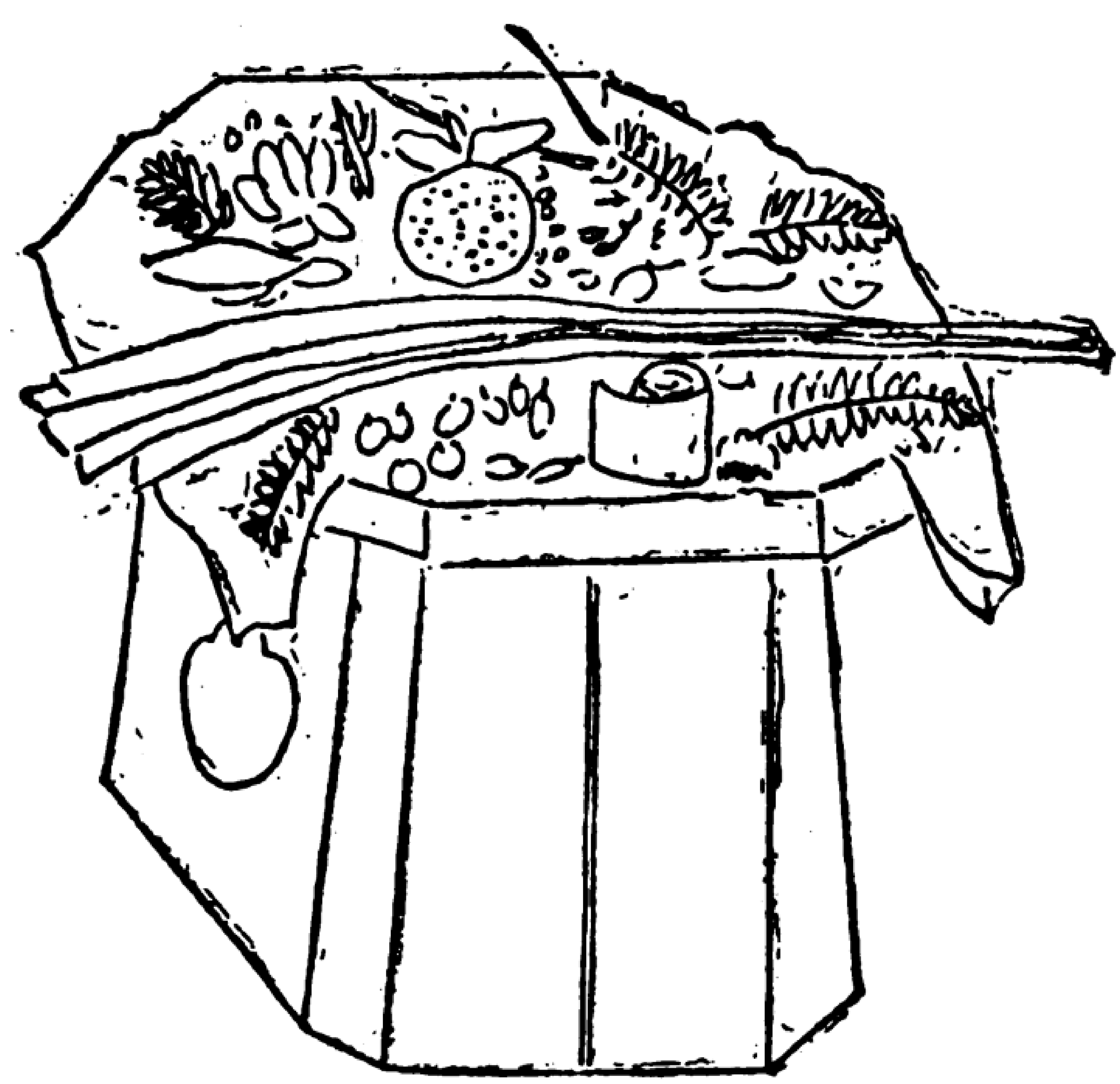
先づざつと此位の所で御賞翫を願ひます。

屠蘇重詰

新年料理手廻しよき樣にとて暮の中に詳しく記しましたけれど猶一寸附添をして置きます、正月は何所も同じ屠蘇重詰に飽てゐますから、之れに備へる料理は旨くて目出度く、手廻しのよいのを肝要といたします。

第二圖

△えび
△ほだわら
△こんぶ
△豆
△數の子
△あられ
△柿
△するめ
△ゆづり葉
△のし
△かや
△かちぐり
△みかん
△だいだい
△たちばな
△かうじ
△ごまめ



吸物 ｛鴨（又は鷄）　小松菜　熨斗‥‥　柚子

小皿 ｛數の子　花鰹

そこで吸物は鴨の笹身を薄作りにして輕く鹽をあて、十分間の後鹽を洗ひ落して淡醬油にて下煮をなし、小松菜は軟かに煠て揃へて、一寸五分程にはやし、熨斗はんぺんは上製の半片を熨斗餠の如くはやして前の二品と共に重に詰め、一個の柚子をその脇へ入れ置きて客が見えたらば手早く鴨、菜、はんぺんの三品を椀に悶盛し、淸汁を注ぎさし、柚子一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

片を吸口に入れて出します、清汁のこしらへ方は年末の誌上に詳しく書いて置きましたから、それを陶瓶の如きものに入れ置き、材料を岡盛りしたる椀へその汁を入れ上より湯を注ぎさし吸ひ加減の清汁にするのです。

それから小皿はかずのこは水に浸し、鹽にて揉みて鱗と膜とを清淨に除き、十分水洗をなして目笊に揚げて雫を切り、重へ入れ置き、花鰹は鰹節の赤き心を薄く搔き細く薄く、捻れたるを乾きたる塗重に入れ置き來客の時數の子少々を小皿に取り、醬油を注ぎて花鰹をふりかけて出します。初めから數の子へ醬油をかけると滋味を生じて味がわるくなります。

口取　松茸　蒲鉾　梅花玉子

酢の物　末廣牛蒡　三杯酢

口取は松竹梅をきかせたものです、松茸は小さきを撰びいづれ罐詰もの味淋一杯、醬油半杯にて煮る、鰹餅は木口切りとなし、梅玉子は煠玉子を温き内に皮をむぎ、竪に布巾の上に三四個並べてグル／＼と卷き、周圍から太き丸箸五本を行儀よく添へて麻糸にて丸箸の喰ひ込む程堅く卷き締め、十分冷却てから取出して木口切にすれば梅の花の形になります。

末廣牛蒡はごほうを五六寸の長さに切り米糠と共に鍋に入れてざつと煠で、澤山の水に放して灰汁をぬき水洗して一寸五六分程に切り、尙ほ竪に割りて拍子木に庖丁し、竪に薄く數枚の庖丁目を入れて木口切の番椒少々と共に鹽酢に浸しおき、來客の時引揚げ、根元の所を二本指にて確と摘みて捻れば末廣形に開きます

これを小皿に二ッほど盛り重ねて三杯酢をかけます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

昔の正月風俗



Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

懸想文賣のゆゑよし

その起原は詳かならねど、鎌倉幕府の始め頃之れありしこと古き繪草紙に見えたり、下りて江戸時代に至りて最も流行を極めたるが如し。正月元日の朝より十五日迄、赤き布衣に袴の裾高くとり、烏帽子又は編笠を被り、覆面して町々を賣り歩けるものなるが、買人あれば、細き疊紙の中に洗米二三粒入れたるを假粧書と名づけて渡し、さて祝言として、それを買ひたる人の身の上につき、或は夫婦の語らひの事、或は商賣の事、又は物學びの事など、其他何にてもその人々の望む事を様々に目出度くいと面白く言ひつゞけて去るなり。されば懸想文といふも、彼の枕草紙に「よろしうよみたりと思ふ歌を、人のもとにやりたるに、返へしせぬけさうぶみはいかゞせむ」といへるそれにはあらで、たゞ紙符を斯く名づけて、未だ嫁せざる女の良縁などを祈りしものと見ゆ。

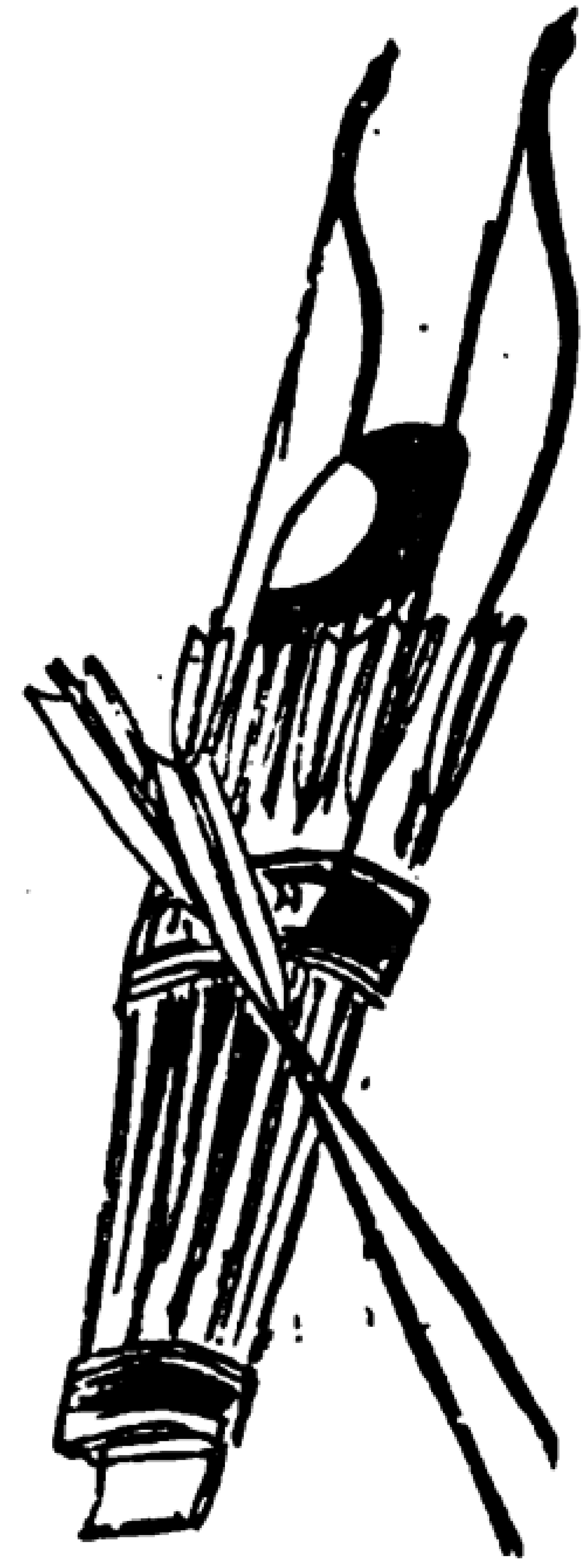
尤も文化の頃よりは、文人等の間に、風流を主として文を認むるの風を生じたり。さてその文の一例を示せば、まづ左のごとし

かけひの氷のとくるをたよりに、山端のわらひ顔もやと、なにはのあしのみちかき筆をそめまゐらす、御くしは柳のいとのゆら／＼とめでたく、髪のむらこの御もとゆひに、梅か香のうちかほり、もちゐかゝみの重れき玉へる御えりつきの白さに松のみとりに紅の霞の衣のひきあはせを、春風にふきなひかし、しとけなき御物こしこそ、常よりも忍ひかたくて、下もえ初る若草の、ねよけにみくの葉のあしまても見まほしけれ、梓弓ひかはよらんの御返事もあらは、あすのれの日は、ともに千世もと祝ひら／＼かしく、

けさあら玉るおとらせまゐる

などの如し。されどこは文人間の戯れたるに過ぎずして、維新前まで一般に行はれたるは、新玉の壽など目出度き事のみ書き連れたるものにて、之を梅の枝に結びつけて肩に擔ひ、大晦日の夜より元日の朝まで、懸想文召せ／＼と呼びあるき、人の求むるまゝに與へしといふ。それを賣るは公卿の若き公達の楽事。買ふ者も何の爲といふことはなかりしなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



伯林の兄さまへ

東京の妹より

（令嬢の正月風俗）

上原綾子

輝兄樣、美しいカードをどうも有り難う存じました、それから御早々との御年始狀も、うれしく拜見いたしました。

まあ、御年玉の强請には恐入るなんかつて、その御口にこそ私の方で恐入つてしまひますわ。ゆすつたのでは御座いません、たゞね、どうせ何か下さるでせうからそれなら、リボンが送つていたゞきたいつて申上げたばかりですのに……。

こちらからも。丁度年のはじめごろ御手許へ屆く樣に御好きなクロープアーの繪ばかきを差上げて置きましたから、屹度今頃は御らんになつたでせうと思つて居ります。

兄樣、御留學後はじめての新しい年、異鄕の春をどんな風に御迎へ遊ばして？　門松もなければ御鏡餅も御座いますまいし、三ツ組金盃の甘いお屠蘇も御好きな鴨の御雜煮も、まさか伯林ではめし上がることはできなかつたので御座いませう？　それともいつかの鰻の蒲燒の樣にまた留學生の御連中が集つて御餅つきでも遊ばしたかしらつて昨夜も皆で御噂いたしましたのよ、それこそほんとうに昔とつた杵柄、パツトと杵とはいさゝか樣子がちがつたところで、兄樣の賃もち屋さんならたしかなものだつて大評判で御座いますわ。

こちらでは父樣も母樣も三ケ日がすむと直ぐまた大磯へ御越しになつて淋しいので、赤坂の伯母樣に泊つていたゞいて居りますの、多摩さんは相變らずベビーばかりいぢくつて、奈々子の水色服も大分よごれが目

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

立つて來ました。

さう〳〵、先日の御寫眞、ほんとうによく御撮れになりましてね、いつの間にやらお髭まで……。あれが例の皇太子式つて申しますの？　カイゼルの樣にしかつめらしくなくて、よろしう御座いますわね、でもね、何だか氣取つてゐらつしやるといふ評判よ。去年の夏まで五分苅頭に色のあせた角帽のつけて、赤門がよい遊ばしたかの樣には見えませんわ、まして、その昔の腕白坊つちやんの面影などは……と、これは伯母樣の御言葉よ。まさか、もう此頃では月澄む夜半にベットを拔けて、窓へやらぬホームシックにおなやみ遊ばす樣なことは御座いますまいね。

それに兄樣とはわけて御仲好の杉田の俊ちやんも御地にゐらつしやる事ですし……俊ちやんと言へばねえ昨夜も御噂の出た折に伯母樣が

「杉田の俊ちやんも子供の頃はよく此家の輝坊と喧嘩して、おしまひには乾度二人ともベソをかいたものだが、いつの間にかあの人も一かどの外交官になつてしまつてねえ……」

つて今更の樣におつしやいましたら大兄樣つては

「伯母さんじやうだんぢやありませんよ、いつまでも俊ちやんだの輝坊だのつて兩人とももう髭が生えてまさア」

だつて大笑ひ、其のくせ三本筋に參謀肩章の大兄樣だつて伯母樣が敦坊とおつしやれば、好い氣になつて甘へておいでになるんですのに……。

達磨大師さんも二月にはオックスフォードから伯林大學へ御轉學ですつて？　まあ、お嬉しいでせう？

私あのかたの事といふと直ぐ御得意の蠻聲はり上げて

「星あきらかに月稀なる夜」つてすまアして吟詩なすつた房州の夏を想出しますのよ、それから祭文かたりといふのは矢つ張り天理敎の一種かねなんて、おきゝになつた事だの何か……。一體まじめなんだかふざけてるんだか、さつぱりえたいの知れない方ですね、シルクハットの好くお似合になるつて好い處から伺ひま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

したから御會見になつたら冷かしてお上げ遊ばせな。

我家の加留多會。去年よりは二日おくれて開きました。

兄様はじめ俊ちやんも藤山さんも、一とせ前には金ボタンきらめかしての御大將連が、不思議にも、この春は皆海外に、江田島の深さんまで今は淺間に乘つて遠洋航海に行つてしまひましたから何だか淋しう御座いました。



娘子軍は例年のとほり、そのほかに兄様の御存じない新しいかたを三人ばかりお招きしました。

番町の御祖母様は舊臘に「米」の御祝がすんでからは、御召物も帶も緋色づくめ、それで加留多會の當日にはわざわざ御出陣が有つたのですもの素ばらしい御元氣ぢや御座いませんが。

可愛らしい御目許に皺をよせて

「どれ、おばあさんが讀み役になりませうかね」なんておつしやるんで赤坂の進さんか大きな聲で

「それぱつかりは願下げですよ、おばあさん。つんぽの讀み役は振るひすぎるから」つて笑つてると、御自分も何だか判らないのに一緒になつてニコ〳〵遊ばすのですもの、猶をかしくなつて皆もふき出してしまひました。

一年志願で入營なすつた榮二さんもお招きいたしましたの。身體に合はないダブ〳〵服のポケットから、みなりに不似合な恩賜の時計を入れたり出したり、歸營の時刻ばかり氣にしてるのがをかしいつて、新兵先生ひやかされどほし、

「玉突と寢坊のできないのが何より僕は辛いんですよ」つて嫂樣にこぼしてゐらつしやいましたつけ、十六文もありさうなポコ〳〵靴を引摺りておかへりになる後姿を見ては誰の眼に秀才の工學士と映りませう……何だかお氣の毒でたまりませんでした。尤も割合に御本尊樣は平氣でゐらつしやる樣ですけれど……。夜に入つてからは、もうかんじんの加留多なんかそつちのけで、かくし藝が始まる、手品がでる、幸ちやんの率ゐる向陵健兒の一隊はこの冬休みに催ほした坂東太郎遠漕漫錄の一ページから身ぶり手ぶりで、おさらひして、皆を笑はせて居るのですもの

「そんなに一週間も漕ぎ續けたら何ぼポートマンだつて掌が摺りむけて痛くなるでせう?」

つて私がきゝますと、幸ちやんのまあ言ひぐさつたら

「僕はね、これでちつとも豆なんか出來ない性分でね、、、あんまり……」

オホ……「あんまり」が大出來ぢや御座いませんかさすがに未來の外交官といふものは、斯ういふ不得要領な論法を用ひるものかと感心いたしてしまひました。

大兄樣が「晝のボートより白河夜船の方が我々共にや、くすりだね」なんてませ返してらつしやる側でデモ大の原島さんが自働車が風ひいた樣な聲で柄にもない佐渡節を謳ふと、それに續いて詩吟や琵琶歌、遂にはヴアイオリンかつぎ出して寮歌やデカンショやらの大ざらひが始まるといふさわぎ、でもねえ、數へて見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るとほんとうに人數は減りましたのねえ。

明日はまた番町の加留多會、去年まではきつと兄様の御供して缺かさず參つたものですわね、

兄様この間の御手紙に

「お前は相變らず佛蘭西語の稽古は續けてるかい？精々御勉強しかる可く、佛文の手紙を兄さんの處へよこす様になつたら御褒美としてプラチナの時計を送つて上げる」

なんかつて……、ほんとうに兄様もうまいのねえ、お



口だけは……。そんなに御金を持つてらしつて？

事實のところを白狀いたしますとね、この秋から伊太利語もはじめて居りますのよ、それでいそがしくつて佛蘭西語の手紙なんかなか〳〵書くひまは御座いませんわ、あら、だつて、辭書がなくては駄目なんで御座いますもの。

母音に富んだ美しい發音、ほんとうに伊太利語は流暢ね、フレンチでもイタリーでも、いまにもつと上達いたしましたらどんどん書いてお送りして兄様を煙にまいてさし上げま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すわ、そしてプラチナの時計といふのは、まあ當てにせずに樂しんで待つて居りませうネ、、、、

兄さま、私いつでしたか以前の兄様の御居間から好いもの見つけて參りましてよ、何物だとおぼしめして？

兄様あてゝ御覧あそばせな、

丁度袷の頃で御座いました、窓さきの木犀に秋雨のすゝり泣き、じつと耳をすますと何處やらで細い銀環を投げてる様な蟲の音の胸にしみる日の午さがり、あまりの淋しさにまた何か隨筆でも拜借しやうと思つてあの御居間の書架をさがしてましたら、比較法制史とかいふ古いノートが一冊まぢつて居りましたの、何ごころなく裏をかへして見たら――。

私ほんとうに驚いてしまひましたわ、まあ兄様が短歌らしいものを遊ばすなんかつて……。失禮ですけれどほんとうにちつとも知らなかつたんで御座いますもの。

萬年筆のなぐり書きで、夜永のつれ〴〵の御作らしいのが無慮十八首、中で目についたのを一寸かき抜いて御覧に入れませうか、

卷煙草一本吸へばかろらかに
　幻惑するが常なりしかな。

腹立たし打ち默し居れば妹の
　齒の浮くごときヸオロンの音

白き指機械のごとく馳せゆけば
　ピアノの鍵盤は聲あけて追ふ

椿ちり山茶花散りて南天の
　紅き實のみの乳母が家おもふ

蛙なくまたさわがしき生涯に
　靜けさめでゝ旅にゆかまし

まあ一體いつの間に短歌の御稽古まで遊ばしたの？新派でなか〳〵調がよろしいのね、――齒のうく如きヸオロンの音――これが一番秀逸だと存じますオホヽホヽヽヽ、

私だつてまさか此節では鋸の目立みたいな彈き様はいたしませんことよ。ホヽほんとにおかげ様で時雨する日のつれ〴〵も、すつかり忘れて興ふかい半日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

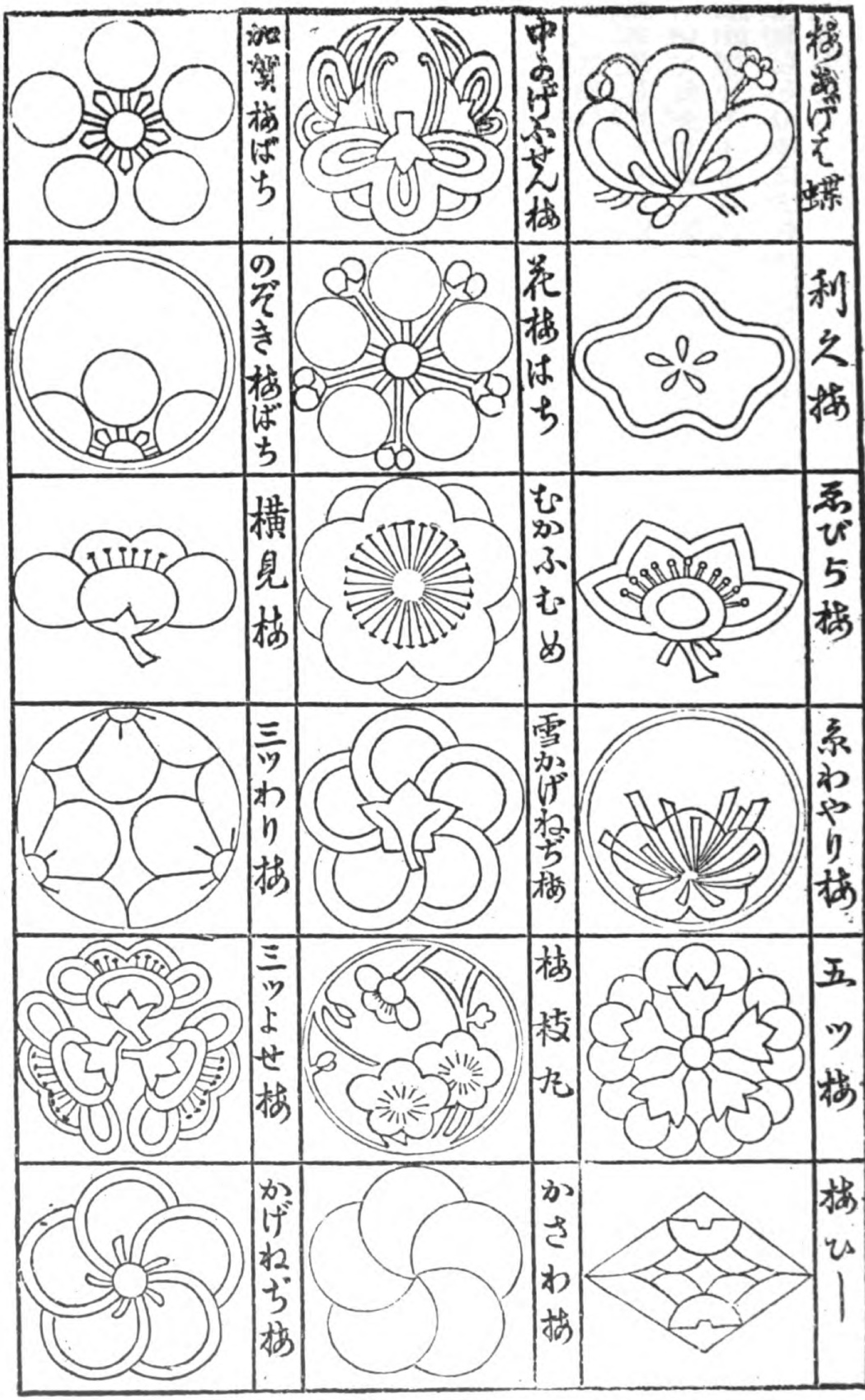
を過すことができました。ライン河畔の秋のゆふべ、菩提樹街の星の夜の御口すさみ、たつた一人の妹の願ひで御座いますもの、きつと拝見さして下さいますわねえ。では、まづ手付けとして御禮を申上げて置きませう。ホヽヽ御歸朝までにはまだあと二ケ年、永いのねえ、大兄様が船にでも、お乗りになる様ですと、ほんとうにこちらは淋しくなりますわあゝ早く御土産をおねだりする頃が來れば可いのに……。



獨逸は大層お寒さが烈しいので御座いますつてね、異郷の冬にかよわのおん身、恙なくおはしませと明けくれ祈つて居ります舊臘に大崎のばあやが例年のとほり、御重詰の御餅を持つて參りました時、どうぞ輝坊ちやまによろしくつて。それから異人さんの國は人がこすいといふ話だから、おん身に御災難のかゝらぬ様、いつも水天宮様に御祈りしてると申して居ましたもしも御ついでが御座いました時、繪はかきでもやつて下すつたら、年寄つたばあやはまあどんなに嬉ぶことで御座いませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

松竹梅の紋づくしの中梅の花を圖案にしたるもの十八種を集めて見ました。



Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



東京では此節どんな風が流行りますか

(髪の形、襟、コート、帯)

彩雲女

田舎娘の東京見物

「エ？妾ハイカラになつて歸つたつてホヽヽヽ、まさか二週間位でそんなに感化れるものですかね、一寸活動寫眞を見て來た樣なものですわ。

「いゝえ全くよ、第一その束髪がすてきぢやありませんか‥‥。

「あらそんなにひやかしていやですわホヽヽヽ、是ね餘り飛抜けてゐるから御免だつていふのに、嫂が無理に結んでくれたのですもの。

「いゝわちと新ハイカラの輸入をしていたゞかなくちや、こんな田舍の隅に世間知らずでゐるものには何にも解りやしませんからね‥‥、一體どうしてそんなにまげが無いかと思ふ樣に出來るんでせうね、其澤山のお毛をどうしていらつしやるの？、まあちよいとあちらお向きなすつてよく拜見させて頂戴な。

「サア〳〵いくらなりと御覽下さいホヽヽ、妾もね結ふてもらつた切り、まだ自分でとかして見ませんけどね、何んでも根をきびつたら其毛をぐつと下にとかして、ちり毛の處でたぼの毛と一緒に挾んで、夫から又根の處に持つて行つて餘つた毛を根に卷きつけてピンで留めるのだつて申してゐましたよ。

「エ、成程そんな風になつてゐますのねえ、妾早速おまねして見樣ホヽヽ。

「あなたには蛇度よくお似合なさるわ、妾達の樣なお婆さんには實はうつらないのよ、大概こんな卷方にしてゐらつしやるのはあなた位‥‥、廿五六の方で時折

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見受けましたつけ、でもねまだ流行の髷なのか、又は飛切りハイカラで一般の嗜好に適しないのか。さう澤山は見かけませんのよ。

「あらさうですか、ぢやこんな田舍では餘り一足飛ね乾度口惡の○○さんに何んとかいはれるよホヽヽ、何んと評されるか一つ此頃のお會の時に結つて出て見やう、あなたも是非結ふていらつしやいなお揃ひにね：：：：。

「まああなたも隨分人が惡いわホヽ、妾はいやですわ實はねあなたにお目にかけたい許りにおみやげに結ふて歸つたのよ、だからあなたがおわかりにさへなれば夫れでもうとかしたつていゝのよ。

「夫れは〳〵どうも憚りさまホヽヽ。

「ホヽヽ。

「東京は殆んど日本髷だつて聞きましたがさうでもございませんの？。

「エヽ場所によつて思ひ〳〵ね、神田方面から下町に行きますとね、それは實際束髮にしてるのがきまりがわるい樣ですけどもね、山の手に行けば隨分ハイカラがあつてよ、束髮の勢力もまだ〳〵頼もしいですよホホヽ。

「丸髷の格好どんなでせう矢張りたぼは出てゐますの。

「エヽ隨分よ、たぼからまげ迄梯子の入用さうな極端なのもありますよ。

「まあ——。

「そしてね髷の一が馬鹿に立つてゝ一の字になつてるんですもの、妾餘りよい格好とは思ひませんでしたわ去年の春頃の流行の方が餘つぽど品がよい樣に思ひますね、でも束髮は却つて上品になつて參りましたね。

「さうどんな格好？。

「申しちや濟みませんがね、あなたの樣にお毛のよいにまかせて、廂を澤山に突出して丸髷にしたのは少し舊ハイカラになつてゐる樣ですね。

「あら〳〵ぢやどんなの新ハイカラつて。

「かうね横を餘り張らさないで、廂：：今はもう廂と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は申されません——、前髪をふつくりと丸くませてたぼは思ひ切り低くきゆつと出してね、髷櫛一本他に何の飾りも餘り致しませんの…、髷は大概くる〳〵と無造作に卷いたのが多うございましたよ、兎に角つむり全體の輪廓で格好をつけて、まげだのリボン、花簪などの装飾を餘りしない様ですね、却々粋で上品ですわ。

「それぢや三つ櫛も櫛笥の底に葬られましたねヱ、、、。

「全くね三つ櫛なんて餘り見かけませんでしたよ、まあ上野に着いた時吐出された連中の中に二人程見ましたつけ、其他淺草で赤毛布の奥さんらしいので見かけた位のものでしたわ。、

「ほんとにね東京の流行は丸で車の廻る様ですものね妾の様に三年も行かないものには想像も付ませんわ。



「さうでもなひでせうあなたなぞは始終三越タイムスと首つ引して入らつしやるんですから、居ながらに名所を知るでなくつて流行を御存じなのだからヱ、、ヱ。

「いゝえだめ〳〵、百聞は一見に如かずですものヱ、矢張り東京の人にならなくつちやねえ。

「でも考へ物ですよ、あんな流行の忙がしく移り變る都に住つて…、超然主義の人なら兎も角、凡夫の我々の様なものは、半年經ぬ間に神經衰弱に罹つて仕舞さうよ。

「ぢや長壽するには田舍…田舍も〳〵こんな寒國に住つて、頭腦を冷靜に暮すに限りますかねヱ、、、是から毎日々々雪に埋れて、六つの花とか柳絮鵞毛とか負け惜しみに賞翫して、風流三昧を氣取つてゐれば無事泰平ねヱ、、、。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「ホヽ夫に限りますよ。でも嫂や從姉などにいわせれば何處に住つても一生は一生だのに、きみさんの樣に年中田舍廻りして、時たま東京に出て來ては膽許りつぶしてゐたら壽命が縮まるわ、早く都の人におなんなさいと申たいけどね妾反對よ、住めば都ぢやございませかねえあなた！、田舍の方がけつくのん氣ですわ……、虛榮の香り現代の輝き、嗅ぐも見るも胸がわるくなつたつて從姉に言つてやりましたらね、相變らず負け惜しみが強いつて大笑ひしましたの。

「虛榮の香りはお嫌ひかも知らないけれども、丁度折柄の菊の香りは如何でした？。

ホヽひどいことね此横槍はホヽヽヽ、迚もお話では盡しませんね、今年は洪水で菊はだめだとか何んとか聞いてゐましたが、どうして〳〵美事なものですわ國技館に團子坂にどこに菊の不足が見えてゐませうよくもこんなに美しく集めたことゝ驚かずにはゐられません、おそらく妾が田舍者だからではなく誰でも感心して見物してゐましたよ、其上電氣仕掛で一層引立せますものね、電氣をパツと燈じた時などほんとに極樂淨土の道の臺だつて、是程美しくはないだらうと思はれましたわ、まあ迚も妾お話したつて十分一も盡せませんね來年は是非上京して御覽遊ばせ。

「しつかり〇いものを貯めときましてねホヽヽ。

「またあんな御じようだんおつしやつて、あなたなど今が今だつて御自由お叶ひになるくせにホヽヽ。

「どういたしましてそんな譯に行くものですか、今流行るといふ襟卷もまだ買はないでゐるやうな譯ですもの。

「ほんとうねもう誰も〳〵も皆羽二重の、種々の織方になつた飛付きたい樣な色氣のを卷いてゐますよ。

「あなたもお買になつたでせう？。

「いゝえ着京するとすぐ嫂があれを是非一つ買れの、小紋の羽織はよせのつて干渉しますけどね、又ぢき田舍に歸るのに……歸ればお寒くつて、あんな粋なやさしい襟卷位では實用に適しないのだからつて、剛情張つてねとう〳〵買もせず、時勢遅れの羽織でも妾獨り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で出掛る時は誰に氣兼もなく矢つ張り着てあるきましたよ。

「どんなお色氣なんでせう、召物やお羽織わ?、伺がつたつて別に仕樣もないけれどホヽヽ。

「あらあなたなんぞいゝわ、そんなに遲れてはいらつしやらないんだから‥‥。

「そんなに遲れてゐなくつても少しはおくれてゐませうホヽヽ。

「エ、それや仕方がないわ正直な處ホヽヽ、日進月歩の花のお江戸ですもの、恐らく東京に住居してゐたつて一ト月も家に許り籠つてゐたら屹度おくれるのですからね、まあ今の處はすべて澁好みね、こんな白つぽい風通に小豆色の羽織でも着て居樣ものなら、丸で田舍者で御座候と旗立てゝ歩いてるも同樣ですわ。



「さうですつてね風通はさつぱりすたつて縮緬お召だと申ますのね、羽織はどんなお色氣」

「まあ藍氣懸つた濃い色ですね‥‥、でもいまこんなでもおまね仕樣と思つてる内に又變りますよ、現にもうちらほら鼠色が兆して來がかつてゐるつて聞きましたもの。

「ほんとにね諺にもあるやうに、流行を追はぬ者がいつも魁するつてね、始終循環してゐますのね‥‥、兎角東京は贅澤な華美な極點でせう、そんな風ですから貴婦人の萬引などいまわしい事も年々増へるのでせう。

「エヽ全くよ打見渡した處の東京は實に美しい華やかな眞に花のお江戸の名に背きませんがね、其また裏面を聞いてはおそろしくなりますね、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「活馬の眼を拔つて昔から申すさうではございませんか。

「どうして活馬どころですか、現代は活た人間の靈を奪はうと懸つてゐるんですものネ、、、妾汽車に愈愈乘り込んでホツト一と息つきましたのよ。

「汽車はどんなでしたの？、此節は時候は良し嘸紅葉狩りやホネームーンの幾組かにお遭ひなすつて、ありし昔をおしのび遊ばしたでせう……。

「まあいやな方ホヽ、ためよ、上野方面と新橋は流石ちがひますね。

「あの方角へもいらつして？。

「大磯の叔母の處へ參りましてね、鎌倉へ廻つて歸りましたがね、あの方角へ出れば御察しの通りよ、妾など全體柄にもない白切符は御免だつて申ますのに、兄夫婦のお手引きだとお付合におしつけられましてね、まあお付女中位の格で乘りは乘りましても、猫の樣に隅つこにちひさくなつてゐましたのよ。

「皆さん嘸御立派な方許りでせうね。

「どうも違ひますね……、其態度が斯う活々として貫目があつてどこやら愛嬌のこもつたお物ごしで、夫で以て濟まして乘つてゐらつしやるんですものね、つくづく拜見すれば別に取立てゝ申す程の目鼻立ちでもない方でも、實にお美しう見えましてね、又お衣裳にしてもそんなに大した物でなくとも、其配合のよいのとお着付けの格好のよいので引立ちますね、まあ何から何まで一寸の隙間もないのですからね、妾なぞあつけにとられて同乘者をキヨロ〳〵見てゐましたわ……、頓んと色とり〴〵の菊の園の樣ですね、往きも復りも目眩るしい樣な方許りで……。

「大磯邊の間は別莊地ですから格別上流の方が多いので、自然御態度なぞよい方が澤山お見えになりますのでせう。

「一體に東海道方面は込み合もしますけれど、乘客が……長旅行の方でも餘り取亂した風俗は見かけませんがね、夫から思ふと東北は乘客も少なくつて氣樂でもございますが隨分不作法ですね。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「そりや酷よあなた……、東海道の一等とこちらの二等と比較しちや少し平衡を失するわホ、、、。

「イヽエあちらでは二等だつて是程にはないと思ひますよ、そして東北の一等はガラ〳〵空きで比較も何も出來やしませんわ、まづ此節ならば大概宇都宮邊迄で……

「日光行きでせう?。

「エヽ紅葉見の西洋人か、稀には富豪か紳士とかいふ人も見かけますけれども、宇都宮から先きは殆んど空つぽ、巡廻中の高等官か陸軍武官位のものですよ、だからどうしても二等が標準となりますがね……、丸で汽車に乗れば傍若無人ね、女だてらに大つぴらで朝からでも空席さへあればだらしもなく横になる、絶えず何やら食べて居ますね、乗るにも下車るにも他の客の品につまづいたりぶつかつたり何の會釋するでもなくほんとに亂暴な不作法な人が多いのよ。



「人智遅れた内地の生蕃だつて誰かいつたつていふぢやございませんかそんな酷評される方面ですものね隨分此地方のだんべい連中にはひどいのが居ますからね。

「處が却て赤切符連中となると、むしろ無邪氣で朴訥

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十三年壹ヶ年間博文館新刊書

博文館は本年より毎月十八種百數十萬部の雜誌を發行すると共に時代の要求に應じ社會百般の新書を發刊致し居り候今や辛亥の新年を迎ふるに際し、茲に昨一ヶ年間の新刊書を掲げて本誌愛讀者諸彥の瀏覽に供し候、總計二百種皆是れ最新の選に係れるもの、希くば陸續御用命あらんことを。

著者		書名	體裁	正價	郵稅
田中真逸編	◎	現代名家の實話 死生の境	四六判 一九四頁	七五	八
孔子祭典會編	●	諸名家孔子觀	菊判 三五〇頁	八〇	八
博文館編輯局編	◎	伊藤公演說全集	菊判 八八〇頁	一、二〇	三
山本亀城編	●	政界の寧馨兒	四六判 三一八頁	三五	六
文學士 坂本健一著	◎	世界史三綱 世界史年表	菊判 四三〇頁	一、〇〇	八
成田鋼太郎著	●	[illegible]艇長 佐久間大尉	菊判 一〇〇頁	二五	六
高須梅溪著	◎	金言對照 百傑スケッチ	四六判 三一七頁	三五	六
田山花袋編	◎	新撰名勝地誌 畿內	四六判 [illegible]頁	六〇	八
同	◎	同 東海道東部	四六判 [illegible]頁	六〇	八
同	◎	同 東海道西部	四六判 [illegible]頁	六〇	八
同	◎	同 東山道西部	四六判 [illegible]頁	六〇	八
田中輝人著	◎	最新 倫敦繁昌記	四六判 六四〇頁	一、〇〇	八

～～～～（◎洋裝上製符●洋裝並製符㊀和裝上製符△和裝並製符）～～～～

著者		書名	體裁	正價	郵稅
小川琢平著	●	滿洲及樺太	菊判 三五〇頁	八〇	八
針塚長太郎 桐口鐵馬 共著	◎	育蠶學大全	菊判 七五〇頁	一、八〇	三
池田藤太郎著	◎	改訂增補 桑樹栽培全書	菊判 九七〇頁	一、六〇	三
農學士 須田金之助著	◎	栽桑及育蠶法	菊判 一六六頁	五五	六
峯邑有源治著	●	圖說 毛氈花壇	菊判 三三〇頁	六五	六
林學士 山崎嘉夫著	●	竹材工藝	菊判 四四〇頁	七〇	八
林學士 安藤時雄著	●	造林之經營	菊判 二六六頁	六五	六
北村東紅著	◎	模樣圖解 花と庭	四六判 二六六頁	六五	六
農學士 上坂種吉 逢坂重助 共著	◎	最新 鷄卵論	菊判 三三三頁	六〇	八
鈴木市僧著	●	實用養鴨法	菊判 二八〇頁	三五	六
理學士 妹尾秀實 鱸ヶ江東作 東道太郎 共著	◎	日本有用 魚介藻類圖說	大判 三三〇頁	二、〇〇	三
鳥野化骨著	●	農界時言	菊半截 一六〇頁	二〇	四
稻垣博士監修、農業教育協會編	●	初等 園藝教科書	菊判 七六頁	一〇	四
同	●	初等 養畜教科書	菊判 八〇頁	一二	四
同	●	初等 普通作物教科書	菊判 七八頁	一〇	四
同	●	初等 特用作物教科書	菊判 八〇頁	一〇	四
稻垣博士 白鳥學士 共著	◎	新撰 農具教科書	菊判 一二〇頁	三五	六

(1) ――――【歷史地理農產業書類】――――

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十三年壹ヶ年間博文館新刊書

著者		書名	判型・頁數	正價（円拾錢）	郵稅（拾錢）
農學博士 白澤保美君著	⊙	農學校用 林學教科書	菊判 二九〇頁	一,〇〇	八
井上繁次郎著	⊙	建築師要覽	菊半截 三三八頁	一,二〇	四
萩野道二 小塙正男 共著	⊙	航海術教科書 測器詳解 下卷	菊判 二〇〇頁	一,〇〇	八
藥學士 越澤渦稿著	⊙	消毒藥劑製法	四六判 一八六頁	六〇	六
同 同	⊙	毒物化學	菊判 三〇〇頁	三,〇〇	三
前澤初治著	⊙	實用 鐵工便覽	菊半截 三三六頁	七〇	六
結城林藏 田中孫六 共著	⊙	實用寫眞術	四六判 四七〇頁	一,一〇	八
藥學士 越澤渦稿著	⊙	醫藥製法	四六判 六三三頁	一,四〇	八
工學士 井川寛一郎著	⊙	インキ製造法	四六判 二七〇頁	六五	六
山岡元一著	⊙	水道及下水道	菊判 二九〇頁	一,〇〇	八
小野武雄著	●	折衷洋風建築設計圖集 附解說	圖面菊四倍判五〇枚 本文四六倍判一〇〇頁		
近藤正一著	⊙	名園五十種	菊判横 三四〇頁	九五	八
伊東祐穀著	⊙	明治四十三年 袖珍世界年鑑	菊半截 六五〇頁	九〇	八
東京交換所著	⊙	歐米國債整理始末	菊判 二九二頁	八〇	八
農學博士 恒藤規隆著	⊙	南日本の富源	菊判 三三二頁	一,六〇	八
堀內新泉著	●	現代執務法	菊判 二六〇頁	四五	六
島田法學士 宮島長五郎 共著	●	刑法論	菊判 三二〇頁	特製 五五 並製 四八	八
塚原澁柿著	⊙	名家小說文庫第三編 澁柿叢書	菊判 一〇〇〇頁	二,〇〇	一六

～～～（⊙洋裝上製符 ●洋裝並製符 ◬和裝上製符 △和裝並製符）～～～

著者		書名	判型・頁數	正價（円拾錢）	郵稅（拾錢）
廣津柳浪著	⊙	名家小說文庫第四編 柳浪叢書後編	菊判 一〇〇〇頁	二,〇〇	一六
田山花袋著	⊙	同第五編 花袋叢書	菊判 一〇〇〇頁	二,〇〇	一六
江見水蔭著	⊙	同第六編 水蔭叢書	菊判 一〇〇〇頁	二,〇〇	一六
嚴谷小波著	⊙	同第七編 小波叢書	菊判 一〇〇〇頁	二,〇〇	一六
國木田獨步著	⊙	獨步全集 前編	菊判 八九四頁	二,〇〇	三
同	⊙	同 後編	菊判 八四〇頁	二,〇〇	三
吉田博著	⊙	寫生旅行 魔宮殿見聞記	菊判 四〇〇頁	九〇	八
嚴谷小波著	⊙	新洋行土產 上卷	新四六判 六二〇頁	一,三〇	八
同	⊙	同 下卷	同 三七六頁	一,三〇	八
田山花袋著	●	近作十五篇	四六判 五二四頁	七五	六
吉江孤雁著	●	短篇三種 ツルゲネーフ集	四六判 三九〇頁	四八	六
江見水蔭著	●	小說 牡丹族	四六判 四九六頁	五五	八
松居松葉著	●	家庭小說 樂天小屋	四六判 三〇〇頁	四〇	六
博文館編輯局編	⊙	講談文庫 義士銘々傳 前編	四六判 四四六頁	五五	八
同	⊙	同 後編	四六判 四五〇頁	五五	八
同	⊙	講談文庫 俠客傳	四六判 四五〇頁	五五	八
同	⊙	講談文庫 武勇傳 前編	四六判 四五〇頁	五五	八
同	⊙	同 後編	四六判 四五〇頁	五五	八

～～～～【工業財政法律小說書類】～～～～ (2)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十三年壹ヶ年間博文館新刊書

著者		書名	判型・頁數	正價	郵税
博文館編輯局編	◎	大岡裁判	(四六判 一五〇頁)	三五	八
同	◎	同 出世譚	(四六判 一四八頁)	三五	八
佐々醒雪著	◎	俗曲評釋 第一編 江戸長唄	(四六判 一七三頁)	三五	六
同	◎	同 第二編 箏唄	(四六判 一五一頁)	三五	六
同	◎	同 第三編 河東	(四六判 一六二頁)	三五	六
同	◎	同 第四編 上方唄	(四六判 二一〇頁)	三五	六
文學博士 末松謙澄編	△	藤公詩存	(菊和紙 八十丁)	八〇	六
光吉文編	△	梅墩遺稿	(菊和紙 六十六丁)	八〇	六
佐々木信綱著	◎	日本歌學史	(菊判 六〇〇頁)	二、五〇	一三
文學士 鴻巢盛廣著	◎	新古今和歌集遠鏡	(四六判 六八六頁)	一、二〇	八
西村酔夢著	●	和歌と俳句	(菊中截 三六〇頁)	四五	六
今井柏浦編	●	類題 俳句大全 上下 全二册 ●上巻八八二頁定價金六十五錢●下巻一〇四〇頁定價九十五錢●郵税各八錢宛	(四六横判)		
星野麥人編	●	類題 百家俳句全集 全四册 ●春之部●夏之部●秋之部●冬之部	(四六横判 三七〇頁)	各册五五	八
角田竹冷著	◎	芭蕉句集講義 秋之部	(四六判 二一一頁)	五〇	六
文學士 豐釜天風著	●	ゲーテの詩研究	(四六判 三一〇頁)	四五	八
與謝野鐵幹著	●	詩集 檞の葉	(菊中截 [illegible]頁)	四〇	六
文學士 久保天隨著	△	韓非子新釋 全四册	(菊判總 一二七〇頁)	各册四〇	各六

——(◎洋裝上製符 ●洋裝並製符 ◬和裝上製符 △和裝並製符)——

著者		書名	判型・頁數	正價	郵税
文學士 久保天隨著	△	莊子新釋 全三册 ●定價上巻四十錢●中巻四十五錢●下巻四十五錢●郵税各八錢宛	(菊判總 一二一二頁)		
同	△	老子新釋	(菊判 二二三頁)	四〇	八
同	△	列子新釋 上下二册	(菊判各 二二〇頁)	各册四〇	各册八
同	△	荀子新釋 上巻	(菊判 [illegible]頁)	四五	八
中村秋人著	●	名媛と筆蹟	(四六判 二八〇頁)	四〇	六
藤波芙蓉著	◬	新式の化粧法	(菊判 三一〇頁)	四五	八
石崎篁園著	◬	衣服の調整	(菊判 三〇〇頁)	四五	八
近藤正一著	◬	室内装飾法	(菊判 三〇〇頁)	四五	八
木村小舟著	◬	兒童訓話 母の智識	(菊判 三二六頁)	四五	八
前田久八著	◬	洋樂手引	(菊判 三一〇頁)	四五	八
前田長太著	◎	西洋武士道	(菊判 四六八頁)	一、二〇	八
井上泰岳編	●	現代名士 我處世觀	(菊判 二八〇頁)	四五	六
文學博士 姉崎正治著	◎	根本佛教	(菊判 四七八頁)	一、五〇	一三
シヨーペンハウエル著、文學博士姉崎正治譯	◎	意志と現識としての世界 第一巻	(菊判 五八一頁)	一、八〇	一三
田生正治著	●	活動的心身修養法	(菊判 三二〇頁)	六五	八
文學士 [illegible]著	◎	美術上釋迦	(菊判 三五〇頁)	一、二〇	八
シドニー、ギユリツク著	◎	新進化論	(菊判 四一〇頁)	二、五〇	一三
赤司繁太郎著	◎	耶蘇之聖訓	(菊中截 七七〇頁)	一、〇〇	八

(3) ——【小説詩歌俳諧文學家庭哲學書類】——

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十三年壹ヶ年間博文館新刊書

著者	製本	書名	判型・頁數	正價 (円銭)	郵税 (銭)
杉谷泰山著	⊙	人間之研究	(菊判 二八〇頁)	七五	一〇
水田南陽譯	●	男の好く女 女の好く男 兩性觀	(三六判 [illegible]頁)	五〇	四
豊岡茂夫著	●	女氣質と修養	(菊半截 二六〇頁)	三五	四
醫學士 森友道著	◬	謡曲と心身修養	(菊判 二五二頁)	四五	六
沼田笠峰 竹貫直人 木村小舟 共著	●	少年日本地理 (全六册 每編 一三〇頁) ●第・編近畿及中國 ●第・編四國及九州 ●第・編奥羽及北海道 ●第六編臺灣及樺太 ●第・編朝鮮 ●既刊第・編鄕土及關東 第・編中部地方		二〇	四
藤谷小波 福田琴月 著	●	少年日本歴史 (全十册菊判 每編約百頁) ●既刊第一編古代の卷 第二編王朝の卷 第三編武家の卷 第四編亂世の卷 ●第五編德川の卷 ●第六編明治の卷		每編 二〇	每編 四
藤谷小波著	●	世界お伽文庫 (每編菊判一册約一一〇頁) ●第十三編足跡物語 ●第十四編雨の力 ●第十五編定來三疋 ●第十六編飛行の馬 ●第十七編山の神前編 ●同上後編 (以下續出)		每編 一五	四
加藤忠三郎著	●	學校家庭 兒童講話資料	(四六判 二九六頁)	五五	八
堀内新泉著	△	商家少年讀本	(菊判 二三八頁)	四五	六
同	△	貧兒立志讀本	(菊判 二三三頁)	四五	六
前田曙子著	●	家庭小說 小姫君	(四六判 二一六頁)	四〇	六
沼田笠峰著	●	少女スケッチ	(四六判 一五〇頁)	三五	四
河崎酔雨著	●	少女小說 花子の行衛	(四六判 一八〇頁)	二六	四
江見水蔭著	●	小說 少年探検隊	(菊半截 一九〇頁)	二八	六
木村小舟著	●	少年諸子	(四六判 三八四頁)	二八	六

~~~~~(⊙洋裝上製符 ●洋裝並製符 ◬和裝上製符 △和裝並製符)~~~~~

著者	製本	書名	判型・頁數	正價 (円銭)	郵税 (銭)
與謝野晶子著	●	おとぎばなし 少年少女	(四六判 二五五頁)	四〇	六
江見水蔭著	●	小說 探検女王	(菊半截 四二八頁)	四五	四
福田琴月著	●	少女小說 捨兒	(四六判 一七三頁)	二八	六
藤谷小波著	⊙	お伽七草	(四六判 三三三頁)	七五	六
福田琴月著	●	少年史談 日本武士	(菊判 二三三頁)	二八	六
山崎貞著	●	英語世界叢書第七編 大陸作家小品	(四六判 一八〇頁)	三五	六
佐川春水著	●	同第八編 對譯和英成句	(四六判 一九〇頁)	三五	六
秋元正四著	●	同第九編 黄金河探検	(四六判 一九二頁)	三五	六
同	●	同第十編 英文の組立	(四六判 一九〇頁)	三五	六
英語世界編輯局編	●	四十二年度入學試驗英語問題詳解	(四六判 二二〇頁)	四〇	六
ヘルフリッヒ 足立謙吉著	⊙	獨和新會話	(三六判 三二〇頁)	六〇	六
栗原基著	⊙	英語發達史	(菊判 [illegible]頁)	六五	八
理學士 根津千治著	⊙	統合主義 算術自修講義	(四六判 [illegible]頁)	四五	六
理學士 松村定次郎著	⊙	高等數學講義 方程式編	(四六判 [illegible]頁)	八〇	六
同	⊙	同 高等代數學	(四六判 二〇〇頁)	八〇	六
醫學士 岩井禎三著	◬	人壽百年	(菊判 [illegible]頁)	四〇	六
醫學士 廣澤汀波著	●	結核菌物語	(四六判 一三三頁)	二〇	四
醫學博士 久保猪之吉著	⊙	鼻科學 中卷	(菊判 八二〇頁)	三〇〇	三

~~~~~【少年讀物語學數醫書畫書類】~~~~~ (4)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十三年壹ヶ年間博文館新刊書

			正價	郵税
中村不折著	●	花卉山水人物 水彩繪手本 第三卷	三五	二
新岡久頼著	△	いろは三體帖（半紙判折本）	四〇	四
同	▲	短册習字帖（柾判十丁）	一、〇〇	八
博文館編輯局編	△	毛筆習畫帖（菊判二六丁）	四〇	四
博文館編輯局編	△	古今名家習畫帖（美濃判四〇丁）	揃一、〇〇	六
八木奘三郎著	△	南畫と書道（菊判二三〇頁）	六五	六
今井翠巌著	●	最近調査女子東京遊學案内（四六判六五〇頁）	三八	八
同 、	●	最近増訂男子東京遊學案内（四六判七八〇頁）	五五	一〇
押川春浪 中村直吉 共著	●	五大洲探檢記(三) 鐵脚縱横（四六判三一〇頁）	四五	六
押川春浪 中村直吉 共著	●	五大洲探檢記(四) 亞弗加利一週（四六判二九四頁）	四五	六
河岡潮風著	●	冒險壯遊 五洲怪奇譚（四六判四二〇頁）	四〇	六
正岡藝陽著	●	米國野球見物（三六判二二〇頁）	四〇	六
阿武天風著	●	海上生活譚（四六判五〇〇頁）	四五	八
岡雷平著	●	南洋群島 珊瑚島探檢記（菊半截三二〇頁）	四〇	四
須藤三重郎著	△	新撰詰將棊百番（三六判百餘頁）	二八	四
博文館編輯局編	◉	明治四十四年 當用日記 最新統計表 重要規則書添附 各五四〇頁 ▲大形（菊判上製金文字入）	四五	一二
		▲中形（[illegible]）	三五	一〇

～～（◉洋裝上製符 ●洋裝並製符 ◬和裝上製符 △和裝並製符）～～

			正價	郵税
博文館編輯局編	◉	明治四十四年 懷中日記 最新統計表 重要規則書添附 ▲中形（四六判背皮特製）	五〇	一〇
		▲中形（四六判總布上製金文字入）	二八	一〇
		▲小形（菊半截總布金文字入）	二〇	八
		▲新形（細長形總布金文字入三百頁）	二〇	二
		▲上製（總布金文字入三百餘頁）	一八	二
		▲並製（模皮金文字入三百餘頁）	一三	二
博文館編輯局編	◉	明治四十四年 ポケット日記 總革製三方金緣舶來紙薄手美本 知人名簿 金銭出納錄 重要規則等添 A號（厚形）……（記入欄一日一頁 四四〇頁函入）	五五	四
		B號（薄形）……（記入欄一日半頁 二二〇頁函入）	四五	四
		C號（薄形）……（記入欄一日一頁 四四〇頁函入）	六五	四
		C號は前後季二冊に別ち差換使用		
女學世界編輯部編	◉	明治四十四年 家庭日記（四六判五〇〇頁） ▲家庭の心得家事整理欄等百六十頁添加	二八	八
博文館編輯局編	●	四十三年夏期休暇 女學生日誌（菊判六四頁）	一三	二
同	●	四十三年夏期休暇 小學生日誌（菊判計六種） ●尋常科二年用 ●同四年用 各	五、五	二
		●尋常科五年用 ●同六年用 ●高等科一年用 ●同二年及三年用 各	七	二

(5)

～～【冒險讀物其他日記類】～～

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會各方面の新智

好評嘖々＝發行中の叢書

書名	著者	發行	體裁	正價	郵稅
家庭百科全書	現代諸大家執筆	全部五十冊第卅編迄既出以下逐次刊行	（菊判和裝大和綴表裝優雅每冊石版口繪及挿繪數個紙數一冊三百頁以上）	一冊金四十五錢	一冊金八錢
實驗應用通俗產業叢書	現代專門大家執筆	第十八號迄既出以下逐次刊行	（菊判洋裝並製紙數每編不同）	正價郵稅不同	
工業叢書	專門學士執筆	第五十九編迄既出以下逐次刊行	（四六判洋裝上製精密木版數十個挿入紙數每編不同）	正價郵稅不同	
大日本地誌	山崎直方 佐藤傳藏 共著	第七卷四國の部既出以下逐次刊行	（菊判上製洋裝背皮函入精巧銅版地圖其他木版寫眞版數十個挿入紙數不同）	正價郵稅不同	
英語世界叢書	現代諸名家執筆	第十編英文の組立一月發賣	（四六判洋裝並製紙數一冊二百頁）	一冊金卅五錢	一冊金四錢
高等數學講義	專門諸大家執筆	第三編一月發賣	（四六判洋裝上製紙數一冊約三百頁）	一冊金八拾錢	一冊金六錢
新撰名勝地誌	田山花袋著	卷四東山道西部既出以下逐次刊行	（四六判洋裝上製精密地圖及寫眞版數十個紙數一冊五百頁以上）	一冊金六十錢	一冊金八錢
名家小說文庫	現代文壇耆伯之各文集	第八編迄既出以下逐次刊行	（菊判洋裝上製函入紙數一冊一千頁）	一冊金貳圓	一冊金十六錢
世界お伽文庫	巖谷小波著	全部五十冊第十八編迄既出以下逐次刊行	（菊判洋裝表紙石版極彩色木版數十個挿入紙數一冊百頁以上）	一冊金拾參錢	一冊金貳錢
講談文庫	第一流講談師口演	第六編迄既出以下逐次刊行	（四六判洋裝上製極彩色口繪挿入紙數四百五十頁）	一冊金五十五錢	一冊金八錢
俗曲評釋	文學士佐々政一著	第四編迄既出以下逐次刊行	（四六判洋裝上製木版錦繪及挿畫數十個紙數一冊三百頁）	一冊金五十五錢	一冊金六錢

弊館從來社會の各方面に渉り或は精密或は簡潔最新式の分類に基き以て最近の學說及文明國の新思想各種の藝術を網羅したる數十の叢書類を刊行し好評嘖々の內完結したるもの彼のインサイクロペダーと推稱を博したる尨大貳百冊の帝國百科全書等其數六十餘種に達し輿評翕

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

識を探る大寶庫

吾曹共に時代の要求に應じ出版界獨り其の光彩を擅へたるは畢竟愛讀諸賢の賜に外ならず現に未完結の叢書數種を剩せりと雖も向學界の趨勢に鑑みる所あり新春と共に左の叢書類を創刊し益其精華を期せんとす幸に愛讀を賜らんことを。

少年日本歴史讀本

文學博士 萩野由之編著
尾竹國觀畫

第一編 天の浮橋 一月發行
第二編 大國主命 二月發行
第三編 天孫降臨 三月發行
第四編 橿原の宮 四月發行

（每月一冊若くは二冊宛續々刊行）

（菊判洋裝摺美本每編挿畫二十個紙數一冊百四十四頁）

正價一冊金拾八錢
郵税一冊金四錢

少年世界歴史讀本

文學博士 箕作元八
巖谷小波著

第一編 東西兩洋最初の大衝突 二月刊行
第二編以下テーベの覇業 十字軍と武士道 蘭英の海上競爭、英國海上權の確立其他

（每月一冊若くは二冊宛續々刊行）

（菊判洋裝摺美本每編挿畫數十個紙數一冊百四十餘頁）

正價一冊金拾八錢
郵税一冊金四錢

少年百科叢書

現代專門諸大家執筆

第一編 先哲予言勉學訓 一月發行
第二編 讀書法 二月發行
第三編 世界名君傳 三月發行
第四編 世界名臣傳 四月發行

（每月一冊若くは二冊宛續々刊行）

（菊判洋裝細長形體裁優美口繪數葉挿入紙數一冊二百八十頁）

正價一冊金廿八錢
郵税一冊金四錢

中等教育講義

各專門大家執筆

來る四月創刊——組織及購讀方法は追て發表す

——家庭に於ける中等教育全科の講義!!

新春の曙光と共に生れたる叢書

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近刊豫告

理學士山崎直方・佐藤傳藏共著 ⊙大日本地誌（九州）（菊判）

文學博士有賀長雄著 ⊙西洋歷史上卷（菊判）

木村鷹太郎著 ⊙世界的研究に基づける日本太古史（上卷）（菊判）

鳥居龍藏著 ⊙蒙古旅行（菊判）

田山花袋著 ⊙新撰名勝地誌（東山道東部）（四六判）

海軍少佐水野廣德著 ●此一戰（日本海海戰記）（菊判）

農學博士稻垣乙丙・和田歌吉共編 ⊙農作園藝栽培法大全（四六判）

理學博士三宅驥一・野原茂六共著 ⊙植物生理學教科書（菊判）

商學士大石善四郎著 ⊙實用商業簿記（菊判）

澤田順次郎著 ●最近十二ヶ年官立學校入學試驗博物問題詳解（四六判）

文學士佐々政一著 ⊙俗曲評釋小唄と端唄（四六判）

博文館編輯局編 ⊙文叢談名人譚（四六判）

龜井まき子著 ▲家庭百科全書洋食の調理（菊判）

福田琴月著 ▲同上衛生と衣食住（菊判）

山岸荷葉著 ●少女小說氏か育か（四六判）

竹貫佳水著 ●少年魔術遊戲（四六判）

德田秋聲著 ⊙名家小說文庫秋聲叢書（菊判）

泉鏡花著 ⊙名家小說文庫鏡花叢書（菊判）

〰〰（⊙洋裝上製符 ●洋裝並製符 △和裝上製符 ▲和裝並製符）〰〰

理學博士遠藤吉三郎著 ⊙海產植物學（菊判）

安田篤著 ⊙植物學各論（菊判）

理學士宮本藤吉君著 ⊙高等數學講義平面解析幾何學（四六判）

同　同 ⊙高等數學講義立體解析幾何學（四六判）

速記鼻祖田鎖綱紀著 ●大日本早書學邦語速記術（四六判）

本派本願寺勸學島地默雷上人・大谷本願寺講師吉谷覺壽上人閱 ●淨土眞宗聖典（三六判）

ショペンハーウエル原著 文學博士姉崎正治譯 ⊙意志と現識としての世界（中）（菊判）

伊東祐穀著 ⊙明治四十三年世界年鑑（菊判）

文學士久保天隨著 △荀子新釋中卷（菊判）

文學博士原秀四郎著 ⊙殖氏國史（菊判）

故四條公任卿輯・高井蘭山集解 △和漢朗詠集國字抄（菊判）

今井信之著 ⊙英文葉書の書方（菊判半截）

法學士秋山正議著 ⊙中等英和雙解辭典（三五判）

故石川鴻齋校訂 ⊙鼇頭音釋康熙字典（四六判）

前田曙山著 ●花卉應用裝飾（菊判）

醫學博士石原弘著 ⊙人體解剖學下卷（菊判）

醫學博士久保猪之吉著 ⊙鼻科學下卷（菊判）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

な風があつて東海道方面などの様におそろしい人はめつたに居りませんから氣樂ですけれど、青となると朴訥な眞の田舎者はゐませんし、さうかといつて品位ある高尚な人も餘りゐらつしやいませんで、其多くは所謂田舎大盡なのでせう、東京でさん〴〵田紳扱ひに馬鹿にされた連中も、もう此處迄くれば自分の世界といつた様に羽根を伸ばすといふ風なのですもの、又婦人達にしても舊ハイカラの例の大廂に丸髷で、白つぽいまがひ風通にさらさの下着に、藤色やあづき色の羽織かなんかで、是見よと許りに濟ましてゐますとね、いやに妾は夫が鼻についてねホヽヽ。



「さういつてらつしやるあなたも其數には洩れぬのぢやなくつてホヽヽ、まあ失禮！。

「お口の惡い……、エヽ、或は其氣味もあるかもしれません、東海道の猫も東北では虎になつてねホホヽ。

「でもねうつかり見くびつたものでもございませんよ、此夏でしたつけね鳩山夫人だの翠扇旭梅の一行だの、隨分ハイカラの問屋の足跡も及んだのですからね。

「それや北海道樺太を控へてゐますからね、時には貴紳淑女も御通過になりませうさ、けども此處は素通りですぐ連絡船にお乗りになりますからねえ、土地へ何の影響もとゞまりま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せんわ、だから却てこゝを通り抜けて函館や札幌となると、横濱東京が跣足だと申す事ですね、何しろ上野から仙臺迄の間はさうでもありませんが、仙臺からこちらは飛々と暗路に辿り込む樣でしてねいやあな氣情ちがしますわ。

「住めば都だなんて諦めていらつしやる方がホヽヽ、まあそんなに落膽したものでもないことよ、東京が一世紀進めばこゝだつて一世紀進みますわ。

「エヽさうねいつも一世紀の間隔を置いていせう、ホヽヽ。

「まあ妾不覺不識お饒舌して…、あなたは昨夜は汽車で碌々おやすみでもいらつしやらないでお勞れの處を、いつまでもぶゑんりよに長座いたしましたね…何時？エ、九時を今打つたつてまあ驚いた。

「まあ一寸お待ち遊ばせ、初に提灯を持たせてお送り申ますから。

「いゝえよござんすよ、ではおちやうちん丈け拜借致しませうかね、こちらは九時といへば東京邊りの十二時頃見たいに大方商店も仕舞つてしんとしてゐますからね。

「さうね東京でこんなに暗い處は、山の手の奥か餘程の場末に行かなくてはないのに、こちらは目貫の町で是ですものね。

「矢張り現代の光が及ばない故でせうホヽヽ。

「ホヽヽ。

「オヽ寒い…何んだか白いものがちらついてゐますよ。

「さうですか道理で中々冷えますのね。

「左樣なら…。

「お靜かに…。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



いろくの實驗

輕便なる白味噌の製法

三河　三河貞子

大豆一升、糀五合、鹽二合五勺の割、但し糀は三合でも四合でも或は七合でも一升までは構ひません。初め大豆をよく煮て、擂鉢に入れ糀鹽を入れて搗く樣にしてまぜ、大豆が大方つぶれた位を度として、他のよく洗つて干かした器にうつします。全く熱氣がなくなつた時、深い鉢に詰めて輕い押を致し、紙で目張りをして三週間位經つて用ひます。

一體お味噌は臺所に缺くべからざる品でございますが、自宅で拵へますには誠に面倒で、私共にはとても出來ませんので困つて居ましたが、右の方法で致しますと、女でも樂に出來ます。私共は三州味噌の本場でございますが、買ひましたのよりは手製の方が遙かに上品な味が致します。それに淸潔でようございます。（賞）

髮毛と湯氣

愛媛　春子

諺に髮は據で髮、化粧はしたてと申しますが、實際結ひたての髮はよくうつらぬものです。束髮でも油をつけてよく梳いた時など、思ふ樣に結へないのは御同樣と思ひます。是は髮が油の爲にしつとりとなつて、いくら上手に結んでも捌けないからです。それには藥罐でも土瓶でも何でもよろしい、火鉢にかけて、新聞なり雜誌なり讀みながら湯氣の出る處に頭をやつて髮をふかして居ると、十分もたゝぬ間によくさばけて、どんなにでも思ふ樣にふつさりとなります、新に結ふ時にかぎらず、擶でつける前にでも、前髮などを湯氣にあてると、どんなに格構を增すか知れません。急ぐ時は藥罐の蓋を取つて湯氣を多量にたてさへすれば、五分とかゝらず實によい鹽梅に髮がさばけます。是は手輕で且つ女には必要のことと思ひます、明朝からなりと五分か十分早起をなすつて御實驗なさいませ。（賞）

南京豆の効用

伊勢　角田こう子

冬季貧血症の人は肝油を服せらるゝと、冷氣を感ずる度も多少は防がれますし、第一身體の營養に特効があります。然も肝油は嫌な臭氣のしますもので服用後も氣持の惡いものです。時には又下痢を起す事がある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ので困ります。そこで此の肝油と略ゞ同じ効力あるものは、南京豆(落花生)です。是は動物質脂肪はありませぬが、植物質脂肪を多量に含むで居まして、柔弱な人の營養品として至極結構であります。それに味の良いものですから、誰でも好むで食べられます。少量から漸々に量を増すと下痢を出す心配もありませぬ。私も此二ヶ月間の服用に依つて體重五百目程を増し、身體も滿ぎつて來ました。(實)

切花を永く保たす法

牛込　輝子

私は草花が好きですから、庭に咲く時折々の花を、いつも机上の一輪ざしに挿しては樂しんで居ります。此頃はバラ、ダリア、コスモスなどを挿して居りますが、どうも永く保たず、一日二日しますと、すぐに散つて了ひますので、何うかして今少し永く咲かして置き度いと、いろいろと考へました末、ふとアルコール漬にすると何でも永く保つから、もしや花でもと思ひまして、試みにさして見すと、三日で散るものは五日、五日のものは七日と、それ〲花の壽命によつて、異ひますが、何しろ永く保ちます。一寸皆樣に御知らせいたします。(實)

手輕な足袋の仕立方

東京　氏家春江子

足袋を拵らへますには厚紙で足袋の形が出來て居りますから、其の形に依つて切地を裁ちますが、此の足袋の形は底が一枚、甲が二枚、「こはぜ」の着く襠が一枚とあります。處が此の襠を四つ縫に付けるのが、却々むづかしく、何うも格好が思はしく行かぬものですから、私共では切地を裁ちます前に、足袋形の上のりの方の甲へ襠を糊で貼り付け、其の格好通りに裁ちます、かう致すと別に襠を付ける世話もなく、且縫ひ目がありませんから、豆の痛みも餘程違ひますし、格好も却々上品で御座います。

培養土の用意

信濃　恒子

皆樣、花壇や鉢植の培養土は、細砂と篩土とを五分々々に混ぜ、之に過燐酸石灰と油粕の少量を、加へたものが適當です。而して此の篩土は、只今頃の溝土を浚ひ上げて日に乾かし、篩に懸けたものに、腐敗した人糞尿を、二三回注いでは乾かし、冬期中幾度も切り返し、雨に當てないで、良く嚴冬に曝したものが頗る妙です。明春播種期になつてから、大騒ぎをしても、それは駄目です、豐大艶麗の美花を收めんとし給ふ園藝同好の諸姉樣お試めし遊ばせ。

御飯の改良炊

熊本　甲斐千枝子

瓦斯や新式の竈で御飯を炊く日になれば萬事都合がよいでせうが、從

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

来の竈では一度の御飯を炊くにも、澤山の薪を要します。それで私の家では改良炊きといつて、御飯の吹き上るのを適度として、燃えさしの薪を皆引いて了ひ、釜の上には石又は桶に水を入れたもので押をかけ、下には消炭でも少し許り入れて置いて、竈の前には瓦や厚板の類で蓋を致します。さすれば、おねばも吹き出ず、殘りの火力の爲めによい加減に出來上ります。かう致せば焦げつく事など決してなく、滋養分も多く、米に薫りありて大層おいしく頂けます。是は第一薪の經濟にもなり、どんな初めての者にでも何の苦勞なく炊けます。

石鹸の代りに糠

福島　石崎ふみ子

これから寒くなつて、品質の悪い石鹸を使ひますと、身體が荒れて仕方がありません、私の家では多勢なものですから、一寸高價な品の良い石鹸を使はせますと、月に五個平均入りますので、去年の十月から五六ヶ月間は、糠を篩でふるつたものを、晒布の袋へ入れ、洗ふ時、手拭へ、包んで使ふ様に致させました。所が身體のあれも少く、且つ「リスリン」の消費も少量で、石鹸に比較して大層徳で、其ふるひかすの中には、澤山の粉米が入つて居ます。それは雞の餌に致し、又篩ひかすは畑への、肥料に致します。そして前年に比較しての、餘金を貯金して置きましたら、五六ヶ月の間に、一圓五十錢餘になりましたので、此の良習慣の後に殘る様にと、子供に木綿の着物を買つて、着せました。

笑顔の徳

濱町　壽枝

別に六箇敷い事で無くて一寸出來にくいのでございますが、それは何事に出逢つても、誰に向つても、笑顔を忘れない事です。人に逢つた時、用を命ぜられた時、又命ずる時、殊に叱られた後は神妙に詫びてからにつと笑みながら「本統に悪うございましたワネ」なぞと云ッて居りますと、大抵の方は直きに御機嫌が直ります。併し度が過ぎると却つていけません。鹽加減が肝要です。是は皆様に通用しないかも知れませんが、私、極意の處世法です。

小魚の利用

神田　溝口八重子

小魚はこしらへるに手數がかゝりますが、次の様に致しますと誠に手輕で美味しく頂く事が出來ます。先づ小魚の頭と尾とを取り去つて、清水で洗ひ、目籠に入れて、水を切り、其れを俎板の上に載せて、丁寧に庖丁で叩きますと、骨も何も無くなつて、丁度蒲鉾を叩いた様になりますから、此時砂糖と味噌(山椒又は柚子を少し入るれば更に宜し)とを適度に入れて混ぜながら、又たゝきます。よく混ざりましたら、餘り焦げぬ様に玉子焼器で遠火に掛けて、燒きますと、誠に淡白で、結構でございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又蟹の甲や紫蘇の葉が有ります時分でしたら、前に叩き置いた魚肉を是で粕に包んで餘り焦げぬ樣に焼きますれば、誠に容易に葉が取れまして更に妙でございます。

作歌の樂みについて

三重　あそやぎ

婦人の高雅なる趣味では和歌が一等だと佐々木先生もいはれましたが、全くだと思ひます。女も家政をとる樣になつては、音樂、茶の湯など樂む暇は、今日の所、中流の家庭では先づ無いと申しても可い位です。よし暇があつても、朝からコロリンシヤンなんて、呑氣らしくて致されもしませんからね。和歌ですと、そんな遠慮もいらず、茶の湯の樣に相手はいらず、又別に作歌時間の必要もなくお勝手にても、針もちながらにても、何時でも出來ます。ですから私は始終紙片と鉛筆を持つて居て、折々書き付けては樂んで居ります。此方に趣味を持ちますと、少しも心に隙がありませんから下らぬ考など浮びませず、徒然と思ひます事もなくて實にようございます。

我家の實驗

本郷　清水幸子

(一)咽喉に魚の骨がつかへた時は速かに生卵を飲むととれます。

(二)行水を嫌がる赤子には行水盥を敷布か、又はタオルで覆ひ、其の上に赤子を乗せ、漸次にお沈めなさい。兩三回かうすれば行水をいやがる事癖を矯めることが出來ます。

(三)白布や手などにインキの附着した時はよく熟したトマトー（赤茄子）で洗ひ落すに限ります。

(四)石炭を最も經濟に有効に使用いたすには火の後方に二三塊の白墨を入れるのです。斯うする時は火力も耐久力も共に増すものです。

(五)新しい洋燈心は最初二三時間、酢の中に浸し、後ち十分乾かして使ひますと油煙の立ち方が少くなります。

烏賊料理

島根　やす子

先づ始めに烏賊を綺麗に洗ひます。別に餅米と白米とをよく磨いて前の烏賊の中に軽く入れて、木綿糸で一寸縫つて味淋、醤油と砂糖で味を付けたお汁の中で、約三十分間位煮ます。さて煮えたならば糸を拔いて、輪切にして出しますと、大層おいしうございます。

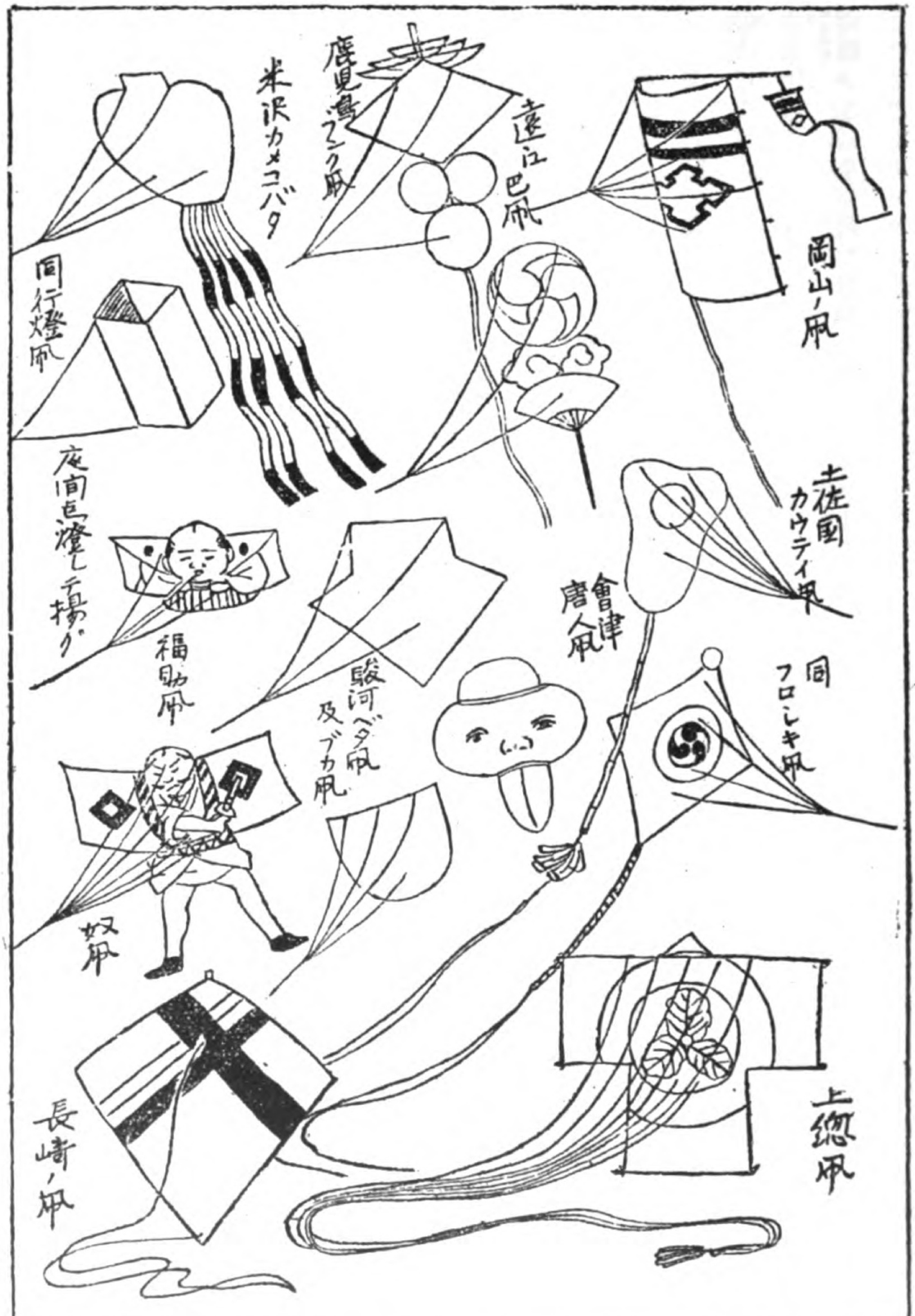
洋服と帽子の塵

和歌山　伏山せき子

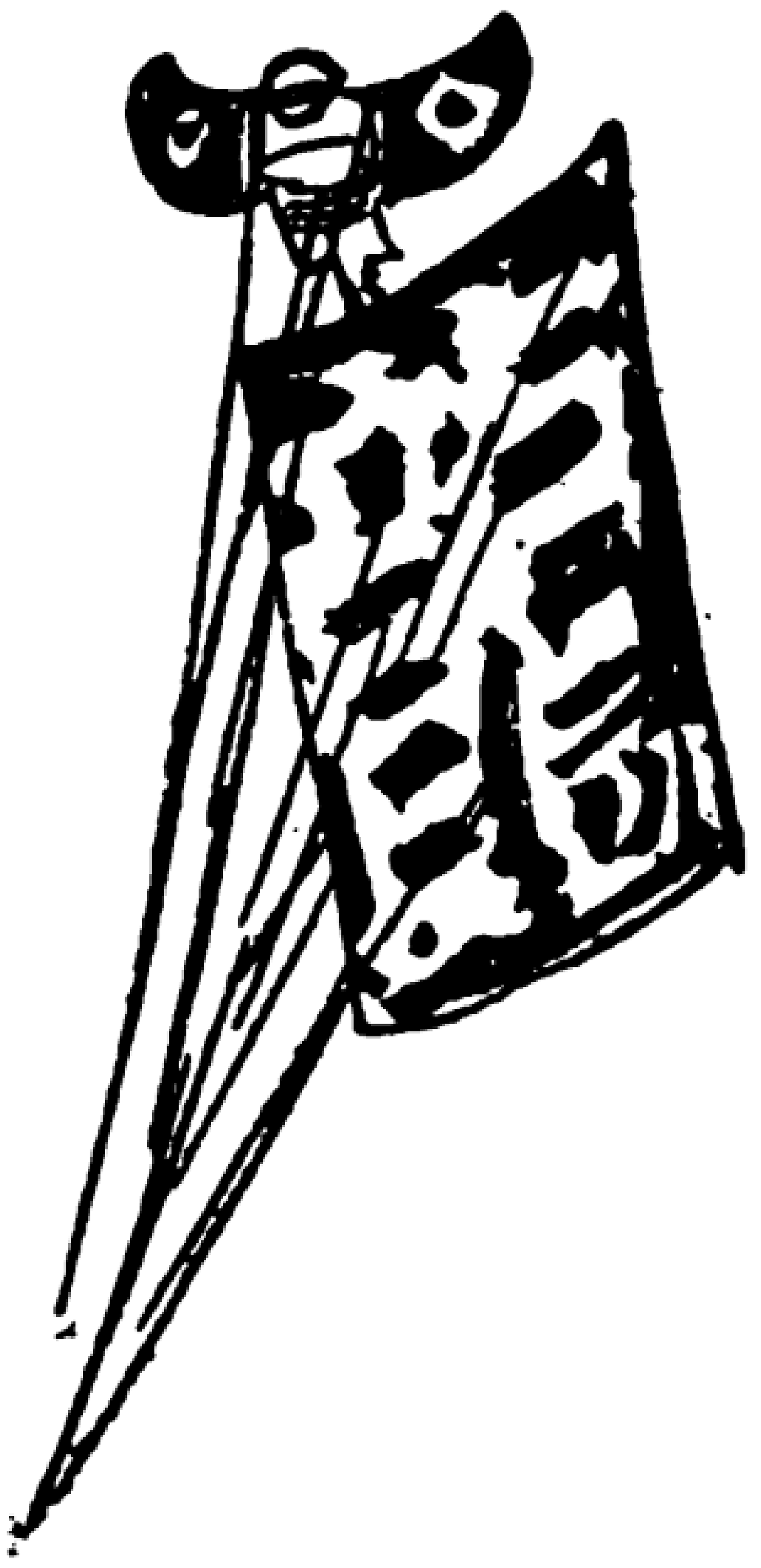
洋服や帽子に塵がついたといふものは、非常に見惜いものです。之を綺麗に落すには先づブラツシでよく拂ひ、あとでパンの柔かい部分でこすりますと、細かい塵までがとれて綺麗になります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

凧のいろいろ　(昔の正月風俗)



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



樂しかりし濱邊の一日

雨崎よし子

三時にフト眼が醒めた。今日のお天氣が氣になるので直ぐ立つて、窓から寢衣の胸を差出して、空を仰ぐと晴天らしい。まづ〳〵これで昨夜大騷ぎして作つた海苔卷も御役に立つと云ふものだ。安心した故かグッスリ寢込んで、六時の鈴でやう〳〵眼が醒める。それでも床の中にモジ〳〵してゐると、ニコ〳〵顏の澄ちやんが

「マア雨崎さんはまだ寢てらつしやるの御寢坊ネー」

と冷こい手をピッシャリ頰にあてる。

「良子さん晴天ですよ、お起き遊ばせ」

家長のお言葉に起き出でゝ洗面、結髮、身仕度、例の如し。寫生帖、懸衣、ハーモニカ、御辨當、お菓子など、キッシリつめた袋を今一度さげて見る、重いこと！、こんな物二里近くもさげて歩けるかしら？、と云つて出してあらためれば減す物は一つも無いのだもの。

一二年の生徒はもう大喜び。おそろひのメリンスの袋を肩から斜にかけて、表廊下を跳ねまはつて居る、あんなにも嬉しいものだらうか、そりやア私だつて嬉しくない事はないけれど、どちらかと云へば、遠足で嬉しいより授業が無いので嬉しいのだ、正直な話が、もしこれが私の最後の遠足でなくて、又、今日の一日を自己の樂みの爲に過ごしていゝ、としたなら、私は私で外に利用したい事がある。兎に角幼さかつた頃程遠足は私にとつて樂みではなくなつた。

サア、出掛けるとなると皆樣が御自分のがあるのに、ハヽヽ、ワザ〳〵「好きな方」の重い袋を持つてお上げになる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のを見て、内心クスグッたくッてたまらなかつた。出掛けてしまへば心持もまた自然とちがつて來る、餅で名高い安倍川の彼方へ行くと、土堤には一ぱい野菊や河原撫子が咲いてゐて、土橋の下のいささ流サラ〳〵と胸の血をそゝる様な可愛らしい音を立て居る。色づいた稻穗の浪はコバルト色の大空と境を接して、其の間にたッた時の心地よさ！胸のウヤムヤはすつかり溶け去つて、唯、浮き浮とした心だけがふは〳〵歩るいて行



く。道々の百姓家の門には乳呑子を抱いたおかみさんやら、兩手を腰の上で組んだ脊の曲つたおぢいさんやらが物珍らしさうに先生方（西洋人）のお顏を穴のあくほど立つて見てゐた。廣野の濱についたのが十時。ずゐぶんゆつくり來たつもりなんだけど、歩るきつけない故かぐつたりした、「大分つかれた様ですね」とずつと道案内して下すつた増澤先生は、ヅックを肩からはづして、松の根にお腰かけなさりながら仰つし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やる。

景色はさして好くはない。唯眼をさへぎる物もなく廣々とした眺めと、高い磯のかをりとは三保等よりいくらか海と云ふ感が强いかも知れないけれど、其れもすぐ見飽いて仕舞ふ、波も可成あらい、海水浴には淸水の方が百倍もいゝ。

今迄人影一つ見えず、たゞ波の音とキラ〳〵しい日の光との中に投り出されてあつた濱も、私共が來てから大層活氣づいた。

「オホヽヽヽハヽヽヽヽ」と突然松林の中に起るはなやかな笑聲。むこうの砂の上に引上げられてる菰を着せられた舟の、かげからマガレットの半身が現れて

「法月さんこちらよ」

とかんだかに呼ぶ。なか〳〵賑やかだ。

私共のクラスが陣取つたのは、稍風のあたる松の根方で、上方には例の增澤先生、次が大木さん、田畑さん、小泉さんと順々に坐つて、私は右側のお終から二番目。あまり砂が舞ひ込むから沖に脊をむけてすわりかへると、ハヽヽヽ、バッタリ先生と視線が合つてしまつた。皆樣いやに眞面目くさつて、兎角お話も絶え〳〵。日頃書好きの和田さんも今日はどうなすつたのかポカンとしてゐらつしやる。

波はたえず、ドーンと岸を打つて、ザラ〳〵と引いてゆく、またドーンと打つ。遠く沖の彼方からふいてくる冷氣を帶びた潮風が折々そよりと後毛をいじる、ヽヽ眞向にすわつてゐらつしやる遠賀さんが、視線のカケ合ふ度毎に

「早く先生が何處かへゐらつしやれば好いのにネー」

と、目で話す、其の可笑しさをヂッとこらへる苦しい事と云つたら。……知らぬが佛の先生は深碧の海の上を御覽になりながら、ステッキの先に鳥打帽をかぶせて、クルクル廻してゐらつしやる。

「田中先生はどうなすつたのでせう？御見えにならないぢやありませんか」

御風邪とはよく知つて居たけれど、外に云ひ出す事も無いので私が口を切ると、田畑さんが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「御不快なんですつて！先生の御出がないと何となく物足りないのね」

と話がまだとぎれる。増澤先生等と違つて、重々しひ、隨分こはい先生だけれど、ゐらつしやらないとすると、せいいつぱい、氣樂が出來る代り、何となく物足りない。

お顏が濃て、どンとした、いかめしいお顏の何處にかやさしみのお有りになる方なんですもの。

丁度三年の或る方が「大崩までお舟が出ますから御乘りになる方は早く御出で下さい」と云つて來て下すつたので、先生も是れ幸。

「ヤ失敬。皆さん如何です」

飛ぶ樣にいつておしまひ遊ばす、サアもう後は此方の天下。ギギーと櫓の音がして、十人位づゝ乘つた小舟が三艘、岸を離れると陸の方も舟の方も一齊にハンカチをお振りになる、まるでボートレースでも始まる樣だ、ボートソングを唱つて意氣揚々

「大崩へいらつした方々は今頃まつさをになつて曲物曲物なんて大騷ぎでせうね、早く増澤先生の寫生帖



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が拜見したいわ、特別、氣取りやのおたみ……」と未だ何か政子さんが仰つしやらうとするを
「マアいやよ政子さんは。いつでも御飯の時になるといぢわるくあんな事を」
遠賀さんはいそいで耳をおふさぎなすつて睨める。
「おほゝゝマアこのお鮨たら!!!きつと、田畑さんの御手際よ。なりにかまはづ御飯を推しつけた物だから、所々海苔が破れて白い御飯が笑つてゐるわ。オヤ〳〵端のなんか干瓢の尻尾を曳いて、……、アラ妾ぢやなくつてよ、小泉さんのお手際よ。などゝお晝飯もすむ。
折やらお鮨の殘つたのやら、新聞紙やら、一まとめにして、ころがしてやると、パクリ波が呑んでしまつた。
北山さんの率先で、スプーンレース、西洋鬼、繩飛び輪なげ等の遊戯が始じまる。カドリール?ミス、プラオンと組になつて、まさかいやとは云はれず、眞實に閉口してしまつた。スプーンレースの時にだつて、御自分は散々球を落してお置きになりながら、すまあして續けてゐらつしやるんですもの。そりあ可笑しな先生。いつだつたか私のお下髮にさはつて御覧になつて、「馬の尾」の樣だつて!おほゝゝゝ何ぼ何だつて可憐さうにねー、
此樣な事してキャッキャと云つてゐる中に、四時に成つてしまつた。大崩へゐらつした方々も、そろ〳〵歸つて御見えになる、何時の間に御歸りになつたのか例の增澤先生、あか〳〵と照る日かげを半面に受けて松の根にお倚りになつた儘、寫生に餘念なくてゐらつしやる。
政子さんと二人で渚におりた、今し西の山の端近く傾いた太陽は、まぶしい光線を斜になげて、果しなき大海原と大空とは樣々の色に移ひ行く、遙か沖の彼方微動もせぬ白帆二つ。濕つた砂の上に落花の樣に靴跡を殘して岩の上に休むだ、絕えず碎けかつ散る波の花は足元に雪とさく。弓形になつた右手の白い渚を、三三五々美しい蝙蝠傘が歸つて來る。アラ〳〵あれは瀧波先生に飯塚先生。お一人はスラリと丈の高い意氣な方、御一方は少々御丈は低くて肥つた女大式のハイカ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ラ、上野に目白。好い對照だと思つて見てゐると、傍をお通りになる時飯塚先生は

「コレ綺麗でせう？」

何處で御摘みになつたのか眞紅の薔薇の束ねたのをかざしてお見せになる

「マア此所にゐらしたの？先刻から諸方探してよ」

突然後で大きな聲がしたからビックリして振りむくと、松原の中から大木さん、田畑さん、森山さんバラ〳〵とかけてゐらつしやる

どうなすつたの息せき切つて、何誰か海にでも落ちたの？え、今雨崎さんと政子さんとが見えないつて大騒ぎよ、大方海にでておつこちたでせうよ、遠賀さん北山さん、小泉さん、和田さん、大井さん、これです



つかり級の方が揃つた。お茶にしようぢやありませんかと大井さんの發言。

よく級々と言ふけれど、うちの級は撰科の方をのぞけば跡たつた十人。他校の方が御聞きになれば可笑しく思召す程、少數だけれどお互の間は隨分親密な友情で結び着けられて居るつもり、私共はもう十人の同級生で澤山だ。長い年月には隨分いさかひもしたけれど憎らしい！！と強く心に印象された方は一人もない。四月から十人十所に分れ〳〵になつても、クラスレターは必らず廻はして、今迄通り喜びも悲しみも共にしようぢやありませんかと誓つて居る。

この仲の好い十人が、砂の上にまあるく坐つて、パ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ーチーを開いた。かうして皆樣と無邪氣に遊ぶも、廣野の濱は是が最後かと思ふと悲しくなる。

全校切ての獨唱歌遠賀さんはスラリとお立ちになつた儘夢見る樣なまなざしを夕雲浮ぶ水平線の上になげて、蘇國の戀歌を御唱になすつた、細い〳〵、透きとほる樣な御聲が震ひ着きたい程……たまらなくなつて私はハーモニカ取出し折々ベースを入れ乍ら合せる。

「マア御上手！與志子さんは何時の間の御上達？」

大木さんのびつくりなさるを笑つて受とめて曲を結ぶ。今度は皆樣の發起で「入江の秋」を合唱つた。

渚に蘆の花しろく……

と高い悲哀を帶びた遠賀さんのサプラノと、沈んだ調子の大木さんのアルトとがピタリと合ふ。

悠くゆるくチユーンをとつて居た波の音もだん〳〵高くなつた。潮が滿ちて來たのだらう。樂しい中にも時は經つて刻一刻夕照の色はひろがつて行く。金茶の雲は樺色に變つた。

五時に濱を立つて家路に向ふ、歸りつゝも幾度となく振り返つた。あゝなつかしい廣野の海よ、山よ、雲よ、さらば、さらば。幾年かの後我級は樣々に變つて汝の懐に打集ふ事であらう、それ迄のかたみにと摘み取た野菊の花は殊更に寫生帖の中にはさんで置く。

髪毛も着物も袴もほこりと砂にまみれて歸校つて來ると、東京の林さんから御寫眞が政子さんと同封で來てゐた。疲れも忘れて封推し切り、明るい電氣燈の下で兩方から差のぞく、美人！美人！眞に美人！

御ぐしは前髪を高くふくらませたマガレツトに氣取つた縞のリボン。華奢なお體に荒らい矢絣が好く似合つて、大きな蝶のついた御帶を立矢の字。お扇子をお持ちにて面長のお顔を心持ち傾向けた儘、立つてゐらつしやる。皆樣「見せて頂戴見せて頂戴」と集つてらつしやるので私無上に嬉しくつてならない。

晩の禮拜が濟で二階へ上つて來ると澄子さんと光ちやんとが床を取つて下すつた。横になつて皆樣と今日のお話して居ると、スーツ、スーツ、と廊下にヌリパの音。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

獅子舞の由來

獅子舞は古來疫除厄拂の技と信ぜられて、神事、新年、其他芽出たき時によく舞ふなりき。太平記持明院殿吉野へ遷幸の段に「獅子田樂を召され日夜舞ひ歌はせ」云々とあるを見れば、遠き昔よりありしことゝ見ゆ。何時の頃より始まりしか知り難けれど、獅子の祥獸として崇められたることは、我國は勿論、支那の神祠宮殿などに石刻の獅子像の安置せらるゝを見ても明かにして、それに因みて神事祥慶の具として、其の頭を刻み、之を被りて舞ふに至りしものと見ゆ。



元祿時代獅子髮洗の圖
（古代正月風俗）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新年笑話

花婿の候補者

紫苑

女子の身としてあられもない殿方の批評をするなんて隨分お轉婆なお話ね、たゞ私の感じてる儘を申ますのよ。

T 樣

帝大英法の四回生、法科の方は皆道樂者ばかり多いつて評判は聞いて居りますけれど此方なんかは其最も猛烈な方だと思ひますわ、先達まで小形の銀時計がたしかに有つたと白眼んで居りましたのが近頃とんと見えないのでせう、若しや掏摸にでも？と聞いて見ますと否其の心配の無いやうにちやんとお藏に預けて有るのさと澄した顏、エ、其れは平氣なものですわ眞晝中角帽の儘でお藏通ひをするんですつて本當に呆れますわね、其れで國元は何十萬の資産家で月々四五十圓のお小費を送金られてゝすのよ、其れでも本來は天晴行政官大臣位に成り兼ねないお望みなのね乾度、さうさう二三日前にも宅へ遊びに入らしつて今度國から兄が商用で上京すると云つて來たけれど正服が無いと工合が惡いがあいにくお藏に入つているし靴買ふ筈の金も飲んでしまつたので閉口だといやに遠廻しな御無心ね、母も私も驚きましたわホヽ、然し不思議と學校の方はいつも七十點以上で四年間一度も延期せず無論落第なしですからまあ〳〵こんな人には小言も申せませんわね、容貌も上の方始才なくて鳥渡人好きがしますの甘く行けば必ず出世をなさいませう、たゞ奥樣に對してはちと氣六ケ敷いかも知れません。

L 樣

T樣と同じく法科の獨法出、何しろ文官試驗を受けるのが辛い、どうせ一度ですらりとは行けまいしと頭から悲觀してさて一番早道な司法官へ志願なすつたのよ、其れ丈でも大抵人物の想像は付きますでせう？全

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く意氣地の無い話ね、裁判官、お髭捻つて威張て暮せていゝつて？マア私なんか何も職業に理想は有りませんけれど判檢事の夫はちと考へますわ、ホヽヽ、北の果ての寒い國に僅六ページ半の俸給で赴任してお出でです、ソリャア一年半も經てば本官に成つて少しは俸給も上りますけれど…法學士なんかは實際財產でも澤山積んで置いてどん／＼運動するとかひきが良く無くては情け無いものよ、オヤッイ口が滑つて飛んだ事を申てしまいました荻香樣の旦那樣も獨法で入らしつたわね、これ御覽に成つたらお怒り遊ばすでせうかしら？…尤も法科ばかりには限りませんわ學士々々たつて毎年七月には升で計るやうにして赤門から掃き出されるのですものね、アヲお話しの見當がそれましてね、それで此のL樣は奧樣を大の容貌望みで探してお出でなさるから、すさまじいわ、雜誌の口繪に有る令孃かゝみなんか見せますと、こりや何だい、皆な成つてゐないの計りだなアなんて、ホヽヽ、鏡の無い國に生れたのではなし、御自分の風采も少しは考へて御覽になればいゝわ、額はテニスコート三つ位、大丈夫と云ふ廣さ、尤も之れは出世の相とあきらめるにしても坐禪を組んだお鼻付、其の下にある五六本程の髭を、氣取つた積りか殊更にカイゼルか何かにピンと捩ち上げた工合、ホヽヽ滑稽共進會に出れば無論金盃でせうよ、ジャア法廷に立つたら罪人も失笑すでせうつて仰有るの？マアお口の惡いホヽヽですから私何時も貴君の樣にお選みなさると殘り者には飛んだお多福が當りますよつて申しますとね、僕ア妻君を大事に可愛がつてやるサと、御當人大得意なの、こんな人が得て燒餅やきの旦那樣に成るのでやうと思ひますわ…

Y　樣

此の方は理科で慥か實驗物理だと思ひました科は逹つても性質は前のL樣に何所か似てお出でのやうですわ、むつつりとして口數の少ない何時も嬉しいのか悲しいのか一向表情のない感じのなさゝうなお顏はあたら整つた眼鼻だちがさつぱり引立ちません、エヽ今年卒業後間も無く東北のある中學校へ就職なさいました

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地方へなんか行つて詰らないと仰有るの？其れがY様の學問はパンの種子が第一の目的なの、何も格別研究が面白いでもなく、一大發明をして見たいの、論文を提出して博士の稱號を得たいのゝ意氣も見えません、又其れ程の頭腦も無さゝうね、只々平々凡々空氣を吸つて生きてさい居ればと云ふ方なのでせう、假りにも學者として世に立つ人間が自分の仕事に對して大した趣味もなく、徒らに教科書と首引きで暮し通すなんて詰りませんのね、此様な人の妻になつたらどうでせう、高等下女、臺所



番人、ヤアそんなものね、勤めから歸れば洋服もぬがずに先づ机に倚つて明日の下調べ、夜食の後でも面白く世間話しに笑ふ事もないでせう、箸を置けば又机の前其のあげくに如何も腦が茫然していかんと座敷の眞中に大の字なり、さうかと思へば霜凍る嚴寒の夜、双眼鏡を持つて天をのぞいて嚏三ッ風邪を引いたと愚痴云ふ位が落ちでせう脊は可なり高い方ですけれど、顔色蒼白全く活氣がありませんの、其の代り煙草はのますお酒も召さず、大した交際もなし、奥様は氣骨が折れませんわ、そして乾度奥様に孝行よ。

B　様

工科の土木科、一體に小柄な質ですけれど、お髭が目立つて立派なものですから、學校では髭々で通つて居るのですッて、此方は實際お氣の毒ですのよ、父様が入らつしやらないで御兄弟が多いのですから、なかなか責任が重いのよ、御自分は麹町の某邸に家庭教師をなさりながら、通學ておいでになります、お國？東北の縣よ、來年は卒業ですけれどさうなると此樣に呑氣にはして居られませんと今からやがて來るべき就職難を心配しておいでになります、心の美しい事は宅へ入らつしやる學生の中で一番だと思ひます、氣に格別の才智はなくとも永くお交際して居りますと、暖かい情のあるのが分りますの母なんか鳥渡臥つて居りましても、大層案じて下さいますのよ其れが決して表面のお世辭ではありませんの、大掃除の時なんかも乾度手傳にお出でになります、學生では珍らしい方ですわね學校の方は無論眞面目に熱心にしておいでゝすけれど餘り思はしい成績でないのは本當にお氣の毒ですわ、斯う云ふ學生こそ特待生にして上げたいのね、T様なんか遊んでばかり居らしつても、あんなですのに、矢張り腦の加減でしやうかね。

K　様

醫學士ですの恩賜の時計も持つてお出でゝす卒業後四年、未たに帝大の〇〇内科で修業中。病院へ行つて見ますと、先生々々つて呼ばれてお出でですけれど、私なんか一高の頃からのお馴染ですもの、功さん〳〵つて頸へかぢり付て負つて頂戴よなんて強請だ事思ふと、先生なんて云ふのは笑止しいやうですわ、其れに十年前と少しも變らず無邪氣なのよ、斯う私が原稿を夢中で綴つて居る後へ何時の間にか入らしつて何だ〳〵つて覗くのですもの、こんなもの見られては大變ですわね、何でもありませんお友達への手紙なの、後生ですから彼方へ行つて頂戴と云ひながら袖で隱すやうにすると、あいにく側に落ちてゐた書かけを手早く拾つてヤア花婿の候補者とは振つてるねと調戯ふの口惜しいので追かける、逃げる、大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

変な騒動、しまいに私のとゞかない様な處へ隠さうとするのですもの、もう堪らなく成て護身用の涙で威すのよ、母様が出て入らしつて仲裁をなさる丁度温つたおま酒で仲なほりの祝盃を上げると云ふ始末ホホヽ、お笑ひなすつてはいやアよ、こんなにしても私は兄弟が無いものですから力さんは兄のやうに思つて居りますのよアラ本當にですわ、ねえお醫者様なんて皆斯う金縁の眼鏡でも掛けていやに澄してハヽア成程なんかと勿體ぶつてる様に思ひますわね、其れでも縞のモーニングに中山帽子、キッドの靴音輕く行く姿は流石に未來のメヂチーネドクトルですわ、厚い髭をわざとブッツリと刈つて、眼の涼しい眉の濃い難の無い顔、目から鼻に抜けると云ふ才物の上、眞面目な勉強家です、何故早く奥様お迎のに成らないのと聞けば女なんかゝ側に居ては勉



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

强が出來ないと平氣なもの、此樣な方の奥樣は幸福だと思いますわ、どなたか私のお友人をお世話し度と思つて居りますの、アライヤネ私に如何ですつて、マアホヽヽ恐れ入りました事、悲しいことには雙方とも一つぶ種子ですの…エヽお姉いが一人おありですけれど、遠ふにお嫁きなすつて今は母樣とお二人切りの氣樂なお暮し、父樣が數年前におなくなりなすつたのがマア〳〵御不幸と云へば云ふ位なものですの…。



興味ある新年の遊戯

（クラスメートの春遊につゝく）

さみどり

○癈兵遊び

此頃の樣に癈兵が跋扈して種々の物を押賣に來る時節ですから是も一興で御座いませう。先一人が癈兵の役をするので…足を跛に見せたり手が無い樣に見せたり其處は座興を添へる爲に變つた風を裝ふがよろしい…手頃の箱に有合せの物を容れて一座の人の處へ順番に買つてもらひに行く。處が買手の方では癈兵と話する時に「ハイ」とか「否」とか。「白い」とか「黒い」とか斯う四つの言葉を使つてはいけない…（使つたら次の番の癈兵になるのです）。無論癈兵の方では身體に似合はぬ哀ぽい事を言つて品物を見せ、甘く釣り込んで之等の言葉を使はさうとする――其處に可笑味があるのです。

○鳥の羽遊び

此は他愛もない事ですが小さい方の爲に申ませう。可成輕い鳥の羽をとつて來て置いて一座は圓く出來る丈接近て坐る、そして其眞中の上の方に件の羽を飛ばし、互にそれが落ちて來て我身體に觸れぬ樣に、吹きつ競をするのですが、遣つて居る人より見て居る方が、幾ら面白いが知れませぬ。次は夜の遊ですが――

○シエドウ、パフ

是は以前申しましたシルウエットに類した遊び方で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。部屋と部屋との間に白い布を吊り、一方の室計り明るくし、暗い方の室には獨り、鬼を坐らすのです。そして明るい方では皆一人々々懸布の前を通つて自分の横顔を映しそれを暗闇から鬼に當てさす仕組です。是には出來る丈鬼を困らす爲に、種々面を顰めたり、鼻の上に紙を張つたりする事が許されてございます。

○蠟燭消し

先、鬼に眼隱を施こし、脊丈並の臺の上に置いてある蠟燭の前に立たせ、三歩後にすさり再び前に三歩出て（其時髪の毛先や頭を燒かぬ様に……）其火を吹き消さうと云ふのです。

○當さま

一同の者が圓座をして、鬼は其眞中に坐つて眼をつむります。圓座の者は茶碗なり、お盆なり其處に有合せる品をとり、右へなり左へなり順々に送るのですが鬼の方ではゴロ／＼と隨意の時間丈言つて居ると、其間此品物は不斷、隣へ／＼と廻つて行く。處が横を見て鬼がドンと一聲發し、同時に目を開くと、品物の廻送も止る……其時運惡しくそれを持つて居た人に當さまが落ちるのです。

倘是によく似た遊戯に茶碗廻しと云ふのが御座いますが、先、二つか三つ同し形の茶碗を持つて來、其内の一つの内側に、そつと印をつけ皆俯向け、偖樂器の音につれて隣へ／＼と廻すのです、樂器の鳴り止んだ時に印のある茶碗を持つてる人が負ける事は前と同でございます。

○噂の源

一つの事が口から口へと傳はつて行く間に、飛んでもない間違になるのは日頃よく見る處でございますが其手近い試にこんな遊があります。可成多人數集つた時、皆長く一列に座を占め、一番端に坐つた人は、何なりと短い、然も多少込入つた話を次席の人に囁き、其人は亦次へと、漸次に同じ話を繰返して行つて、最後の人は皆に聞える様に其話をする……處がそれが初めの話とは丸で變つて居るには少からず愕かされる事でせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



姉様の婚禮

玉つばき

お正月と云つても、かるたをしないと、ちつとも面白くない、私達、青春の血、もえ〳〵て、居る若い者は、やつぱり、百人一首が生命だ。かるたあればこそ、お正月も嬉しいのだ。一年々々、墓場に近づくのも忘れて、かるたに遊びくらす、これが何よりの樂しみ、お正月のたのしみ。

けふは、かるた會と思ふと嬉しくて、氣がそわ〳〵と落つかない。

おひるから、あの紋織おめし、つひの重ねにかへ、孔雀の模樣ある、褪紅色の帶、大きく結んで、ポアーまきつけて、多代さんのお家訪へば、もう美しい、華やかな、下駄二三足、つゝましくそろへ、あげられてあつた。

取つぎの、とわ、が入るとすぐ、多代樣のお顔あらはれて、「うれしい、よくいらしてね」。と、手をとられて、入れば、十疊の客間には、先着の多榮樣、たかさま、須磨子樣、いづれおとらね、クラスの花、美々しく着かざられしは、一しほのみばえして、ひきぞ、わづらふ花あやめ。其内に、宮子さんも、おみえになつて、くさ〳〵のものがたり。

火鉢にかざす、幾多の白魚のやうな手、すま子樣の左手に輝く金剛石は、納婚リングときく。

お兄樣の、お友達や、妹君のお友達、二十人近くの人々、集まつて、いよ〳〵かるたの開戰、

入りつ、みだれつ、勝ちつ、敗れつ、札は高くとぶ。

姫御前のあられもなく、さわぎつゝ、修羅場の大激戰、いく度か、戰ひなほして、いつ平和の御使、おりたつとも見えなかつたが、九時といふに、大切な、すま子さんのお家よりのおむかへに、我にかへれば、ま

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あ、皆様のおかほの色、埋火のそれのやう、あられなかりしさまの、今更のやうに、はづかしうなる。ずゐ分長居してそれでも、まだ仕たい、したいで、とうとう、迎ひの來るまで、十時ごろまで、皆戰つた。

家にかへれば、つゆ子さんから、七草の夜、かるた會すればとて、お招待狀がきて居た。あゝ、七草、したいけれども、七草はだめ、もう一日早くても、おそくてもいゝけれど、仕方がないから、おことわり狀かく。

△

樂しかつた、お正月も、けふはもう、七草粥祝ふまでになつた。門松は、首ばかり、僅かにゝのちの正月をのこして。

明日から學校と思ふと、遊びくせのついた身、一寸いやになつた。

昨日はお荷物が出て、けふは、いよ〳〵、姉様の、おこし入れの日、家のなかは朝からゴタ〳〵、ちつとも落つかない。さすが、呑氣な、私も、平氣では、居られず、何かと、お手傳ひする。

生れてから今日まで、間で離れることはあつたが、十餘年ばかり、共に起きふし、親しみ、時には、ずゐ分我まゝな、こと云つたり、大きいなりして、いさかひもした、が、姉様は、もう、けふかぎりで、他家の人となられるのかと思ふと、悲しい、心細いやうな氣がして、つく〳〵、過ぎし昔のなつかしく、しみじみと、今までの、おわび申上やうと思ふ處へ、「百合香さん、これからも、今迄と變りなくね。御兩親様には、私の代りをもして、一層孝行してあげて、頂戴よ私が、あつちへ行つてもね、時々、學校のかへりにでも、遊びにいらつしやいよ」。と、しんみり、仰せになるので。

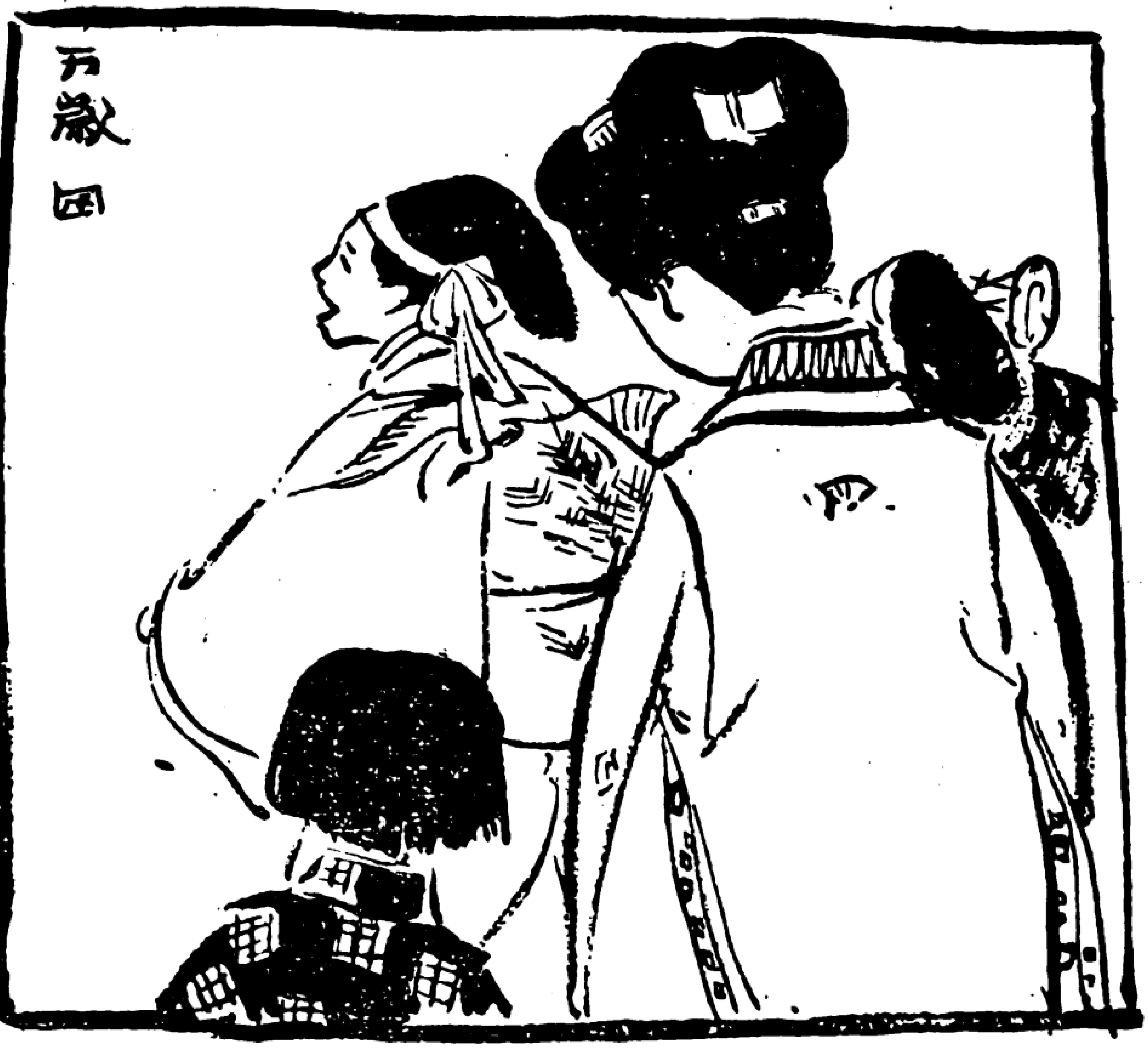
「姉様、私これ迄は、ずゐ分我まゝ申上たり、失禮な事計りいたしましたが、おゆるし遊ばして頂戴ね、あちらへ、お嫁でになつても、おひまの時は、お出で遊ばして頂戴、私も上りますが、これからは、一人で淋しくなりますからね。」と、やつとの事で申上た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

その内、お朝が來て、姉樣は、晴れのおぐしに、私は高まげをこわして、桃割れにしてもらふ。

おひるには、姉樣のお祝ひ、おわかれで、皆一緒に樂しくいたゞく。

四時までとの事で、仕度も忙がしく、姉樣は、お湯に、お入りになつたり、念入りのお化粧で、いよ〳〵出來上つた、其晴れのお姿は、大きい、おまげに、赤い手柄、金蒔繪の櫛、定紋の平打よくうつッて、お召は、下は白で、上は勝色地に、無垢の白菊一尺五寸の江戸褄模樣、若竹を出した、金



泥繡の、おみ帯に、白の丸ぐけの帯止が榮えて、美しいこと。上品なおすがた、お召しの裾を長くはえて。

式場に列する私は、あづき色地に、紅葉重ねのもやう、白地に、墨繪の松の、厚板立ヶ矢の字にして。

從姉が來て、姉樣のおぐし、工合を直す。もう、皆仕度が出來て、まてども、お仲人の、種村夫人は、お迎ひにおみえにならない。四時もすぎたのにと、おふた方は、お氣が氣でないらしく、姉樣は、着くづれがするか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らとて、椅子に腰かけておまちになる。
うつむきかげんのあのおもざし、あゝ、若き新妻姿よ、晴れやかなるけふの日。これから、新生涯の人となられる、姉樣のお心もちはどんなであらう。やがては、我身にも、來るべき運命と思へば、けふの式の模樣、姉樣のおふるまひも、あだには見すごされない。

とかくする内、門内に止まる車の音、まちにまつた種村夫人であつた。

一應の御あいさつも濟み、お仕度がよろしくばとのことに、知べのたれかれ、召使の人々に、見送られて、種村夫人が先に、次が姉樣、私、母樣、父樣、といふ順に、車打つらねて、ゴム輪の音もなう、勢よく走らせて、番町の、某家にむかふ。

風に吹きまくられるボアーを、氣にしながらも、コートの後姿、優しき姉樣のお身の上に、幸、多からんことをいのりつゝ、いつしか、某家につけば、早ひともし頃、出迎ひの人々。襟卷外して、コートぬいでかけると、姉樣のだけは、書生が受取つて、奥へもつてゆく。あゝ、さう〳〵、姉樣はもう、當家の方となられるのだ、と、いふ感じを、深く、新にした。

應接間に憩ふことしばし、みなりを直し等する内、こちらへと導かれて、みな〳〵ゆく。

晴やかにして、嚴かなるこゝ式場、一階十二疊の間電光燦と輝いて、まばゆい許り、床の間には、結ぶ緣の、其大御神がまつれらてある。

義兄樣はじめ、舅姑の君、弟妹の君、親戚の人々、美々しく禮服裝ふて、室のまはりにならぶ。

神主が、祝詞によつて、式ははじまる。永久に變らぬ、妹脊のちぎり、おごそかなる、神前の三三九度の盃事も滯りなくすみ、それより、金屛風打めぐらせる、下座敷にて、披露の宴。

上座につかれし新夫婦、羽織袴りゝしく、お品のある男らしい義兄樣、丸まげ姿、初々しき姉樣は、しほらしく紅そめて、美しいおかほ、ほんとによく、お似合のおふた方、兩家の父君母君のおかほには、滿足のいろあふれ、よろこびみち〳〵たる此うたげ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彼方此方、盃、とりかはせば、色直しの式あり、姉様こんどは、よだうがへつた、小豆色に、二尺の江戸づま、クリームの帶うつくしく、わかやいだお姿。

高砂やも、はじまり、お酌の藝妓もいそがしく、正に、宴たけなはなる頃、おふた方まづおひきになる、

來る時、打つゞいた車も、こんどは、僅か三臺、ふけし冬の夜の寒月、皎々として、照らし、肌さむき風はふき渡る。夜は靜かである。

私の頭の内には、もう、姉様は、よその人と云ふ思ひがされて、淋しくつてならなかつた。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



四十三年に別るゝ記!!

夢見る花

見よ甘泉の花散りて
廬山の月の影消えぬ

書きかけて居た筆を捨てゝ、思はずも窓に憑つた。駒下駄の音高うマント被つた二本條の人が彼方に行く‥‥長い兩の袂を胸に抱いてぢつとその影を見送つて居ると「夢見る花‥夢見る花」つて、よく私の事からかつた一郎さんの事が思ひ出された。お正月のあのかるた會にはは!? ホヽヽヽヽ

「ふたり居てさへ筑波の山に
霧がかゝれば寂しいもの
佐渡の小島の夕浜千鳥‥‥」

なんて、聲張りあげて唄つたの覺えてゐるが‥‥今度のかるた會にはどんなでせう? あの時は未だ柏章の帽子だつたけれど‥‥角帽が屹度よく似合ふでせうねエ、美しい眉‥‥なつかしいあの瞳!! ひきしまつた御口から「千代さん」と呼ばれた‥‥。來年はもう三つにおなり遊ばすの!? 私は‥‥私は十八になる‥‥。

颯と吹き入る風に驚いて、あはたゞしく窓閉づるや鐘の音近く木立に響いた。百八の鐘の音きくにはまだ早いと思ひ乍ら十二月の女學世界持つてストーブの傍へ行く。私ねエ、試驗で急がしかつたのでまだすつかりよみきらないのよ。え? 萩香樣の!? ホヽヽおきゝ遊ばすだけ野暮ぢやありませんか、こればかりは二三十回もよみ返しましたわ小春日記‥‥年の暮のマダム!! 相變らず引きつけられるようねエ、本當にどうしたらあんなにお筆がまはるんでせう‥‥

「夜毎の空にまたゝく星の、いづろなつかしき光りの中に、わけて瞬たる宵の明星、それにも似たる君のおん筆‥‥」と綾樣もおつしやつたが全くそのお言葉どほりネ、あゝ私、一度で好いからお姿を拜したい‥‥。汐の香高き鵠沼に、なつかしの君‥‥今いかにまします!!! 夢でさへお姿に接した事はないけれど、私いつも萩樣を胸にゑがいて居ますのよ。丹鳳の眼、臥蠶の眉、色は越路の雪を削りしよりも白く、白く、白き布に淡紅を包んだらん如き頰!! 噫萩香樣‥‥なつかしい萩香樣!! 誌上のお作では快活らしくよそほつてゐらつしやるけれど、私思ふのよ萩香樣て落ちついた沈んだかたぢやないかしらと。

書いては破き、書いては破き、あゝ幾度もお便りは認めたけれど‥‥私‥‥私どうしてもポストに入れるだけの勇氣はないのヨ‥‥弱き

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子は唯遙に君の幸をいのるばかり、宿のこの窓から行く雲仰いで、さらば私は、永久になつかしき詩の人を慕ひませう……。

ハラ〳〵とかへす、とあるページ……みなつくしの君の夜具のつれづれよみ下した時の私は……もうたまらなくなりました。くやしいやうな腹立たしいやうな、何とも云へない感じがして「反抗」の二字が頭の中にきらめきました。けれど何處へ行つてみても皆じれヱ。ほめる人があれば必らずその反對の人が出る……私のクラスだつてやつけりさうよ、お辨當の時間なんかもう大抵萩香のことでもちきり……

「今月も亦、内藤さんのが出てるのネ、私あの人の文よむと頭痛がしちやつてよ、野菊さんの方がよつぽど好いわ」とK様が云ひ出す。

「本當ねヱ、柏葉だの五位様だのつてうかれきつてばかり……又萬様が出だしてねえ」とT様が口をそろへる。此處の連中が萩香様の事云つてる時は、私いつもだまつてきいて居ます、一ことも口を入れないで唯默々したつきり……けれど外の人は大抵非凡な才筆にチヤームされてゐますの。

來年から御上京遊すつて!? 本當でせうか!?

「みんなで見に行きたいわねヱ」なんてしげさんが云つてますのまこと御上京ならうれしいけれど。

あのネ、法科の兄がこの寄宿舎に行つて居た時、萩風様の事知らせてよこした手紙がありますのよ一寸お見せしませうかずゐ分らんぼうがきですけれどホー笑はないで頂戴!!

内藤千代子と云ふ女は男の變名でもなく年增女でもない、全く自分の云ふ通り、十七八の女だよ

東屋から一二丁離れたところに辻といふ別莊がある。その隣りの人だ。矢張別莊風の家です、母と妹と唯三人の暮し（妹はくら子といふ十二三の子ださうな）父がない爲め兎角憂鬱なので母なる人が大に心配してるさうだ。裁縫の餘暇に仕事するんだつて

以上は女中おふきさんの話てすがさて僕が朝の散歩をなすべく東屋の庭から出たところが、向ふから身丈約、、、、、四尺七八寸位、島田に結つた印象深い夢二式の瞳の女が手に原稿風の郵便物をもつて、來たのに出會つた

きけばそれが内藤千代子その人であるさうな

これだけの通信よ東屋のおふきさんからきいたなんてホヽヽ振るつてるわねヱ!?

……あ!? 今初めての除夜の鐘がひゞいてよ! いよ〳〵思出多き此の年とも別れねばならないのねヱ、あゝかくて今年も逝く……わが十八の初頁も最早程なく開かれるでせうか!?

鼓動の胸をおさへて柱に凭れば、鐘の音は再び木立にひゞく……うるんだ瞳でみ空仰げば、折からつゝと星一つ流れて……。

萩香様!! ……萩香様!!! さらば幸ある新年をおむかへ遊して。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

去年の正月の印象

芳澤絢子

綿をちぎつて落すかと疑はれる雪が、氣味のいゝ程音も立てないで降つて來る。何故かう雪が降るんだらう。どうも北國はいやに雪が積る、自分の母國だけれど餘り寒いから厭になつて仕まふ。とう〳〵今日も朝から炬燵にスッカリもぐり込んで兄さまと會話を始める、どうも私はまづい、兄さまに叱られ初めした。

だつても兄さまは高等學校の三年——而も一部英法科なんだもの、女學校の四年やそこいらの者なぞとは、まるつきり比べものに成りやしないわ、私今年はレーイング先生にミッチリ教はらなくつちや——！

兄さまはもう叱つてばつかし、發音がまづいとか、アクセントが成つて居ないとかと言つて小言だら〳〵厭だわ新年早々お小言は　平に御免だわ、もう止しませう。　私それよりも今日はヴアイオリンの彈き初めを爲る約束だつたんだ、もう上枝さん達が入らつしやりさうなものだわ、ドレ來ても調べて置きませう。と炬燵から出やうとしたら下女のお松が女學世界の新年號を持つて來た、ひつたくるやうにしてお松から受け取つて又もや暖たかいストーブの側へ行つて讀み始める、アヽ私は本誌と姉妹の間柄なんだ、本誌が生れてから今日まで一回も愛讀を怠つたことが無いんだもの——ずゐ分本誌もいろ〳〵と變遷しましたわね。

わ、表紙のきれいだこと、緋の御紋付に立て矢の字の少女はスッカリ氣に入つた。口繪の別莊の春、は何ていゝ處でせう、此處のやうにかう雪が降つて寒いのと比べると實に羨ましい、私も生ある間に一度はこんな別莊に日を送つて見たい——と及ばぬ事を一寸胸に描いて見たロヘイさんの白梅。梅よりも少女の方が目に立つ、頭の巾よりも肩の巾が狹い頸の細く細い目の大きい亞細亞イカラな當世向きの繪だわ、いつか、お隣の信子さんがロヘイさんの繪にあつた少女を見てお母さまにねだつて其の繪の通りの色合でお召し物をこしらへなすつた位だもの。

まあ！この寫眞の可愛いこと、アヽこれは桂さんの令孃　ねえ、オヤオヤ横にましますのはエンゲーロの伊藤文吉男だわ、オホヽヽヽまあ伊藤男の嬉しさうなお顔としたことは——忍ぶれど色に出でけり我が喜びは……と云つたやうに。

名家の令孃。名門の令夫人。皆上品でいらつしやる、又皆な綺麗だこと、——又羨ましい感がした。

記事は何だか讀まない前から面白さうだ。

九重の奥のこと、まづおそれ多しとばかり又恭しく讀んだ。上流社會の松の内——はどうも香れ〳〵下流社會の者とはまるつきり比べられない、趣むきを異にして居る、青春の血汐の漲つてる私だもの、アヽ同じ女性と生れながら、一は上流に華美を盡くし、一は下流に毎日あくせくして居る——と思ふと言へない程やきもきして來る、然し勿體ない父さま母さま兄さまと、日々無事に暮して居て、こんな事た思つち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

や罰が當る、まあ〳〵並著て幸せの方だわ、次ぎの美登利さまの孤華の巻――は面白く拝見いたしました、登志子さんのヴイオリンに美紀ちやんの琴、私一番それが聞きたい。上原綾子さんの初春の令嬢日記――この人卿々の文才家と見えて、筆がよくまはつてる、盛んなカルタ會、さぞ〳〵盛大を極めし事と羨ましくて。

それから有名な萩香さんのうれしい正月日記――私この萩香さんがむの底から大好き、萩香さんの眞似ぢやないが私がもし男だつたら、もうとくに萩香さんの文に――いや萩香さんその人に熱烈なる戀をしたに相違はない、實に千代子さんの筆には感服の外はない、オヤ〳〵こゝに書いてある繪の滑稽だこと、少女のゆくへ?、だつてさ、一寸きがきいてる、次ぎの飛驒の山里の冬ごもり、――きくさへさす、金澤とはお互さま寒さうだこと、思ひぞ起す去年の晩秋、兄さまの學友なる四高の健兒二名、飛驒山へ探檢に入らつしやつてその儘行方不明にお成りなすつた、と、一時はもう當地は大騷動かへしたんだもの。――一層すごく感じた。



名流婦人の趣味と生活――どうも面白うござんすこと、いろ〳〵な御趣味がありますものね、本多夫人の木登りや鬼ごつこは是非拝見致したい氣がする。與謝野晶子さまは御境遇柄とは申せ、書きぶりからが、すでにすでにうれしい。私は晶子先生崇拝者の激烈なる一人、若きときのたのしみはと問はれて……云々詩人涙多しとや。晶子先生も、こんな境に人と成られたかと思ふと、思はず同情の涙に咽んだ又おほかたの男達に告ぐ、女にはよき衣を着せ給ふべきものなり――は卿々素的だ、私は他の奥様に告げまゐらすこの文をよろしく御眞人

樣に是非見せ給ふべきものなり……、潮風さまは中々お口が惡い、油斷がならないわ、ほめたりおとしたり、フ、フ、赤組、フヽフ、赤組ー赤組!! フレー!! だつてする分だわれ、しかしこの先生の記事は至つて面白い。

良人待遇法の秘法――成程これさへまもれば世の御良人さまがたは萬歳!! だ。

文子さまの我が家の料理法――すらりと讀んで食べたかつたのは月曜日のビーフステキ、プデイングに鯛の照やき、と木曜日の鮭はらゝご入れぎ清汁だつた。

スーッと襖が開いてお松の顔が見えた、お嬢さまお友達が入らつしやいましたと言ふ、お松の顔が消えると直ぐさや〱と衣づれの音がして上枝さんのハイカラなお姿があらはれた、オヤよく入らつしやいましたと言ふと引き續きはいつて來たのが絹子さんに、くに子さん、お銀ちやん――みんなお揃ひの華美な友禪の袋にバイオリンを入れてニコ〱、兄さまが居らつしやつたので四人ともクス〱笑つて云ひ合せたやうに、次ぎの間にかくれた、兄さまは大きな聲で、皆さん、こつちへお出でなさいな僕鬼ぢやありませんから恐がらずにいらつしやい! と仰る、四人は障子のかげでクス〱、かくれぞめは振はないことよ、さあお入りなさいとやう〱みんなを部屋に入れ、さて火桶をかこんで話に移つた、若い少女の集りだものお話は面白い、愉快だ、笑ひ七分に話三分、そして暮れ近くまでバイオリンを合奏した。

洋琴名手の來遊

洋琴名手キヤンペルマン氏夫妻今回觀光の爲め來朝し、目下築地セントラルホテルに滯在中なり、去る十二月九日國芳音樂家達に新聞記者等數十名を招待し得意の曲十數番を演奏して樂た聽者を感ぜしめたり、抑もこのキヤンペルマン夫人といふは千八百八十三年獨逸エルバフエル市樂長の家に生れ天眞の樂才は夙に出藍の譽を博し、十七歳の時維納に遊學し、エミルザワー氏に就て斯道の蘊奧を究むること數年、歸來同市音樂學校教授たりしも天眞の妙技は永く教職にあらしめず、程なく同校を辭し國芳洋琴家として立つに至り、第一の獨奏會を伯林に開き、音樂評論大家をして其技を激賞せしめたり、爾來各國を歴遊し到る處ろ盛大なる獨奏會を催ふし名聲世界に喧傳せらるゝ至れり、又良人キヤンペルマン氏は墺都維納の人又ヴカオリストの名手なり。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文苑

新春の樂み

東京　春浦

八重むぐらしげれる宿のさびしさに、ひとり君がおもかげをしのび居り候折から、なつかしき御玉章に接し、まだ文も見ぬ中よりいと〳〵うれしく、開く間おそしと拜しまゐらせ候へば、今宵御宅にて歌留多會ひらかるゝよし、親しき友との逢坂の關はこれをおいて他になく、殊に待つとしきかば難波江のあしのかりねのそれならぬ一夜のかるた會、身をつくしても是非に參上致すべく候。なげつゝひとりぬる夜の夫れならで、よろこびつゝ、日のくれるをまつ間のいかに久しき物に候よ。つもるおはなしは逢見ての後に夜をこめて申上ぐべく候。つらぬきとめぬ亂れがきも、よろこびを忍ぶる事の筆のくるひとゆるしたまひてよ。かしこ(天)

茶の湯の稽古

小石川　小川すみ子

「お茶もようございますね」、「ほんとに結構の修養ですね」、「小さな物を一々全身の重みをこめて扱ふあの位おちついた態度はありませんのね」、「古雅な建物の中で、古雅な先生からお茶を習ふ、お湯のたぎりの音をきゝながら紅の袱紗さばきなんて、別世界ですのね」、「でも人は一方でかういふ風におちつける事がほしいんですのね」「まつたく」。茶室を出た自分等はこんな話しをしながら花壇の所に來た。暖い日が柔らかに身に染む。うつらうた菊や枯れた芝生にも反つて風情がある。山茶花の花が空に映つて、小山の楓は眞紅。「活動もいゝ、趣味もいゝ、世はたのしい」と自分は思つた。(地)

北の國より

函館　岡田春子

奈良の都の御便より嬉しう拜見致しました。こちらは三日計り前からめつきり寒むく成りました。霜置くつるべたぐる手がいたい程つめたいんですもの。今にも凍りさうな湖水の波。水鳥の聲も身にしみる樣、見ごし彼方駒ケ嶽にはもう初雪が……あの山に三度目の雪見れば此里にもみ使は下ります。師走の月の中ごろには、湖水はすつかり氷にとざされて、まはり七里の鏡の面。赤井川通ひの橇馬車やスケート姿勇ましき學生達の姿をこゝに見る頃には、又お正月が參ります。四面寂として音なく、靜かにふりつもる雪の宵、離れ〳〵のわら家に、雪の窓もる灯あかき北國の夜は又すてがたきおもむきがございますの。(人)

都會の繁華

神田　江島八重子

早いもので、此島へ着いてから廿日餘り經ちました。部屋の中も略片付き、入學の手續も濟ませました。着いた時は眼を廻しさうな繁華に驚いて、當座は外へ出るのが恐くて毎日引籠つて茫然したきり、何も手に付かず、其癖ソワ〳〵して落付かなかつたものです。變つた風土や人や風俗に接する毎に脅される樣な、氣恥しい樣な氣がして、何でもないのに癪に障つたり、嫉むだり、赤くなつたりしました。今では方々へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見物に行きます。毎夜夢は故郷の方へ走つて、知らぬ地に女一人、頼りない心地がして戀しくなります。出發する時威張つてゐたのに。（秀逸）

福壽草

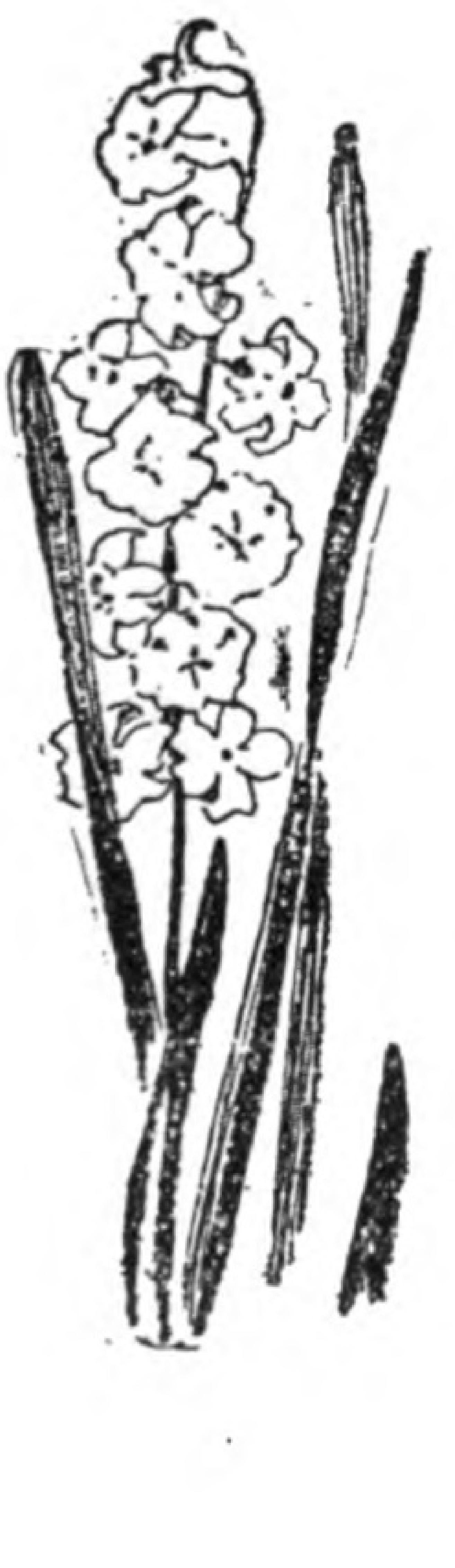
長野　小野澄子

四時半起床、清冷な若水に目さめて、今日から二十歳だとしみ〴〵思つた。遙かに四方の神々を拜して、家中の掃除も濟し、初日を浴びつつ屠蘇をくむ。父様は其れからお年始廻り。紺の香りする新しい法被着けた車夫の姿は男しい。お見送りして入らうとする突端、「お目度う」。びつくりして向きかへれば柴田のおぢ様。二十貫餘と云ふお體を千鳥足で。午後日當りのいゝ處に福壽草を出してやる。元日にとあせつたけれども、遂々間に合はなかつた。今日は終日挨拶やら給仕やらで、立つたり坐つたり。夜漸くいたゞいたお年始狀を見る。中に北海道の登さんから、姉ちや御目出度う、と片假名で書て下さつたのには嬉しさに思はずほろりとした。明けて六歳、私が最愛の小さき異郷の友である。（秀逸）

雪に埋るゝ正月

東京　若紫

米子さん都の同級の方々の御様子、先生方の御消息、又貴女のマダムとしての活動振りが目に見える様で御座います。卒業後足掛け四年も東京の土を踏まない私等には本當にあの様なお手紙が嬉しいわ。當地の御正月などお話申様な事は御座いません。只山も野も畑も穴も村も眞白で目が痛くなりさうです。越後の人の目が惡るいと云ふのは無理もありませんね。其の雪ら東京の様なら風流ですけれど、一丈も積る様ぢや最う最う歌も發句もあつたものぢやありません。貴女は未だ先生の處にお通ひの様ですが一向近頃は伺ひませんね良いのがお出來になりましたら偶にはお見せ下さいましな。絶えずストーブをドン〳〵焚いて居るので顏ばかりのぼせて困ります。足の先が一番冷たくて朝などちぎれるかと思はれる程です。さよなら。（秀逸）



春の豫想

遠江　石野くに子

日向のよい八疊でメリンスの被布を縫ひ乍ら、お正月の豫想に耽る。「早いものだわ。カルタに浮れて、花に浮れて、暑い〳〵つて海水浴等に行つたは途此の間だ、と思ふてる内に、もう木の葉が落ちて、水仙が咲くなんて。あゝ最う直きにお正月。嬉しいわ。來る年のお正月はどんなに樂しいだらう。元日は御紋付で澄しお目出度う、相變りませずで、きつと晩は舌が硬くなつて、結ひ立ての髮がぐら〳〵するわ。二日はお生花の先生へお年始に行つてカルタ會。今年はあの雪樣が、素晴らしいお化粧に、何所の方かと見違へたつけ。今度は誰が一番か知ら。三日は姉樣御夫婦のお年始。兄樣は華かな軍服。姉樣は艶々しい丸髷。そして秀夫ちやん抱いて。きつと伯母ちやん、お目出度うつて。ほゝ私まだ此歳に肩揚げがあるのに、伯母樣だなんて。（秀逸）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



雜記帳

與謝野晶子

×

お正月は三十を超した私にも生々として嬉しいのです。併し大分その嬉しい氣持が變つて參りました。お正月が自分の爲に計り嬉しかつたのは二十前後迄でした。娘の間の事でした。わたしの樣な田舍育にも其頃は日蔭の草にも芽が吹く樣に、我と我が瑞々しい若い「生」の力に醉うて、長い袂の柔かい線が靡くままに心も靡き、羽子板に彈かれて空に舞上る羽子と一緖に舞上りました。早起をして、下男が汲んだ若水の初湯につかり乍ら、寺々で打出す元朝の鐘を聽く心地が何んなに神々しかツたでせう。それを思ふと、なせわたしは其頃にもつと娘らしく遊んで置かなかつたであらう、盛りの花をなせもツと雙手に一ぱい摘まなかつたであらう、と云ふ樣な氣が致します。娘の間には華やかに遊んで、出來るだけ美くしい夢の中に溶ける樣な日送をする事ですよ。質實な量見なんか一人前の大人になれば自然の必要で氣が附いて參ります。之は物の理を偏らずに見極めたお年寄の方に伺つたなら、乾度其通だと仰しやるに違ひありません。

わたしは斯うして子供に着せる正月の物を裁ツてゐます。之が只今のわたしには嬉しいのです。斯んな見切物のメリンスや洗張の紡績物で、馬鈴薯の表皮みたいな物を着せるのですけれど、それでも子供達は此晴着をどんなに美くしく思つてお正月を喜ぶでせう。わたしはクリスマスにも正月にも其外祭日や誕生日にも、出來る丈の範圍で子供達の喜ぶことをして遊ばせて遣りますが、子供達が小鳥の樣に蝶の樣に素直な初の心で春の霞に包まれて生々と遊んでゐるのを見ますと、自分もうツとりとして幼い時の氣持に歸り、三十を越した女だと云ふ樣な賢しい心を超越して子供と一緖に手毬をつく氣にもなります。そんな氣持は直ぐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

覺めるにしても、子供等の樂し相な樣子を眺めてゐると、成るべく長く遊ばせて此夢を飽く迄見させて遣りたい、美くしい思出を大人になッても成るべく豐かに殘させて遣りたいと、斯んな事を考へまして、其處に又「母」としての樂みが染々と味はれます。只今のわたしがお正月を嬉しがるのは斯樣な意味なんです。

其から之は附けたりですけれど、新年の新聞雜誌に何う云ふ面白い作物が出るか。舊年の師走に差迫つて心忙しい中に、作家と出版者編輯者の方々が何う云ふ努力をせられたか。と云ふ樣な考を以て松の內の暇を偸んで種々の初刷を讀むのも樂みです。又偶ま街を歩いて階級の人交つた都の婦人の色々に着飾つた春姿の新しいのを眺めますのも、晴々しい好い氣持ですね。斯う云ふ事にも都會に住む身の幸福を思ひます。わたしは久振に京大阪のお正月を見たくてなりません。

こんなお話をすると、又何處かで「晶子は只の女になつた」などと叱られるかも知れませんね。だつて人は皆箸の上下をする場合に「只の人」ぢやありませんか。わたしは「只の女」から少しも脱したいと思ッてゐません。「只の女」でゐてお正月の來るのを嬉しがる。さうして「只の女」以上の事も併せて致したいと心掛けて居ります。

×

お正月に因んで、良人が先年來調べてゐる「日本語原考」の中から二つ三つの語を拔いてお話致しませう。「餅」の語原を知らうとすると、古代の日本人や朝鮮人が用ゐた語に MATY 又は MUTY と云ふ語があつて、血統の立派な人と後世で云へば貴族とか家柄のよい人とかの尊稱に用ゐられるのです。即ち神樣の御名で云へば天照大御神の又の御名の大日靈貴、大國主命の又の御名の大名貴、以仁王、又人臣の名では可美眞手命、藤原武智麿、大伴家持、萬里小路藤房、近頃の人の神鞭知常、常持某などの「ムチ」や「モチ」や「マチ」が其れです。神鞭氏などは丹後の舊家で維新前迄は單に「鞭」とのみ云ッたのですが、神主の家

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ですから神の字を附けて二字姓とせられたのです。「ムチ」が「モチ」と訛り、其れから貴族は多くの領地や領民を所有して居りますから、此語を動詞に變化させて「持つ」と云ふ語が出來ました。又「大名貴」の男性的なるに對し、女性の貴族を敬稱する「小貴」と云ふ語があつたと見えて、其れが訛ッて「コマチ」となり小野小町などの女房名に俤を遺し、又は下落して遊女の名にもなつて居ります。



其れから貴族の家の神棚に供へる尊い食物ですから「餅」と申すのです。「鏡餅」は其形が鏡に似てゐる所から申すので、「鏡」といふ語は三浦博士の御説に由ると「鏡鑑」と云ふ漢語の南淸音KYANG KAMが約まッたのだ相です。門松の「マツ」も松浦博士の御説で「柀」と云ふ漢語の古音「パッ」が轉じたのだと申す事です。

正月を「む月」と云ふのも「餅月」の約まッたのかも知れません。睦じい月と云ふ意だと云ふ舊說は信用し兼ねますが、「ムツマジ」とか「ムツブ」とか云ふ語の原は、古

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

代の貴族間の協同生活の平和な狀態を意味して、矢張「貴」を變化させた動詞ですから、間接ながら「む月」に緣があると申しても宜しいでせう。

「御許樣」の「モト」を初めとして「本」、「下」、「基」「本づく」なども此「貴」が變化した語でせう。「まて貝」も何か之に緣があるでせう。「町」は萬里小路即ち貴人の住む路の略語です。「用ゐる」は「持ち率る」と云ふ熟語ですから「用ひ」と書かずに「用ゐ」と書くのが正しいのです。只今の朝鮮語にも「マチイ」と云ふ語は貴いことを意味する語で遺つて居ります。

正月の事ですからも少しこんな呑氣な御話を續けませう。此「餅」の語原の「貴」が「ウチ」と發音を轉じますと貴族の住居を意味する內裡の意となり、大內氏の如き貴族の敬稱となり、更に貴族の家の中と外とを分つ「內」と云ふ語となり、又貴人の愛情を示す「ウツクシム」、「イツクシム」と云ふ動詞や、貴人の容貌服裝を讃める「美くし」と云ふ形容詞になり、又轉じて現世を美くしい世界と見て「うつし世」とか「現」とか云ふ語が出來ました。「都」の形容に「內日さす」と云ふのも美くしい日影がさすと言ふ意味です。大和の字智郡は貴族の住む郡、內田と云ふ姓は貴族の領田の意です。

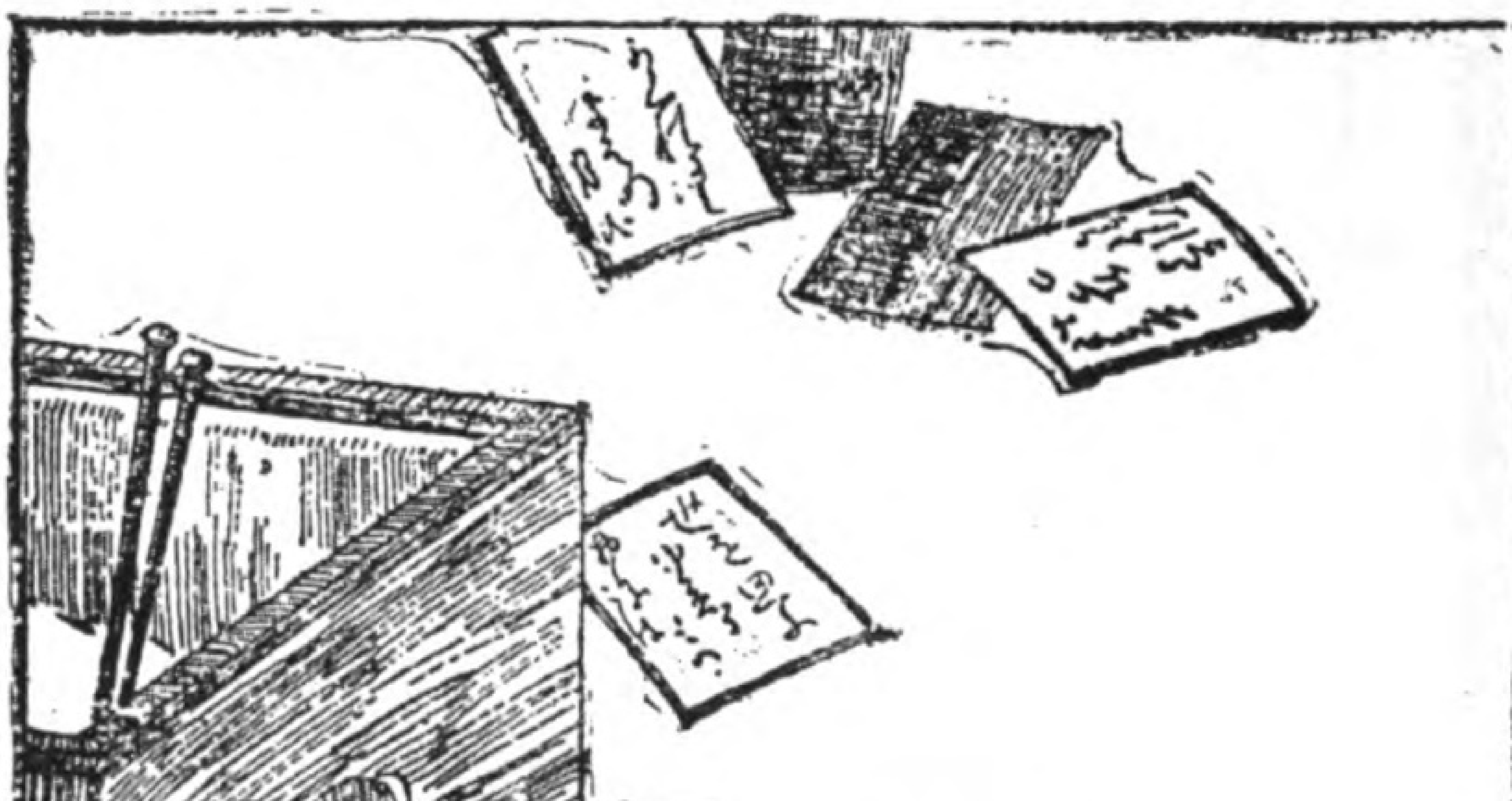
又此「貴」が「ムト」と訛り、更に「プト」(只今の發音ではフト)と轉じて「太占」(貴い占ひ)と云ふ語「太し」と云ふ形容詞などが出來、又「プト」が「ピト」と轉じますと「人」と云ふ語に成ります。即ち「人」は只今でこそ一般人に用ゐますけれど、原意では「貴」と同じく貴族に對する敬稱であツたのです。語原をたよると人と餅とが一緒であるなどはお正月のお話に妙ちやありませんか。

×

年の始に當ツてわたしは斯ふ云ふ事を考へたい。年月許り改ツたからと云ツて何も愛でたい事は無い。年と共に自分が新しくなるので初めて新年を賀したり祝ツたりするのに意義があるので無いか。人の心の一面

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

には慣例とかしきたりとか云ふ舊い型を敷き寫しにして、成るべく無事に日を送らうと云ふ怠惰な魯鈍な弱點が潛んでゐて、之が表面に頭を持上ると其人は因循姑息になり、何事にも引込思案になる。さう云ふ保守的な人は我身の無事を願ふのであるけれど、周圍の競爭に堪へ切れない弱者であるから、無事が無事にならず、却て世に遲れた人劣敗した人となり、社會の進步に取殘されて不愉快な憂目を見る結果に陷らねばならぬ。わたしは其れが厭だ。わたしは働く事と樂む事と兩面一體の生活の上に、出來る丈人並以上の効果を收めたいのである。其れならば昨日の自分の上に更に何事をか加へて今日の新しい自分を造る努力が無くてはならぬ。わたしは時時世間の事にも批評がましい事を云ふけれど、何方かと云へば世間の事なんか何うでもいい。世間には競爭があるから何時かは自然に優者が勝ッて捨てゝ置いても都合の好い樣に進む　皇后陛下の御歌にも「萬づ民救はん道も近きより押して遠きに行くよしもかな」と遊ばされた通、何はあれ近き自己を第一に改造する事が急



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

である。わたしの心の上に初春が來て新しい鶯が鳴かねば、如何に年月は改ッても自分は無意義な生活を繰返し草木と一緒に朽ち行くに過ぎない、何の愛でたい事も無い譯である。

×

「汝は曾て眞に人を愛した事があるか」と問はれたなら、わたしは「有る。今も有る」と答へ得る、併し、「汝は曾て眞に自己を反省した事があるか」と問はれたら、わたしは恥し乍ら「否」と言はねばならぬ。わたしは年の初に此一語を以て自らを責めやうと思ふ。一體婦人が輕蔑せられるのは此反省が缺けてゐたからである。自らを知らず自らを勵まし鍛へない者に何の恩惠があらう。其れはわたし自身に痛切な問題でないか、わたしは平生隨分自分の缺陷を知ッてゐる積りであるが、深く省みれば矢張平凡な日本の女である。小さな慢心と小さな我欲と小さな謙遜とが巴の形になッてわたしを醜く取卷いてゐる、其れがわたしの今日までの姿である。

わたしが從來何程の事を知り、何程の事を成してゐるか。なぜもッと大きく謙下り、大きな欲望を起して大きに努力し、大いに識者の前に自尊し得る女に成らないのか。見すぼらしく働いて見すぼらしく影の樣に價値の無い一生を送る女性は無數にある。わたしも亦同じ悲しい結果になりはしまいか。

斯う考へて來ると、自分に對する反抗心と、飽くまで自分を鍛へやうとする勇氣とが、むら〱と火が燃える樣に心の底から湧いて來る。わたしは新しき年と共に新しくなッて幾倍の努力をしやう。さうしてわたしの最も甚しい不足な點は何か。其れは智力の足らない事である。わたしは其補充に最も多く努力しやう廣い世間には婦人に高い智慧を授けるのは無用だと云ふ議論をしたり、婦人には常識が必要だと論じたりする人達があるけれど、人間の進歩を望み、人間社會を成るべく道理に合ッた仕方で組立てて行かうとする以上は、女にも高い聰明な智慧が必要になる、常識と云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ッても昨日の常識では今日に通用しない、昨日の新智識を今日の常識にするので初めて役に立つ。又明日の常識の準備としても今日に高い新智識は必要である。併し世間の議論などは何うでもよい、高い智識は現在わたし自身に要求を感じてゐるのである。

わたしは感情に於ても意志に於ても然う人に劣ッてゐるとは思はないて、智力が缺けてゐる爲に、その裕かな感情を整理し淸く鋭敏にし、その健かな意志を適宜に活用する力が鈍いのを歎息する。佛教でも智慧の光明が愚痴の闇を破ると云ふ通、物事の道理の分明と解る智慧が一々指圖をしてこそ人間の働く方面も樂む方面も秩序が立ち統一がつく。唯人に勞働せよとか常識を修めよとか云ッても目の無い者に路を走れと云ふ樣なものである。



わたしは益々程度の高い新しい書籍を讀んで心の目を開けたいと思ふ。　皇后陛下の御歌に、「夜光る玉も何せん身を照す書こそ人の寶なりけれ」とある通、讀書の自由を得てゐる今日の婦人が書物を讀んで自ら高い教育をしないのは身の寶を棄てるものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

わたしは暇を偸んで書物を讀もうとする傍、又成るべく筆を執ッて、此樣な雜記帳の無駄がきでも、未熟な小說でも歌でも、何の形式を擇ぶと云ふ事無しに、感じた事、思ひついた事を書いて置く年頃の習慣を、益々怠らずに實行しやうと思ふ。書くと云ふ事は自分の思想や感情の混雜したのを自然緖口をたどッて整理する事になり、其の書上げた物を自分で讀んだり人に批評して貰ッたりすると、自分の心の姿を靜に客觀し長所短所を知る事が出來て、よしや藝術品と云ふ樣な立派な價値は柰々無いにしても、其れが自分を反省し整へる一つの鏡になるのである。又多少にせよ昨日より進步した自分が其れに由ッて見えた場合には嬉しいものである。

わたしは無口な女で座談が誠に下手である。訪問記者の方などに會ふ度に何時も御話の出來ないのを御氣の毒に思はぬ事はない。そんな事から云ッてもわたしは餘計に筆の上で物を言はうと思ふ。わたしには目のあたり會ッて頂かない方がよい。若しわたしの樣な女が何か物を言ふのを聞いて遣らうと云ふ御方があればわたしの書く種々の拙い物を見て頂きたいと思ふ。

餘計な事をお勸めする樣ですけれど、文學を志望なさる婦人方許りでなく、一般の御婦人方が一週間に一二度必ず思ひつきの事か心覺えになる事か何かを御書きになる習慣をお附けになッては何うでせうか。文章などは構はずに只思ッた儘をむきだしに書きつけて置くのです。度重なれば面白い文章にも自然なりませう。少し時を置いて讀んで御覽になると、其れは種々の利益と興味がありませう。

僻む氣短かな鵯鳥は
木ずゑの雪をゆりこぼし、
枝から枝へ甲高に
凍てつく冬の笛を吹く。
それを聞くわたしの心も裂けるよに。
それでも木蔭の下枝には、
あれ、もう、愛らしい鶯が
雪解の水の小流に
輕く反打つ身を映し、
ちちと啼く、ちゝと啼く。
そのさゝ啼きは低くても
春ですわね、春ですわね。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本印象記



中村春雨

△歸朝者の感想

歸朝後、巳に一年の月日が經つた。三年有半西洋の山川や風俗や、社會人事の色々さま〴〵な印象を映したり、消じたりした我が眼の網膜は、此度は逆に働いて、日本の四圍の風物から、今更のやうに一種新らしい感を受けた。自分は何時までこの新らしい感の中に生き度いと思つてゐるが、併し月日の作る習慣の力は不知不識痲睡藥の如く我が神經を鈍くしつゝある。イヤ、寧ろ新らしい習慣性が、産れ落ちた當時から我が身心を支配し來つた舊い習慣性の爲めに消されて行きつゝあるのだ。當初は百呎内外の、淺草の、凌雲閣が日本一の高塔だと思つて、感心して見上げてゐた自分が、一度、紐育市の六百七十呎のメトロポリタンの大高塔が、青い空を刺すやうに聳えてゐるのを眺めて來ると、今度は前の凌雲閣は子供の玩弄の楷子位なものだといふ氣になる。併し實際、淺草へ行つて見ると周圍の家屋が皆低いから、矢つ張凌雲閣は高い。而して度々行つて見ると、愈々高くなるやうな感がする。日本の文明を見る自分の眼が、すべてこの調子になつて來ては甚だ心細い。今の中に、西洋を見て來た眼で、日本を見る感をポツ〱書いて見やう。

△東西文明の接衝地

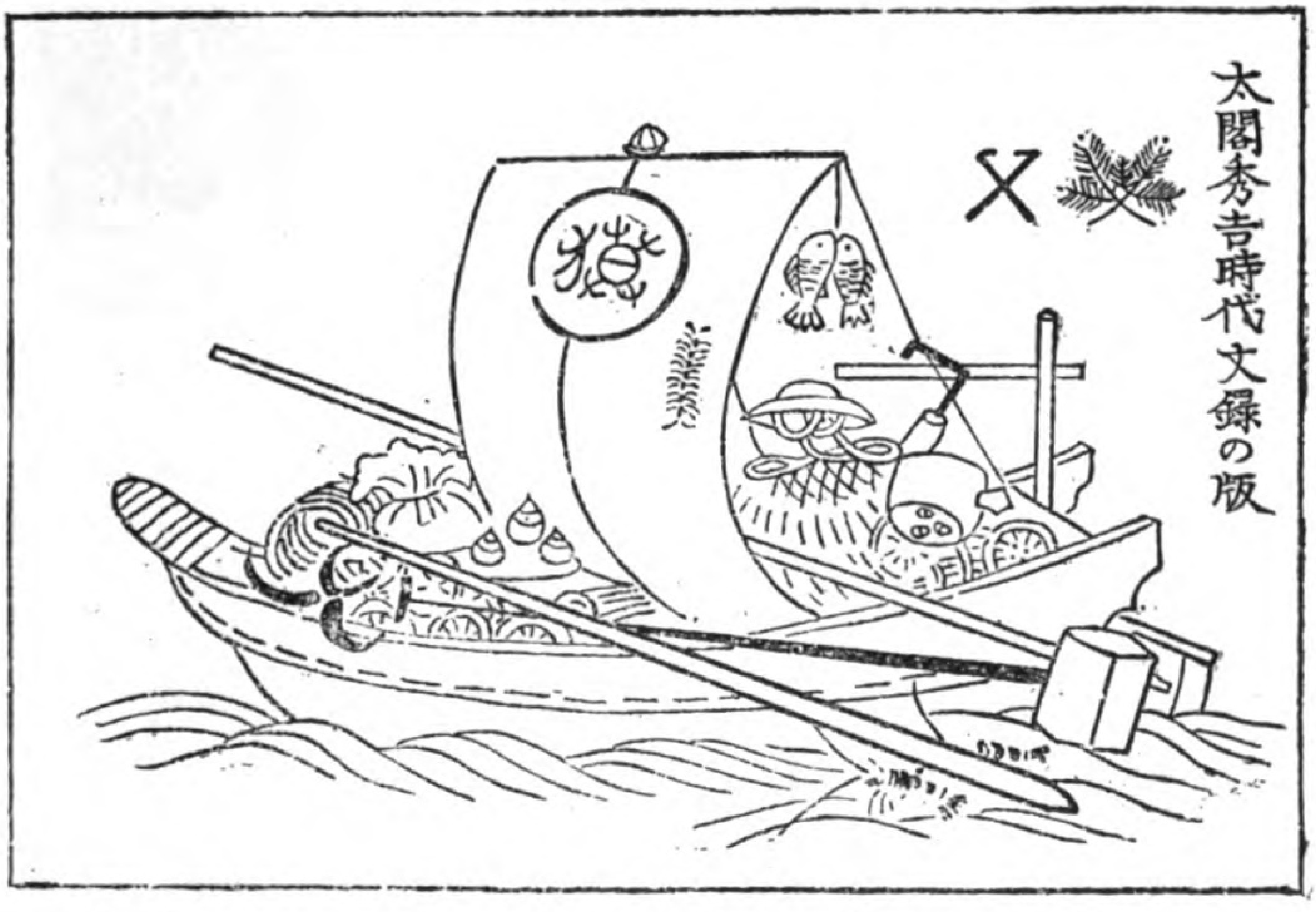
自分が浦鹽港を出發したのは昨四十二年十二月十二日の未明であつた。灣の深く入り込んで、入江をなしてゐる邊は、海水が全く氷り附いて、曇つた鏡を嵌めたやうになつてゐた。そして海岸には、波がそのまゝ鑄物のやうに結晶してゐる。この氷海の上を厚い外套に包まれた人間が鵜の群の如く歩いて行く。實に奇妙な景色だと思つた。それから棧橋へ出て、義勇艦隊の船に乗る。この邊には海の上に鏡餅の形をした氷が幾つも幾つも浮て、その間隔を龜の甲形に潮が流てゐる。そこらの島の周圍には、石膏細工の如く、波が美しく氷り附いてゐる。浦鹽の市街は、褐茶色の牛の寢てゐるやうな山の半腹に、白く青く塗つた寺院の大尖塔を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

強い短い線で見せて、そこら中に大厦小屋が凍け切つたやうに堅くなつて亂點してゐるが云ふまでもなくこの中に、露西亞的の空氣が動いてゐる。粗雜と大膽とそして又一面、優しい、神經質な露國の人間の作り出した一種の文明がほの見えてゐる。

かゝる寒氣の壓迫を受け、雪と氷とに困められ、山も海も白く鎧はれて光り出し家々の煙突には、暖爐や蒸汽の煙が絶え間なく立上り、人間は熊や犬の毛皮の外套の中に身を縮めて歩いてゐる。斯んな處から、僅か一晝夜半の航海で、暖い南の母國へ着かれるかと思ふと、當時の余は單にそれ丈でも嬉しく感ぜられた。米國の紐育附近の人は、冬が來ると、南の方パインナップルの栽培地として知られてゐるフロリダや、又は太平洋沿岸のカリフホルニヤ地方へ避寒する。北歐の人は、多く伊太利へ旅行する。それを思ふと北歐人の住める浦鹽港から云へば南國、日本は正にアジアの伊太利である。

寶船のいろいろ



太閤秀吉時代文錄の版

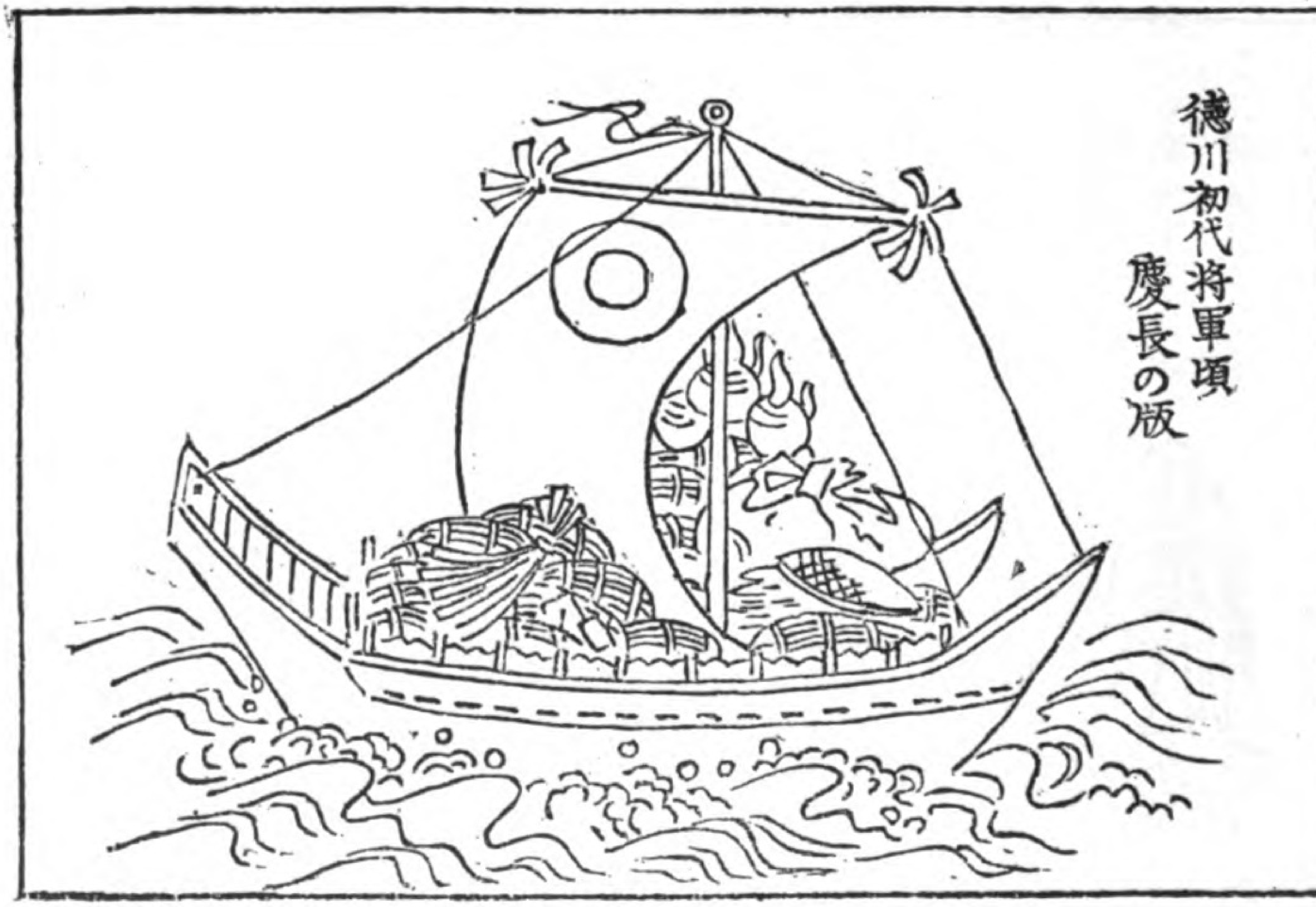
△興味ある浦鹽港

歐羅巴と亞細亞との東西兩洋文明の交渉市といふ點から見ても、この浦鹽港には興味が引かれて來る。元來從前の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

西洋文明は、一度米國の地を通つて、若くは米國人の手を經て日本へ輸入されて來てゐる。從つて、横濱港から約十七晝夜で航海の出來る桑港が、この東西兩洋文明の交渉市となつてゐる。併し桑港から、東部の紐育を經て、英國の倫敦へ行くとなると、これが少くとも更に二週間の時日を要する。然るにサイベリヤ鐵道が出來てからは、倫敦から浦鹽港まで直通列車で、約三週間を費したら到着される。時日の上で半分も係らぬといふ事になつた。この上、サイベリヤ鐵道の復線工事でも出來上れば、更らに一週間

寶船のいろいろ



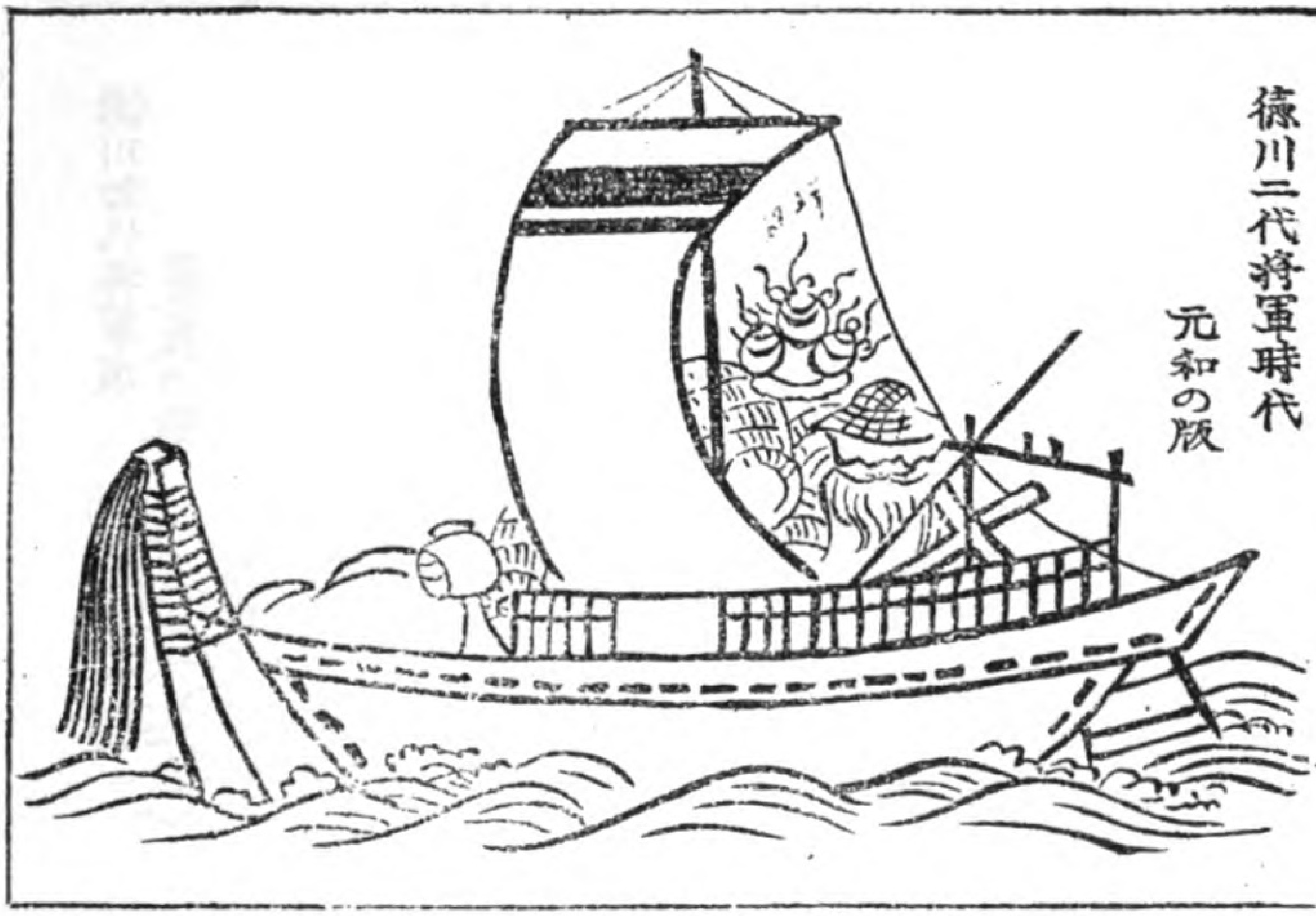
は短縮されるかも知れないすると日本と歐洲との交通は何の仔細もない事になる。暑中休暇を利用して、歐洲へ見學旅行が出來る。イヤ、現に今日でも日本の文部省の御雇外國教師など暑中休暇に歐洲へ歸省するやうな事を頻に行つてゐるらしい。

斯の如く、浦鹽港は將來、ある、東西兩洋の文明を交換する上に大切な意義のある處である。歐羅巴の一方の玄關先である。それに對する日本人の注意の仕方が足らぬ。寧ろ冷淡であるやうなのは遺憾である。素より近頃、露西亞觀光團が一度ならず日本へ來た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事もあるし、日本からは一部の觀光團も行つたやうで、多少、交際の途が開けて來たやうではあるが、一般にはまだ斯ういふ感情が行渡つてゐない。富士登山をして、歐米婦人のアルプス登山の向を張るやうになつた日本の若い婦人諸君は今一歩を進めて、歐羅巴の玄關先を見て來るといふ勇氣を起し、避暑の季節を利用して僅か二晝夜の航海を辛抱する丈の忍耐力があつて欲しい。然すれば月並式の海水浴場などに戀々するよりも多少智見の上から、乃至趣味の上から利益さるゝ事があるかも知れない。

寶船のいろいろ



△亞細亞の玄關

敦賀港

自分の航海したのは、恰も冬の時季なので、船が橫波を喰つて、大分動搖した。殊に乘船前、大分胃を傷めてゐたので、船室へ閉籠つて許りゐた。夏の太平洋や、大西洋を航海して、平氣であつた自分も、僅かこの短航路に弱らされたが、十四日の未明船は早くも敦賀港に着した。懷かしい故國の山を見んと思つて、甲板へ立出たが、まだ日出前で、唯黑い山形がうねつてゐる丈である。星のやうな火の連つてゐるのは港の町だと知

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れたが、船は大分遠距離にある。浦鹽港から乘船した時は、棧橋横附であつたのに、この歐羅巴の玄關先とさし向ひになつてゐる亞細亞の玄關先――日本の表門の一つの敦賀港には、まだそんな設備が出來てゐない。小い艀船で、一里許り、荒い波の中を上下して海岸の棧橋迄運ばれて行かねばならないのである。「旅行が快樂の一つ」であるのは、歐洲の玄關先迄の事である。「旅はういもの辛いもの」といふ諺は、亞細亞の玄關先で再び自分の胸に反應いた。それと同時に日本はいかにも貧乏國であると思つた。

△色の國、世界の田舍

併し、朝霧の中から晴れて出た山々の雪斑々たる翠松に蔽はれて、色の濃い、綠の圓味を持つた、感じの鮮かなのを眼にした時は、唯繪のやうだと思つた。今まで西比利亞道中の雪にまみれた禿山や、赤い丘など許りに慣らされた網膜は、急に新らしい刺戟を受けて、薄い膜が一つ取り去られたやうな氣持がした。日本の人々は實に色の國に住んでゐるのである。色の最も少い冬の季節に於てすら、猶、松、杉、檜、樫その他多くの常綠樹が雪と調和して一種特得の色を出してゐる。北歐の冬の季節は、殆んどこの常綠樹を缺いた、單調一色の寂寞鄕である。樹といふ樹は秋に入ると早くも落葉し去つて、唯枯骨を立てたやうな空林がさびしく雪の中に慄へてゐる許りである。

併し敦賀の波止場に立つた見すぼらしい洋館や、押し附けられたやうに平い日本の二階屋などを眺めた時は、日本は世界の田舍だと思つた。そしてそこに群る日本人の皮膚の黃色なのが殊に目立つた。人力車に乘つた心地も異樣であつた。西洋では荷車にしても馬に牽かせてゐる。人間は唯車臺に乘る丈である。交通機關としては田舍へ行つても馬車か電車かゞ必ずある。人間が人間を牽ゐて行くのは、乳母車位に止まつてゐる。然るに日本では、人間を驅つて牛や馬の如く人間を牽かせてゐる。若くは荷車を牽かせてゐる。人力車に乘つた自分は、自分の身分が一等高くなつたや

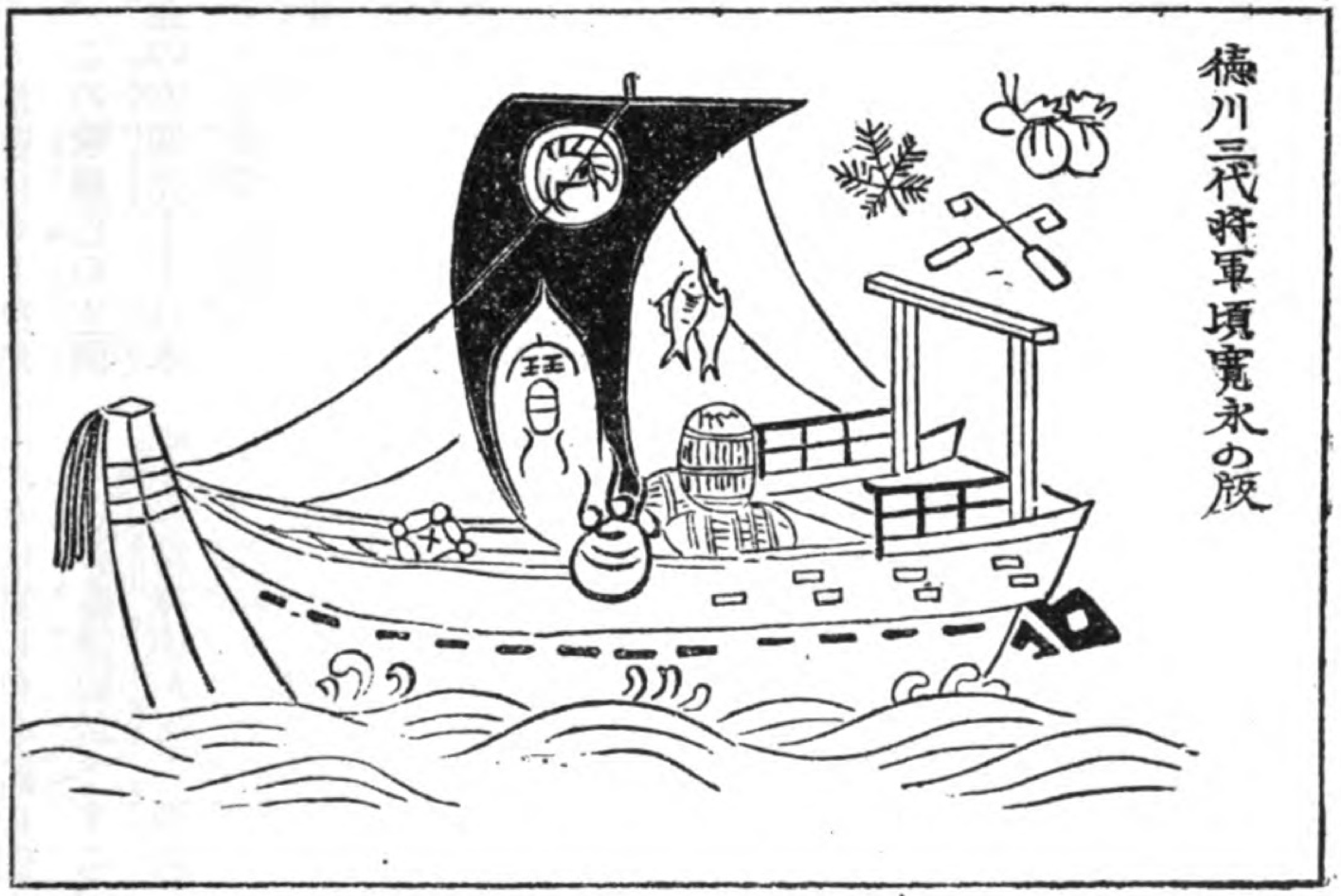
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うには感じないで、寧ろ人間といふ者の價値が一段低くなつたやうに思つた。人力車の賃錢などは幾何拂つてもよいものだと考へもした。何時もこの氣持でゐたら、車夫から假令不法な賃錢を請求されても文句は云はないでゐられやうが、併し日本の社會の經濟的事情が人力車を保存させてゐるのだとすれば、同樣の經濟的事情が矢張不法な賃錢支拂を拒絕せしむる事になるのであらう。

△新らしく映ずる日本の風俗

敦賀の市街の中高な、蒲鉾形の狹い道路の左右を挾んで、雪にまみれた醜い黑瓦の壓し附けたやうに平い、低い家が軒を並べてゐる間を車に乘つて通つた時には、これが日本海の、殆んど唯一の波止場で、歐洲へ交通の玄關先に當つてゐる市街だといふ氣は何うしても起らない裏町通を行くやうな心持が離れないでゐた。道路の上には、袢天を着て、帽子も何も冠らず、露頭のまゝ雪を掃除してゐる人人が多く眼に附いた。紺足袋に高い屐を穿いて、輕業師の如く巧みに歩いてゐる娘等の顏色の黃黑いのが妙に氣になつて、西洋人には斯うした東

寶船のいろいろ



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洋の風俗が好奇心を引くには十分であると思はれた。元來が日本人の自分にまで、一々珍らしく又一々或種の蠻風を帶びてゐるやうに感ぜられたのは事實である。あの雨傘をさして男女が往來してゐるのなども頗る奇妙に見える。此れは素より日本人が木綿物とか、絹物とか濕氣に堪へられぬやうな衣服を常着してゐるから自然とかく油紙で紙鳶を張つたやうな物の需要を生ずる事になつたのである。西洋人の如く羅紗服を用ゐてゐれば、多少の雨や雪は平氣で凌いで行かれる。婦人方は兎に角男子は帽子とカラー一つ濡らす氣なら蝙蝠傘がなくても通されぬ事はないのである。然るに日本でそんな眞似をしたら、體中、ぬれ鼠になつて了ふ。日本人が雨や雪に對して神經質で、用心深くなつてゐるのは、一つはこの衣服の地に其原因がある。

△奇なる紙の家

やがて車は敦賀ホテルに着いた。靴を脫いで靴足袋一つで、板の間の廊下を辿つて行く時何んだかくすぐつたく思ふた。西洋で靴足袋一つで室內を歩いたりするのは甚だ下等な事で、他人に對しては失禮である。苟もホテルと名の附く處でこんな眞似をしたら、忽ち「狂人」と罵られる。同宿の者は早速指彈きしてホテルの主人に對して、退去命令を發する事を餘儀なくせしむる位のものである。然るに日本の諺の所謂「處變れば品變る」で社會道德の標準は動いて來る。西洋から歸つて見ると、氣樂は氣樂である。

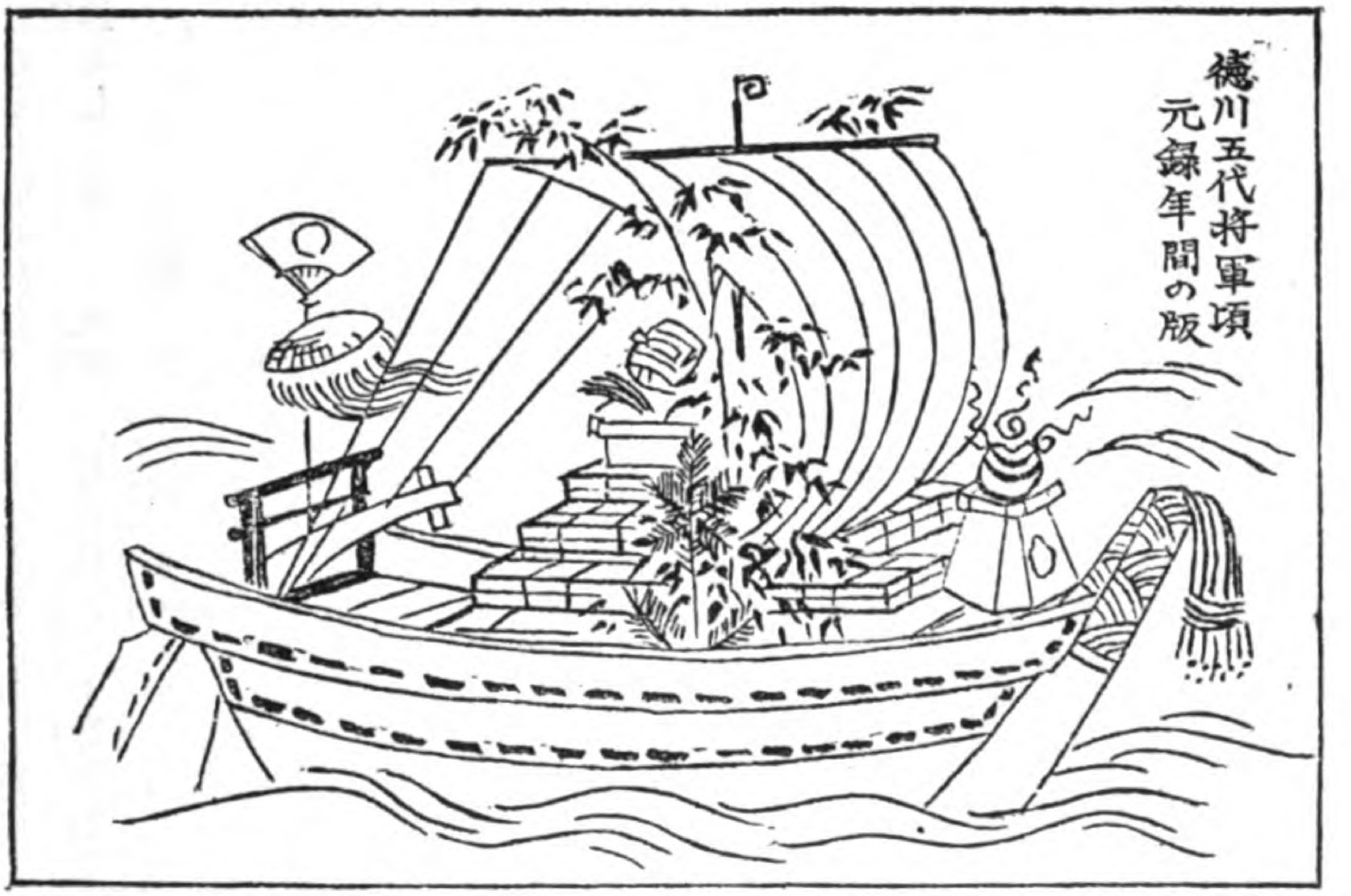
八疊の座敷へ通された。三方が障子で、例の「紙の家」が酷く又奇妙に思はれた。光線は善く通つて坐の隅々まで明る過ぎる程明るい。西洋室の、窓々から外光を導いてゐるのと違つて、紙の全面が日光を吸ひ込んで、直ぐとそれを座敷中に反映するので、氣は暢然とする。併し天井が低くて、手を伸せば屆きさうなのが何うも氣になる。それに疊が冷く足裏に觸る。椅子もなく、卓子もなく、中央に唯低い机が一脚ある。例の床の間には軸物が懸つて、花が活けてある。この風流はバタ臭い西洋では到底見る事の出來ないものである

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と急に里心が附く。

やがて鯛の刺身、さはらか何かの椀盛りが出る。椀盛は西洋のスープに當る、刺身は日本人のビーステッキである。油濃い臭のする西洋の文明と、アッサリした中に味のある日本の文明との對照は、かゝる食物の上にもその一方面を見せてゐるのである。細君の西洋料理修業は日本の家庭の流行のやうに聞いてゐるが、東京邊の專門の西洋料理店の皿の品々が、あまり味覺を喜ばせないやうになつてゐる人々には、矢つ張日本流の御手料理の方が幾倍の御馳走であらう。斯ういふ感想は洋行歸の人々の間に屢繰返される話題の一つである。

寶船のいろいろ



徳川五代將軍頃
元錄年間の版

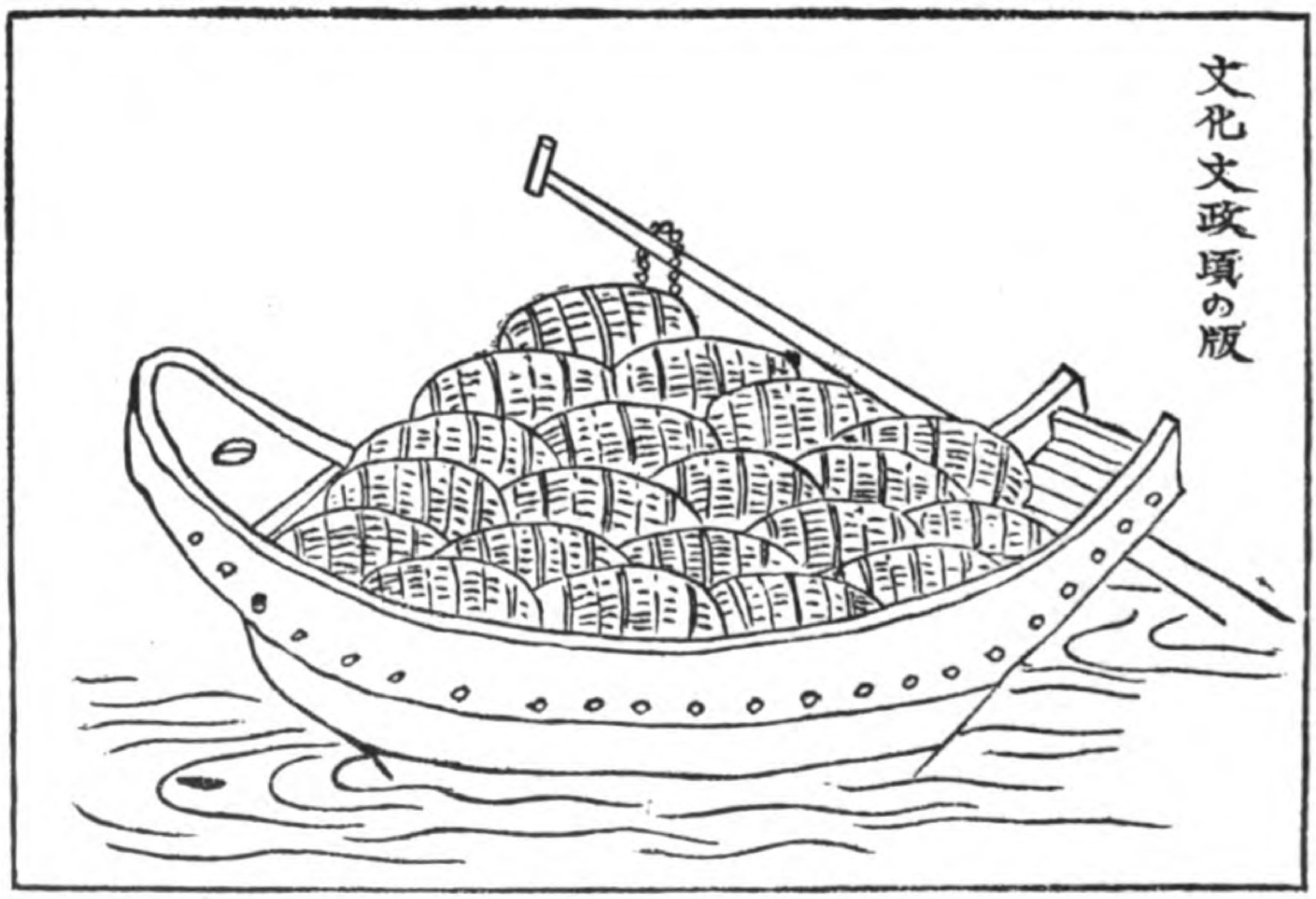
△日本の旅客に驚く

ステーションから汽車に乘つた時にその車室の狹くるしいのが第一に、異樣に感ぜられた。ザイベリヤ鐵道などの汽車には、この車室以外に、一條の廊下が附いて、旅客の散歩道になつてゐる。從つて怠屈すると、そこへ出て煙草を吹かしたり、窓外の景色を眺めたりなどする。日本の狹軌鐵道の車室は、坐つたなり、身動が出來ぬ。その上、旅客の不行儀で無作法なのが淺間敷

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く思はれる。所謂紳士らしい男子はだらしない角袖の上に、二重マントなんどを變な恰好に着て、二人分程の坐を占領して、胡坐などを掻いてゐる。中には安樂椅子の上に寢臥つたやうな氣で、長々と體を伸して、他人の迷惑などは一向考へてゐないのもある。婦人は、下駄を脱いでキチンと揃へて、行儀よく膝を折つて、謹ましく正坐まつてゐるが、何んだか座敷へ招待されたお客さんのやうだ。そうかと思ふと大きな旅行用の信玄袋などを、ワザ／＼座席の上へ上げて、後生大事に、それを片手で抱へて、體を凭

寶船のいろいろ



せかけて、コクリ／＼眠つてゐるのもある。何うも西洋の旅客などに見る、互に他人を尊敬して譲り合つてゐて、チヤンと秩序が附き、規則が立つてゐるといふ風は見られない。かゝる國民がよく日露戰爭をして勝つたものだと、我ながら日本人といふものが一種の迷のやうに思はれた。

△花吹き入れよ
鳰の海

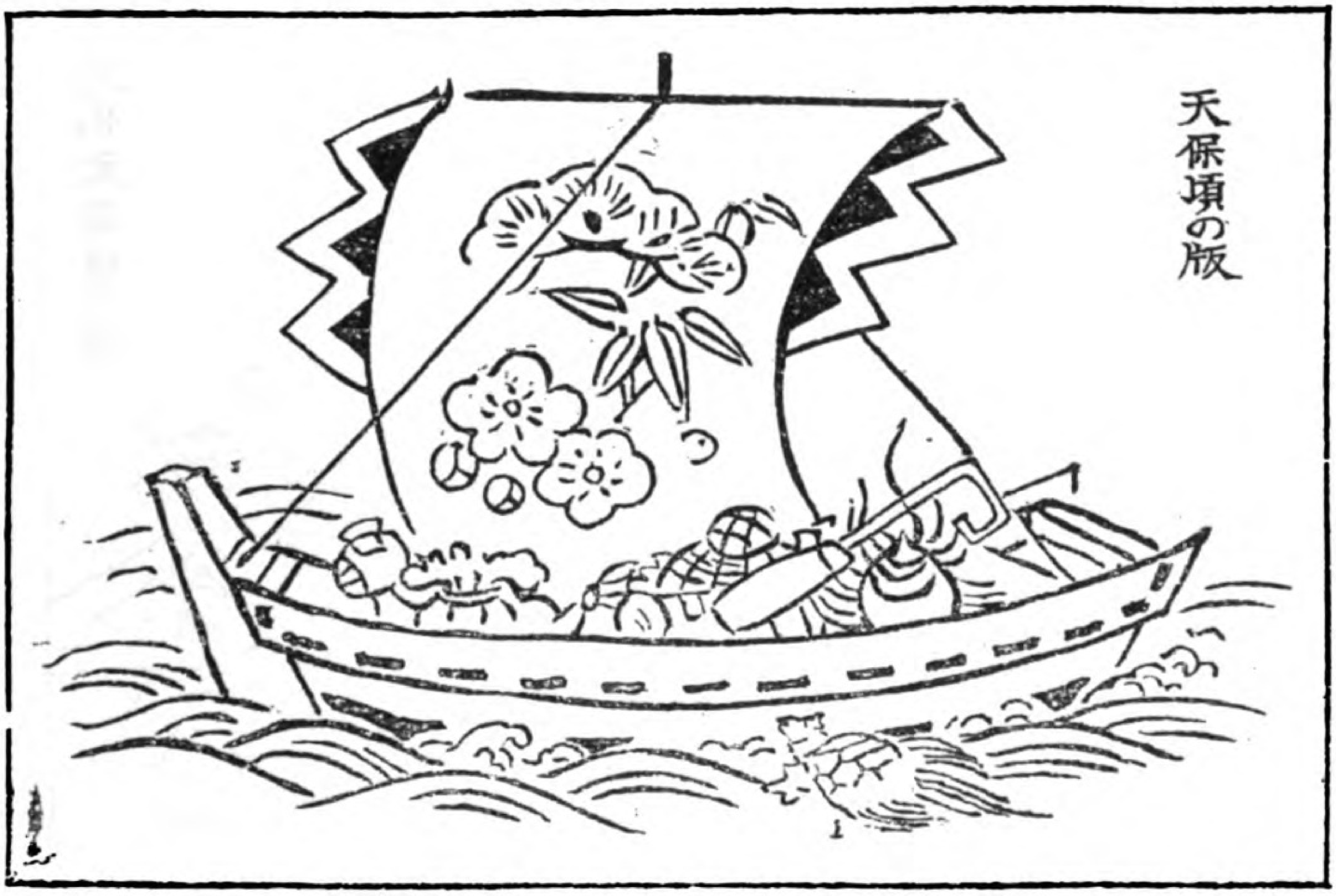
併し、夜中、米原へ來て、鮓辨當を買つて見ると、箸袋の上に「……花吹き入れよ、鳰の海」といふ芭蕉の俳句が印刷してあるのを見た時は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本人の風流氣が此上もなく尊く又難有かつた。世界を旅行しても、斯うした詩的の事をする國民には、未だ嘗て出會せなかつた。あの瑞西のやうな、世界の公園地にすら、詩の一句なり、一聯なりを紙包や袋紙の上に印刷して旅客の詩情を助ける如き工夫は敢て行はれてゐない。それから見ると、汽車中、無遠慮無作法を意としないでゐる日本の旅客の心の底にも、一々この風流氣この詩的の感情が潜んでゐるのであらう。彼等は又愛すべき人々になるかなと思ひ返した。

京都は闇の中の燈火の影に

寶船のいろいろ



透して見て、やがて大阪へ着いた。町幅が意外に狭い。も少し廣かつたやうに思つたが、市區改正で何かしたのか？と出迎ひの友人に聞いて、笑はれて了つた。成る程市區改正で道路を狭くするといふ法は無からう。

それから、日本へ上陸後始めて疊の上へ寢たのだが、臥床の上で脊骨が妙に壓せられる。交々寢返りを打つ。西洋にゐる時せめて寢臺丈は、日本へ歸つても用ゐたい、もう、あの地上同樣の、疊の上へは寢られないなど云つてゐたが、これも日本人の在來の習慣なら仕方がないと思つてさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まざまに寢る工夫してる中、疲れたので、遂に夢に入つて了つた。

それから翌朝になつて便所が大分氣になつたが、併し此れも在來の習慣で、左程でもなかつた。尤も西洋人には、とても我慢のなるものではあるまい。殊に西洋婦人と來ては、神經過敏に出來てゐるから、あの日本の不潔な場處へ入つたら嘔吐して、早々逃げ出すのが通例であらう。前にも云つた事だが日本人は自ら淸潔を誇つて、西洋人は便所へ入つても手を洗はないなど云つてゐるが、それは赤インキを牛の血で製造するなどと云つてゐたと同樣の迷信である。少くとも日本の大都會に丈でも、下水道の完全な設備が行はれて、一日も早く不潔物を海の上か、若くは近郊の畑地の中にでも放散し去るやうな仕掛にしたいものである。

大阪の市街は、伊太利の水の都ヴエニスに比較されてゐる。ヴエニスには、大理石の古い建築が多いといふが、大阪には木造の、古い家屋が軒を並べてゐる。そして相不變、上から壓し附けたやうに平たくなつて地上を匐つてゐる如く見える。市街の幅は前云つたやうに恐ろしく狹くるしいのが目立つてゐる。あまり多く西洋文明の惡感化にかき亂されないで、日本固有の古い都古い市街のモデル、――惡く云へば骨董的の市街といふ俤は現今の大阪に猶歷然と殘つてゐる。それを何となく懷かしく思つて眺めた。

かくて大阪を夜汽車で發し、美濃平原で正午近くの太陽を麗らかに眺めた。靑い繪具を塗つたやうな空の一端をギザ／＼と刻んで、白く雪を戴いた飛驒、近江境の連山を遙に見返つて、アルプス山脈を遠望する氣持がした。見慣れてゐる日本の旅客は、別に注意もしないでゐるらしいが、歐米の一體にノッペラポーな、唯、草と林と丘と、牧場との外に何等見るべきものはない大平野の汽車の旅に飽かされた身には、こゝらの景色は無上に嬉しい。何んだか繪中の人となつてゐるやうな氣がする。日本人は日本の美はしい、變化の多い自然を仇疎かに思つて見過してはならぬ。

こゝらの或小驛の附近で、田の畔を白い布の額當を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

した、十七八の花嫁さんが十七八人の供を連て練つて來るのを見た。いかにも古風で、何んだか古い繪本でも眺めるやうに思つた。西洋の自由結婚が、必ずしも理想的の者ではあるまいが、日本の親の意志、命令で結婚する在來の風習が決して讃美に價するものでない事は云ふまでもない。或友人は、西洋の結婚法は一の賣買である。男子が自分の氣に入つた婦人を買ひ出して來る。併し十圓の金で、十圓丈の實價のある品物の得られないのは商賣上の通則であるから後から大抵不足不滿があるが、日本の結婚法は籤引

寶船のいろいろ



明治十年頃の版

だ。惡いのを引當てたら災難だが、その代り、思ひもかけぬ大當りがある。とこの説にも一理あるが、籤引は賣買より一層危險である。千本の中で九百本か、或は九百九十九本まで白紙である場合が豫想される。女子教育の程度が進んで行けば行く程婦人が「人形」として取扱はれた時代の影は次第に薄くなつて來なければならぬ。田舍の結婚の如きは、唯、斯うして行列を見てゐる丈が面白い。

各地の驛々で、一々名物を車窓に賣りに來るのは、地方色が親しく耳や目や又舌やに訴へられて、旅中の一興である。歐米では見られない風俗なのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

暴漢横行の今日に當つて女子に尤も必要なる護身術

在鎌倉笹目谷
柳生流皆傳　星野愼之輔

記者曰く、星野氏は前明治女學校の教頭、率先して女子に武術教育を唱道したる人なり、少壯の際は體軀の蒲柳なるを憂ひ、新徴組の劍客大島正顯氏に就て柳生流を學び、前後九年の教授を受け免許皆傳を得られたる人なり、現今は鎌倉笹目谷に隱棲して斯道の研究に耽らなり、この護身術の注意は周到にして今日の婦女頗る傾聽すべきものなり。

近頃女子が暴漢の爲めに迫害を受ける新聞種が多く成つたことは人々の知る所である、實際の被害は新聞以上にあるさうで、横須賀あたりにも隨分其噂を聞くし東京市中でも破廉恥漢や不良學生の暴行に秘密の涙を絞る女性が多くある様子ですが、餘り容易く行はるゝ所から自然やつて見る氣にも成るのかとも思はれるがこれは女子の方で護身術を研究せねば成らぬ問題だらうと思ひます。よしや其對抗の術に習熟せぬまでもさる場合の心得は研究せねば成らぬ事だらうと思ひます此事に付ては往年唱道もし研究もした、更に敎へもしたのだから、聊か其考を述べて見やうと思ふ。

▲迫害の手段に於ける今昔の差

警察保護の行屆いて居る今日の女子が昔の女子より容易く迫害を受けると云ふ事實は少し可笑しい次第であるが、暴行者の手段が餘程違つて來たやうに思はれる、晝間でも番町あたりの屋敷町は若い女には物騒だといふことを昔聽いたことがある、又淋い街道で女が攫いで往かれたといふ事も聽たが、何れも二三人の男が手取り足取り攫いで往くのが多い。然るに此節のやり方は町の宵暗などでは一人の爲めに他へ攫ぎ去られる、二人や三人の暴漢の時は隨分交番のある町中だの、賑やかな町續きのちよつと淋しい場所などで暴行に逢ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のである、其やり口を見るに何れも柔道流行の餘弊らしく思ふ、其暴行者は直接柔道を習はぬ者でも其知る者から聽て其手段を工夫したやうに思はれる、昔は町道場でも餘り匹夫下郎は道場に立たないからそんな暴行を行ふ者は先づ少なかつたが、今は職人中の下等な者の伜なども書生の中に交つて居るので自然柔道の門に出入して見覺え聽かぢりにも知るやうに成つたからであらう、いかに女でも死物狂ひに抵抗しては素人の男では町中で人知れず自由に扱ふことは出來ぬものである。

▲敵に對する用意

如此惡漢の技倆が進歩しつゝある今日に當つてはどうしても閑却されてある女子の武術を復興させて自衛の道を與へなければならない、これには差當り柔道を敎へることが必要であらうと思ふ。併し目下行はれて居る柔術は、引繰返つたり擲り出したりする術が多いので婦人には稽古に骨が折れるのみならず實際の場合に餘り役に立たない、女子は人を倒す蠻力は二の次ぎの事で、唯敵の手段に應じて咄嗟の間に危難を免れる術所謂護身術を知つて居れば良のであるから捕方を敎へた方が宜らうと思ふのです。尤も餘り年限のかゝるのも不都合であるし、且當今の敵は大抵一寸柔術の片端を聞嚙つたゞけ位の連中なので、これに對する技術も普通の處で澤山ですから直接必要な技術を簡單に敎へるのが便利だと思います、で私は自分の修めた武術を種々參酌して女子に適當な手を編で見ました。先づこれならば女子の優味を損せずして十分敵に備ふることが出來ると信じ追々指南を始めて見たいと思つて居ますが今の處書道の方で寸暇もないのでその場合に立至らぬのであります。

▲心の敵を倒せ

私は體軀が小さい上に病身でありましたので、大きい強い者に向ふには武術でも習ひ込まなければと考へて新徵組の大島正照といふ先生に就て柳生流を學びま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

した。この師は庄內の人で山岡鐵舟居士なぞと交り深く、棒をよく使ひ捕方の名人であつた。私は前後九年教授をうけて、免許皆傳を得たのでしたが、後鎌倉建長寺の坐禪堂に籠つた際に心の敵を倒せと云ふ武術の眞意が解悟し得られたのです。如何に腕を磨いても敵に對して心を騷がす內は勝を得られぬ。技術の修業と共に膽力を養つて先づ敵の心を倒す腹ごたへがなければならぬ



この腹ごたへがあればかよわき女性と雖も暴漢を征服し得べく、敵を傷けずして威を保つことが出來ると云ふやうな武術の心機作用は禪道と同一徹だと云ふことを悟つたのです。禪に圓環の圖がある、云は初心から段々進んで終りに復初心にかへることで何事でも慾の修業では傲慢の弊が伴ふが道を一周して了ふと何も知らぬ昔の心に返つて「自然」の狀態になることを云つたものです

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

柔術なぞも三年位學んだところで一旦は非常に剛さうな武藝者らしい體格になるが、熟練して來ると却つて優しい姿になるので、例の芝居の暴くれ武士が優形の士にころりと投られる通りなものです。陶淵明が自然に歸ると云つたのもかういふやうな心意に厭意のとれた所を言つたのでせう。それですから女子の武術を教へるにも心理教育を基礎として導いてゆけば却つて優美な天性を發揮し風雪に堪ゆる梅花の薫りを具へるにちがひありません。

▲女子は氣弱き者に非ず

大昔の歷史に徴しても女子は決して氣弱いものでないことが分りますが何時の世よりか男子の奴隷の如くなつて遂に氣の弱いものと相場が定つた。當今同權論とか女子自覺論とかゝ起つて女子の勢力は強くなつて來たやうではあるが、實際を見ると如何して却々氣の毒千萬で無情の良人のために怨を呑で居る女性も多く前に云ふ如き迫害を被むつて居る婦人も少くない。つまり金力と暴力の跋扈に呑まれて居るのです。さらばこれを救ふに金力を與へんかと云ふに女子が金を握ると多く性格を過ち良人を輕ずる等の弊が起りますから女子に氣力を與へて救はなければなりません。それには、學問の力も無論必要であるが、これに伴ふて、具體的の武力を與へ魂を堅固にさせることが必要でせう柔よく剛を制すで魂の確乎した女子に出遇ては腕利の暴漢も膽を挫かれるものです。但し私は婦人に蠻力を與へて男子を壓倒させやうと云ふのではない。つまり卑屈より脫せしめて腹の實した立派なものと爲たいのである。腹の實した女子でなければ今後の社會に處して完全の妻たり母たることは出來ず、腹の實した女子でなければ本當の優し味も出ないのであります。

▲膽力なき婦人は變事を引起す

大きな凶器で殺人犯を行る近頃の强盜なぞも大抵忍び込んだ家に在合す鉈とか棒とかを使ふので自から携ふる凶器は本の威嚇の道具に用ゆる短刀位を懐に藏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して入るやうです。始から殺意あつて來るのは特別の事情ある場合だけで多くは家人が騒ぎ立てるために凶行を演ずるに違ひありません。ところが新聞を見てもその騒ぎ立るのは女が先立て聲を擧るとか、武者振つくとか爲て凶行の火蓋を切らせるやうです。女は元來感情的で前後を忘れてクワッツと逆せ上る。これが大事を引起す基で實に危い。人間はクツツと逆せると腹の力が腦頭に込上つて體



の重量を失ひフラ〳〵となつて了ふ。彼掠奪に遇ふ婦人なぞもこの呼吸で輕々と何處へでもかつぎゆかれて了ふのです。膽力なき婦人は些細の事にも胸をどきりとさせる胸をどき付せて居る内は未だ良が直にハッと取逆せて我を忘れる。況して不時の厄難に出遇ては心氣顛倒して狂ひ廻り自から死地に陷るのですから婦人の膽力養成は忽せに出來ぬと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲膽力も熟練で得られる

怒濤に掀飜される船中に在ては豪傑と呼ばれる人でも避易するのに、船頭等は平地に在と同じく、泰然として業務を執て居るのを見ても膽力は熟練に依つて得られることが分ります。大和魂と云ふものも古來武術を奬勵して膽力を練つた結果でありませう。當今深呼吸の進歩した腹式呼吸と云ふ衛生法が流行して居ますが武術の方でも膽力を養ふ方法として腹式呼吸の加く息を丹田に十分吸込み腹の實質を充たす修業をやるので彼氣合を學ぶ間に不知不識膽を据ゑる熟練が出來るのであります。

▲猛獸に依て膽力を慣した私の實驗

私は明治三十年頃北海道を旅行して道中三大險の一といはれた雷電峠へかゝりましたのは雪の融ける折でありましたが、此邊では熊の難に遇ふ旅客が多いと云ふことを聞て居ましたので、私はこれに對する方法を考へました。素より私は士人のやうに熊を征する術を知らないから憖いに武術を楯にして立向ふたところで到底勝つことは出來ぬ併し彼が人を害するのは飢ゑた時は別として多くは人間が己を害するならんと云ふ僻みから起るのであらう。この僻みを起させぬのには何も武器を持ずに彼に對し、彼の面前に坐禪を組で泰然と顔を眺めてやらうと斯う決心いたし素手で進みましたところが、途中で一人道連が出來た。その男も矢張熊には初めてゞあるが三年許り榊原道場に學んだ技術を以て彼と戰ふつもりだと云つて長い仕込杖を手にして居ました。私は『三年位の覺束ない修業で慣れもせぬ熊狩を試みるのは危險だ。僕はかやうに決心して居る』と覺悟を話しましたところ彼男は熟々聞いて成程と服し共に奥深く進みますと雪中に幾つも大きな足跡を印して今にも巨大な姿が現れさうな光景でありましたが、私は覺悟が極つてから不思議に畏懼の感がなくなつた。この時は遂に熊に遇はずに里へ出ましたけれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ども一旦熊に對する膽力を慣したお蔭に左の如き益を得たのです。

△黒松内で賊難を免る



其後同じ旅で廣漠たる黒松内といふ所へ來た時は一人でしたが、往手の熊笹の蔭から突然三人の男が現はれた。此邊は出稼人の懐をしぼる追剝が出沒する噂を豫て耳にして居たのでてつきりそれだと思ひました。彼等は互に耳語き一人が列を出て私の後へ廻る用意が見えた。私は人を捕ふるには必らず一人後へ廻り挾んでかゝると云ふ定則を知つて居ますから愈々確め得ると同時に彼等の一人が列を離れんとする刹那私は少し足早に突進して三人の中間に肉迫し彼等の顏をジツと眺め廻したのですすると不意に氣先を制された彼等は呆氣に取られ捕手と誤解したのかスタ〳〵逃げ出した。かやうな際に此方が逃足になると必らず彼等が追ふに違ひないから私は高聲に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

詩吟し乍らわざと優々と歩いて木の根に腰を掛け一先づ動靜を見て居ましたが一向來る氣合が無いので數町歩いて旅店に憩ふて居ますと、勞働者の妻らしいのが髮を振亂し色青ざめてせい〱驅込んで參り、今三人の追剝に出遇ひ十五圓程の稼ぎ溜を奪はれ、やつと辱しめの虎口を免れて來たと話しましたので、前の三人が確かにそれであつたことを知りました。私は假令彼等が武器を持つて居てもぴつたり肉迫すれば柔術を以て防ぎ得る自信はあつたのですが、畢竟態より得た膽力が直ちに此處に應用されて平然と彼等を制し得たのであります。

△怪俄を免れる

柔術の素養あるものは高い處から落ちたり道に蹉いた場合なぞに怪俄を爲ないのは事實です、普通の人はかやうな場合に大變だと思つてハツとすると同時に、怪俄を爲まいとあせる爲に強く物に衝突して怪俄をするので、例令ば道端で足駄を踏返しても心得ある者は踏返したまゝに任せて脚を曲るやうにし少しも逆はないから怪俄をしない。泥醉者や子供がよく躓く割に怪俄の少いのもつまりこの加減でありますが、普通の人は倒れまいと力を籠抵抗して逆にするから求めて怪俄をするので、私は武術を學んだ爲に怪俄を免れた經驗を幾つも持つて居ますが其一をお話すれば、未だ若年の頃久松町の劇場から出火したことがあつたが嘗て母が勤めて居た久松邸が危いと云ふので驅付て見ますと丁度物見櫓に火が移りかけたところでした。母から呉呉も頼まれた私は身を捨て防がうと決心して奥御殿から驅上り家根傳ひに櫓へ出で必死となつて漸く火は消止ましたがあふりが強くつて元來し道から下りることが出來ない。家屋は急勾配の上に下からは消防夫が私に應援するポンプの筒先を揃へ雨の如く注ぎかけるので苔蒸した瓦が一層づる〱と滑り殆ど足の止途にも困る位でしたが、焔の反射で白晝の如き中で四つ這になるのも下の群衆の手前殘念だと、こんな場合に江戸ツ子の意地を出し直立して歩き始めたが、忽ち足を踏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

辷らして芳流閣の犬士もどきをやつた。消防夫等はソレと云てバラ〳〵と驅付たが私はチャンと地面に突立つただけで何事もなかつた。併しきまりが惡いから群集の中へ影を隱して了つたので今の若者は何處に死で居るだらうと大騷やつて探して居たのは滑稽でありました。高樓から墜ちて地面に立つたのは、吾ながら不思議でしたが足を踏辷らした刹那に自分から飛下やうと思つたことは確かに覺えて居ます。この自から飛下やうと思つたのが熟練のお蔭でこれが爲に怪俄を免れのであります。

△如斯例は女子にもあつた

明治女學校で私が五年ばかり武術を敎へた某女子は或宵厠へ行かうとしてランプを持ち寄宿舍の二階を下りる際誤つて二段目から落ちた物音に驚いて驅付た女學生等は其女子が火も消えぬランプを持つたまゝ眞直に立て平氣な顏を爲て居るのに再び驚いたのでありました。これも矢張私が墜た時の氣合を同じく咄嗟の間に平生の修養が活用されたのであります。

△虚心に辱を免れた女子

又一人の女生は五年も修業した後だが處女時代に左の如きことがあつた。其女生は嘗て鄕里南部に歸省して再び上京する時、其停車場で汽車を待合して居ますと一人の破落漢が入つて來て停車場に居る女客達に無禮の振舞を始めましたので、女客は右往左往に逃げました。その時に女生は何事かと思つてぼんやり立て居るとヤア彼處にも若い女が居ると喚いてどつと馳せ參り大手を擴げていきなり前から抱付かうとした途端にこの男はズトンと投付られてプラットホームに腹這た。南部は武を尙ぶ處ですから今の腕利は何處の娘だと云つて多勢寄て來るので女生は赤面して急いで車內に隱れて了つたのです。此女生は此危急の場合に柔術を實行爲やうと思つたわけではなく無意氣に體をかはしたばかりで、相手が倒れた時氣がついて自分も驚いた位のものでした。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

矢張明治女學校で武術を三年ばかり學んだ生徒だが鑛山に居る兄に屆ける爲に單身急用の金を懷ろにして車で急行した事がありました。車夫はかよわき少女と侮り、欺いて何か奪はうと考へ淋しい山間に轅棒を下して、この先は晝でも強盗が出るから私には曳けませんと云つて嚇しましたが、金をやるから先方まで連れて往てくれと言出すだらうと思つたのに案に相違して、「お前が嚇して出させやうとする私の懷金は本の僅かなものだが兄の許まで往けば相當の酒手を上られるが併し本當に怖くつて曳れぬと云ふのなら私は此處で下りて了はう。強盗位が怖くつて女獨りでこの山旅が出來るものか、此處までの賃錢をやるから勝手に歸るが良い」と云つて賃金を投り出しサッサと歩き出しました。惡車夫は言々句々、落つき拂つた少女の樣子に呑れて氣味惡くなり約束の處まで乘せて酒手でも貰つた方がましと諦めて遂に大人しく伴を爲たのですが、この少女の膽力も確かに技術から養はれたのである。

私は女子の德育を奬勵すると同時に一方武育を注入して女子の膽を養ひたいのであります。德育の理窟は頭腦に入て居ても事に臨むと感情に驅られて思慮を失ふのが女子の通弊ですから武育を以て志想を堅固にし逆せ上る性を抑へなければなりません。武術を學べば迫害を免れるの用意となるばかりでなく家庭に於る百般の用務にその精神を活用して良妻の責任を盡すことが出來、育兒に應用して母の威嚴を保ち得るのです。特に男兒を敎育する婦人はその必要を感ずるでせう。

武術と云ひ柔術と云へば荒々しく野蠻的に聞えるのですがその指南法は秩序を重んじ禮儀を貴び高尚優美なところがあるものです。特に女子の武藝は進退の姿勢が舞の如く頗ぶる美術的であります。武術を學ぶために角張つた態度をするものは未だ踊るといふ程度で技術が進むに從ひ圓滿流暢な舞に達するのです。私は女子に先づ薙刀を少し敎へて姿勢を整へ、桙を敎へて氣合を悟らせ、而して柔術を授けたら宜からうと考へて居ますが、畢竟敵に咽喉をしめられた時はどうして外す、前後から掛られた時はどうして身をかはすと云ふ風に各種の避難法を練習させる間に武に關する心理を說明して大和魂を吹込んだら健全な女子を作り得られやうと思ふのです。

迚もかういふやうな話は一夕の座談で盡されるものでありませぬから、此位にして置きます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

手輕に出來る子供の洋服

職業專門女子共立會　松江美佐子

◎女子用角ヨークドレス



第一出來上り圖



第二出來上り圖



第三出來上り圖

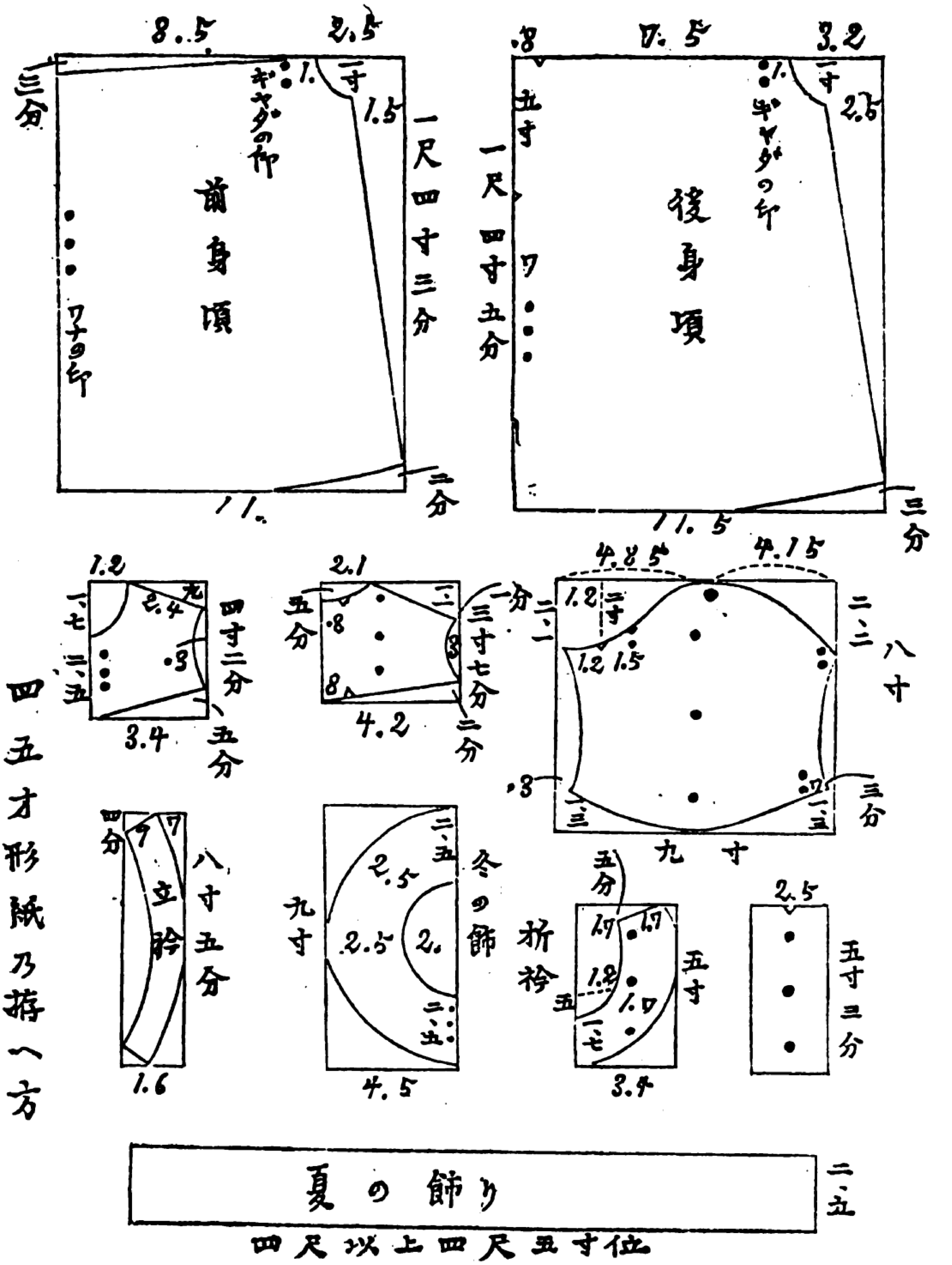
此形は仕立方の至つて簡單なばかりでなく、肩の飾りの付け方一つで色々の形に見せる事が出來ます、年齢は上着としては當歳から六七歳位が適當ですが第一出來上り圖のやうに、上張りとする場合には、十歳位までも用ひてようございます尚三歳位までは男兒に着せても宜しいのです地質は冬の上着としては、ネル、セル、カシミヤ、薄ラシヤ等、夏着及び上張りとしては絹寒冷紗、麻、更紗類が適當でせう。

肩の飾りは、夏物即ち地質の薄いものでする場合には、第二圖の通り眞直の切れに、レースを付けて、此れにギヤダを取り、四角にでも丸くにでも、或は三角にでも、好み通りの形に付けます、又冬は總て、厚地を用ひますから飾りにギヤダを取る事は面白くありません、此の場合には、第三圖のやうに、切れを適宜の形にくり抜いて用ふる方が宜しいです其の時は、飾りの上に、宛てレースをつけます

尚幼兒の平常着又は上張りとする場合には、立衿や肩の飾りは用ひず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四五才形紙乃拵へ方



に只第一圖のやうな、折衿を付けて置く方がよし、用布は四五歳兒の爲めに二尺巾五尺位、尤も飾りによつて、多少の違ひがあります、尚二歳について三寸位づゝ加減します

◎形紙の・拵へ方

形紙を拵へるには、左の記號に、御注意を乞ふ

一●●● 此の遠く三ツある印は地の目たての印

一●●●

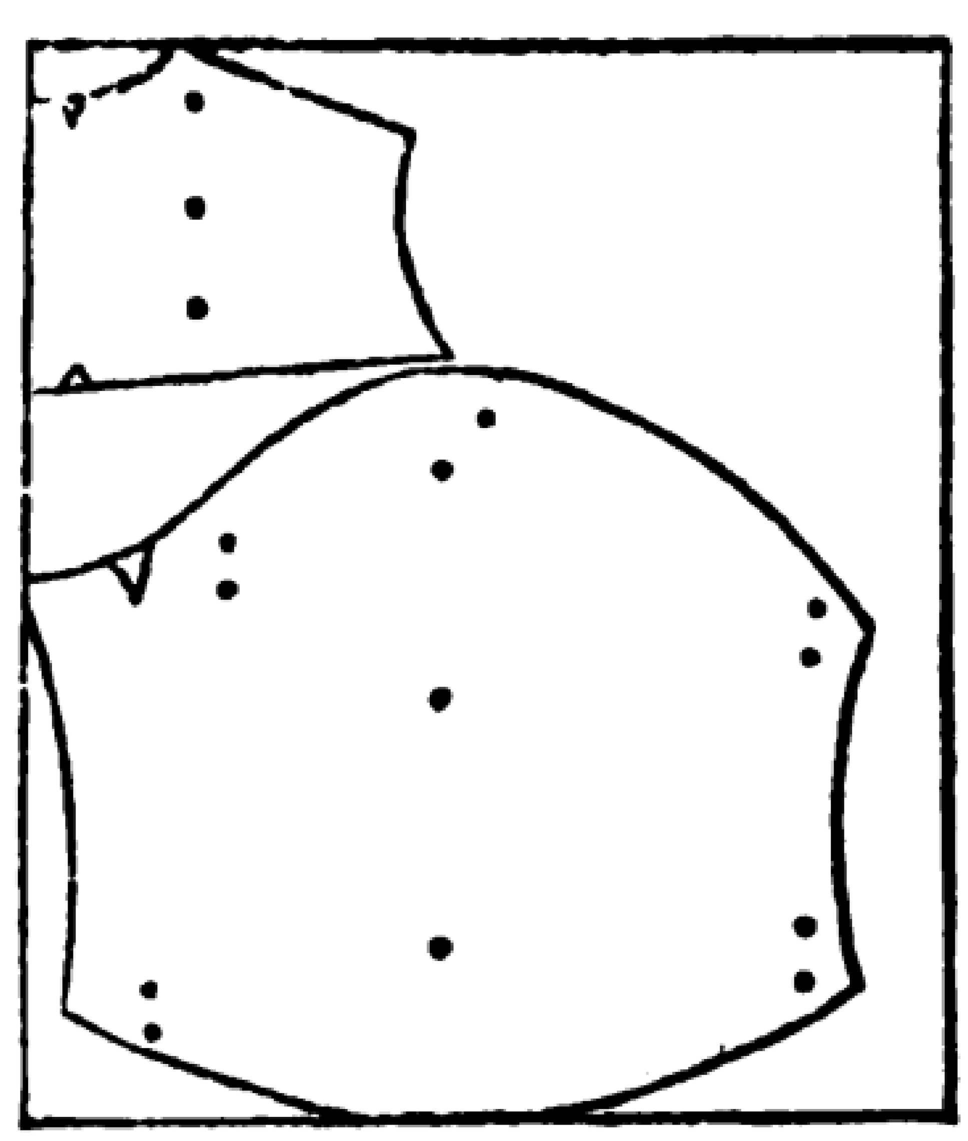
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一 ●● 近く三ツあるのは、アナの印
一 ● かやうに二ツ穴のあるのはギヤダの印
一 ● 一ツあるのは、山の印
一 V 切り込みは合印です

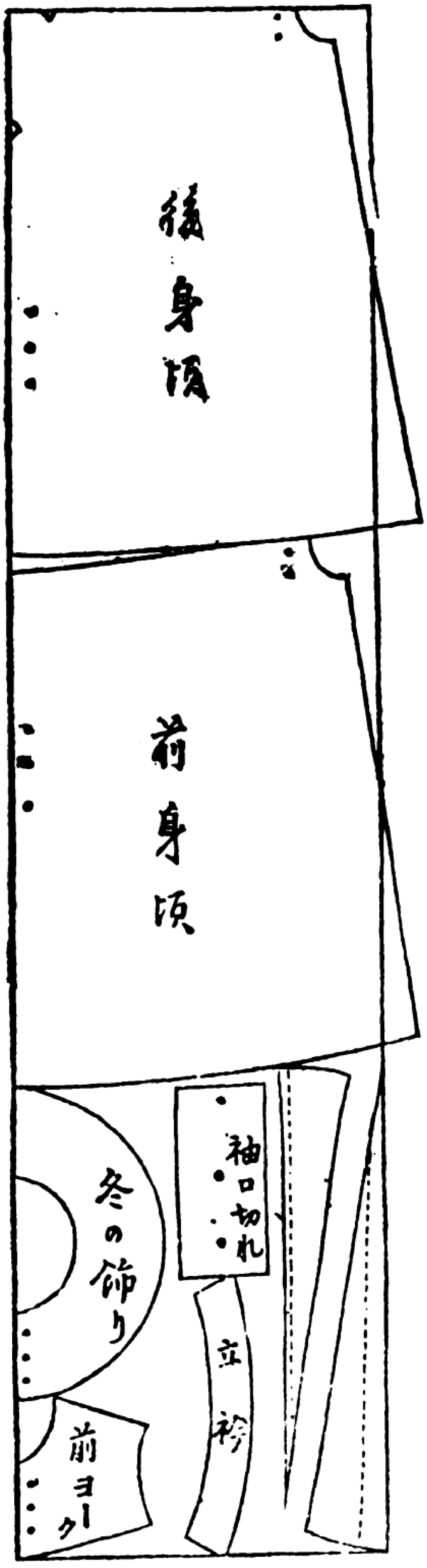
右印の内、第一と第二、即ち地の目縦の印と、アナの印は、切れを裁つ時に入用な印で他の印即ちギヤダヒダ合印等は、縫ふ爲めに必要な印です、解りましたなら、形紙の拵へ方にかゝります、上圖は四五歳兒のための寸法にしてあります、先づ寸法通りの四角な紙を十枚、拵へ、所々を圖く或は針などに穢たぬ内に、地の目たての印、及びアナの印を記して置く、夫れより各所の形ち、寸法通りに拵へるのですが、總て、圖味なつける所は、圖に倣ふて無理のないやうに自然に致します

かくして形紙が出來上りましたなら、縫方に必要な印、即ち、袖にギヤダの印、山の印、前後身頃にギヤダの印、後身頃の切りあける印、後ヨークの切込み等を落ちのないやうに、總て穴をあけて置きます。

◎切地に形紙を宛てゝ裁つ心得



一 左の通り、二尺幅の切れを縦に二つ折りとして、其のアナの方へ先づ前後身頃、前ヨーク及び飾りの折紙のアナの印ある所を宛て、身頃の幅の足らぬは、後で足す事として、何



幅二尺、丈五尺の切れ地を以て、四五歳女兒角ヨークドレス、冬飾り付の裁ち方、尚冬飾りは表と同色の毛繻子類で裁ちます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れも形紙通り正しく裁ちます、但し夏ならば、此の冬の飾りの代りに形紙にある眞直の切れを取り、上張りならば同じく此の飾り及び立衿の代りに形紙の中に折衿を裁ちます、夫れより袖及び後ヨークの地の目縦の印に注意して切れ地の眞直な所に宛て針を打つて正しく裁ちます、夫れより、袖口切れ、衿等を裁ち、殘り切れで前後身頃の足し切れを取ります、此れは、はぐ縫代の爲めに、形紙より四分廣いものを裁ちます。

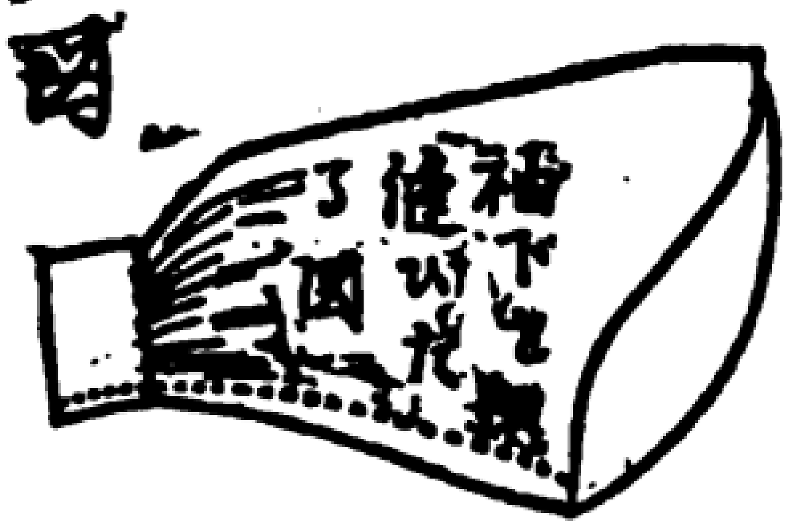
◎縫方順序

先づ第一に、袖の袖口の方に印から印までギャザ縫ひをなし、此れを袖口切れのたけだけにちゞめて、縫合し、折りは袖口の方に向けて第一圖の通り飾ミシンをかけ、次に第二圖の通り袖下から袖口切れまで續けて縫ふ事、夫れより袖口切れを中から裏へ折つてまつりつけます夫れより身頃にかゝる事、これは、先づ前後身頃の上部に印から印まで、但し後は見返しの切込まで、ギャザ縫ひをなし何れも袖口と同樣、前は前ヨーク後は後ヨークに合してちゞめる事即ち第三圖及び第四圖の通り。夫れよりこれを縫合しヨークの方に折りを向けて表から飾ミシンをかけ、次に後に見返しをつけますこれは、先づ上前の方を切込の印、即ち八分の處から裏へ折つて、其の先を淺く折り表へなるべく目立たぬやうに針目を出してまつりつけます、夫れより下前の方に幅八分の見返し切れをつけミシンをかけたる後上下前を正しく重ねて下部を正しくとめて置きます、即ち第五圖の通り夫れより前後身頃の肩を合して縫ひ薄地ならば袋縫ひになし厚地ならば二度縫ひになし次に、衿をつけます、これは立衿ならば、裏表共上の方即ち短かき方を合して縫ひ、折りは表の方に向けて飾ミシンをかけ、次に表一枚を持ちてヨークに縫ひつけ、折りは

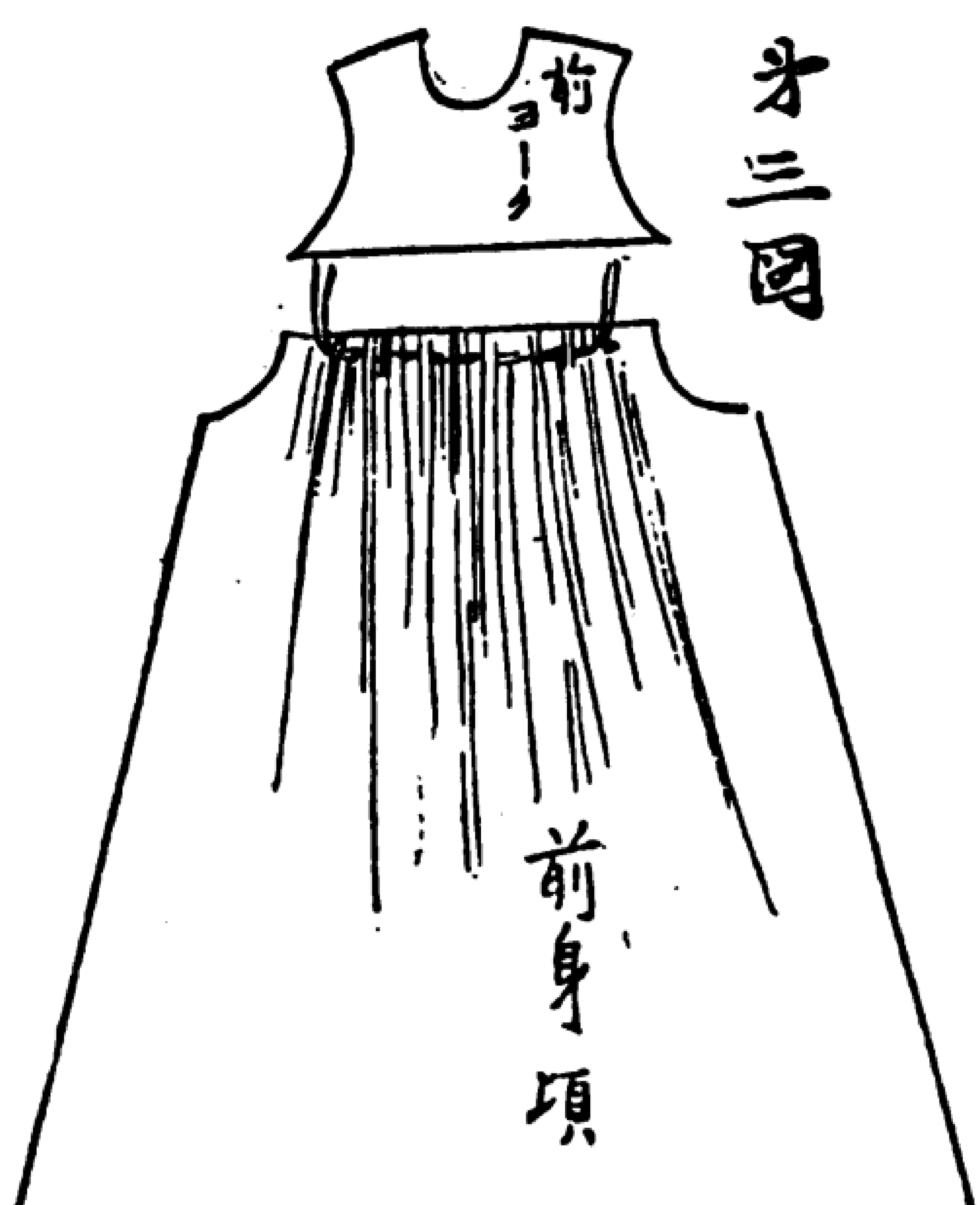
才一図



才二図



才三図



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



第四図

衿の方に向け表から飾りミシンをかけます

夫より衿裏は兩端及び下部を正しくまつり込つける事又折衿をつける場合には折衿のぐるりを淺く折つてレースにギヤザを取つて縫ひ付け、次に前は前ヨークのまん中でつき合せになし後は、上前はヨークの端まで、下前は見返しまでくるやうになし、假にとぢつけ、別に、幅六分位の斜目切れを拵らへ此れを折衿と一緒に縫付けます、但し身返しは下前も端までつける夫れより、折りはヨークの方に折り、見返しを放して折衿の下で此縫代の押へミシンをかけます、次に見返しを裏へ折つてヨークにまつりつけます次に、肩の飾りをつける場合には、先づ冬物ならば、飾りの裏表を合して外側をぐるりと縫ひ、表へ返して正しく飾ミシンをかけ、内側にはしつけをかけて、凡そ衿廻りから、一寸三四分下つた處へ恰好よく縫ひ付けます、但しこれを付ける時に、縫代は見えぬやうに、逆にしてつけます。又夏の飾りは一方へレースをつけ（レースは飾り丈の一倍半を用意しこれを飾りの丈だけにちゞめて用ふ）次に兩端を三つ折りになし、一方にギヤザ縫ひをなしてヨークの適宜の處に縫ひつけます、夫れより脇を袋縫ひ又は二度縫ひになし、袖をつけます、袖は印から印までギヤザ縫ひをなしわきぐりだけにちゞめ山の印と、身頃の脊の縫目と合し。袖の切込の印と身頃の脇と縫目と合し。つまり、袖下の縫目が一寸程前へまはるやうにして縫ひ付けます、尙叮嚀にすれば此縫代は幅七分位の斜切れで包みます最後に裾の平ぐけを致します此れは前



第五図

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

後共等しく二寸五分以上裾へ折り込むのですが、猫背の子供と、下腹の出た子供とは前後の丈が餘程違つて參ります、から假りに裾を折つて着せて見た上で前を多くとか、後を多くとか、適宜に平ぐけを致します、尙洋服の着丈は凡て膝頭より一寸下位までが普通で、それより長く召しては甚だ可笑しく見えます。後は衿にホックを二つローク〔ク〕に二つゝけ、下前に來て貫ぬき止めのホックかけを致します

◎注　意

右の通り記して置きましたが、若しお解りにくい所があればお答へも致します尙本號記載の年齡と違つたお子の爲に、形紙の御入用な方は、郵稅共一組十七錢でお頒け致します。

又縫方の十分お解りにならぬ方の爲には切れで製した縫上りの雛形をお頒け致します、郵稅共二十二錢、尙此の場合には、第一、第二、第三、出來上り圖の内何れかお申込み下さい、宛名は東京市本鄕區追分町三十一女子共立會宛

新刊紹介

△イエスキリスト　佐野天聲著

本書は、イエスキリスト一代の傳記を小說體に記述したるものにて、序文にいへる如くつとめて匠氣と洋臭とを去り、和臭と、想像と、興味とを按排して書きつゞりたり、但し奇蹟については科學的解釋を取り不思議を否定するつもりなりしも福音書の眞面目の努力と信仰とを破壞するを恐れて、恰も名著の梗槪を紹介する如くに記述したりとあり、兎に角通俗的小說體の基督傳と見ればよし信者にありては家庭の讀物とすべく、未信者も興味深き讀物として基督の人格を知るべし又卷頭に挿入したる繪畫數十種は耶蘇一代の經歷を徵すべき名畫を集めたるものにて本文と對照して趣味更に深し。(價一圓五十錢金尾文淵堂發行)

△運命開拓秘密之鍵　兒玉修治著

著者獨得の見解を以て人生を解釋し、兼て人類に慰安を與へんとして著はされたるものにして、內容は、人生と運命開拓の秘訣、幸と不幸の分岐點、境遇の順逆に處する法等二十數項を收む。(定價五拾錢麴町山巣堂書房發行)

△明治女子用文（第一卷）　東京實用女學校編

本書は十卷にて完結するものゝ由にて、每卷書翰文、記事文を混載せるポケット用小册子なり、本篇には作文槪說、慶賀文、問答文、雜作等を收む。(定價金十五錢神田開國社發行)

△レモンの花　國枝史郞著

死に行く人魚、その日のために、の二篇の脚本を收め、尙ほ新詩孤獨の巣篇、君代さんの二篇を添ふ。(定價金四十錢神田東京堂發行)

△夢二畫集秋の卷　竹久夢二著

春の卷、花の卷、夏の卷等孰れも頗る好評なりしが、本篇はさびのある畫の多きところに又一種の妙味あり。(定價金五十錢洛陽堂發行)

△家庭小說樂天小屋　松居松葉著

この小說一たび出づるや米國八十萬の家庭が悲哀より救はれしといふ評判の小說なり、窮民に同情の淚をそゝげるゆかしき物語なり。(價四十錢本館發行)

△實物教育飛行器物語　流星著　夢二畫

近頃流行の飛行氣に就て一通りの智識を少年少女によく理解せしむる樣物語風に記載したものなり。(價二十八錢麴町洛陽堂)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界 定期增刊

光榮ある人生の春

希望に耀く青春婦人のユートピヤ

一月十五日發行

光榮ある人生の春、一生一度の青春期、再び遭ひ難き人生の春、彼女の容貌は月のごとく、彼女の風姿は花のごとし、人生の花ざかりは容易に來らずして而かも又去り易し、我等は今此の得難き人生の春に遭ふて衷心の歡喜禁ずること能はず、即ち筆を執つて我が人生の春を草す。

目次概要

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

募集（一月八日〆切）

●特別寄書

（主として人事、人情の委曲を寫し、又時の社會百般の事柄を捉へ、時勢の變化を知るに足るべきもの△紙數は原稿紙十枚以内の事）

〔報酬＝五圓以上拾圓迄、現金贈呈〕

▲美文（二十字詰十五行以内）

▲いろ〳〵の實驗（十五行以内）

▲和歌（一人一首）

▲俳句（一人一句）

▲誌友倶樂部

△美文、と實驗は用紙は半紙の事△和歌、俳句、倶樂部は端書に限る、△字體は楷書にて正しく書く事、不分明の字又は亂れたる書體は沒書とす△名宛は博文館内女學世界行とし△原稿に文の種類及び住所氏名を明記する事

賞品

△美文
天賞壹圓、地賞七拾錢、人賞五拾錢

△和歌△俳句
天賞壹圓、地賞五拾錢、人賞參拾錢

△いろ〳〵の實驗（賞壹圓以下）

毎月一回一日發行

定價表

一册（紙數二百八頁）…金二十錢
四册（三ヶ月分）……前金七十五錢
八册（半ヶ年分）……前金一圓四十五錢
十六册（一ヶ年分）……前金二圓八十錢
內（定刊數……十二册 增刊四回、一、五、九、十一月價格同一）

郵稅 一册 二錢

廣告料

廿四字詰	特等	一等	二等	三等
一行	……	……	……	五十錢
四半頁	……	……	十圓	七圓五十錢
半頁（卅二行）	……	廿三圓	十九圓	十四圓
一頁（六十四行）	五十五圓	四十五圓	三十八圓	二十八圓

▲等級の位置〆切日等御照會次第御報可致候

註文略規

●本館發行の圖書は都て前金の外送本せず
●御拂込の前金相切れ候節は送本を停止す
●郵券代用は一割增にて五厘一錢の切手に限る
●總目錄御入用の方は二錢券相添申込あれ

不許複製

明治四十三年十二月十八日印刷納本　第拾壹卷第壹號

編輯兼發行人　松原岩五郎
印刷人　山田英二
印刷所　博文館印刷所（東京市小石川區久堅町百八番地）

發行所　東京日本橋區本町三丁目　博文館

電話　三百三番
　　　千十八番
本局　二千六百二十番
　　　三千二百二十九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

博文館出版

圖書抜萃目錄

（目次）

新年御進物用恰好の圖書種々取揃有之候

御註文規定摘要

△御注文は前金たるべし、又郵券代用は必ず一割増の事
△御送金は振替貯金最も御便利に候、金高壹圓以下は手數料貳錢相添へ共に御拂込被下度候
△書狀宛名は「東京日本橋區本町三丁目博文館小賣係」の事
△一時に金五圓以上の御注文には正價一割引の館友證を呈す

製本符號

● 洋裝並製符
◉ 洋裝上製符
△ 和裝並製符
△ 和裝上製符
▲菊判（縱七寸五分橫五寸（大判））
▲四六判（縱六寸橫四寸二分（中判））
▲小判（菊判又は四六判の半截也）



△**御進物用圖書切手** 優美なる函入とし三百五十餘頁の本館總目錄を添へ申候金高は壹圓以上何程にても御隨意に調進可仕候、地方は送料雜費拾錢申受け候
（圖書の御引替は全國賣捌店共通に有之候）

△**圖書陳列所** 電車なれば、本町角にて御下車、東の方三層の洋館目當に御運び被下度候。

△**圖書總目錄** 總目錄御入用の方は往復葉書を以て御申込被下度候へば御送り可申候。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四

博文館發行

太陽

每月一回一日發行▲外に增刊年四回(定價同一)▲大判(四六判二倍大)本文二百五十六頁▲光澤紙寫眞版四頁▲同二色刷二枚▲普通寫眞口繪十二枚▲本文中寫眞版數十個挿入

正價(◎壹册參拾錢 ▲郵稅參錢) 前金(郵稅共)(●四册金壹圓廿七錢●八册金貳圓四拾四錢●十六册金四圓六拾八錢)

日曜畫報

每月一回日曜日發行▲太陽二倍判(四六判四倍大)總紙數二十八頁▲石版彩色刷表紙▲本文中寫眞版及彩色刷繪畫數多挿入

正價(◎壹册拾錢 ▲郵稅壹錢) 前金(郵稅共)(●十册壹圓●二十册壹圓九拾錢●三十册貳圓七拾六錢●五十册四圓四拾錢)

實業倶樂部

每月一回一日發行▲外增刊年二回▲菊判本文百六十頁▲光澤紙寫眞版四頁▲普通寫眞版二枚

正價(◎壹册拾五錢 ▲郵稅壹錢半) 前金(郵稅共)(●四册金六拾三錢●七册金壹圓〇七錢●十四册金貳圓〇五錢)

實業少年

每月一回一日發行▲外增刊年二回▲太陽判(四六判二倍大)本文七十二頁▲光澤紙寫眞版四頁

正價(◎壹册拾錢 ▲郵稅壹錢) 前金(郵稅共)(●四册金四拾貳錢●七册金七拾錢●十四册金壹圓參拾六錢)

農業世界

每月一回十日發行▲外增刊年四回▲菊判本文二百四十頁▲原色寫眞版一枚▲石版彩色畫一枚▲光澤寫眞版四頁▲普通寫眞二枚

正價(◎壹册貳拾錢 ▲郵稅貳錢) 前金(郵稅共)(●四册金八拾三錢●八册壹圓六拾壹錢●十六册金參圓貳錢)

文藝倶樂部

每月一回一日發行▲外增刊年四回▲菊判本文三百二十頁▲木版錦繪一枚▲原色寫眞版一枚▲光澤寫眞版二色刷二頁▲同光澤紙刷八頁▲普通寫眞四枚

正價(◎壹册廿五錢 ▲郵稅貳錢半) 前金(郵稅共)(●四册金壹圓〇五錢●八册金貳圓●十六册金參圓九拾錢)

冒險世界

每月一回五日發行▲外增刊年四回▲太陽判(四六判二倍大)本文百二十八頁内彩色刷繪畫數多入▲二倍大石版彩色口繪一枚▲寫眞版口繪二枚

正價(◎壹册拾五錢 ▲郵稅壹錢半) 前金(郵稅共)(●四册金六拾二錢●八册金壹圓貳拾錢●十六册金貳圓參拾四錢)

女學世界

每月一回一日發行▲外增刊年四回▲菊判本文二百八頁▲原色寫眞版一枚▲石版極彩色畫二枚▲習畫帖二頁▲光澤紙寫眞版四頁▲普通寫眞版四枚

正價(◎壹册貳拾錢 ▲郵稅貳錢) 前金(郵稅共)(●四册金八拾參錢●八册金壹圓六拾壹錢●十六册金參圓拾貳錢)

中學世界

每月一回十日發行▲外增刊年四回▲菊判本文二百八頁▲原色寫眞版一枚▲水彩畫二枚▲色鉛筆畫一枚▲ペン畫一頁▲鉛筆畫一頁▲光澤寫眞版二頁▲普通寫眞版四枚

正價(◎壹册貳拾錢 ▲郵稅貳錢) 前金(郵稅共)(●四册金八拾參錢●八册金壹圓六拾壹錢●拾六册金參圓拾貳錢)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十四年

十八大雜誌

少年世界

毎月一回一日發行▲外增刊年四回▲菊判本文百二十八頁（內十六頁着色二度刷）▲原色寫眞版一枚▲極彩色石版畫一枚▲光澤寫眞版四頁

正價（◎壹冊拾錢 ▲郵稅壹錢半）前金（郵稅共）●四冊金四拾四錢●八冊金八拾五錢●拾六冊金壹圓六拾四錢

少女世界

毎月一回一日發行▲外增刊年四回▲菊判本文百二十八頁（內十六頁着色二度刷）▲原色寫眞版一枚▲極彩色石版畫一枚▲光澤紙寫眞版四頁

正價（◎壹冊拾錢 ▲郵稅壹錢）前金（郵稅共）●四冊金四拾二錢●八冊金八拾壹錢●拾六冊金壹圓五拾六錢

幼年世界

毎月一回一日發行▲外增刊發行▲菊判本文八十頁（內十六頁着色二度刷）▲石版彩色刷口繪一枚▲光澤紙寫眞版二頁

正價（◎壹冊八錢 ▲郵稅壹錢）前金（郵稅共）●四冊金參拾五錢●八冊金六拾七錢●十六冊金壹圓參拾錢

幼年畫報

毎月一回五日發行▲外增刊年四回▲菊判美麗畫本▲石版極彩色繪畫十六頁▲二色刷木版寫眞刷込十六頁▲寫眞版口繪四頁

正價（◎壹冊拾錢 ▲郵稅五厘）前金（郵稅共）●四冊金四拾錢●八冊金七拾七錢●拾六冊金壹圓四拾八錢

文章世界

毎月一回十五日發行▲外增刊年四回▲菊判本文二百四十頁▲原色寫眞版一枚▲石版水彩畫一枚▲二色刷寫眞版一枚▲光澤紙寫眞版四頁

正價（◎壹冊貳拾錢 ▲郵稅貳錢）前金（郵稅共）●四冊金八拾參錢●八冊金壹圓六拾壹錢●十六冊金參圓拾貳錢

英語世界

毎月一回一日發行▲外增刊年二回▲菊判本文七十二頁▲光澤紙寫眞版二頁

正價（◎壹冊拾錢 ▲郵稅壹錢）前金（郵稅共）●四冊金四拾貳錢●七冊金七拾錢●十四冊金壹圓參拾六錢

英語少年

毎月一回一日發行▲外增刊年二回▲太陽判（四六判倍大）總紙數四十頁▲石版彩色刷八頁▲輪轉彩色刷繪畫數多挿入

正價（◎壹冊拾錢 ▲郵稅五厘）前金（郵稅共）●四冊金四拾錢●七冊金六拾七錢●十四冊金壹圓參拾錢

數學世界

算術。代數。幾何の三種

▲毎月一回各一日發行▲菊判各冊紙數八十頁

正價三種共（◎壹冊拾錢 ▲郵稅壹錢）前金（郵稅共）●三冊金參拾壹錢●六冊金六拾壹錢●十二冊金壹圓拾七錢宛

鐵道汽船旅行案內

毎月一回一日發行▲年刊十二册▲菊判紙數約百九十頁▲蕨生式折本石版二度刷全國旅行地圖添附

正價（◎壹冊拾錢 ▲郵稅壹錢半）前金（郵稅共）●三册金參拾貳錢●六册六拾貳錢●十二册金壹圓貳拾錢

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人書類

【家政及家事經濟】

（正價 郵税 拾錢 拾錢）

- ● 下田歌子女史著 **家政學**（全二册菊判四三〇頁）各三〇 六
- △ 同 女史著 泰西所見 **家庭教育**（菊判二五〇頁）三五 八
- ● 岸上操君著 **家政案内**（菊判二五六頁）二五 六
- ◎ 近藤正一君著 新撰 **新家事問答**（菊中截判二六六頁）二〇 四
- △ 下田歌子女史著 **家事要訣**（菊判二八二頁）三五 八
- ● 中村鈴子女史編 名流百家 **家庭の模範**（四六判四二四頁）三八 六
- △ 三輪田眞佐子女史著 **新家庭訓**（菊判三二〇頁）四五 八
- △ 原胤照君著 **母と子** 前編（菊判二四〇頁）五五 八
- △ 同 **母と子** 後編（菊判一九〇頁）四五 六
- △ 木村小舟君著 兒童訓話 **母の智識**（菊判約三百頁）四五 八
- ● 曾我部純一君著 **最新家計簿記**（菊判一三四頁）二五 六

【禮式】

- ◎ 坪谷善四郎君著 增訂 **日本女禮式大全**（菊判五九二頁）正價壹圓貳拾錢 小包料拾六錢 九〇 小包料三

▲蒔繪函入和裝美本

本書は日本固有の女禮の美性と泰西普通の禮式の外に女子の知るべき禮式技藝作文作歌其他一切の事を網羅し記事の豐富と文章の流麗に加ふるに製本の美なる世に比類なきものなり女學生は勿論良妻賢母及令嬢有せらるゝ父兄方は必ず一本を備へ給ふの必要あらん。

- ● 日本婦人正風會々長 中島義式君著 新撰 **日用女禮式**（菊判一八六頁）二五 六
- ● 同 君著 **女子禮法教科書**（菊判二六四頁）二八 六
- △ 高等女子師範學校教授 佐方鎭子女史著 **禮式と作法**（菊判三三八頁）四五 八
- ● 同 君著 **新撰小學女禮式**（菊判二二〇頁）三五 六
- △ 下田歌子女史著 **普通禮式**（菊判二六二頁）二五 八
- ● 大橋乙羽君著 **和洋禮式**（菊判二四八頁）二五 六
- ● 中島幾式君著 **新撰女子作法書**（菊判一四〇頁）二五 六
- ● 藤波芙蓉君著 **新式化粧法**（菊判三〇一頁）四五 八
- ● 前田雪子女史著 巴里婦人の交際振 **奥様の顧問**（三六判四〇八頁）四八 六
- ● 宮本桂仙君著 **西洋男女交際法**（菊中截判二三六頁）二五 四

【料理】

- △ 治庖會本部教場主任 安西古滿子女史著 四季每日 **三食料理法**（菊判和裝）一册五〇 一册六

▲全四册 春、夏、秋、冬に分册

何れの家庭に於ても毎日三度の献立に就ては主婦が最も苦心する處ならん此の書は之が相談相手たらんがために著者が四星霜の間の苦心を以て衞生と經濟とに留意せられ一年三百六十五日毎日三度の豫定献立表をつくられ且つ其料理法は平易の文字を以て反覆叮嚀に記述せられたるものなれば親しく先生に就きて敎を受くるに異ならず何人と雖も容易に會得することを得、實に各家庭はもとより學校及び軍隊に於ても必要缺くべからざる類書中の白眉なり

- △ 赤堀吉松君 赤堀峯吉君 赤堀菊子君共著 **惣菜料理**（菊判二八一頁）四五 八
- △ 大日本割烹學會長 石井泰次郎君著 **四季料理**（菊判三一〇頁）四五 八
- △ 龜井まき子女史著 **家庭料理法**（菊判二三〇頁）三五 八
- △ 下田歌子女史著 **料理手引草**（菊判三三〇頁）三五 八

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

著者	書名	體裁	正價	郵税
[illegible]本[illegible]君著	●實用料理法	（菊判二八四頁）	三五	六
龜井まき子女史著	◬洋食調理	（菊判約三百頁）	四五	八
佐々木學吉君著	●西洋料理法	（菊判二五四頁）	二五	六
阪本隆義君著	△衛生食物調理法	（菊判一五四頁）	三〇	六
同君著	●病者の食餌	（四六判長形一五六頁）	二〇	四
八百善主人著	△八百善料理通	（全二册中本和紙刷）	三八	六
小田原屋主人編	△漬物早指南	（中本和紙刷）	三	四
醍醐山人編	△料理早指南	（全二册中本和紙刷）	二五	六
風羅山人編	△料理いろは庖丁	（全二册中本和紙刷）	一八	四
東京治庖會講師 龜井まき子女史著	◬和洋菓子製法	（菊判三〇〇頁）	四五	八
報知新聞家庭記者 天野誠齋君著	△家庭實與 臺所改良	（菊判二四〇頁）	四〇	八

衛生的臺所の改良は實に清潔と便利と採光とにあり左れど物には順序方法あり「如何にして臺所を改良すべきか」に付て本書は懇切に說明したり

【手藝】

著者	書名	體裁	正價	郵税
下田歌子女史著	△女子手藝要訣	（菊判二六二頁）	三五	八
石崎篁園君著	◬衣服の調整	（菊判二八二頁）	四五	八
女子高等師範學校教授 喜多見佐喜子女史著	◬裁縫指南	（菊判三〇〇頁）	四五	八
吉田駒子女史著	●裁縫と編物	（菊判二六二頁）	二五	六
飯田呉服店裁縫部小岩井主任・鹽田副主任合著	△實用裁縫全書	（菊判二六六頁）	五〇	八
三木とみ子女史著	◬編物指南	（菊判三〇二頁）	四五	八
磯村大次郎君著	◬刺繍術指南	（菊判三〇四頁）	四五	八
山田興松君著	◬摘み細工指南	（菊判二八〇頁）	四五	八
東京女子美術學校卒業 鈴木松子女史著	●家庭實用 新式美術造花	（菊判二三〇頁）	三五	八
刺繍術專門磯村大次郎君著	●實用刺繍術	（菊判二二四頁）	二五	四
山田興松君著	●實用造花術指南	（菊判一〇〇頁）	二五	四

著者	書名	體裁	正價	郵税
磯田洪君・鈴木古鶴君・牧野等君共著	●應用家庭美術【茶の湯、活花及庭園】	（四六判三四〇頁）	四〇	六
水原翠香女史著	◬茶道と香道	（菊判三六四頁）	四五	八
岡崎淵沖君著	◬各傳比較點茶活法	（全四册菊判六〇〇頁）	二五〇	小包料一六
江刺家協一君著	◉茶の湯大全	（四六判五〇八頁）	六〇	八
博文館編輯局編纂	●茶の湯と生花	（菊判二五八頁）	三五	六
青山御流會頭琴松園文雅君・跡見女學校講師松幸齋理參君共著	◬諸流生花指南	（菊判三〇六頁）	四五	八
吐月齋惠一鳥君編纂	△挿花盆石 四時の詠	（全三册菊判一四〇頁）	五〇	六
秀貫齋月一瑚君編纂	△挿花盆石 正風花鏡	（全三册菊判二〇二枚）	五〇	六
大露庵河村一洸君選	△新撰活花圖式	（全二册美濃紙木版刷）	四〇	六
榮靈齋先生編	△挿花大樂抄圖會	（全二册美濃紙木版刷）	四〇	六
江原春夢君著	●盆景盆石 盆山盆庭 秘訣圖解	（菊判二二〇頁）	三〇	六
柏翁春郊中島信義君著	●草木實驗 盆栽仕立秘法	（菊判一八〇頁）	二五	六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

△ 頓石軒著編 盆山百景圖（全四册菊判木版刷） 一〇〇 小包料 三

△ 近藤正一君著 室內裝飾法（菊判約三〇〇頁） 四五 八

△ 內山幻堂君著 家屋と庭園（菊判約二八〇頁） 四五 八

◎ 北村遲紅君著 娛樂園藝 花と庭（四六判二八五頁） 六五 六

◎ 近藤正一君著 名園五十種（菊判橫綴三四〇頁） 九五 八

● 梅邑右源次君著 圖說 毛氈花壇（菊判二五〇頁） 八五 六

【家庭衛生】

◎ 醫學士石原喜久太郎君編 新撰 家庭衛生（菊判五八〇頁） 一七〇 三

石原醫學士は醫科大學衛生學教室に在りて多年斬學の研究に從事し其蘊蓄せる所を披瀝して本書を著はす。本書前編「緒論之部」は衛生に關する汎論にして、後編「各論之部」は●住居の衛生●衣服と飮食物●季候と衛生●旅行と轉地●子供●姙娠と產蓐●病の七章より成り、衛生上の諸題目を、凡て是等各項內に網羅して細大洩さず、之を家庭に備ふれば一家衛生上無二の良指針たるべく、兼れて醫師醫學生の良友、諸學校衛生教科の參考書たるべし。

◎ 醫學士石原喜久太郎君閱 首藤　君編 新撰 衛生生理問答（菊半截形二〇二頁） 三〇 四

△ 青山女學院講師牧野清子女史著 婦人の生理と衛生（菊判三一二頁） 四五 八

● 千葉縣技手 鹿島樫蔭君共編 家庭衛生訓（菊半截四〇八頁） 三五 六

● 海軍大軍醫隈崎敬治郎君譯 女子衛生學（菊半截三二〇頁） 三〇 四

△ 醫學士田村貞策君 朝寒孤舟君共著 育兒の務（菊判二四四頁） 四五 八

● 西田敬止君著 育兒と衛生（菊判二四四頁） 二五 六

● 下田歌子女史著 母親の心得（菊判二六八頁） 三五 六

◎ 醫學博士三島通良君著 はゝのつとめ（菊判三一二頁） 七五 一〇

◎ 女學世界衛生顧問糸左近君著 四季應用 通俗治療法（四六判二九二頁） 二八 六
附 養生秘訣

△ 新潟縣高田高等女學校教諭藤井靜子女史著 簡易治療法（菊判三五二頁） 四五 八

◎ 藥學得業士金澤巖君著 通俗治療救急法（菊半截三一〇頁） 二五 四

● 醫學士廣澤汀波君著 結核菌物語（四六判一三二頁） 二〇 四

△ 醫學士田村貞策君 朝寒孤舟君共譯 衛生指針 姙產婦の務（菊判四二八頁） 七五 八

● 醫學士伊庭秀榮君著 復習問答 簡明產婆學（四六判二二〇頁） 五〇 六

● 產科專門醫術生[illegible]次郎君著 實習產婆學、全二册菊判五六〇頁 上卷通常產 下卷異常產
▲上卷七拾錢 下卷八拾錢 郵稅各八錢

◎ 醫學士[illegible]君譯述 生殖器新書（四六判四五六頁） 七〇 八

◎ 醫學士小玉龍藏君著 延命長壽法（三六判四四〇頁） 六〇 六

● 文學士杉谷泰山君著 身心修養 長命術（菊判四二二頁） 七〇 一〇

● 醫科大學秋吉無聲君譯 醫學上の戀愛觀 四六判二二四頁 三〇 六

● 澤田順次郎君著 自然界に於ける 兩性の秘密（菊判四〇〇頁） 六五 八
▲一名 人類性別學

【修身及立志】

● 女子高等師範學校教授下田次郎君著 女子の修養（菊半截二五〇頁） 二五

△ 前田長太君著 女德の養成（菊判三三六頁） 四五 八

△ 棚橋絢子女史著 子女の教養（菊判二九三頁） 四五 八

● 豐岡茂夫君著 女氣質と修養（菊判半截二六〇頁） 二五 四

● 文學士大町桂月君著 女學生訓（菊半截二五六頁） 二五 四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

著者	書名	體裁	定價	郵稅
松原岩五郎君著	女學生の栞	（菊判三三〇頁）	三五	六
千河岸櫻所君評釋	女訓評釋	（菊判四一六頁）	六〇	八
千河岸櫻所君編	日本女子立志編	（全二冊菊判七三六頁）	各六〇	各八
東京女學館講師 西田敬止君著	帝國女子修身鑑	（全四冊菊判四二四頁）	各一〇	各二
安藤紫陽君 笑輪樵隱君共編	名士の父母	（四六判一五二頁）	二五	四
佛國マリスブロック君著 前田越嶺君譯述	偉人の母	（菊判一九八頁）	三八	六
中央新聞記者田村江東君著	活動せる實業界の婦人	（菊判二四六頁）	三八	六
濱本浩顯君著	婦女教育 明治姫鏡	（中紙刷木版一六五頁）	六〇	八
讀賣新聞記者關如來君著	明治の令嬢	（四六判一八二頁）	三〇	六
近藤正一君著	女子職業案内	（三六判四六六頁）	四五	六
瀬川頼太郎君著	教育資料 子供の聲	（四六判三八七頁）	五五	六
加藤忠三郎君著	學校家庭 兒童講話資料	（四六判二九六頁）	三五	六
河岡潮風君著	東都遊學 學校評判記	（四六判三八〇頁）	四五	六
今井[illegible]君著	最近調査 女子東京遊學案内	（四六判六五〇頁）	五八	八

【作文、習字及習書】

著者	書名	體裁	定價	郵稅
下田歌子女史著	女子作文の栞	（菊判二三六頁）	三五	八
佐々木信綱君著	女子消息 文のしをり	（菊判三〇〇頁）	五〇	八
樋口一葉女史著	通俗書翰文	（菊判二四六頁）	二五	六
近藤正一君著	古今才媛文集	（四六判三一二頁）	三五	六
東京女學館講師西田敬止君編	女子消息文範	（四六判三一〇頁）	三五	六
井田秀生君著	書道手引	（菊判三〇二頁）	四五	八
下田歌子女史著	女子書翰文	（菊判二二八頁）	三五	八
佐々木信綱君 遲美雅子女史共著	新撰女子用文	（菊判二二六頁）	三〇	六
下田歌子女史著 阪正臣君書	女子用文習字帖	（全二冊半紙刷一四四枚）	八〇	八
大和田建樹君著 小野鵞堂君書	明治女子書翰文	（半紙刷一〇〇枚）	四〇	四
多田親愛君書	假名習字帖 古今和歌集序	（綸子表紙美本）	八〇	四

▲菊判特製 正價金壹圓貳拾錢 郵稅六錢

著者	書名	體裁	定價	郵稅
[illegible]君書	高等女子習字帖 烏丸帖	（[illegible]判二四枚）	三五	四
同君著	假名習字帖 新百人一首	（美濃判五一枚）	三〇	四
多田親愛君書	短冊習字帖		一〇〇	六
新關久穎君著	いろは三體帖	（和紙刷折本）	四〇	四
河村[illegible]君書	初學手紙の文	（全二冊菊判一〇〇枚）	三五	六
中村不折君著竝畫	花卉山水人物 水彩繪手本	（全四輯四六判二倍）第三輯迄既刊（附錄水彩畫手引）	各五五	各四
三宅克己君著竝畫	水彩畫指南		六五	八
丸山晩霞君著	水彩畫法 女性と趣味	（菊判四三〇頁）	二〇〇	八
中村不折君著	鉛筆畫法	（四六判一一七頁）	六五	八
稲元春郊君譯	繪畫講話	（四六判三八〇頁）	六五	八
野口珂北君著 小蘋女史畫	畫法自在	（菊判二五〇頁）	二五	六
三宅克己君著	水彩畫手引	（四六判二七〇頁）	七五	六

▲總クロース上製 正價九拾錢 郵稅八錢

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉ 諸大家執筆 **水彩習畫帖**（各册原畫六枚習畫六枚） 各三五 各二
- 【第一卷】三宅克己君筆
- 【第二卷】丸山晩霞君筆
- 【第三卷】大下藤次郎君筆
- 【第四卷】三宅克己君筆

◬ 博文館編輯局編 **古今名家習畫帳**（美濃判和綴木版彩色刷二册） 一〇〇 六

◬ 毛筆畫研究會編 **初心毛筆畫譜**（全五册和紙彩色刷） 一册 一三 二
- ▲山水之部
- ▲花鳥之部
- ▲獸類之部
- ▲人類及魚之部
- ▲雜之部

【家庭雜書】

◉ 報知新聞家庭記者 中村木公君編 **實驗問答 日本家庭節用**（三六判一二七四頁） 一三〇 小包料 八

◉ 少女世界編輯部編 **明治少女節用**（三六判六四二頁） 八五 八

● 農學博士稲垣乙丙君校閲 工藤齊君著 **新編 家庭の科學**（菊判四四六頁） 八五 八

◬ 文學士大森兜山君著 **家庭の趣味**（菊判三〇〇頁） 四五 八

◬ 前田九八君著 **洋樂手引**（菊判約三百頁） 四五 八

◉ 佐々醒雪君著 **俗曲評釋第二編 箏唄**（四六判二九三頁） 五五 六

◉ 同 君著 **俗曲評釋第一編 江戸長唄**（四六判二七四頁） 五五 六

● 奥村繁次郎君著 **家庭に於ける 吉凶百談**（四六判三六八頁） 四〇 六

● 櫻井鷗村君著 **現代女氣質**（四六判三八〇頁） 三五 六

● 竹貫佳水君著 **少女四季物語**（四六判二六八頁） 二八 六

● 中村秋人君著 **名媛と筆蹟**（四六判三〇〇頁） 四〇 六

◉ 桐生悠々君譯 **婦人國**（三六判三〇一頁） 四五 六

● 水田南陽君譯述 **男のすく女 女のすく男 兩性觀**（三六判二六〇頁） 三〇 四

● 伊達奥州君著 **女性觀 附通人漫語**（菊中截一六六頁） 二〇 二

● 元祿姉さん著 **現代生活 裏面觀察 呪はれたる女**（菊判二〇二頁） 三五 六

◉ 博文館編輯局編 **明治四十三年 家庭日記**（四六判四八〇頁） 二八 八（家事要覽簡易新帳簿規則附）

● 同 局 編纂 **衣服と流行**（菊判二三六頁） 二五 六

【定期刊行全書】

家庭百科全書 全部五十册

菊判和裝美本毎編三百頁以上

正價（一册金四拾五錢 廿五册金拾圓 ▲郵稅一册八錢宛） 拾册金四圓貳拾錢 五拾册金拾九圓

- 【一 編】三輪田眞佐子女史著 新家庭訓
- 【二 編】石井泰次郎君著 四季料理
- 【三 編】喜多見佐喜子女史著 裁縫指南
- 【四 編】龜井まき子女史著 和洋菓子製法
- 【五 編】水原翠香女史著 茶道と香道
- 【六 編】琴松園文雅君 松幸齋理登君 著 諸流生花指南
- 【七 編】醫學士田村貞毅君 朝寞孤舟君 共著 育兒の務
- 【八 編】藤井靜子女史著 簡易治療法
- 【九 編】佐方鎭子女史著 禮式と作法
- 【十 編】赤堀吉松君 赤堀峰吉君 赤堀菊子女史 共著 惣菜料理
- 【十一編】三木とみ子女史著 編物指南
- 【十二編】牧野清子女史著 婦人の生理と衛生
- 【十三編】木村小舟君著 教育お伽噺
- 【十四編】前田長太君著 女德の養成
- 【十五編】内山正如君著 家屋と庭園
- 【十六編】鹿野直司君著 魚鳥家畜の飼養

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

【十七編】遠藤ふみ子女史著　女子作文法
【十八編】棚橋絢子女史著　子女の教養
【十九編】文學士 大森兇山君著　家庭の趣味
【二十編】高橋忠次郎君 松浦政泰君 合著　家庭遊戲法
【廿一編】井田秀生君著　書道手引
【廿二編】磯村大次郎君著　刺繡術指南
【廿三編】大和田建樹君著　歌の手引
【廿四編】山田與松君著　摘み細工指南
【廿五編】藤波芙蓉君著　新式化粧法
【廿六編】近藤正一君著　室內裝飾法
【廿七編】石崎葛園君著　衣服の調整
【廿八編】前田久八君著　洋樂手引
【廿九編】木村小舟君著　兒童訓話 母の智識
【三十編】龜井まき子君著　洋食調理

以上既刊　以後引續刊行す

家庭衛生講話　全部九冊

洋裝菊判每編百六十頁以上
正價（一冊金參拾五錢〇九冊貳圓八拾錢▲郵稅一冊八錢）

【一編】醫學博士 三輪德寬君述　一般救急法
【二編】醫學博士 森林太郎君述　衛生學大意
【三編】醫學博士 林春雄君監　藥物の大要

【四編】醫學博士 緒方正淸君述　姙產婦之心得
【五編】醫學博士 筒井八百珠君述　花柳病講話
【六編】醫學博士 賀古鶴所君述　耳の衛生
【七編】醫學博士 村上善次郎君述　傳染病大意
【八編】醫學博士 佐藤勤也君述　婦人病講話
【九編】醫學士 桂秀馬君述　外科講話

【全部完成全書】

家庭文庫　全部十二冊

下田歌子女史著

菊判和裝美本每編紙數二百五十頁餘
正價（一冊金參拾五錢〇六冊壹圓九拾錢 十二冊參圓七拾錢▲郵稅一冊六錢宛）

【一編】女子書簡文
【二編】女子普通禮式
【三編】詠歌の栞
【四編】料理手引草
【五編】婦女家庭訓
【六編】母親の心得
【七編】家事要訣
【八編】女子手藝要訣
【九編】女子普通文典
【一〇編】女子作文の栞
【一一編】女子遊戲の栞
【一二編】家庭教育

庭訓 少女文庫　全部六冊

下田歌子女史著

菊判和裝美本每編紙數凡二百五十頁
正價（一冊參拾五錢 郵稅一冊六錢宛）全部壹圓九拾錢

【一編】お伽噺教草
【二編】庭訓お伽噺
【三編】內國少女鑑
【四編】外國少女鑑
【五編】家庭の心得
【六編】學校の心得

家庭衛生叢書　全部十二冊

醫學博士井上通泰君監修

菊判洋裝每冊約百六十頁
正價（〇一冊金貳拾錢〇六冊壹圓拾錢 全部貳圓拾錢▲郵稅一冊六錢宛）

一編　●傳染病の話（北里博士）●胃の攝生法（長與博士）●眼科衛生談（井上博士）●血族結婚と聾啞との關係（金杉博士）●淋病と家庭（土肥博士）

二編　●腸窒扶斯に就て（宮本博士）●婦人の衛生一斑（木下博士）●婦人及小兒の眼の衛生（桐淵博士）●眼科衛生談（井上博士）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三編（●室內空氣に就て（緒方博士）●眼科衛生訣（井上博士）●小兒科一斑（三輪博士）●小兒の衛生に就て（弘田博士））

四編（●腸胃の話（井上博士）●耳の攝生（岡田博士）●乳兒の衛生に就て（緒方博士）●狐憑とヒステリーとの關係（吳博士）●眼鏡の話（井上博士））

五編（●創傷の話（三輪博士）●神經の攝生に就て（吳博士）●ジフテリアの話（宮本學士）●皮膚の衛生に就て（岡村博士））

六編（●ペストの話（宮本學士）●身心の養生（大澤博士）●家庭に於て注意すべき二三の學校衛生（三島博士）●產時の創傷傳染（木下博士））

七編（●黴毒に關する家庭の注意（筒井博士）●家庭と黴菌（遠山博士）●妊娠中の攝生（緒方博士）●便秘の話（井上博士））

八編（●婦人姙孕力の話、第一（伊庭學士）●肝臟の話（木村博士）●分娩時の攝生（緒方博士）●色盲の話（井上博士）●小兒の身體上の監視并に感冒の話（瀨川博士））

九編（●肺癆の話（井上博士）●婦人姙孕力の話、第二（伊庭學士）●小兒の蟲及疳の話（瀨川博士）●產後の攝生（緒方博士））

十編（●飲酒血族の退化（林博士）●不姙症の話（伊庭學士）●生殖の話（大澤博士）●消毒法の大意、一（遠山博士）●雜錄!!衛生學上より見て歐米と日本との風俗習慣中善きもの惡きもの）

十一編（●癲狂村の話（吳博士）●最適當なる日本婦人の結婚年齡（楠田氏）●消毒法大意（遠山博士）●衛蜀酒の話（林博士））

十二編（●聾啞の話（賀古博士）●癲狂村の話（下）（吳博士）●慢性銅中毒の話（林學士）●口內衛生に就て二三の注意（石原學士））

國文書類

落合直文君著【文部省檢定濟】 中等教育 **日本文典** 四六判四八八頁 六〇 八

和田爲吉君著 **日本文典講義**（菊判四〇〇頁） 一〇〇 八

下田歌子女史著 **女子普通文典**（菊判二四六頁） 三五 八

哲學館大學講師三石賤夫君著 學生參考叢書 **國文典**（菊半截判一六二頁） 三〇 二

文學士鈴木暢幸君著 **日本口語文典**（菊判三一六頁） 四〇（特製 五五） 八 八

落合直文君著 中等教育 **文法教科書**（菊判一二六頁） 四五 六

文學博士上田萬年君著 **國語學叢話**（菊判二三〇頁） 四〇 六

久米幹文君校閲 小谷一馬君著 新撰 **國語教授問答**（四六判七六頁） 二〇 四

文學士小倉博君著 學生參考叢書 **國文熟語詳解**（菊半截判一八二頁） 三〇 二

內藤耻叟君校閲 大宮宗司君校註 **校註神皇正統記**（菊判二五八頁） 三五 六

中村秋香君校訂 **吉野拾遺詳解**（菊判一五二頁） 二五 四

大和田建樹君刪定【文部省檢定濟】菊判一一二頁 中等教育 **刪定徒然草** 一八 四

佐々木信綱君校註（菊判二〇六頁） **校註徒然草** 二五 四

同君校註（菊判七六頁） **校註竹取物語** 三 二

同君校註 菊判五〇頁 **校註土佐日記** 一〇 二

同君校註（菊判六〇頁） **校註方丈記** 八 二

同君校註（菊判一〇六頁） **校註伊勢物語** 三 四

同君校註（菊判九四頁） **校註更科日記** 三 四

萩野由之君 落合直文君 池邊義象君 校註（全部廿四冊四六判）
日本文學全書

正價一冊金參拾錢 ●五冊以上八分引 ●十冊以上壹割貳分引 ▲郵税一冊六錢

●第一編 ○竹取物語 ○伊勢物語 ○住吉物語 ○徒然草 ○紫式部日記

●第二編 ○土佐日記

●第三編 ○枕草紙 ○更科日記 ○方丈記

●第四編 ○十六夜日記 ○落窪物語 ○辨內侍日記 ○とりかへばや物語

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

- ●第五編 ○堤中納言物語 ○四季物語
- ●第六編 ○中務内侍日記 ○蜻蛉日記 ○讃岐典侍日記 ○和泉式部日記
- ●第七編 ○濱松中納言物語 ○大和物語 ○唐物語
- ●自第八編至第十二編 ○宇治拾遺物語 ○多武峰少將物語
- ●自第十三編至第十五編 ○源氏物語 五冊に分載 ○榮花物語 上、中、下三冊
- ●自第十六編至第十八編 ○太平記 上、中、下三冊
- ●第十九編 ○保元物語 ○平治物語 ○秋夜長物語 ○鴉鷺合戰物語
- ●第二十編 ○平家物語
- ●第廿一編 ○古今著聞集
- ●第廿二編 ○公事根源 ○十訓抄
- ●第廿三編 ○水鏡 ○大鏡
- ●第廿四編 ○増鏡

- △枕草子春曙抄　北村季吟君著（全七冊菊判和紙木版）　一八〇　三
- △古文讀本　大和田建樹君選（全六冊菊判七五六頁）　一六〇　各四　▲正價一ヨリ五迄各貳拾五錢▲六巻參拾五錢
- ●名文評釋　國學院編纂（菊判四五二頁）　五〇　一〇
- ●國文軌範　落合直文君編 中等教育（四六判三八〇頁）　三五　六
- ◉新撰國文問答　鷹野勇雄君著（菊半截判二六六頁）　二〇　四

和歌書類

- ◉日本小辭典　大和田建樹君著（四六判半截形一一八〇頁）　七五　八
- ●日本辭林　大宮宗司君編纂（四六判半截形七二〇頁）　三〇　六　▲洋布特製 正價四拾錢 郵税八錢
- △假名遣枕詞字典　佐々木弘綱君岡野伊平君共著（四六判）　三〇　六
- △日本いろは新字典　棚橋廣君著（銅刻四六判四截二二〇頁）　三〇　四
- ◉新式いろは引節用辭典　大町文學士、久保文學士、大田淳軒君共編（三六判一三〇〇頁）　二〇〇　三　▲總皮特製正價貳圓五拾錢小包料拾貳錢
- △新撰日本節用　内山正如君著（四六判銅刻五二〇頁）　一〇〇　八
- △眞草いろは早引節用　博文館編輯局編（菊半截形銅刻）　二五　四
- ◉日本歌學史　佐々木信綱君著（菊判六五〇頁）　二五〇　三
- ◉歌まなび　大和田建樹君著（四六判一〇三八頁）　一五〇　三
- △歌の手引　同君著（菊判三二四頁）　四五　八
- ◉歌學論叢　佐々木信綱君著（四六判五六八頁）　一〇〇　八

- ◉増訂詠歌自在　佐々木信綱君著（四六判七八〇頁）　一〇〇　八
- ●新撰歌典　落合直文君著（四六判六一〇頁）　四〇　八
- △詠歌の栞　下田歌子女史著（菊判二一〇頁）　三五　八
- ◉詠歌辭典　佐々木信綱君著（菊判一三七六頁）　七五　八
- ●作歌自在　宮澤春文君著（菊判二四〇頁）　二五　六
- ●短歌作法　窪田空穗君著（四六判三〇五頁）　三五　六
- △和歌八重垣　有賀長伯君著（全七冊木版刷和紙菊半截判）　八〇　八
- ◉日本歌選 上古の巻　佐々木信綱君著（四六判三二四頁）　八〇　六
- ◉和歌世々のあと　故佐々木弘綱君著 佐々木信綱君校（四六判一四四頁）　二八　四
- ●賀茂眞淵翁全集　佐々木信綱君校註（全二冊四六判一〇〇〇頁）　三五　八
- ●香川景樹翁全集　同君校註（全二冊四六判一〇一三頁）　三五　八
- ●小澤蘆庵翁全集　同君校註（四六判五二一頁）　三五　八
- ◉定家歌集　同君撰（菊半截二〇二頁）　三五　四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

印	書名	著者	體裁	定價	郵税
●	近世名家々集	佐々木信綱君校註	(全二册四六判一〇七二頁)	三五	八
●	明治名家々集	同君校註	(全二册四六判一一五四頁)	三五	八
△	類題武藏野集	仲田顯忠翁編	(全四册四六判二三〇枚)	六〇	八
△	類題採風集	黒澤翁滿翁編	(全四册四六判二〇〇枚)	五〇	八
△	むぐら集	同翁編	(全三册菊判木版刷)	一〇〇	八
◎	新古今和歌集遠鏡	文學士鴻巢盛廣君著	(四六判六六四頁)	一二〇	八
△	後撰和歌集標註	契沖阿闍梨證註 賀茂眞淵翁後按 平豐流君增註	(全四册大本和紙刷)	八〇	八
●	萬葉集	佐々木信綱君註	(全三册四六判一二二〇頁)	二五	六
●	後拾遺和歌集、相模家集、絲信卿母集、高陽院歌合	同君校註	(四六判三九二頁)	三五	六
●	校註明倫歌集	同君校註	(菊判二二二頁)	二五	四
●	百人一首講義	佐々木信綱君校註	(四六判三〇〇頁)	二〇	四
◎	おもひ草	佐々木信綱君著	(四六判一五二頁)	五〇	六
◎	竹柏園集第二編	同君編纂	(菊半截判五五八頁)	三五	六

印	書名	著者	體裁	定價	郵税
△	庭の摘草 附德歌記	子爵黒田清綱君 村松今朝太郎君編 税所敦子女史共撰	(四六判二六二頁)	三五	六
●	和歌と俳句	西村眞次君著	(菊半截三五〇頁)	四五	四
●	新體詩作法	河井醉茗君著	(四六判三二二頁)	三五	六
◎	新體詩歌自在	中郎秋香君著	(四六判八三四頁)	一〇〇	八
●	新體詩學	大和田建樹君著	(菊半截判二二四頁)	一五	四
◎	散文韻文 野菊	大和田建樹君著	(菊半截判四九〇頁)	四五	六
◎	美文韻文 花紅葉	鹽井雨江君 武島羽衣君 大町桂月君 合著	(菊半截判四二二頁)	三〇	六
◎	美文韻文 黄菊白菊	文學士大町桂月君著	(菊半截判四〇二頁)	二五	六
◎	天地有情	文學士土井晩翠君著	(菊半截判二三〇頁)	二五	四
●	詩集 擲の葉	與謝野鐵幹君作	(菊半截三三〇頁)	四〇	六
◎	美文韻文 霓裳微吟	文學士武島羽衣君著	(菊半截判三六八頁)	三五	六
◎	美文韻文 暗香疎影	文學士鹽井雨江君著	(菊半截判三五四頁)	二五	六
◎	美文韻文 磯馴松	佐々木信綱君 印東昌綱君 合著	(菊半截判四二三頁)	二八	六

印	書名	著者	體裁	定價	郵税
◎	美文作法	田山花袋君著	(四六判三〇〇頁)	三五	六
◎	散文韻文 雪月花	大和田建樹君著	(菊半截判六二六頁)	三五	六
◎	散文韻文 深山櫻	大和田建樹君著	(菊半截判七〇二頁)	四〇	八
◎	散文韻文 藻鹽木	同君著	(菊半截判五九〇頁)	二五	六
●	お伽唱歌 上下	巖谷小波君作 東儀鐵笛君作曲	(菊判)	各一五	各二
●	日本唱歌集	樂書刊行協會編纂	(文部省檢定濟)(菊判)	二〇	二
●	家庭唱歌	木村小舟君作歌 田村虎藏君作曲	(菊半截判)全部十二册 一册四十頁		

賣價(一册金貳錢五厘 十二册金廿七錢 郵税三册迄貳錢)

〔一〕桃太郎
〔二〕舌切雀
〔三〕松山鏡
〔四〕花咲爺
〔五〕浦島太郎
〔六〕文福茶釜
〔七〕勝々山
〔八〕羅生門
〔九〕一寸法師
〔一〇〕猿蟹合戰
〔一一〕俵藤太
〔一二〕瘤取り

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説書類

故尾崎紅葉君著

◉紅葉全集

全六册（菊判上製）
總紙數五六〇〇頁
正價一册壹圓八拾錢小包料一册拾貳錢宛

第一卷
●色懺悔 ●風雅娘
●新桃花風 ●巴波川
●南無阿彌陀佛 ●拈華微笑
●戀の蛻 ●此ぬし
●夏瘦 ●關東五郎
●新色懺悔 ●文ながし
●袖枕 ●わかれ蚊帳
●七十二文命の安賣 ●二人むく助 ●二人女房

第二卷
●伽羅枕 ●おぼろ舟
●むき玉子 ●紙きぬた
●夏小袖 ●戀の病

第三卷
●三人妻 ●〆緒兒
●男ごゝろ ●心の闇
●袖時雨 ●むらさき

第四卷
●隣の女 ●不言不語
●[illegible]料理 ●三個條
●冷熱 ●浮木丸
●青葡萄 ●八重襷

第五卷
●多情多恨 ●安知歌親林
●千箱の玉章 ●寒牡丹

第六卷
●金色夜叉前編 ●金色夜叉中編
●金色夜叉後編 ●續金色夜叉
●續々金色夜叉 ●新續金色夜叉
●煙霞療養 ●紅葉山人傳
●紅葉著作年表

幸田露伴君著

◉名家小説文庫 露伴叢書

（菊判上製）全二册
▲前編紙數九百八十頁
▲後編紙數九百九十頁
●正價一册金貳圓小包料一册拾六錢

前編目次
●自傳 ●二日物語 ●夜の雪
●[illegible]傳 ●縁の糸 ●休暇傳
●毒朱唇 ●ひげ男 ●新學士
●迷霧 ●和合樂 ●川舟
●大珍話 ●縁外縁 ●夢がたり
●是は〳〵 ●醉郷記 ●珍饌會
●獅子庵 ●伊能忠敬 ●まき筆日記
●客舍雜筆 ●地獄谷日記 ●將棋雜考
●將棋雜話 ●元祿時代の雜劇 ●折々草

後編目次
●椀久物語 ●春の山 ●常世外道の面
●封じ文 ●鐵三鍛 ●自縄自縛
●蹄鐵 ●冷千氷 ●箱根草
●銃獵手行 ●夢日記 ●ひとよ草
●新浦島 ●鄭成功 ●日蓮上人
●二宮尊德 ●突貫紀行 ●遊興記
●鳥心徒話 ●春の一日 ●うつしゑ日記
●遊行雜記 ●旅の心得 ●知々夫紀行
●文明の庫

塚原澁柿君著

◉名家小説文庫 澁柿叢書

（菊判上製一千頁）
正價貳圓
小包拾六錢

廣津柳浪君著

◉名家小説文庫 柳浪叢書

（全三册菊判上製二千頁）
一册貳圓
郵税拾六錢宛

目次
●黄金●妾の心●破冠者●鐵火●深窓殿●鳥居左衞門●是非もなき●不老術●新粧法●夢と夢●眞の武士●親の面●五月女與●三千石●男の面●由井正雪●大石內藏之助●碧玉盤●大風乾之助●他流試合●脱走兵●擬武軍●密告●此の戀

前編目次
●非國民●兄の煩悶●二人やもめ●五反田●親ごゝろ●淺瀨の波●名物松浦饅頭●七騎落●雪見酒●八幡の狂女●そまろ絲●歌加留多●亡き母●實生梅●あにき●座敷牢●黑蜒蜓●紫被布●女中心中●中川心中●くされ縁

後編目次
●おもかげ橫●昇降機●骨ぬすみ●妾●今戸心中●隅田の夜路●蝉の聲●變目傳●都の夢●狂言娘●畜生腹●重つま●貯金玉●花くろひ●幼時

田山花袋君著

◉名家小説文庫 花袋叢書

（菊判上製千餘頁）
正價貳圓
小包拾六錢

目次
●夕强少女●女教師●島の心中●夫婦●新築の家●春の別墅●一畫家の日記●令妹●濱花節の名手●寫生の花●一家の妻●初戀の人●無事●不盡の霧●二人小屋●懺悔記●思ふどち●深山時谷●老僧●小桃源●みやまの鶯●悲劇●孤島

江見水蔭君著

◉名家小説文庫 水蔭叢書

（菊判上製一千頁）
正價貳圓
小包拾六錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

目次
女房殺し●新潮來曲●旅役者●林間の高塔●湖心の響●紫海苦●地底の人●崖下の家●鮭●水樓記●別莊守●紙子くらべ●つぎ紙子

巖谷小波君著
◉名家小説文庫 小波叢書（菊判上製一千頁）正價貳圓 小包拾六錢
目次
●あゝ京都●男の心●皿●かつら川●大磐石●合はせ鏡●軍國女氣質

◉秋聲叢書
◉鏡花叢書
何れも正價金貳圓 近日發行

故長谷川辰之助君著 坪内雄藏君、内田貢君、池邊吉太郎君編輯
◉二葉亭全集 全四册菊判 帙入上製
●第一卷 創作の卷 正價貳圓卅錢 小包拾貳錢
目次（浮雲●其面影●平凡）
●第二卷 ツルゲネーフの卷 ▲正價貳圓參拾錢 小包料拾貳錢
目次
●あひびき●めぐりあひ●片戀●猶太人●夢かたり●うき草●くされ緣
●第三卷 飜譯
續刊
●第四卷 小説 飜譯 雜纂及尺牘等

故國木田獨歩君著
◉獨歩全集（全二册菊判千七百頁）正價一册貳圓 小包拾貳錢宛

前編
●牛肉と馬鈴薯●運命論者●巡査●酒中日記●富岡先生●空知川の岸邊●郊外●鎌倉夫人●神の子●源をぢ●星●園遊會●春の鳥●少年の悲哀●夫婦●河霧●小春●遺言●初孫●岡本の手紙●わかれ●置土產●湯ヶ原より●日の出●非凡なる凡人●畫の悲み●馬上の友●惡魔●正直者●第三者●女難

後編
●竹の木戸●二老人●泣笑ひ●渚●たき火●おとづれ●詩想●忘れぬ人々●まぼろし●鹿狩●二少女●帽子●あの時分●死●波の音●號外●歸去來●別天地●初戀●糸くづ●非凡人●武藏野●入鄉記●湯ヶ原ゆき●疲勞●肱の侮辱●都の友へ●窮死●戀を戀する人●B生より●節操●暴風

故川上眉山君著
◉眉山全集（全四册菊判上製）總紙數三千三百餘頁
▲正價一册壹圓八拾錢 ▲小包料一册拾貳錢宛 ▲全部六圓貳拾錢

第一卷
●雪折竹●大盃●奥様●いさゝ川●風流狂言記●書記官●船橋●碧水志●お駒●絃聲●うらおもて●柴栗●逸樂編●有明●鹿の子絞●うつせ貝●黄昏●青葉●島田くづし●寢覺●塵影

第二卷
●櫨紅葉●野人●二重帶●鏡澤橋●左卷●行衛●一軒百姓●三銃士

第三卷
●春宵●虛僞の價●爪木折●綾小袖●落葉●香潮●片影●三人男●浮標●萬平●凡人界●妖艶●弱氣質●希望●小妾記●喜劇仙癡平●裏座數●明昨●小町紅

第四卷
●新家庭●同胞●覽道●音の戀●梅の家●一夜天下●寶の山●千紅萬紫

書名	體裁	正價	郵稅
田山花袋君編 ●近作十五篇	（四六判五一四頁）	七五	八
島崎藤村君著 ◉小説藤村集	（四六判四九一頁）	七五	八
小波、澁柿、風葉、春葉、秋聲外七君作 ◉小說十二人集	（菊判四一二頁）	八五	八
河崎醉雨君著 ◉少女小說 花子の行衛	（四六判一八〇頁）	六八	四
沼田笠峰君著 ◉少女スケッチ	（四六判二五〇頁）	三五	[illegible]
福田琴月君著 ●少女小說 捨兒	（四六判一七二頁）	六八	六
田村松魚君著 ◉北米の花	（菊判三七二頁）	一一〇	八
永井荷風君著 ●あめりか物語	（四六判四九〇頁）	六五	八
巖谷小波君著 伯林土產 ◉戀の畫葉書 一名 留學生氣質	和田英作君畫（四六判四八〇頁）	一〇〇	[illegible]

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

泉鏡花君外十四家新作	◎	換菓篇	(四六判三〇〇頁)	六〇	八
福田琴月君著	●	當世奥様氣質	(四六判二〇二頁)	三〇	六
樋口一葉女史著	●	一葉全集	(菊判四八六頁)	四〇	八
村井弦齋君著	△	女道樂	(菊判四六六頁)	八〇	八
同君著	◎	酒道樂	(全二册菊判五五四頁)	各三五	八
內田不知庵君著	●	社會百面相	(菊判五五四頁)	三五	八
押川春浪君著	◎	海底軍艦	(菊半截判三九八頁)	三〇	六
同君著	◎	英雄小說 武俠の日本	(菊半截判四八二頁)	四〇	六
同君著	◎	海國冒險奇談 新造軍艦	(菊半截判三五一頁)	三〇	六
同君著	◎	英雄小說 東洋武俠團	(菊半截判五三〇頁)	四五	六
同君著	◎	英雄小說 武俠艦隊	(菊半截判三三〇頁)	三〇	六
同君著	◎	英雄小說 新日本島	(菊半截判三七二頁)	三五	六
同君著	◎	冒險小說 怪人鐵塔	(菊半截判四二〇頁)	四五	六
押川春浪君著	◎	傳奇小說 銀山王	(菊半截判三二七頁)	三〇	六
河岡潮風君著	●	冒險壯遊 五洲怪奇譚	(四六判四一二頁)	五〇	六
江見水蔭君著	●	小說 探檢女王	(菊半截四二八頁)	四五	四
同君著	●	小說 牡丹族	(四六判五〇〇頁)	三五	八
同君著	●	小說 少年探檢隊	(菊半截判三九〇頁)	三八	六
同君著	●	地底探檢記	(菊判二四四頁)	四〇	八
同君著	●	大蠻勇	(四六判五四〇頁)	五〇	八
同君著	●	實地探檢 捕鯨船	(菊判二〇三頁)	三五	六
松居松葉君譯	◎	家庭小說 樂天小屋	(四六判 頁)	四〇	六
前田雪子女史抄譯	◎	家庭小說 小姬君	(四六判二七六頁)	四五	六
河井道子、辻村靖子君共譯	◎	家庭小說 ひとりぼっち	(四六判三七〇頁)	七五	八
若松賤子女史遺稿 櫻井鷗村君編纂	●	忘れがたみ	(四六判六三二頁)	八〇	八
若松賤子女史譯述	●	小公子	(菊判三七四頁)	三五	八
森田思軒君譯述	●	十五少年	(菊判二九六頁)	三五	八
文學士小松月陵君譯	●	沙翁物語十種	(四六判三〇〇頁)	四五	六
獨逸チョッケ氏原著 司馬亨太郎君譯	●	立志小說 黃金村	(菊判)	四八	八
吉江孤雁君譯	●	ツルゲーネフ集	(四六判四五〇頁)	四八	六
相馬御風君譯	●	短編六種 ゴーリキー集	(四六判三〇八頁)	四五	六
文學士高田知一郎君 法學士佐藤忍君共譯	◎	英獨戰爭未來記	(菊判三八八頁)	六五	八
文學士中内蝶二君譯	●	日露戰爭未來記	(菊判一九二頁)	二五	六
文學士大町桂月君譯	●	日露戰爭未來記	(菊判一五八頁)	一八	四
露國レオ、トルストイ伯著 田山花袋君譯	●	哥薩克兵	(菊判二三〇頁)	一八	八
高橋光威君譯述	●	ロビンソン 絕島漂流記	(菊判四九八頁)	四〇	八
押川春浪君譯述	◎	海島探險 塔中の怪	(菊半截判三三二頁)	二[illegible]	四
櫻井鷗村君譯述	◎	勇少年冒險譚 初航海	(菊半截判三一八[illegible])	二五	四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

櫻井鷗村君譯

●世界冒險譚

全部拾二冊 四六判洋裝 並製

正價 ●壹冊金參拾錢 ●六冊壹圓六拾五錢 ●拾貳冊參圓貳拾錢 ▲郵稅壹冊六錢宛

〔一〕金掘少年
〔二〕遠征奇談
〔三〕二勇少年
〔四〕續遠征奇談
〔五〕決志少年
〔六〕漂流少年
〔七〕殖民少年
〔八〕航海少年
〔九〕不撓少年
〔一〇〕朽木の舟
〔一一〕俠勇少年
〔一二〕絕島奇談

◉帝國文庫

價一冊七拾五錢 小包料一冊拾貳錢宛

▲全部五拾冊四六判上製總紙數五萬餘頁

帝國文庫は小說のみを蒐集したるものに非ざれども目錄編纂の便宜上全部を一括して玆に掲ぐ

◉一編 眞書太閤記 卷一
◉二編 眞書太閤記 卷二
◉三編 眞書太閤記 卷三
◉四編 眞書太閤記 卷四 ▲附太閤朝鮮軍記
◉五編 源平盛衰記
◉六編 南總里見八犬傳 上卷
◉七編 南總里見八犬傳 中卷
◉八編 南總里見八犬傳 下卷
◉九編 東海道中膝栗毛 木曾、奧羽、江の島
◉十編 梅曆春告鳥
◉十一編 通俗三國志 上卷
◉十二編 通俗三國志 下卷
◉十三編 三馬傑作集
◉十四編 柳澤、越後、黑田、加賀、伊達騷動實記
◉十五編 京傳傑作集
◉十六編 種彥傑作集
◉十七編 星月夜鎌倉顯晦錄・北條九代記
◉十八編 通俗十二朝軍談・通俗武王軍談・通俗明清軍談
◉十九編 甲越軍談
◉二十編 通俗吳越軍談・通俗漢楚軍談
◉二十一編 楠廷尉秘鑑
◉二十二編 風來山人傑作集
◉廿三、四編 西鶴全集上下（禁賣）
◉廿五、六編 滑稽名作集上下
◉二十七編 其磧自笑傑作集 上卷
◉二十八編 其磧自笑傑作集 下卷
◉二十九編 人情本傑作集 上卷
◉三十編 氣質全集
◉三十一、二、三編 珍本全集上中下
◉三十四編 人情本傑作集 下卷
◉三十五編 赤穗復讐全集
◉卅六、七編 水滸傳上下
◉三十八編 忠臣藏淨瑠璃集
◉三十九編 四大奇書 上卷
◉四十編 續氣質全集
◉四十一編 四大奇書 下卷
◉四十二編 近松時代淨瑠璃
◉四十三編 大岡政談
◉四十四編 佛教各宗高僧實傳
◉四十五編 仇討小說集
◉四十六編 馬琴傑作集
◉四十七編 淨瑠璃名作集
◉四十八編 俠客傳全集
◉四十九編 續仇討小說集
◉五十編 近松世話淨瑠璃

◉續帝國文庫

正價一冊五拾七錢 小包料拾貳錢宛

▲全部五拾冊四六判上製總紙數五萬餘頁

◉一編 眞田三代記 附日本武士道
◉二編 近世說美少年錄
◉三、四編 日本歌謠類聚
◉五編 諺紫田舍源氏
◉六編 竹田出雲淨瑠璃集
◉七編 朝夷巡島記
◉八編 兒雷也豪傑譚
◉九編 江戶作者淨瑠璃集
◉十編 前々太平記 附前太平記
◉十一編 太平記
◉十二編 紀海音淨瑠璃集
◉十三編 續近松淨瑠璃集
◉十四編 近松半二淨瑠璃集
◉十五編 後太平記 附北條五代記

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

⊙十六編 脚本傑作集上卷（樂實）
⊙十七編 京山全集
⊙十八編 校訂落語全集
⊙十九編 並木宗輔淨瑠璃集
⊙二十編 紀行文集
⊙二十一編 一九全集
⊙二十二編 漂流奇談全集
⊙二十三編 邯鄲諸國物語 續種彥傑作集
⊙二十四編 校訂續紀行文集
⊙二十五編 續水滸傳
⊙二十六編 傾城水滸傳
⊙二十七編 文耕堂淨瑠璃集
⊙廿八、九編 白縫譚上下
⊙三十編 北雲美談時代鏡
⊙三十一編 常山紀談
⊙三十二編 萬物滑稽合戰記
⊙三十三編 續一九全集
⊙三十四編 校訂黃表紙百種
⊙三十五編 校訂俳優全集
⊙三十六編 校訂俗曲大全
⊙三十七編 續々紀行文集
⊙三十八編 續馬琴傑作集下卷
⊙三十九編 脚本傑作集下卷
⊙四十編 續京傳三馬傑作集
⊙四十一、二編 釋迦八相倭文庫上下
⊙四十三編 種彥短編傑作集
⊙四十四、五、六編 俊傑神稻水滸傳上中下
⊙四十七編 校訂近世奇談全集
⊙四十八編 校訂名家短篇傑作集
⊙四十九編 佛教各宗續高僧實傳
⊙五十編 校訂名家漫筆集

	正價	郵稅
△南總里見八犬傳 曲亭馬琴翁著、本箱入）全五十冊（菊判三〇五一枚）	二〇〇	六四
⊙演劇新潮 文學士小山內薰君著（四六判）	五五	八
●日本演劇史 伊原青々園君著（全二冊菊判七八五頁）	八五	八
▲特製合本正價壹圓八拾五錢小包料拾貳錢		
⊙新譯社會劇 土居春曙君譯（菊判三四〇頁）	六五	八
⊙史劇十二曲 山崎紫紅君著（四六判五六〇頁）	九五	八
●新樂劇論 文學博士坪內逍遙君著（菊判九八頁）	二〇	四
⊙新曲浦島 同君著（四六判一五四頁）	八五	六
△新曲かぐや姬 同君著（和本綴五四枚）	八五	四

	正價	郵稅
●花盛劇楓葉 編地獄庵居士作 肥後武士 江戸爺者（菊判一一八頁）	三五	四
●山中平九郎 同居士作（菊判一一八頁）	三〇	六
●方哉義士の譽 同居士作（菊判一五二頁）	三〇	六

⊙講談文庫 博文館編輯局編（四六判上製）每編四百五十頁
▲正價一冊五拾五錢郵稅八錢宛
⊙講談忠臣藏 ⊙武勇傳上
⊙義士銘々傳上 ⊙武勇傳下
⊙義士銘々傳下 ⊙出世譚
⊙俠客傳 ⊙名人譚
⊙大岡裁判

	正價	郵稅
⊙お伽テーブル 現代お伽作家十二名執筆 四六判二二〇頁）	六五	八
⊙古代神話ざりしやお伽噺 諸星綠遊君著（四六判三二四頁）	六五	六
⊙お伽花籠 現代お伽十作家共著（四六判三一〇頁）	七五	八
⊙むかしく 巖谷小波君著（菊判二九六頁）	一〇	八
⊙お伽寶船 武田櫻桃外六君合著（四六判）	七〇	六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歴史書類

正價 圓拾錢　郵稅 拾錢

◉**大日本歷史**　法學博士文學士有賀長雄君著　洋裝菊判上製美本
▲上卷（一〇五〇頁）二〇〇　一六
▲下卷（一一〇九頁）二五〇　一六

◉**大日本現代史**　國府犀東君著（全二冊菊判上製）
▲上卷（一二〇〇頁）二五〇　一六
▲下卷（一〇〇〇頁）二〇〇　三三

◉**大日本建國史**　木村鷹太郎君著（菊判四〇〇頁）一五〇　八

◉**大日本通史**　文學博士萩野由之君著（菊判一〇〇〇頁）一五〇　三三

◉**帝國史略**　法學博士有賀長雄君著　全三冊…中下卷未刊（菊判一〇三〇頁）一三〇　三三

◉中等教育**日本歷史**　萩野文學博士著（文部省檢定濟）上下二冊（菊判五六四頁）各五五　八

●新撰**大日本帝國史**　松井柏軒君著（菊判二一七頁）四〇　八

●**新撰日本小歷史**　增田于信君著　一五　六

●**通俗日本歷史**　足立栗園君著（菊判三三四頁）二五　八

●學生參考叢書**日本史年表**　東洋大學講師三石賤夫君編（最小判一六八頁）一三　二

●**通俗明治歷史**　坪谷善四郎君著（菊判三五〇頁）二五　八

◉**開國五十年史**　伯爵大隈重信君撰　全二冊（菊判二〇〇〇頁）三〇〇　三三

◉重訂**日本外史**　文學士久保天隨君校訂（四六判八〇〇頁）七五　三

△**日本外史新釋**　文學士久保天隨君註釋（全部十二冊）各三〇　六

◉**新撰日本外史**　落合直文君池邊義象君共著（菊判一一〇二頁）一三〇　三

●家庭教育歷史讀本**花の白雲**　落合直文君池邊義象君合著（菊判一九八頁）一八　四
目次　●日本武尊の事蹟　●和氣清麿の事蹟　●護良親王の事蹟　●神功皇后の事蹟　●曾我兄弟の復讐　●菅原道眞の事蹟

●同　家庭教育歷史讀本**卯花月夜**（菊判一一五頁）一八　四
目次　●源義家の事蹟　●佐々木高綱事蹟　●那須與一の事蹟　●靜御前の事蹟　●平重盛の事蹟　●俊寛僧都の事蹟　●袈裟御前の事蹟　●忠興夫人の事蹟

●同　家庭教育歷史讀本**紅葉の錦**（菊判一〇六頁）一八　四
目次　●平敦盛の事蹟　●楠正成の事蹟　●兒島高德の事蹟　●森蘭丸の事蹟　●藤原師賢の事蹟　●阿新丸の事蹟　●加藤清正の事蹟

●家庭教育歷史讀本**枯野の雪**　落合直文君池邊義象君合著（菊判一二三八頁）一八　四
目次　●北畠親房の事蹟　●新田義貞の事蹟　●林子平の事蹟　●楠正行の事蹟　●赤穗義士の事蹟　●高山彥九郎事蹟

◉**平壤包圍攻擊**　野津大將序　藤野房次郎君著（菊判七八二頁）七〇　三

●訂正**日露戰史**　全部四冊　太陽判美本
國府種德、梅田又次郎、田山錄彌君著
正價一冊　壹圓貳拾錢　小包料拾貳錢宛

◉**第一卷**　日露初期の海戰○第一軍初期の活動、其一○同　其二○第二軍初期の活動

◉**第二卷**　熊谷直亮、牛井桃水、坪谷水哉君著
大孤山上陸軍及第四軍初期の活動○第三軍初期の活動○遼陽の包圍攻擊○沙河大會戰

◉**第三卷**　牛井桃水、黑田甲子郎、熊谷直亮君著
旅順要塞攻陷戰○奉天大會戰前記○奉天大會戰後記○北征

◉**第四卷**　陸海軍記　平田、岸上、鳥谷部、梅田君著
海軍第一期作戰の成功○日本海大海戰○戰時の外交○戰時の後方勤務

◉**大役小志**　志賀重昂君著（菊判一三八四頁）五〇〇　二四

帝國百科全書　全部二百卷中の歷史書
▲洋裝菊判每卷三百頁以上
▲並製正價一冊四拾錢郵稅八錢宛
▲上製正價一冊五拾五錢小包料八錢宛
●日本歷史…文學士木寺柳次郎君著
●東洋歷史…文學士幸田成友君著

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●朝鮮史‥文學士久保天隨君著

●西洋歷史‥文學士吉國藤吉君著

●北米合衆國史‥法學士山本信博君著

●現代露西亞‥法學士須崎芳三郎君著

●露西亞侵略史‥法學士須崎芳三郎君著

●世界文明史‥文學博士高山林次郎君著

●日本文明史‥文學士大町桂月君著

●支那文明史‥文學士白河次郎君・國府種德君著

●印度文明史‥文學士常盤大定君著

●日本風俗史‥文學士阪本健一君著

●世界殖民史‥法學士山內正瞭君著

文學士阪本健一君著（菊判一〇八〇頁）

◉世界史　上卷　一六〇　三

同　（菊判一四五四頁）

◉同　下卷二〇〇　一〇

長谷川天溪君著（菊判三三四頁）

●通俗世界歷史　二五　八

文學士久保天隨君著

△東洋通史　全部十二册　菊判三九〇〇頁

▲正價一册五拾錢◎全部五圓◎郵稅八錢宛

壹卷‥三皇五帝〇三代の興亡〇春秋の世

貳卷‥（戰國の世〇先秦漢族の人文〇秦の帝業〇楚漢の角逐）

參卷‥前漢の世〇兩漢の過渡

四卷‥後漢の世〇三國の分立〇兩晉の世

五卷‥五胡十六國の世〇南北朝

六卷‥隋唐の盛時〇唐の初世〇唐の中世

七卷‥（唐の末世〇五世十國の世〇漢唐間の人文）

八卷‥北宋の盛衰〇宋金の對立

九卷‥（蒙古の勃興〇蒙古の隆昌〇元室の治世〇朱元間の人文）

拾卷‥明の初世〇明の中世〇明の末世

拾壹卷‥（清の初世〇清の盛世と疆外經略〇英人の東漸〇明清間の人文）

拾貳卷‥最近東洋事局

丸井文學士高島米峯君共著（菊半截判一八七頁）

●學生參考叢書東洋史　一三　二

清國駐屯軍司令部編（菊判九七六頁）

◉北京誌　二五〇　一三

同　部編纂（菊判六九二頁）

◉天津誌　二五〇　一三

三島文學博士校閱　山名義讓君訓點　全七十册（美濃判五一一二枚）

△資治通鑑　一五〇〇　五〇

太田淳軒君講述　全二册（四六判八八六頁）

●十八史略講義　三〇　八

奧田竹松君著（菊判四四四頁）

●佛蘭西革命史　七〇　八

文學士阪本健一君著（菊判四二〇頁）

◉伊太利亞史　一二五　八

文學士白石眞君編著（菊判五五五頁）

◉獨逸史　一三五　一三

河上清君著（菊判三三四頁）

●通俗獨逸歷史　一二〇　八

文學士久保天隨君著（菊判一六〇〇頁）

◉日本歷史寶鑑　三〇〇　二〇

文學博士箕作元八君著（菊判二二〇頁）

●歷史叢話　四〇　六

文學博士萩野由之君編述（四六判四二四頁）

◉中等教育日本歷史要解　五〇　六

文學士齋藤隆三君著（菊判一〇四〇頁）

◉近世世相史　二二〇　一六

同　君　著（菊判三四八頁）

●元祿世相志　四五　八

國友重章君閱　恒屋盛服君著（菊判五六六頁）

◉朝鮮開化史　一〇〇　一三

重田勘次郎君著（四六判四六三頁）

●世界風俗志　五〇　八

巖谷小波君　福田琴月君合著

●少年日本歷史

▲菊判全部六册　紙數一册約百四十頁

△正價一册貳拾錢六册壹圓拾錢郵稅一册四錢

第一編‥‥‥‥古代の卷

第二編‥‥‥‥王朝の卷

第三編‥‥‥‥武家の卷

第四編‥‥‥‥亂世の卷

第五編‥‥‥‥德川の卷

第六編‥‥‥‥明治の卷

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

傳記書類

故島谷部春汀君著 ◉春汀全集（總紙數二千餘頁）全部三冊菊判 洋裝美本 正價 郵稅

◉第一卷 明治人物月旦 前編 一五〇 三

◉第二卷 明治人物月旦 後編 一五〇 三

◉第三卷 各種の評論 一五〇 三

今泉鐸次郎君著 ◉河井繼之助傳（菊判四六六頁）一五〇 八

法學博士阪谷芳郎君編 ◉青淵先生六十年史（菊判二二二〇頁）一五〇 二四 ▲一名 近世實業發達史

伊藤痴遊君講演 ◉明治元勳 井上侯實傳（菊判二五四頁）三五 六

高橋光威君著 ●貝島太助翁の成功談 炭鑛王（菊判一五八頁）二五 六

成田鐵太郎君編 ●咆哮艇長 佐久間大尉（菊判一八八頁）四五 六

海軍省教育本部藏版（菊判一三二〇頁） ◉英國水師提督 ネルソン傳 一六〇 一六

理學博士鶴田賢次君抄譯（三六判三二〇頁） ◉自助論の著者 スマイルス翁の自傳 四五 六

菅綠蔭君著 ◉カーネギー（四六判一五四頁）二五 四

文學士煙山專太郎君著 ●英雄末路 ナポレオン（四六判二六六頁）三〇 四

文學士土井晩翠君著 ◉ナポレオン性格論（四六判三一七頁）五五 六

やまと新聞記者山本龜城君著 ●政界の寧馨兒（四六判三一八頁）三八 六

小野田翠雨君著 ●現代名士の演說振（四六判三二二頁）四五 六

全國教育家大集會編 ●帝國六大教育家（菊判二八〇頁）五〇 八

文學士蜷川龍夫君著 ●日本高僧之人格（菊判二三八頁）四〇 一六

長田秋濤君著 ●世界富豪の表裏（菊判二六二頁）三五 六

伊藤公、井上侯、山縣公直話 ●元勳談（菊判三〇二頁）二〇 六

中央新聞社編 ●名士の嗜好（菊半截判三四六頁）二五 四

坪谷善四郎君著 ◉當代名流 五十家訪問錄（菊半截判四八〇頁）四〇 六

高須梅溪君著 ●金言對照 百傑スケッチ（四六判三七〇頁）五五 六

遲塚麗水、內藤昌樹君著 ●露軍將校 旅順籠城實談（菊判二九四頁）四八 八

宮崎虎之助君著 ●基督觀（菊判二五六頁）四〇 八

井上泰岳君編 ●我半生の奮闘（菊判三三〇頁）四八 八

田中萬逸君著 ◉死生の境（四六判五〇〇頁）七五 八

稲田琴月君著 ●少年史談 日本武士（菊判 ）三八 六

武田櫻桃君、木村小舟君編 ●少年叢談 日本武將傳（菊判一六四頁）二八 六

前田越嶺君著 ●少年史譚 世界武將傳（菊判二一二頁）三〇 六

巖谷小波君著 ●幼年讀本 世界立志談（菊判一〇四頁）一〇 四

●世界歷史譚 全部參拾六册 毎編密畫挿入

▲正價一册金參拾錢 郵稅一册金四錢宛

【一】●釋迦……高山文學博士著

【二】●孔子……吉國文學士著

【三】●耶蘇……上田文學士著

【四】●ビスマーク……笹川法學士著

【五】●ハンニバル……大町文學士著

【六】●マホメット……阪本文學士著

【七】●漢高祖……三浦文學士著

【八】●ネルソン……島田法學士著

【九】●岳飛……笹川文學士著

【一〇】●コロンブス……桐生文學士著

【一一】●ガリバルヂー……岸崎法學士著

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

傳記書類

【一二】●彼得大帝……佐藤法學士著
【一三】●華盛頓……福山文學士著
【一四】●孔明……安東法學士著
【一五】●ソクラテス……久保文學士著
【一六】●グラッドストーン……酒井文學士著
【一七】●歴山大王……近松法學士著
【一八】●王陽明……幸田文學士著
【一九】●ガーフ井ールド……白河文學士著
【二〇】●デモスセネス……十時文學士著
【二一】●ウ井リヤムセキスピーヤ……中村法學士著
【二二】●ナポレオン……土井文學士著
【二三】●孟子……永井文學士著
【二四】●成吉思汗……太田法學士著
【二五】●クロンウエル……松岡法學士著
【二六】●ゴルドン將軍……赤松法學士著
【二七】●グランド將軍……布施法學士著
【二八】●ウエルリントン……高木文學士著
【二九】●クリスピー……名尾法學士著
【三〇】●メッテルニッヒ……森山法學士著
【三一】●カピテンクック……谷野法學士著
【三二】●ジャンダーク……中內文學士著
【三三】●シーザー……柿山文學士著
【三四】●査列斯大王……中大路法學士著
【三五】●フランクリン……熊谷文學士著
【三六】●ニユートン……三好文學士著

●少年讀本

全部五十冊 菊判洋綴並製
每編密畫拾餘圖挿入 一冊約百三十頁
正價一冊金拾參錢 郵税一冊四錢宛

【一】●高島秋帆 福地櫻痴君著
【二】●白河樂翁公 中村秋香君著
【三】●河井繼之助 戸川殘花君著
【四】●三條實美公 依田學海君著
【五】●曲亭馬琴 饗庭篁邨君著
【六】●井伊掃部守 巖谷小波君著
【七】●山田長政 遲塚麗水君著
【八】●錢屋五兵衛 桐生法學士著
【九】●春日局 岸上質軒君著
【一〇】●水戸烈公 野口珂北君著
【一一】●桐野利秋 春山育次郎君著
【一二】●藤田東湖 大和田建樹君著
【一三】●伊能忠敬 幸田露伴君著
【一四】●新井白石 武島文學士著
【一五】●水野越州 中島二葉君著
【一六】●池大雅 田山花袋君著
【一七】●木內宗吾 松原廿三階堂君著
【一八】●西鄉隆盛 川崎紫山君著
【一九】●坂本龍馬 阪崎紫瀾君著
【二〇】●横井小楠 大野酒竹君著
【二一】●貝原益軒 石原醫學士著
【二二】●渡邊華山 渡邊霞亭君著
【二三】●中濱萬次郎 石井研堂君著
【二四】●近衛忠熈公 勢多章之君著
【二五】●間宮倫宗 笹川臨風君著
【二六】●周布政之助 學桔川君著
【二七】●荻生徂徠 內田不知庵君著
【二八】●松平伊豆 森山法學士著
【二九】●中江藤樹 國府犀東君著
【三〇】●島津齋彬 春山鶴峰君著
【三一】●高野長英 千河岸櫻所君著
【三二】●橋本左內 桐生法學士著
【三三】●釋月照 千河岸櫻所君著
【三四】●平野國臣 白河文學士著
【三五】●熊澤蕃山 幸田文學士著
【三六】●雲井龍雄 玉木椿園君著
【三七】●野中兼山 北村秀陽君著
【三八】●大鹽平八郎 堀紫山君著
【三九】●佐久間象山 塚原澁柿君著
【四〇】●小栗上野介 勢多章之君著
【四一】●阿部伊勢守 熊田葦城君著
【四二】●松尾芭蕉 國府犀東君著
【四三】●石川丈山 田岡嶺雲君著
【四四】●德川吉宗 草野正美君著
【四五】●烈女お藤 藤本藤陰君著
【四六】●林子平 松居玄眞君著
【四七】●塙撿校 長谷川天溪君著
【四八】●本居宣長 落合直文君著
【四九】●高田屋嘉兵衛 中村冷露君著
【五〇】●大槻盤水 大槻如電君著

幸田露伴君著
△少年文學 二宮尊德翁 (四六判一一四頁) 三 二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

傳記書類

△ 村井弦齋君著 少年文學 近江聖人（四六判一四四頁） 三 二

△ 幸田露伴君著 少年文學 日蓮上人（四六判一三二頁） 三 二

△ 遲塚麗水君著 少年文學 菅相丞（四六判一五〇頁） 三 二

△ 三宅青軒君著 少年文學 賴山陽（四六判一一六頁） 三 二

△ 高橋太華君著 少年文學 河村瑞賢（四六判一三六頁） 三 二

△ 同君著 少年文學 太閤秀吉（四六判一四〇頁） 三 二

△ 矢部五洲君著 少年文學 德川家康（四六判一五〇頁） 三 二

△ 江見水蔭君著 少年文學 加藤淸正（四六判一二四頁） 三 二

△ 高橋太華君著 少年文學 新太郎少將（四六判一〇九頁） 三 二

△ 大橋乙羽君著 少年文學 上杉鷹山（四六判一五〇頁） 三 二

△ 原抱一庵君著 少年文學 大石良雄（四六判一二〇頁） 三 二

△ 村上浪六君著 少年文學 高山彥九郎（四六判一二六頁） 三 二

△ 村井弦齋君著 少年文學 紀文大盡（四六判一五六頁） 三 二

△ 水谷不倒君著 少年文學 平賀源內（四六判一一八頁） 三 二

△ 宇田川文海君著 少年文學 契沖阿闍梨（四六判一一一頁） 三 二

△ 武田仰天君著 少年文學 二代忠孝（四六判一〇八頁） 三 二

△ 幸堂得知君著 少年文學 陸奥の長者（四六判一八三頁） 三 二

大和田建樹君著（菊判全部二十四册）

● 日本歷史譚 每册約百頁 木版密畫入

正價（一册金八錢 ●十二册八拾五錢 ●廿四册壹圓六拾錢 ▲郵稅一册四錢宛）

【一】日本開闢　【二】畝傍山　【三】三韓征伐　【四】聖德太子　【五】菅公　【六】九郎判官　【七】曾我兄弟　【八】惡七兵衞　【九】相模太郎　【一〇】楠公　【一一】日蓮　【一二】大塔宮

【一三】豐太閤　【一四】七本槍　【一五】關ヶ原　【一六】水戶黃門　【一七】四十七士　【一八】平田篤胤　【一九】櫻田門外　【二〇】七卿落　【二一】彰義隊　【二二】城山　【二三】平壤　【二四】威海衞

地理書類

理學士山崎直方君
理學士佐藤傳藏君 共著

◉ 大日本地誌 全部拾册

▲▲菊判脊皮上製總紙數壹萬餘頁
每卷地圖及寫眞銅版數多挿入

◉ 第壹卷 關東 正價貳圓五拾錢 小包料拾貳錢
相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、上野、下野、伊豆七島、小笠原島

◉ 第貳卷 奧羽 二五〇 三
磐城、岩代、陸前、陸中、陸奧、羽前、羽後

◉ 第參卷 中部 二五〇 三
尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、美濃、飛驒、信濃

◉ 第四卷 近畿 三〇〇 一六
山城、大和、河內、和泉、攝津、伊賀、伊勢、志摩、近江、丹波、丹後、但馬、播磨、紀伊、淡路

◉ 第五卷 北陸 二五〇 三
若狹、越前、加賀、能登、越中、越後

◉ 第六卷 中國 二五〇 三
美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐

◉ 第七卷 四國 二五〇 三
阿波、讃岐、伊豫、土佐

續刊

◉ 第八卷 九州
◉ 第九卷 北海道
◉ 第十卷 琉球及臺灣

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉ 稻垣農學博士、矢津昌永君共著 實業學校 **日本地理教科書** （菊判二一四頁） 七 八

◉ 稻垣農學博士、矢津昌永君共著 實業學校 **外國地理教科書** （菊判一九〇頁） 六五 八

● 理學士佐藤傳藏君著 **日本新地理** （菊判三一四頁） 四〇 八
▲洋布特製 正價五拾五錢 小包料八錢

● 大和田建樹君著 **通俗日本地理** （菊判二九六頁） 三〇 八

◉ 田山花袋著 **新撰日本名勝地誌** 全十二冊（四六判一册約五五〇頁）
▲正價一册五拾五錢 郵稅八錢

【一】畿内 【二】東海道西部 【三】同東部 【四】東山道西部 【五】同東部 【六】北陸道
（續刊）
【七】山陽道 【八】山陰道 【九】南海道 【一〇】西海道 【一一】北海道及樺太 【一二】臺灣及琉球

◉ 中村士德君大久保千濤君共著 **本邦地理詳說** （四六判七〇〇頁） 一八〇 一二

● 松永聽劍君編 **樺太及勘察加** （菊判三六〇頁） 五〇 八

● 讀賣新聞記者松川木公君著 **樺太探檢記** （菊判一八二頁） 三八 八

● 文學士田淵友彥君著 **朝鮮新地理** （菊判三五〇頁） 四〇 特製五五 八六

◉ 理學博士神保小虎君講述 **地理學叢話** （菊判二四〇頁） 四〇 六

● 理學士佐藤傳藏君著 **萬國新地理** （菊判三三八頁） 四〇 特製五五 八八

● 澁江保君著 **通俗世界地理** （菊判三四〇頁） 三〇 八

● 農學士志賀重昂君著 訂正増補 **地理學講義** （四六判一九二頁） 五〇 八

◉ 同君譯述 **地理講話** （菊判三二六頁） 六〇 八

● 法學士勝部國臣君著 **清國商業地理** （菊判三五八頁） 四〇 八
▲洋布特製 正價金五拾五錢 小包料八錢

◉ 石渡延世君著 **地理統計要覽** （四六判二六二頁） 五八 六

△ 麻生鐵三君著 全國鐵道線路 名所古蹟明細 **旅行案内地圖** （麻生式折本） 四五 四

● 巖谷小波君金子紫草君共著 **少年世界讀本** （菊判洋裝）
正價（●一册金貳拾錢 ●六册壹圓拾錢 ●全部貳圓拾錢）▲郵稅一册四錢

【一卷】英吉利
【二卷】支那、朝鮮、暹羅、斯波及東洋諸國
【三卷】獨逸、墺太利
【四卷】西班牙、葡萄牙、亞非利加各國
【五卷】佛蘭西、瑞西
【六卷】中央亞米利加各國
【七卷】伊太利、希臘
【八卷】露西亞
【九卷】南亞米利加各國
【十卷】丁抹、和蘭、白耳義
【十一卷】土耳古、東部歐羅巴各國
【十二卷】北米合衆國

● 竹貫直人君、木村小舟君、沼田笠峰君編 **少年日本地理** 全部七册菊判 一册百四十頁
正價一册貳拾錢 全七册壹圓貳拾五錢 ▲郵稅一册四錢

● 第一編……鄉土及關東之部
● 第二編……中部地方之部
● 第三編……近畿及中國之部
● 第四編……四國及九州之部
● 第五編……奥羽及北海道部
● 第六編……臺灣及樺太之部
續刊 ● 第七編……朝鮮之部

◉ 文學士大町桂月君著 **關東の山水** （四六判五二〇頁） 一〇〇 八

● 同君著 **行雲流水** （菊半截判三一〇頁） 三〇 四

◉ 神谷有終君編 東海道 旅の友 **車窓の名勝觀** （三六判二七五頁） 四五 六

◉ 大橋乙羽君著 増補 **千山萬水** （菊半截判七〇二頁） 五〇 八

◉ 同君著 **續千山萬水** （菊半截判六五〇頁） 五〇 八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

- 大町桂月君著 ◉一蓑一笠（菊半截判三七六頁）三〇 六
- 田山花袋君著 ◉南船北馬（四六判三〇〇頁）四〇 六
- 英國リーズデール卿著 永田榮雄君譯述 ●大英貴賓の日本觀（四六判三〇〇頁）五〇 六
- 巖谷小波君著 ◉新洋行土産（全二册角形七〇〇頁）各一三〇 八
- 五大洲探檢家中村直吉君 冒險世界主筆押川春浪君 共著 ◉亞細亞大陸横行（四六判三一八頁）四五 六
- 同 ◉南洋印度奇觀（四六判三〇〇頁）四五 六
- 同 ◉鐵脚縱横（四六判三〇〇頁）四五 六
- 同 ◉亞非利加一周（四六判二九四頁）四五 六
- 阿武天風君著 ●海上生活譚（四六判五一六頁）五五 六
- 岡甾平君著 南洋群島 ●珊瑚島探檢記（菊半截判三一六頁）三〇 四
- 押川春浪君 中村春吉君著 自轉車 ●世界無錢旅行（四六判三四二頁）三八 六
- 陸軍歩兵少佐日野強君著 ◉伊犂紀行（菊判七二六頁）▲上卷日記之部 ▲下卷地誌之部 ▲正價貳圓五拾錢 小包料拾五錢

- 文學博士 姉崎正治君著 ◉花つみ日記（四六判六〇〇頁）一三〇 八
- 吉田博君著 寫生旅行 ◉魔宮殿見聞記（菊判四〇〇頁）九〇 八
- 田中淵人君著 ●最近倫敦繁昌記（四六判六四六頁）一〇〇 八
- 坪谷水哉君著 ◉世界漫遊案内（四六判七〇六頁）一七〇 八
- 坪谷善四郎君著 ◉改訂增補日本漫遊案内（全二册四六判一三〇〇頁）一〇〇 八 ▲府縣所在地銅版圖廿餘頁 ▲風景寫眞八十餘圖 ▲全國兩中部彩色刷大地圖添
- 伊藤銀月君著 ◉旅行者寶鑑（三六判三八〇頁）四八 八
- 八木昇三郎君著 學生必携 ◉修學旅行案内 關東の部（三六判六九二頁）四五 八
- 同君著 京坂地方 ◉修學旅行案内（三六判四二〇頁）六〇 六
- 森次太郎君著 ●歐米書生旅行（三六判三二〇頁）三五 六
- 河村有頂君著 最近活動 ●北米事業案内（四六判三〇〇頁）三八 八
- 安部磯雄君著 ●北米の新日本（四六判二二三頁）三五 四
- 飯島榮太郎君著 ◉米國渡航案内（四六判三七二頁）四〇 六

- 香川悦次君著 ●支那旅行便覽（三六判六〇〇頁）四〇 八
- 石倉翠葉君著 ●本派本願寺名所圖會（菊判三九四頁）六〇 八
- 同君著 ●大谷派本願寺名所圖會（菊判二二八頁）四〇 八
- 同君著 ●佛光寺名所圖會（菊判一〇八頁）二五 四
- 同君著 ●日蓮宗各本山名所圖會（菊判三五六頁）五〇 八
- 同君著 ●成田山名所圖會（菊判一五八頁）三〇 六
- 同君著 ●善光寺名所圖會（菊判二七六頁）四五 八
- 同君著 ●高野山名所圖會（菊判三四二頁）六〇 八
- 同君著 ●日光名所圖會（菊判五一〇頁）六五 三
- 長谷川雪旦君畫 △江戸名所圖會 全二十册（和紙木版大本二一三枚）六〇〇 二八
- 同君畫 △江戸名所花暦 全四册（和紙木版大本一五六頁）四〇 六
- 同君畫 △東都歲事記 全五册 和紙木版刷大本一五五枚）六五 六
- 同君畫 △木曾街道圖會 全二册（和紙木版刷中本判三九枚）三〇 四

最新發明 肺病。肋膜 新藥に就きて

獨逸ドクトル 高平氏報告(醫事週報二一七號報告再錄)

新治療劑主藥の諸結核による熱度下降は可驚著効あり四十度を示す熱は本藥服用後は常溫下に減じ患者は藥劑が無味なるを喜び之が服用を嫌忌せず食慾を增進す

右の外本劑の著効ある事は既に諸家の試驗報告及賞賛により明らかなれども今本院服藥患者につき其成績を左に報ぜん

●金森某(德義上住所姓名を秘す)**兩肺結核**に陷り咳嗽たん盜汗女子三年前發病遂に末期重症の動悸呼吸不利。不眠。發熱激しく度々喀血し非常に羸瘦す服藥壹週頑固なる熱を去り咳嗽喀痰を輕快す服藥貳週喀血やみ臥蓐せしもの屋外に出で日光に暖をとるに至る連用三十日病全く治し食慾進み體重を增加せり

●兵頭某 卅一歲男 **肋膜炎**(喀血無し肺病初期の疑あり)胸部痛み食不振身體倦怠盜汗。咳嗽。頭痛あり身體羸瘦を見る卅九度に至る發熱あり服藥五日奏効あり二週にして全治す僅々二週にて全治する如きは病輕症なるに因るとは云へいかに新治療劑が肺病。肋膜。肺炎。肺尖加答兒。氣管支加答兒。腹膜結核等の諸症に對し可驚効力ある全治藥なるを知らん以下病歷を細述する時は冗長に亘るを以て左の通略式とす

患者	性	病名	成績
三村	男	兩肺結核	無効
中川	男	肺尖加答兒	全治
松信	男	結核性肋膜及腹膜炎	全治
笠井	女	肋膜炎	全治
上野	男	右肺結核及腸結核	全治

成績	患者	性	病名
全治	龍谷	男	兩肺結核末期
全治	宮本	女	結核性肋膜炎
徵効	岡田	男	氣管支加答兒及肺炎
全治	阿崎	男	右肺結核及腹膜結核
全治	神村	男	肺結核初期

斯の如き好成績は從來の藥物に於て見る能はず我國藥劑界名譽の發明藥として報告する義務あるを信ず又効力多大にして持長服藥するも副作用なく殊に**喀血**と其豫防に可驚効あるを以て醫藥の傍ら服用最も妙ならん吾人は病者に向つて新治療劑は現今に於て完全なる發明藥なるを紹介し安心服藥せん事を勸むと共に醫師は自家患者に本劑を投藥せん事を勸告す●本治療法を知らんとする患者は貧富の別なく、督者にも療法あり)遠慮なく送料郵券二錢添東京神田竪大工町拾三番地療養院製藥所村尾明治堂宛申込あらば新治療法の書を無代贈り得らる。故是非一讀あれ益する處多からん、之れにより全治の幸福を得らるべし

藥價

壹週金二圓
貳週參圓九十錢
參週五圓七拾錢
四週七圓貳拾錢
五週九圓

● 東京神田竪大工町 療養院製藥所 **村尾明治堂**
電話本局參千七百五十二番(私書函神田本局第三號)
振替口座東京壹四參壹九番



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界
（毎月一回廿六日印刷納本）
（明治四十三年十二月八日印刷納本）第拾壹巻第壹號（明治卅三年十二月廿五日第三種郵便物認可）



（定價金貳拾錢●郵税（本誌）貳錢五厘）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN